

平成27年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

F D 活動報告書



大妻女子大学人間関係学部 F D 委員会

平成27年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

F D 活動報告書



大妻女子大学人間関係学部F D委員会

平成 27 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって

平成 27 年度の人間関係学部の FD 活動報告書をお届けします。

人間関係学部の FD 活動は、「授業アンケート（学生による授業評価）」「学科・専攻における FD 活動」「保護者懇談会」「オフィスアワー」「クラス指導」「学部主催の FD 研修会」「非常勤講師との教育懇談会」などを柱としています。これらの中でも、学部主催の FD 研修会は、人間関係学部が積極的に FD 活動に取り組んでいることを象徴するイベントと言えるでしょう。例年 12 月上旬の開催に向けて、夏休み前から FD 委員会において企画・内容の検討が始まります。ここ数年は講義形式ではなく、参加型の意見交換を中心にした研修会が続いています。本学部では学長・副学長はもとより、多摩事務部にもお声掛けをして、事務職員の方々にも FD 研修会にご参加頂いています。質の高い教育活動には、直接授業を行う立場と教育環境を整える立場、双方の努力が必要であることから、教員と事務職員が同じテーマで忌憚なく意見交換を行うことが大切です。例年、学部 FD 研修会の後には懇親会が開催されており、懇親会では更に風通しの良いコミュニケーションが図られています。平成 27 年度のテーマは「Tips」。授業をより良くするための小さな工夫を持ち寄り情報交換するもので、明日からの授業改善に直結するアイデアが満載でした。具体的内容は本文に譲りますが、ベテランから若手まで、「匠の技」というべきアイデアが披露され、大変盛り上がった研修会となりました。

平成 27 年度のもう一つのトピックスは、障害のある学生に対する支援です。平成 28 年 4 月 1 日に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、大学においても障害のある学生に対する「不当な差別的取扱い」及び「合理的配慮の提供」が法的義務ないし努力義務となりました。本学では法の施行に先駆け、昨年 12 月に学全学 FD 研修会において筑波大学障害学生支援室の五味洋一准教授をお招きして、「大学における障害のある学生に対する差別禁止と合理的配慮」の研修会を実施しました。平成 28 年 4 月からは日々の教育活動において、障害のある学生に対する相談体制を整え、きめ細かい配慮を行うことが法的に求められています。人間関係学部では平成 25 年に視覚障害のある学生が入学したことを契機に、学部内に障害学生支援室を設置し、授業教材の音声情報化など様々な合理的配慮の工夫をして参りました。今後も一定のニーズが予測される障害学生に対して、学生の主体性や自立への意欲を尊重しながら合理的配慮を提供していくことは、学部 FD の重要な一領域であると考えられます。障害のある学生にとって学びやすい環境は、すべての学生にとって学びやすい環境につながっていくことと思います。平成 28 年度も教職員の総力をあげて、より質の高い教育活動の実践に努力していきたいと思ひます。

人間関係学部長 小川 浩

目 次

平成 27 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって（小川 浩）

I	平成 27 年度人間関係学部 FD 活動について（堀 洋元）	1
II-1	授業に関するアンケート（堀 洋元）	5
II-2	授業アンケートへの対応（小谷 敏）	48
1	前期授業アンケートへの教員の主な回答	48
(1)	授業の改善点	48
(2)	施設教室の設備や受講者数、教育条件等についての改善点の要望	49
(3)	学生に望むもの	50
2	後期授業改善策についての回答	52
(1)	授業の改善点	52
(2)	施設教室の設備や受講者数、教育条件等についての改善点の要望	53
(3)	学生に望むもの	53
III	学科・専攻における平成 27 年度 FD 活動への取り組み	56
1	人間関係学科	56
(1)	社会学専攻における FD 活動に関する取り組み（小谷 敏）	56
(2)	社会・臨床心理学専攻における FD 活動に関する取り組み（堀 洋元）	60
2	人間福祉学科	66
(1)	人間福祉学専攻における FD 活動に関する取り組み（丹野 眞紀子）	74
(2)	介護福祉学専攻における FD 活動に関する取り組み（尾久 裕紀）	81
IV	保護者懇談会（尾久 裕紀）	86
V	オフィスアワー（佐藤 富士子）	90
VI	クラス指導（福島 哲夫）	96
VII	学部主催の FD 研修会報告（堀 洋元）	102
VIII	非常勤講師との教育懇談会（丹野 眞紀子）	110
IX	人間関係学部 FD 活動の課題（堀 洋元）	116
資 料		119

I 平成27年度人間関係学部FD活動について

1. 人間関係学部FD活動の取り組み

人間関係学部では、前・後期に実施する全学共通フォーマットによる授業アンケート結果をその後の授業の質向上に役立てるために、各教員から対応策をたずね、同時にオフィスアワーの活用やクラス指導に関する取り組みについても聞き、このFD活動報告書にまとめ、全教員で共有し、相互の取り組みの向上に役立てている。このほか個々の教員が学内外で行っている共同研究や地域連携活動などは、学生参加あるいは授業内でフィードバックすることで教育の質向上に役立てている。こうした日ごろの取り組みに関して、直に質疑応答することで教員相互の情報共有や資質向上の機会とするために実施している人間関係学部FD研修会も実施している。さらに年2回行われる保護者懇談会で聞かれた保護者の貴重な声もFD活動の重要な材料としている。

こうした、各教員の取り組み、全学的・全学部的に実施する学生対応やフィードバックのしくみに保護者の声を加え、それを共有化することで学部全体及び各教員の資質向上、教育の質向上に役立てようとするのが、人間関係学部におけるFD活動の基本的な考え方であると言える。見える形、後に残る形で共有できるものとしてもっとも有効な資料が、この学部FD活動報告書である。

1) 学部FD研修会の実施

平成27年12月11日（金）の教授会終了後、人間関係学部FD研修会を実施した。

ここ数年継続している、教職員混合で3つの分科会を作り、それぞれ大まかなテーマに分かれて自由討議を行うという形式とは趣を変えて、終始全体会で実施した。テーマは『授業をより良くするためのTips』である。「1コマ90分の授業をどのように工夫しているか？」というアイデアを事前に募り、何名かの教員にTipsを披露していただき、参加者とディスカッションを行った。

昨年度につづき、専任教員、事務職員のほか、学長、副学長の各先生方にもご参加いただき、貴重な意見をいただいたほか、教職員からも授業での取り組みの一端を生の声が届けることができ、アイデアの共有や今後より良い授業を目指す上でのヒントを得る良い機会となったと思われる。

2) 学生による授業評価（授業アンケート）（前期・後期各1回）

全学共通のフォーマットにもとづき、ゼミと学外実習を除くすべての科目を対象として、前期・後期各1度ずつ実施している。結果は各教員に通知され、これにもとづく今後の対応や改善策を報告することになっている。アンケート結果の全体データと各教員による改善策は本報告書と学部ホームページで公開されている。また各教員からは、各自の改善策や取り組みだけでなく授業環境や学生への要望も報告することになっている。これらを通して、授業に対する双方向の捉え方が共有できるほか、物理的にも内容的にもより良い教育環境に向けた改善を図ることができるものとなっている。

3) 保護者懇談会の実施とアンケート

各専攻、学科、学部全体の教育方針や具体的な教育の枠組み、学生の大学での生活実態などを保護者の方々に知っていただくとともに、保護者からみた学生像やさまざまな要望をくみ上げていくことを目標として、保護者懇談会を実施している。毎年6月には、千代田キャンパスにて千鳥会懇談会と、10月には多摩キャンパスで大妻多摩祭と同時開催で行っている。参加して下さる保護者の皆さまとは、カリキュラムの構成や単位取得のシステム、学外実習や卒業論文などの規定などに関する理解のほか、日ごろのクラス指導や個別指導の内容を知っていただくことで協働関係を築くことができ、アンケート結果もおむね良好である。今後はより多くの方々に参加していただけるような広報の方法や日時の設定を検討していく必要がある。

4) オフィスアワーの設定

平成16年度より、学生がアポイントを取ることなく自由に教員の研究室を訪れて質問や相談をすることができるオフィスアワーをFD活動の一環として導入している。各教員は、最低週1コマのオフィスアワーを設けることになっており、その曜日・時間帯一覧は人間関係学部棟内に掲示および大学ホームページに掲載されるほか、各個人研究室前にも案内されており、学生は気軽に研究室を訪れることができるようになってきている。クラスやゼミの担当教員以外、あるいは所属する学部・学科・専攻以外に関心のある教員を気軽に訪ねることができるこのシステムによって、学生の関心領域や学びの幅を広げることにつながっている。しかしオフィスアワーの存在を知らないという学生も多く、すべての学生に十分活用されているとは言い難い現状が、ここ数年の課題となっている。

5) 学部内及び全学各種委員会との連携

FD委員会単独ではFD活動を行えないため、各種委員会との連携に意識的に取り組んでいる。FD活動の学部ホームページへの掲載は広報委員会に、保護者懇談会の実施については学生委員会が編集する「糸車通信」に掲載協力をお願いしている。授業アンケート結果を生かして本学部の教育環境や教育の質を改善していくために、教務委員会や学生委員会との連携に取り組んでいる。心身に障害のある学生に対するさまざまな支援を全学的、全学部的な対応を検討するためには、障害学生支援委員会や障害学生支援室との連携も必要であり、本FD委員会を窓口にして情報共有をはかったり、当該学生への情報提供を行うこともある。

6) 各学科・専攻によるFD活動の学部内情報共有化への取り組み

FD活動の基本は各教員が個々に行う取り組みである。教員はそれぞれの専門性を生かした独自の活動を行っているが、学部全体で共有することで他の教員への刺激となり、学部全体の教育の質が向上することにつながる。1) で取り上げた学部FD研修会では、授業方法を学ぶ合う場としてきたほか、自由討議を行うことで、各教員の活動や日ごろの思い、視点などを出し合うことができる。「個々のFD活動を共有する」と言っても、内容や手法を共有すると言うよりも、他の教員の「視点」をヒントにそれぞれが「気づき」を得て、各自のFD活動の向上に役立てると表現した方が適切であろう。こうすることで、各教員が各自の専門性を生かし、

多様な取り組みが行われ、学部全体として「広がり」をもった FD 活動と教育の質向上が図れるのだと思われる。今後もこのような形の「共有」を目指していきたい。

7) クラス指導による学生への学習支援への取り組み

本学の教育の特徴として、創設当初からクラス制、クラス指導主任制を取り入れ、学生の個別指導に力を入れてきた点が挙げられる。入学当初の学生は大学のシステムや交友関係への戸惑いがあり、学年が進むにしたがって自らの将来ビジョンに合わせた単位取得の方法のほか、就職活動や実習など、授業以外の面でもさまざまな悩みを抱えることになる。大規模な大学では難しい個別指導が、本学の場合 1 クラス 40 人前後で 1 名の指導主任（担任）が就くことができ、顔と名前の一致した個別指導を行いやすい環境が整っている。保護者の皆さまとの共有あるいは個人情報への漏えいに配慮した上での学部内共有によって新たな学生ニーズの発見につながることもある。このような体制と教員個々の個別指導も当然 FD 活動の一環であり、授業と同時に重要な役割を担っていると言えることができる。

8) 今後の課題

FD 活動は、「個々の教育活動を組織全体で共有する場の提供」であるとも言えよう。ひとりひとりの教員が自らの取り組みや持ちうる情報を公開し、それらを交換し合うことで個々の教員レベルでの課題と同時に学部レベルでの課題も見えてくる。その背景にはキャンパスあるいは全学レベルでの課題が潜んでいるかも知れない。これらを FD 委員会としてどのようにまとめ、学部全体として具体的な提案をしていくことが今後の課題である。

個々の教育活動の質向上の点では、学部創設当初から行っていた「公開授業」が近年実施されていない。これは、実施してもどの教員も多忙により他の教員の授業に参加できないことが原因であった。そこで新たな試みとして、学部 FD 研修会で「授業をより良くするための Tips（授業運営上の工夫）」を行った。参加者からはおおむね好評を得た企画であったが、今後はより洗練した内容による情報交換の場、そして個々の FD 活動に刺激を与える機会となることを期待したい。

いずれにしても、授業の質、個別指導、キャンパスのあり方をバランスよく網羅した FD 活動のあり方を今後も検討しながら行っていく必要があるだろう。全学的な FD 活動も行われているが、他学部による FD 活動を取り入れることなど、ときに視点を変えて将来を見据えることも有意義であろう。このことから、学部間で FD 活動を検討する場や交流する機会を設けて、さらに広い視野から共通する課題を探る必要もあるかもしれない。

2. 人間関係学部FD委員会の議事

平成 27 年度に開催した人間関係学部 FD 委員会の実施状況と、各回の議事内容を以下にまとめるとめる。

開催時間：教授会当日の昼休み（12:20～12:50、ただし第 9 回のみ教授会終了後）

開催場所：人間関係学部棟 4 階会議室

第 1 回 4 月 17 日（金）

- （1）今年度の FD 活動計画について
- （2）今年度の学部 FD 活動報告書について

第 2 回 5 月 15 日（金）

- （1）前期授業アンケート実施について
- （2）授業担当者懇談会について
- （3）千鳥会総会後の保護者懇談会について

第 3 回 6 月 12 日（金）

- （1）前期授業アンケート実施の確認
- （2）授業担当者懇談会、千鳥会総会後の保護者懇談会の報告手順について
- （3）全学 FD 研修会について

第 4 回 7 月 10 日（金）

- （1）前期授業アンケートについて
- （2）学部 FD 研修会について

第 5 回 10 月 9 日（金）

- （1）後期授業アンケート実施科目の確認
- （2）学部 FD 研修会の実施テーマ
- （3）大妻多摩祭における保護者懇談会内容の取りまとめ

第 6 回 11 月 13 日（金）

- （1）後期授業アンケートの実施について
- （2）学部 FD 研修会について
- （3）全学 FD 講演会について

第 7 回 12 月 11 日（金）

- （1）学部 FD 研修会について

第 8 回 1 月 8 日（金）

- （1）学部 FD 研修会について
- （2）学部 FD 活動報告書について

第 9 回 3 月 8 日（月）

- （1）学部 FD 活動報告書の進捗について
- （2）次年度学部 FD 委員会開催予定について
- （3）次年度への引き継ぎ事項等

Ⅱ－１ 授業に関するアンケート（前期・後期）

１. はじめに

学部授業の充実化を目的に、本学部では平成 16 年度から、専任教員および非常勤講師が担当する授業について「学生による授業評価」（以下、授業アンケート）を実施している。特に、専任教員は全担当科目（卒業論文指導とゼミナールは原則として除く）の授業アンケートを 2 カ年にわたって実施するため、毎年度、担当科目の 2 分の 1 以上の授業アンケートを実施している。ただし、専任教員と非常勤講師が回を分けて担当するチームティーチング科目については、アンケートを実施した回の担当教員への評価と混同される可能性があるため、授業アンケート対象科目から除外した。

調査後、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等（①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください）について回答を求め、それらは本報告書並びにホームページにて公開している。ただし、各専任教員・非常勤講師は、書面により、アンケートの実施および評価結果ならびに意見・改善策等の掲載等を拒否することができる。

２. 調査目的

授業に関するアンケートは、教員の学生に対する教育サービスの質と量の向上を図るとともに、よりよい教授法のあり方を考える基礎資料を得るための組織的活動である。

３. 調査概要

（１）実施時期および手続き

前期は、平成 27 年 6 月 29 日（月）～7 月 18 日（土）の 3 週間に実施し、後期は平成 27 年 12 月 1 日（火）～12 月 22 日（火）の 3 週間に実施した。また、授業アンケートの実施にあたり、例年同様、書面およびホームページ等を用いて、学生と各教員への周知と調査への協力を依頼した。さらに、平成 24 年度からは大学行事予定表に授業アンケート実施時期を掲載し、4 月の段階から広く周知するようになっている。

また、学生が率直に記入し、提出しやすいように無記名式で回答を行い、回収と提出は授業参加学生の有志に依頼する形式を取っている。そして、「授業内容や授業方法の改善を図るために実施するものであり、調査結果は統計的に処理され、個人が特定されるものではないこと、さらに成績に影響することは全くないこと」を書面と口頭により、繰り返し説明してから実施している。

（２）調査対象と回答率

前期の調査は、総科目数 196 のうち 167 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 9,995 名であった。そのうち有効回答者は 7,660 名であり、回答率は 76.64%であった。

後期の調査は、総科目数 202 のうち 171 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 9,224 名であった。そのうち有効回答者は 6,456 名であり、回答率は 69.84%であった。

（３）調査項目

授業アンケートの表面には、以下の５カテゴリー、２１項目があり、「５. そう思う」、「４. ややそう思う」、「３. どちらともいえない」、「２. あまりそう思わない」、「１. そう思わない」の５段階評価によって回答を求める形式であった。ただし、一昨年度より No.14（この授業にどの程度出席しましたか）の回答ラベルは「５. 100%」、「４. 90%以上」、「３. 80%以上」、「２. 70%以上」、「１. 70%未満」、No.15（この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか）は「５. 3時間以上」、「４. 2時間以上」、「３. 1時間以上」、「２. 1時間未満」、「１. していない」とした。その他、裏面に自由記入欄を設けた。本調査のアンケート用紙を次ページ以降に示した。

調査カテゴリーと項目

- ① 教員の授業の進め方について（７項目）
- ② 授業の内容について（６項目）
- ③ 学生自身の授業への取り組みとその成果について（５項目）
- ④ 総合的な印象（１項目）
- ⑤ 自由設定欄＝学部独自：担当教員がその場で設定する質問（２項目）

自由記入欄

- ① 良かったと思う点
- ② 改善した方が良いと思う点
- ③ その他の意見や要望など

（４）授業アンケート結果の活用ならびに情報公開と情報保護

- ① 各教員の担当科目ごとの調査結果（授業科目別集計）は、年度内に各教員に個別に通知する。
- ② 教員は、授業アンケートの結果に対して、意見や改善策等を FD 委員会に提出する。
- ③ ②の意見や改善策等は、FD 報告書ならびに学部ホームページ上に掲載し、一般公開する。ただし、各教員は、書面により掲載等を拒否することができる。
- ④ 調査データの処理は外部業者に委託し、集計結果の分析およびデータ保管は、FD 委員会の責任において行った。また、自由記入欄の内容は、FD 委員会の責任において、学生の筆跡の特定ができないようにタイピングし直した文章を各授業担当教員に配布した。なお、教員への配布物は、各教員が自己責任において管理・廃棄等を行うこととした。

大妻女子大学 「授業に関するアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。また、裏面の「自由記入欄」にはあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

1. 科目名・教員名

科目名

教員名

【注意】

1. H B の黒鉛筆のみ可。
2. 折り曲げ厳禁。

※右例のようなマークは、読みとることができません。(悪い例)

良いマーク⇒



2. 所属学科 (学科専攻・学年・組にマークしてください)

学 年	組
①	(A)
②	(B)
③	(C)
④	(D)
	(E)
	(F)

被服学科	⑦	社会情報学科	社会生活情報学専攻	⑧	
食物学科	食物学専攻	④	環境情報学専攻	⑨	
	管理栄養士専攻	②	情報デザイン専攻	⑩	
児童学科	児童学専攻	⑪	人間関係学科	社会学専攻	③
	児童教育専攻	⑤		社会・臨床心理学専攻	⑪
ライフデザイン学科	⑫	人間福祉学科	人間福祉学専攻	⑥	
日本文学科	⑬		介護福祉学専攻	⑦	
英文学科	⑭	比較文化学科	1 年生	⑬	
コミュニケーション文化学科	⑮		アジア文化コース	⑭	
			アメリカ文化コース	⑮	
			ヨーロッパ文化コース	⑯	
家政科	家政専攻	⑰	国文科	⑰	
	生活総合ビジネス専攻	⑱	英文科	⑱	
	食物栄養専攻	⑲			

3. 次の質問に対してあなたがどう思うか該当する数字の○にマークしてください

① 先生のこの授業の進め方について

- 1 先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった
- 2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った
- 3 私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした
※(授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5「そう思う」をマーク)
- 4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた
- 5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した
- 6 先生の学生に対する接し方は公平だった
- 7 授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた

そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

② この授業の内容について

- 8 授業は、学習の目標がはっきり示された
- 9 授業の構成は体系的で把握しやすくとまっていた
- 10 授業の内容は興味深いものだった
- 11 授業の内容はよく理解できるものであった
- 12 授業は自分の将来にとって意味があると思う
- 13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

③ この授業への取り組みとその成果について

- 14 この授業にどの程度出席しましたか
- 15 この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか
- 16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した
- 17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った
- 18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった

100%	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満
⑤	④	③	②	①
3 時間以上	2 時間以上	1 時間以上	1 時間未満	していない
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

④ 総合的な印象

- 19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う

⑤	④	③	②	①
---	---	---	---	---

⑤ 自由設定欄 (学部独自: ex 担当教員がその場で設定する質問)

20	⑤	④	③	②	①
21	⑤	④	③	②	①

自由記入欄は裏面にあります

KN628T 110kg

【自由記入欄】

①良かったと思う点

②改善した方が良くと思う点

③その他の意見や要望など

ご協力ありがとうございました

4. 調査結果の分析

以下に、人間関係学部全体のアンケート集計結果の概要について報告する。具体的には、はじめに「授業の総合的な印象」に関する評価平均値（5 点満点）について、今年度の結果と過年度と比較しながら分析する。ついで、「教員の授業の進め方」、「授業の内容」、「学生自身の授業への取り組み」の各項目について、今年度の結果と過年度と比較しながら分析する。

① 「授業の総合的な印象」の評価

今年度前期授業アンケートにおける学生による「授業の総合的な印象」の評価平均値（5 点満点）は 4.20（前年度 4.27）であり、後期は 4.23（前年度 4.28）であった。前年度よりも若干低くなっているものの、前期後期共に「総合的に見て、授業を受けて良かった」と肯定的に評価していることが示されている。

過年度と比較すると、前期は 2010 年度の評価平均値は 4.19、2011 年度は 4.22 であり、2012 年度は 4.18、2013 年度、2014 年度はともに 4.27 であったが、今年度は若干低かった。後期は、2010 年度の評価平均値が 4.27、2011 年度が 4.29 であったのに対し、2012 年度は 4.27、2013 年度は 4.31、2014 年度は 4.28 と実施年度によって、多少の変動がみられた。前後期とも実施年度による変動はあるものの、十分に高い水準で安定して推移していることから、これまでの継続的な FD 活動の成果が示されているといえるだろう。

② 「教員の授業の進め方」の評価

今年度授業アンケートにおける学生による「教員の授業の進め方」の 7 項目の評価平均値（5 点満点）は前期が 4.22（前年度 4.29）であり、後期は 4.28（前年度 4.30）であった。後期の方が前期よりも 0.06 ポイント評価平均値が高かった。前期後期共に 4.2 点を超えており、「教員の授業の進め方」が非常に高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、2010 年度前期から 2012 年度までの 3 年間の評価平均値は 4.17 であり、全く同じ値であった。それに対して 2013 年度は 4.26、さらに 2014 年度は 4.29 とかなり高い数値となっている。後期については、2010 年度の評価平均値が 4.23、2011 年度が 4.25、2012 年度は 4.24 とほぼ同水準であった。2013 年度は 4.33、2014 年度の評価平均値 4.30 と過年度に比べてと高い数値であった。

「教員の授業の進め方」を構成する 7 項目の中で、今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期共に「先生の学生に対する接し方は公平だった」と「授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた」であった。

以上のことから、本学部の各教員の学生への接し方や担当授業に対して取り組む姿勢・熱意が学生にしっかりと伝わり、しかも高く評価されていることが理解できるだろう。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、過年度と同様に前期後期共に「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」であり、前期が 3.94、後期が 4.05 であった。大講義室での授業などでは、対応が難しい項目ではあった。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」が前期 4.27、後期 4.33 であった。また「教材資料提示は授業の理解に役立った」が前期 4.28、

後期 4.29 であった。その他、「私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした」が前期 4.22、後期 4.32、「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」が前期 4.02、後期 4.10 となった。おおむねどの項目も後期の方が前期よりも評価平均点が高くなっていた。これは、半期ごとに開講される科目構成の違いや、新入生の授業への適応などが反映されているものと推察される。

③ 「授業の内容」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「授業の内容」の 6 項目の評価平均値（5 点満点）は 4.15 であり、後期は 4.20 であった。前期後期共に 4 点を超えており、「授業の内容」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、2010 年度前期の評価平均値は 4.00、2011 年度前期は 4.04 であり、2012 年度前期は過去 2 年間とほぼ同水準（評価平均値 4.02）であった。それに対して 2013 年度前期は 4.15、そして 2014 年度が 4.20 と上昇傾向が見てとれたものの、今年度は一昨年度同様の評価平均値であった。後期は 2010 年度後期の評価平均値が 4.09、2011 年度後期は 4.11 であり、2012 年度後期の方が過去 2 年間よりも若干高くなっていた（評価平均値 4.12）。そして、さらに 2013 年度後期で 4.22、そして 2014 年度が 4.21 と評価平均値の上昇傾向が見てとれる。2013 年度より設問文の一部に若干修正が加えられたものの、文意はほとんど変わらないことから、授業内容の全体的な底上げが図られた成果といえるだろう。

「授業の内容」を構成する 6 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期ともに「授業は、学習の目標がはっきり示された」であり、前期後期共に 4.33 であった。なお、この「授業は、学習の目標がはっきり示された」は、過去 5 年間においても毎年、最も評価平均点が高い項目となっている。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「授業内容（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった（2012 年度までは“授業科目の選択や学習時に、「授業内容」（シラバス）は役立った”）」であり、前期が 3.97、後期が 4.04 であった。なお、この項目は、過去 3 年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていた。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた」が前期 4.18、後期 4.23 であった。また「授業の内容は興味深いものだった」が前期 4.16、後期 4.21 であった。その他、「授業の内容はよく理解できるものであった」が前期 4.08、後期 4.13、「授業は自分の将来にとって意味があると思う」が前期 4.24、後期 4.25 となった。いずれの項目も後期の方が前期よりも評価平均点が高くなっていた。

以上のことから、シラバスの活用については、学生にとってより良く参考になるよう今後も引き続き工夫していく必要性が示されていると考えられるが、授業内容については概ね高評価を得ており、さらに今年度はこれまでよりも全て高得点となっているため、学生のニーズに合った授業内容が展開されていると評価できよう。

④ 「学生自身の授業への取り組み」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「学生自身の授業への取り組み」の 5 項目の評価平

均値（5 点満点）は 3.29 であり、後期は 3.32 であった。前期後期共に 4 点以下であり、他の調査カテゴリーと比較すると、「学生自身の授業への取り組み」には課題が残っていることが示されている。

過年度と比較すると、2010 年度前期の評価平均値は 3.71、2011 年度前期も 3.71 であり、2012 年度前期の評価平均値は過去 2 年よりも 0.04 ポイントとわずかであるが高くなっていた（評価平均値 3.75）。ところが 2013 年度以降、この数値が 0.4 ポイント近く低下している（2013 年度の評価平均値 3.33、2014 年度 3.31）。後期については、2010 年度後期の評価平均値は 3.76、2011 年度後期は 3.77 であり、2012 年度後期の評価平均値の方が過去 2 年間よりも若干高くなっていた（評価平均値 3.82）。後期も同様に 2013 年度以降、この数値が 0.4 ポイント近く低下している（2013 年度の評価平均値 3.35、2014 年度 3.29）。しかし、ここ 2 年間の低下傾向は設問文の変更および回答ラベルの改変によるものと考えるのが妥当であり、今後の結果推移を注視していく必要がある。

「学生自身の授業への取り組み」を構成する 5 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期ともに「この授業にどの程度出席しましたか」であり、前期が 4.35、後期が 4.21 であった。なお、この設問文は、これまで「この授業にはつねに出席した」という質問内容だったが、2013 年度より文言を上記のように変更し、さらに今年度より回答ラベルを出席率で回答するよう改変が行われた。しかし、いずれの文言にしても、出席について質問しているこの項目は、変更・改変前においても毎年度、最も評価平均点が高かった。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「この授業のために予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」であり、前期が 1.77、後期が 1.73 であった。なお、この項目はこれまで「この授業のために予習または復習を欠かさなかった」という質問であったものが、2013 年度から改変されたものである。これは、過去 4 年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていたが、いずれも 3 点台であったものが、この質問内容になってさらに大きく低下した。この項目の平均点の大幅な低下が「学生自身の授業への取り組み」全体を例年よりも引き下げた大きな要因となっていると考えられる。

このように今年度、最も評価平均点が高かった項目、最も低かった項目は、いずれも過年度と類似のものであった。特に予習・復習に関する質問は昨今学内でテーマとなっている単位の実質化と関連する項目である。今後も引き続き学生に働きかけることで学生自身に主体的な学習態度を身につけてもらう必要がある一方で、授業を行う教員も学生が主体的に学習できるような仕掛けづくりを積極的に行う必要もあるだろう。

その他の項目についても今年度の結果を見ると、「授業中質問したり、考えを述べたりして、積極的に参加した」が前期 2.78、後期が 2.93 とやや低い値になっている。これは 2012 年度を見ると前期 3.30、後期 3.42、となっており、質問項目は全く同じであるにもかかわらず、昨年度からかなりの低下傾向にある（2014 年度前期の評価平均値 2.77、後期 2.78）。さらに「この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った」という項目は、2015 年度前期は 3.64、後期は 3.73 であった（2014 年度前期の評価平均値 3.69、後期 3.70）。この項目は 2012 年度まで「この授業によって、未知の分野だったことへ関心が広がった」という設問文であったが、2012 年前期 3.98、後期 4.07 であった。このことから、関心が広がることと発展的に学ぶこと

はいささかニュアンスが異なるようである。

以上の結果から、後期の方が前期よりも学生の授業への取り組み姿勢が積極的に変化したと読み取ることも可能であるが、後期は学生の出席率と本授業アンケートの回収率も下がっていることを鑑みると、授業に対して積極的な姿勢の学生が後期のアンケートに回答した、という調査対象の偏りを反映している可能性も否定できない。

そのこと以上に、教員への評価は高まりつつあり、学生の授業への出席率も高く維持されているものの、授業外の自習への取り組みに課題が多く、ここ数年その傾向はますます顕著になってきているとまとめることができる。学生の授業への取り組み姿勢をいかに改善していくかは、今後よりいっそう深刻に取り組まねばならないFD上の大きな課題である。

5. 授業アンケート調査結果の活用

今年度も、授業アンケート調査結果を今後の授業改善に活用することを目的とし、調査後に、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等(①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善するべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください)について自由記述による回答を求めた。この自由記述データの分析結果については、Ⅱ－2において報告する。

2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体	
履修者数	9,244
回答者数	6,456

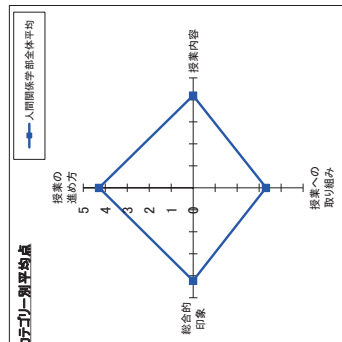
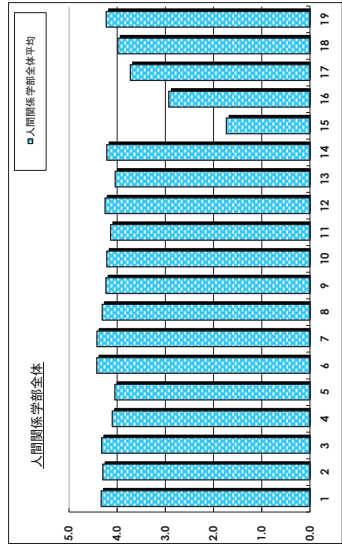
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)					当カゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	54.0	30.9	10.4	3.6	1.1	6,446	10
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	50.7	32.9	12.4	3.0	1.0	6,450	6
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	53.9	29.0	13.3	2.9	0.9	6,442	14
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	42.6	32.8	18.2	4.7	1.6	6,445	11
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.05	42.4	29.9	19.8	5.5	2.3	6,441	15
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.42	58.8	27.4	11.8	1.4	0.6	6,444	12
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	56.9	30.2	11.2	1.3	0.4	6,427	0.77

II. この授業の内容について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)					当カゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	50.9	32.9	13.3	2.0	0.9	6,436	20
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.23	48.6	32.1	14.5	3.6	1.3	6,442	14
10	授業の内容は興味深いものであった	4.21	48.2	31.9	14.5	3.9	1.5	6,437	19
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	44.0	33.5	16.3	4.6	1.7	6,431	25
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	50.1	31.1	14.1	3.3	1.4	6,424	32
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	40.3	31.5	22.3	3.7	2.2	6,392	64

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)					当カゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	50.2	28.9	14.4	5.3	1.3	6,424	32
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.73	4.7	5.0	10.8	18.1	61.4	6,425	31
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.93	18.6	18.2	25.7	12.3	25.2	6,359	97
17	この授業を通じて、さらに発展的に学びたいと思った	3.73	30.3	30.7	26.0	7.5	5.6	6,423	33
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.98	38.5	32.9	20.6	4.5	3.5	6,413	43

IV. 総合的な印象									
No.	教員文	平均点	回答率(%)					当カゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	49.8	29.6	15.5	3.3	1.7	6,187	269

Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体	
履修者数	9,995
回答者数	7,660

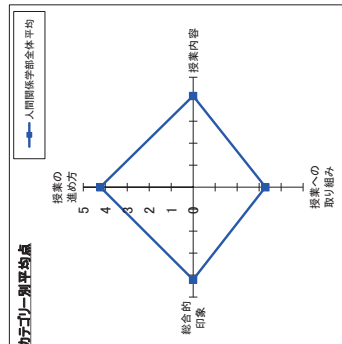
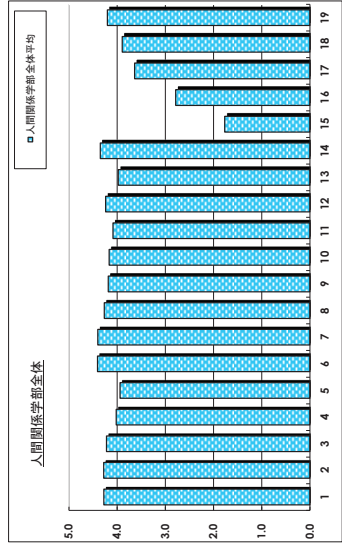
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)					当カゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.27	52.0	30.9	11.2	4.0	1.8	7,653	7
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.28	50.1	33.0	12.4	3.4	1.1	7,650	10
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.22	50.6	28.9	14.4	4.1	2.1	7,649	11
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.02	39.7	32.5	19.7	6.2	2.0	7,643	17
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.94	39.5	28.6	21.5	7.0	3.4	7,636	24
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.41	58.2	27.5	11.9	1.6	0.8	7,642	18
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	56.3	30.1	11.4	1.6	0.6	7,621	39

II. この授業の内容について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)					当カゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.26	49.5	32.6	13.8	3.0	1.0	7,642	18
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.18	46.1	33.1	15.1	4.2	1.5	7,636	24
10	授業の内容は興味深いものであった	4.16	45.9	32.6	15.5	4.1	2.0	7,632	28
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	41.9	33.6	17.5	5.1	1.9	7,632	28
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	49.5	31.1	14.5	3.5	1.5	7,626	34
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.97	37.6	31.0	24.8	4.4	2.2	7,575	85

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	教員文	平均点	回答率(%)					当カゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	58.6	24.1	12.0	4.1	1.1	7,616	44
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.77	4.9	4.4	10.4	23.3	57.1	7,605	55
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.78	16.6	15.5	26.3	13.0	28.7	7,521	139
17	この授業を通じて、さらに発展的に学びたいと思った	3.64	28.8	28.6	26.9	9.0	6.8	7,608	52
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.89	36.1	31.4	22.4	5.7	4.3	7,583	77

IV. 総合的な印象									
No.	教員文	平均点	回答率(%)					当カゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	49.9	28.4	15.9	3.6	2.1	7,374	286

Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所屬学科別)

大妻女子大学

所屬学科	人間関係学科	社会学専攻
履修者数	—	—
回答者数	1,522	1,522

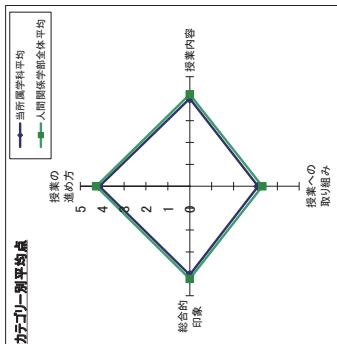
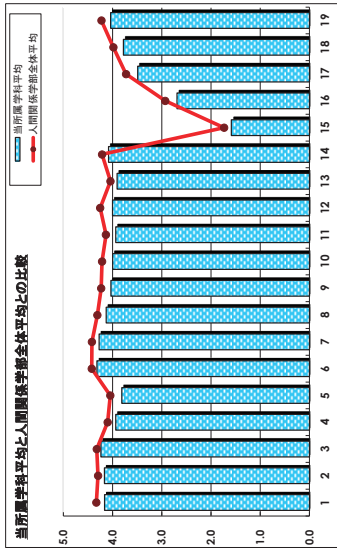
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.16	46.4	32.5	13.8	5.5	1.8	1,518	4
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.17	41.4	39.9	13.8	3.6	1.3	1,520	2
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.24	48.8	30.8	16.5	3.0	0.9	1,517	5
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.94	34.5	36.2	20.2	6.7	2.4	1,518	4
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.81	33.0	31.4	23.6	7.7	4.3	1,518	4
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.32	51.6	31.1	15.3	1.5	0.5	1,520	2
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.27	46.6	36.9	14.2	1.6	0.6	1,517	5

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.13	40.9	37.1	17.6	3.0	1.4	1,519	3
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.04	40.0	32.8	20.1	5.2	2.0	1,519	3
10	授業の内容は興味深いと思った	4.00	37.8	35.5	18.0	6.1	2.6	1,519	3
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.93	34.6	36.0	19.6	7.6	2.1	1,513	9
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.00	36.9	36.3	19.1	5.5	2.2	1,516	6
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.91	33.5	35.2	23.0	5.4	3.0	1,512	10

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.08	41.5	33.3	18.5	5.3	1.4	1,515	7
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.59	2.9	3.8	9.6	16.4	67.2	1,514	8
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.69	15.0	17.0	23.0	12.4	32.7	1,503	19
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.49	21.3	31.4	30.6	8.7	8.1	1,515	7
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.78	29.3	35.9	23.9	5.2	5.8	1,513	9

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.04	39.1	34.5	20.1	4.0	2.3	1,456	66

Q1-Q18の当区分平均値	3.82
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所屬学科別)

大妻女子大学

所屬学科	人間関係学科	社会学専攻
履修者数	—	—
回答者数	1,834	1,834

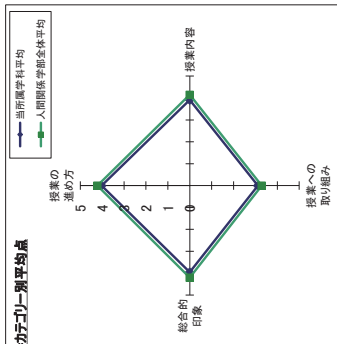
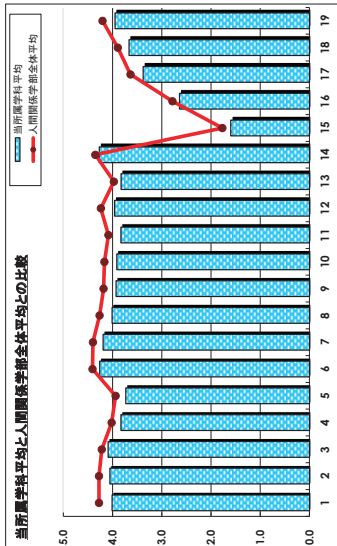
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.01	40.2	33.2	16.5	7.6	2.5	1,833	1
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.05	38.1	37.3	17.8	5.2	1.5	1,833	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.09	44.6	30.1	17.6	5.2	2.5	1,831	3
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.83	31.3	33.4	24.7	8.2	2.3	1,832	2
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.73	31.4	29.9	24.1	9.7	4.9	1,830	4
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.26	48.5	32.8	15.8	2.2	0.7	1,828	6
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.19	43.6	35.9	17.3	2.6	0.6	1,827	7

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.01	35.8	37.2	20.5	5.3	1.2	1,832	2
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	3.93	33.8	35.9	21.8	6.6	2.0	1,831	3
10	授業の内容は興味深いと思った	3.92	33.3	36.3	21.8	5.7	2.8	1,828	6
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.83	31.4	33.9	24.0	7.4	3.2	1,826	8
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.96	34.6	36.2	22.1	4.9	2.2	1,828	6
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.83	29.3	33.2	30.3	5.4	1.8	1,812	22

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.6	26.9	13.8	4.2	1.4	1,823	11
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.60	3.0	2.6	10.1	20.1	64.3	1,820	14
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.64	13.3	15.3	26.4	12.3	32.7	1,804	30
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.38	19.6	27.2	33.5	10.8	8.9	1,825	9
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.67	25.9	33.8	27.3	6.9	6.1	1,816	18

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.95	37.4	32.2	22.0	5.1	3.4	1,766	68

Q1-Q18の当区分平均値	3.75
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科	社会心理学専攻
履修者数	—	—
回答者数	1,396	1,396

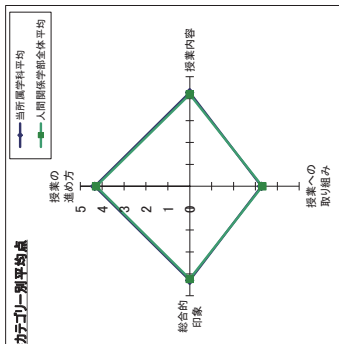
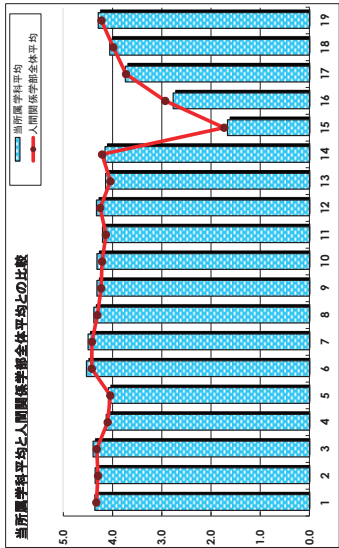
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	回答率(%)					当カテゴリー平均点		総集計 標準 偏差
		平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.36	56.4	30.3	7.9	3.9	1.5	1,396	0.90
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	56.4	28.6	10.0	3.8	1.1	1,396	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.40	58.0	28.5	9.7	2.7	1.1	1,395	1.085
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.13	45.3	30.9	17.1	4.8	1.9	1,394	2.098
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.08	44.4	30.6	16.6	5.8	2.6	1,394	2.103
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.53	65.3	24.3	8.8	1.1	0.4	1,396	0.774
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	62.4	27.1	8.6	1.7	0.2	1,393	3.074

II. この授業の内容について									
No.	設問文	回答率(%)					当カテゴリー平均点		総集計 標準 偏差
		平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.38	54.8	32.2	10.5	1.6	1.0	1,393	3.081
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.32	52.9	31.4	11.4	3.1	1.1	1,394	2.088
10	授業の内容は興味深いものだった	4.32	54.4	28.9	12.1	3.2	1.4	1,393	3.090
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	48.0	32.4	13.6	3.9	2.0	1,393	3.096
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	54.3	30.5	10.4	3.3	1.5	1,393	3.090
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.14	44.7	31.5	18.4	4.2	1.3	1,389	7.095

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	回答率(%)					当カテゴリー平均点		総集計 標準 偏差
		平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.16	45.0	33.3	14.5	6.4	0.7	1,390	6.095
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.67	3.1	3.4	12.6	18.7	62.1	1,394	2.103
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.77	14.2	19.4	24.0	14.1	28.3	1,374	22.141
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.74	31.6	31.0	23.0	8.5	5.9	1,392	4.116
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.06	41.4	34.2	16.5	4.4	3.5	1,390	6.103

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	回答率(%)					当カテゴリー平均点		総集計 標準 偏差
		平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.29	54.3	28.1	12.0	3.6	2.0	1,329	67.095

Q1-Q18の当区分平均値	4.04
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科	社会心理学専攻
履修者数	—	—
回答者数	1,506	1,506

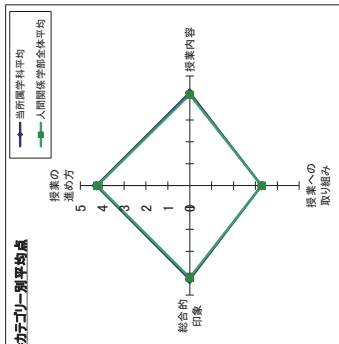
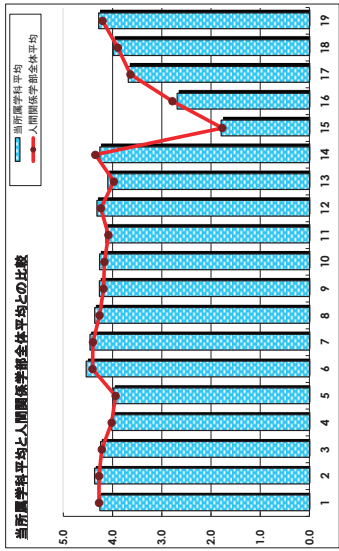
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	回答率(%)					当カテゴリー平均点		総集計 標準 偏差
		平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.26	54.4	27.9	9.6	5.3	2.8	1,506	1.102
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	56.3	30.2	8.5	4.0	1.1	1,504	2.088
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.24	54.2	26.5	11.6	5.1	2.7	1,504	2.102
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.02	42.2	30.3	16.4	8.8	2.2	1,503	3.107
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	43.6	27.7	16.6	7.5	4.6	1,499	7.115
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.54	66.7	22.6	8.9	1.2	0.6	1,505	1.076
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	60.5	28.4	8.5	1.9	0.8	1,501	5.079

II. この授業の内容について									
No.	設問文	回答率(%)					当カテゴリー平均点		総集計 標準 偏差
		平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.36	54.9	31.9	8.8	3.5	0.9	1,504	2.085
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.27	52.6	29.4	11.6	5.0	1.4	1,503	3.095
10	授業の内容は興味深いものだった	4.26	52.6	30.1	10.8	4.3	2.3	1,504	2.097
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	45.2	33.5	13.0	6.3	2.1	1,504	2.100
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.32	54.8	29.0	10.9	3.9	1.5	1,499	7.092
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.10	42.0	33.7	18.1	4.6	1.7	1,494	12.096

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	回答率(%)					当カテゴリー平均点		総集計 標準 偏差
		平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.26	51.9	28.6	13.9	4.7	0.9	1,502	4.093
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.79	4.0	4.4	11.3	27.5	52.7	1,496	10.107
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.69	16.0	14.2	24.0	14.0	31.7	1,481	25.145
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.68	31.6	28.6	24.0	8.1	7.7	1,499	7.122
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.99	39.5	33.3	17.6	5.6	4.0	1,497	9.108

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	回答率(%)					当カテゴリー平均点		総集計 標準 偏差
		平均点	5	4	3	2	1	有効 回答	
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.28	54.5	28.0	11.0	4.3	2.2	1,441	65.097

Q1-Q18の当区分平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	人間福祉学専攻
履修者数	—	—
回答者数	1,632	1,632

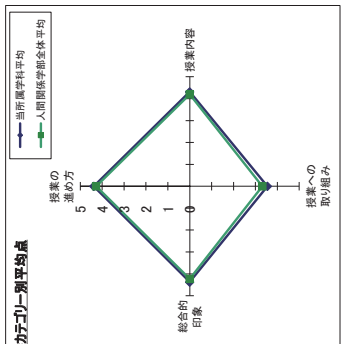
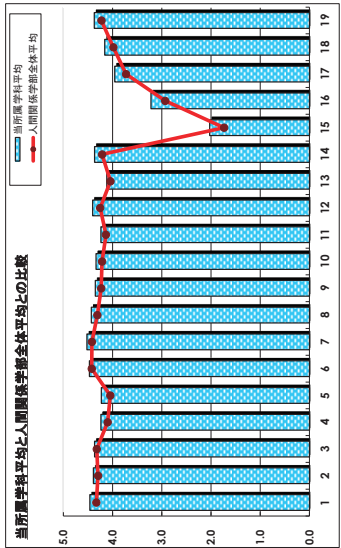
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリ平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.46	60.1	29.0	8.5	1.8	0.6	1.632	0
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	56.1	30.3	10.8	2.1	0.7	1.632	0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした	4.37	56.0	28.7	11.7	2.9	0.6	1.630	2
4	※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.24	49.2	30.9	15.5	3.6	0.9	1.631	1
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.23	51.2	27.2	16.1	4.3	1.2	1.632	0
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	62.1	25.2	10.9	1.3	0.6	1.631	1
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.52	63.7	26.2	8.9	0.8	0.4	1.624	8

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリ平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.43	58.2	29.4	10.4	1.3	0.7	1.631	1
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.35	54.4	30.5	11.8	2.1	1.1	1.632	0
10	授業の内容は興味深いと思った	4.34	54.6	29.3	12.6	2.3	1.2	1.629	3
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.24	49.4	31.0	14.7	3.5	1.3	1.630	2
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.40	59.2	26.4	11.3	1.9	1.2	1.626	6
13	※授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.12	44.9	28.5	22.1	2.5	2.0	1.619	13

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリ平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席したか	4.37	60.3	23.5	10.1	4.5	1.5	1.627	5
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	2.03	7.9	73.8	13.2	21.3	49.7	1.623	9
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.22	25.5	19.8	24.8	10.9	18.9	1.610	22
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.96	39.5	30.1	20.8	5.8	3.8	1.626	6
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.16	48.0	28.5	17.5	3.6	2.4	1.623	9

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリ平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.37	58.5	24.7	13.3	2.4	1.1	1.572	60

Q1-Q18の当区分平均値	4.14
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	人間福祉学専攻
履修者数	—	—
回答者数	2,074	2,074

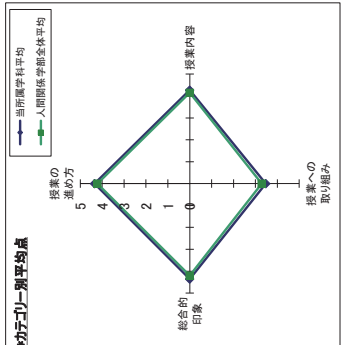
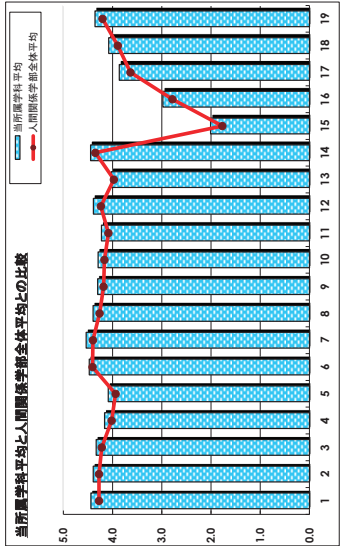
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリ平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.44	59.5	28.7	9.1	1.9	0.9	2.072	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	55.9	31.1	10.1	2.2	0.7	2.072	2
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした	4.33	54.9	28.5	12.8	2.8	1.0	2.073	1
4	※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.16	45.7	32.2	16.4	4.3	1.4	2.068	6
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	45.2	27.7	19.9	5.1	2.0	2.068	6
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	62.2	25.5	10.4	1.4	0.5	2.069	5
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.54	64.5	26.0	8.6	0.7	0.2	2.066	8

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリ平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.40	57.5	28.6	11.0	2.0	1.0	2.073	1
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.30	51.9	31.7	12.2	3.2	1.0	2.071	3
10	授業の内容は興味深いと思った	4.30	52.4	30.7	12.6	2.8	1.5	2.072	2
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.23	48.8	31.4	14.2	4.5	1.0	2.068	6
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.39	57.7	28.0	10.7	2.7	0.9	2.068	6
13	※授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.02	41.9	28.0	23.6	3.7	2.9	2.056	18

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリ平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席したか	4.45	66.1	19.0	9.7	3.9	1.3	2.059	15
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	2.01	7.9	6.5	12.7	24.7	48.3	2.059	15
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.98	19.6	17.6	26.8	12.8	23.1	2.040	34
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.86	36.7	29.7	21.6	7.2	4.8	2.059	15
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.08	44.6	28.6	19.8	4.4	2.7	2.055	19

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリ平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	57.6	25.5	13.3	2.2	1.5	1.997	77

Q1-Q18の当区分平均値	4.10
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 介護福祉学専攻	履修者数	—
		回答者数	469

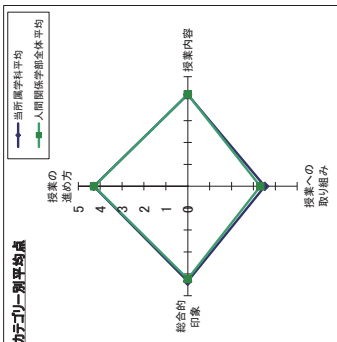
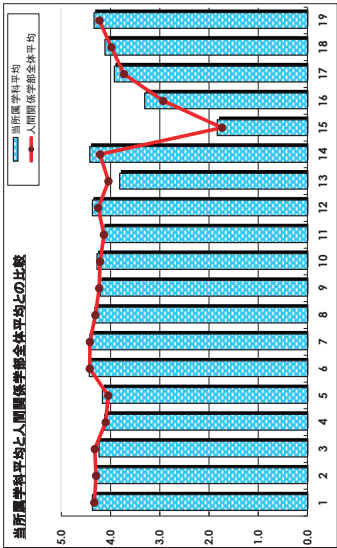
I. 先生、この授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.37	55.5	31.5	8.6	3.4	1.1	467	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	52.8	30.6	13.5	2.1	1.1	468	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.24	49.7	30.2	15.2	3.9	1.1	467	2
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	42.2	35.1	16.9	4.3	1.5	467	2
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.17	47.1	29.6	17.6	4.5	1.3	467	2
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.43	59.6	27.1	10.9	1.5	0.9	468	1
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.42	57.7	28.8	11.8	1.3	0.4	468	1

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.32	51.6	32.3	13.3	1.9	0.9	467	2
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.21	47.1	33.4	13.7	4.7	1.1	467	2
10	授業の内容は興味深いものであった	4.28	49.6	33.9	12.0	3.6	0.9	466	3
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	42.1	38.2	13.9	3.9	1.9	466	3
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.37	56.2	29.6	9.9	3.4	0.9	466	3
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.82	35.0	28.0	27.4	2.8	6.7	460	9

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.42	65.1	19.1	10.3	4.3	1.3	467	2
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.83	5.8	7.1	10.9	17.1	59.1	467	2
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.31	24.1	23.2	27.7	9.2	15.7	465	4
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.93	36.0	32.5	23.3	4.3	3.9	467	2
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.12	42.9	33.5	18.0	3.4	2.1	466	3

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.34	56.3	27.3	12.2	2.2	2.0	451	18

Q1-Q18の当区分平均値	4.06
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 介護福祉学専攻	履修者数	—
		回答者数	572

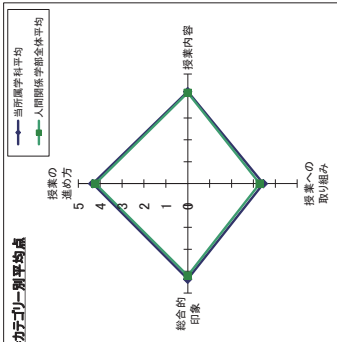
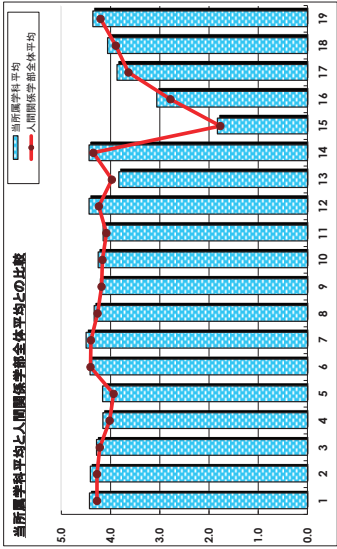
I. 先生、この授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.43	57.7	32.0	7.2	1.7	1.4	572	0
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.41	55.8	33.5	7.9	1.6	1.2	570	2
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.28	51.9	30.9	12.1	3.8	1.2	572	0
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	43.5	35.1	16.1	4.0	1.2	570	2
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.16	46.6	29.4	18.9	3.9	1.2	571	1
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.42	59.4	27.8	9.6	1.4	1.8	571	1
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.50	62.0	28.3	7.7	1.4	0.5	568	4

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.33	53.9	31.0	11.4	2.1	1.6	568	4
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.21	46.4	34.9	13.2	3.9	1.6	567	5
10	授業の内容は興味深いものであった	4.25	50.3	31.7	12.3	4.4	1.2	567	5
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	43.6	35.7	14.8	4.2	1.8	569	3
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	59.9	28.1	9.0	1.8	1.2	569	3
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.84	35.2	24.6	32.7	3.4	4.1	565	7

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	65.3	19.9	9.0	4.9	0.9	568	4
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.83	5.6	4.0	10.0	28.4	51.9	570	2
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.06	21.5	15.8	30.7	11.3	20.6	557	15
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.87	35.1	30.5	23.8	7.6	3.0	567	5
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.06	42.0	29.5	23.1	3.5	1.9	567	5

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	59.1	23.8	12.5	3.4	1.3	560	12

Q1-Q18の当区分平均値	4.06
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	1～15名
履修者数	383
回答者数	337

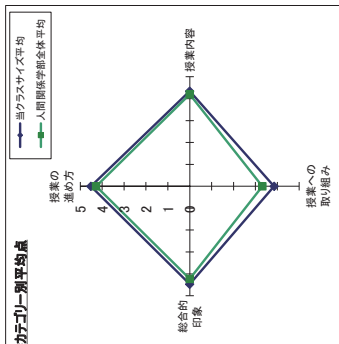
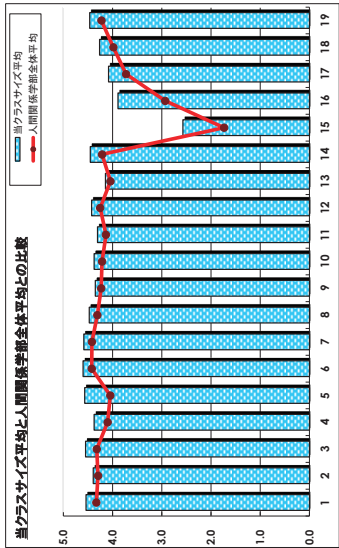
I. 先生はこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効回答数	無効回答数	4.52
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答						
			5	4	3	2	1								
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.54	66.2	25.2	5.6	2.4	0.6	337	0	0.76					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	56.4	29.1	12.5	1.8	0.3	337	0	0.80					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.55	67.6	21.4	9.8	0.6	0.6	336	1	0.74					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.37	56.7	30.0	8.9	3.0	1.5	337	0	0.88					
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.57	68.0	22.8	7.4	1.5	0.3	337	0	0.72					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.60	70.3	20.8	7.4	1.5	0.0	337	0	0.69					
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.58	67.4	24.6	7.1	0.9	0.0	337	0	0.66					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.35
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	総評 満足度			
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.47	60.5	28.2	9.5	1.8	0.0	337	0	0.74			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.35	54.6	30.3	11.9	2.1	1.2	337	0	0.86			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.38	56.3	28.9	11.6	2.7	0.6	336	1	0.84			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.31	52.5	31.8	10.7	3.9	1.2	337	0	0.90			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	59.2	26.8	11.3	2.7	0.0	336	1	0.80			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	45.3	30.8	19.0	2.7	2.1	331	6	0.96			
Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.85

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		総評 満足度
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.45	60.2	27.6	9.5	2.7	0.0	337	0	0.77		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.57	12.8	11.6	24.4	22.3	28.9	336	1	1.35		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.89	37.2	30.6	21.3	5.7	5.1	333	4	1.12		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.08	42.0	32.1	19.9	4.2	1.8	336	1	0.97		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.26	49.1	31.5	16.7	2.1	0.6	336	1	0.85		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		総評	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	有効 回答率	無効 回答率		
			5	4	3	2	1						
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.47	60.1	29.1	9.3	0.6	1.0	313	24	0.77			

Q1-Q18の当区分平均値	4.26
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	1～15名
履修者数	436
回答者数	393

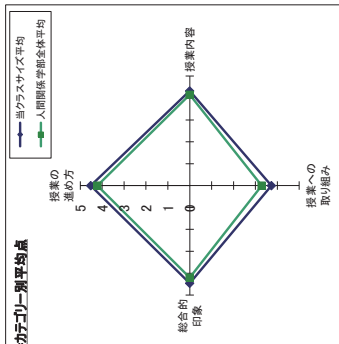
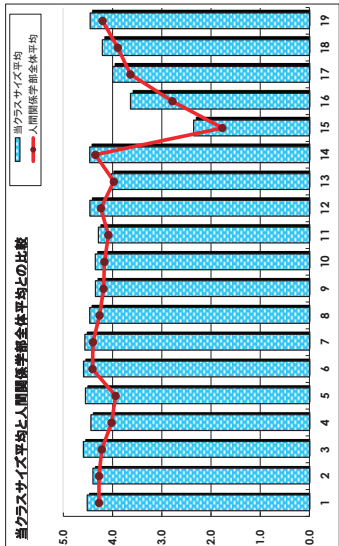
I. 先生はこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効 回答	無効 回答	総評 満足度
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答	総評 満足度					
			5	4	3	2	1								
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.52	63.6	26.5	8.1	1.5	0.3	393	0	0.73					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	57.3	27.2	14.0	1.3	0.3	393	0	0.79					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.59	71.2	17.6	10.7	0.5	0.0	392	1	0.70					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.44	61.3	23.4	13.5	1.5	0.3	393	0	0.80					
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.55	69.5	19.1	9.4	1.3	0.8	393	0	0.78					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.59	69.6	20.7	9.0	0.8	0.0	391	2	0.68					
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.56	65.7	25.3	8.4	0.5	0.0	391	2	0.67					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答	無効 回答	総評 満足度
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.46	61.2	25.8	11.5	1.3	0.3						392	1	0.77
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.35	54.6	28.1	15.1	2.0	0.3	392	1	0.83					
10	授業の内容は興味深いものだった	4.35	53.6	29.1	16.6	0.5	0.3	392	1	0.79					
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.29	50.0	30.4	18.4	1.0	0.3	392	1	0.82					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.46	61.7	23.7	13.8	0.5	0.3	392	1	0.77					
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.02	43.0	25.5	25.8	2.1	3.6	388	5	1.05					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答	無効 回答	総評 満足度
No.	設問文	平均点	回答率 (%)												
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.47	62.2	25.7	9.0	2.6	0.5	389	4						
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.35	6.6	9.2	24.8	31.5	27.9	391	2						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.44	29.9	25.5	28.8	10.1	5.7	385	8						
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.00	39.1	27.8	28.5	3.1	1.5	389	4						
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.21	45.8	33.0	18.4	1.8	1.0	391	2						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリ平均点		4.46	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答				
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.46	62.2	23.5	12.4	1.3	0.5	378	15	0.80			

Q1-Q18の当区分平均値	4.25
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	16～49名	履修者数	1,878
		回答者数	1,401

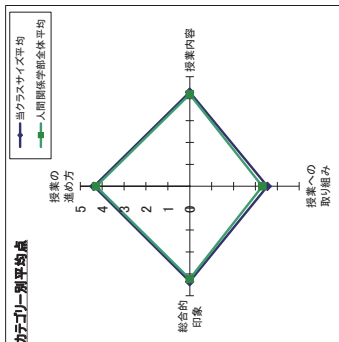
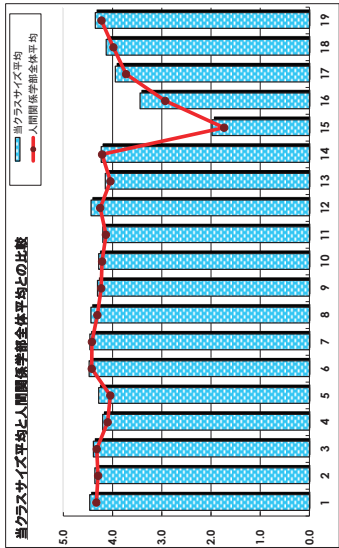
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.38	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.46	60.2	28.9	8.6	1.6	0.6	1,398	3	0.77			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	53.2	33.1	10.9	2.0	0.8	1,400	1	0.81			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	57.4	28.1	11.4	2.4	0.8	1,396	5	0.84			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	50.1	29.5	12.9	5.7	1.9	1,398	3	0.99			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.28	53.1	28.8	12.8	4.1	1.3	1,398	3	0.93			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.48	63.6	24.5	8.9	1.9	1.1	1,400	1	0.82			
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.46	59.6	29.1	9.4	1.4	0.4	1,397	4	0.76			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.30	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.44	57.3	32.0	8.9	1.0	0.8	1,397	4	0.76			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.31	52.9	29.7	13.7	2.7	1.1	1,398	3	0.88			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.28	50.5	32.5	12.8	3.1	1.0	1,398	3	0.88			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	48.2	31.3	14.1	4.8	1.6	1,396	5	0.96			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	58.6	30.0	8.8	1.9	0.8	1,398	3	0.79			
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	45.6	30.4	19.5	2.5	2.1	1,387	14	0.96			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.55	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	52.0	26.9	14.7	5.0	1.4	1,392	9	0.97			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.98	6.0	7.7	15.5	19.9	50.9	1,394	7	1.23			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.44	26.7	25.3	25.7	10.2	12.1	1,375	26	1.31			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.94	36.7	32.0	23.2	5.0	3.0	1,395	6	1.03			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.13	43.2	33.1	18.9	2.7	2.0	1,392	9	0.95			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.35	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.35	55.2	29.8	11.6	1.9	1.6	1,344	57	0.87			

Q1-Q19の当区分平均値	4.13
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	16～49名	履修者数	1,745
		回答者数	1,435

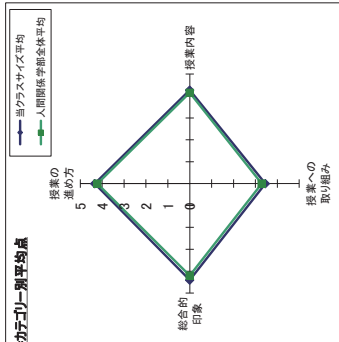
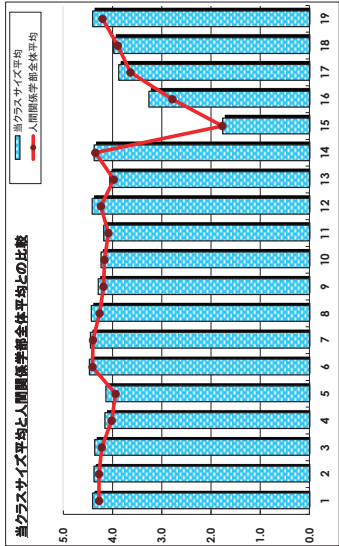
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.34	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.40	58.3	28.6	9.5	2.6	1.0	1,433	2	0.84			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.38	55.0	31.2	11.1	2.0	0.7	1,434	1	0.81			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.36	57.7	26.3	11.8	3.1	1.1	1,432	3	0.89			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	48.3	29.3	14.0	6.6	1.9	1,433	2	1.02			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	47.9	27.1	18.0	5.0	2.1	1,429	6	1.01			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	62.6	25.6	8.9	1.7	1.1	1,432	3	0.81			
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.45	58.6	30.2	9.3	1.4	0.5	1,430	5	0.76			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.27	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.43	57.1	31.6	9.3	1.7	0.4	1,432	3	0.76			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.29	51.3	32.1	12.0	3.5	1.0	1,430	5	0.89			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.23	47.6	33.8	14.3	3.1	1.2	1,431	4	0.89			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	46.5	32.4	15.2	4.1	1.7	1,431	4	0.95			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.41	58.5	27.9	10.9	2.0	0.7	1,428	7	0.82			
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	4.06	41.6	29.8	23.5	3.0	2.1	1,422	13	0.98			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.45	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	59.3	24.6	11.4	3.7	1.0	1,428	7	0.90			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.77	4.7	3.7	10.2	26.5	55.0	1,424	11	1.08			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.26	25.0	20.2	27.0	11.8	16.0	1,402	33	1.38			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.88	34.9	31.0	24.1	6.7	3.3	1,426	9	1.07			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.98	39.1	30.3	22.8	4.8	3.0	1,420	15	1.04			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.40	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.40	59.3	26.1	11.5	1.8	1.3	1,394	41	0.86			

Q1-Q19の当区分平均値	4.09
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名	履修者数	2,977
		回答者数	2,130

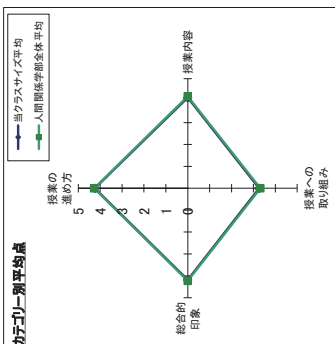
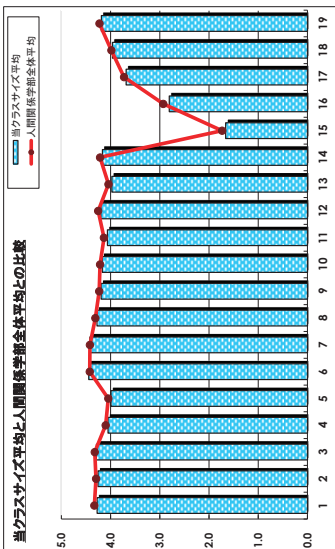
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.25	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.27	51.0	32.0	11.5	4.4	1.1	2,125	5	0.91			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.25	48.4	34.3	12.5	3.9	0.9	2,128	2	0.88			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.29	52.2	29.2	14.5	3.3	0.7	2,127	3	0.88			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	39.3	34.5	19.9	4.6	1.6	2,126	4	0.96			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.99	40.1	30.4	20.7	6.4	2.5	2,125	5	1.04			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.44	58.9	28.2	11.4	1.1	0.3	2,125	5	0.76			
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.42	56.3	31.1	11.1	1.4	0.1	2,124	6	0.75			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.15	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	49.2	33.3	14.2	2.3	0.9	2,123	7	0.86			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.19	46.0	33.7	15.1	3.9	1.3	2,123	7	0.92			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.17	46.5	32.0	15.2	4.5	1.7	2,122	8	0.96			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.06	40.2	34.7	18.0	5.2	1.8	2,122	8	0.97			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	47.7	31.9	15.0	3.7	1.7	2,119	11	0.95			
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.97	37.2	32.8	22.7	4.8	2.5	2,110	20	1.01			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.26	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.16	47.4	30.3	15.0	5.7	1.5	2,114	16	0.98			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.66	4.3	3.4	10.1	18.7	63.5	2,118	12	1.07			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.81	14.8	18.6	26.0	14.2	26.5	2,096	34	1.39			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.68	28.0	32.2	25.8	8.1	5.8	2,114	16	1.14			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.96	37.5	33.5	20.4	4.7	3.8	2,113	17	1.06			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.19	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.19	48.3	29.4	16.6	4.1	1.6	2,037	93	0.96			

Q1-Q18の当区分平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名	履修者数	3,527
		回答者数	2,772

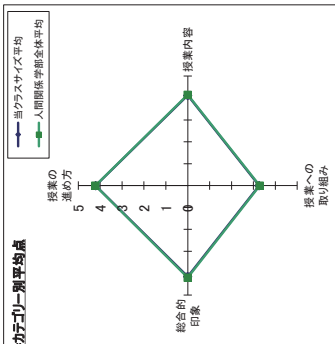
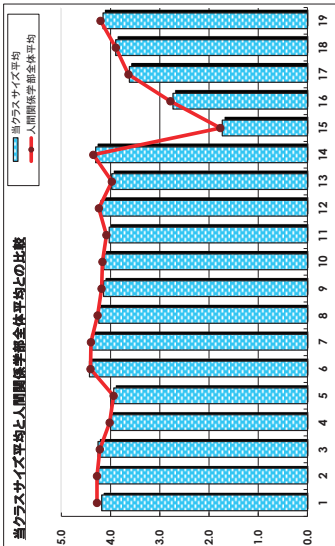
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.21	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.18	50.0	29.3	12.2	6.0	2.6	2,770	2	1.03			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.26	49.8	32.5	12.8	3.5	1.3	2,767	5	0.90			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.26	50.6	30.2	14.4	3.6	1.1	2,767	5	0.91			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.00	38.7	32.8	20.0	6.6	1.9	2,763	9	1.01			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93	38.9	29.9	20.5	7.1	3.6	2,759	13	1.09			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.43	59.4	26.9	11.5	1.8	0.4	2,764	8	0.80			
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.39	55.8	29.9	12.0	1.7	0.5	2,756	16	0.80			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.12	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	48.7	32.7	13.6	4.0	1.0	2,762	10	0.90			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.14	44.7	33.1	15.4	4.9	1.8	2,761	11	0.97			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.14	45.7	32.0	14.9	5.0	2.4	2,759	13	1.00			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.03	40.3	33.5	17.3	6.6	2.3	2,761	11	1.02			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	48.1	31.3	14.6	4.3	1.7	2,758	14	0.96			
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.98	37.8	31.2	23.9	5.0	2.0	2,740	32	1.00			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.26	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	56.4	24.8	12.7	4.8	1.3	2,757	15	0.95			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.73	4.4	4.4	9.9	22.4	58.8	2,749	23	1.09			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.73	15.1	15.1	27.0	13.4	29.4	2,728	44	1.41			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.62	28.2	29.3	26.1	9.1	7.4	2,757	15	1.19			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.90	36.2	31.9	21.7	5.6	4.5	2,747	25	1.10			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.16	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	割合	総数	割合
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.16	48.1	28.6	16.4	4.5	2.4	2,654	118	1.01			

Q1-Q18の当区分平均値	3.93
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上	履修者数	4,006
		回答者数	2,588

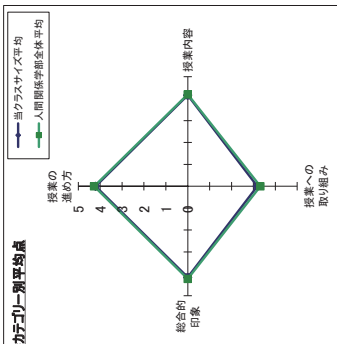
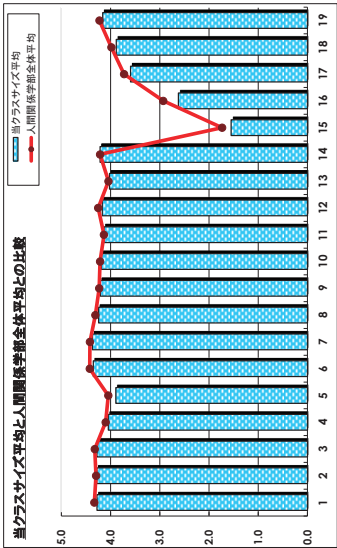
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.28	51.5	31.7	11.1	4.2	1.4	2,586	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.28	50.6	32.2	13.0	3.0	1.2	2,585	3
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.28	51.6	30.3	13.7	3.1	1.3	2,583	5
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	39.4	33.6	20.9	4.6	1.5	2,584	4
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.89	35.3	31.0	24.5	6.2	3.1	2,581	7
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.35	54.5	29.1	14.2	1.4	0.7	2,582	6
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.37	54.4	30.8	12.8	1.4	0.6	2,569	9

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	47.6	33.6	15.5	2.2	1.1	2,579	9
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.21	47.6	32.3	14.8	3.9	1.4	2,584	4
10	授業の内容は興味深いものであった	4.19	47.2	31.8	15.3	4.0	1.7	2,581	7
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	43.6	33.9	16.7	4.0	1.8	2,576	12
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.17	46.3	31.6	16.5	3.9	1.7	2,571	17
13	「授業内容(バラハシ)は科目の選択や学習の参考になった	4.02	39.4	31.1	24.0	3.5	2.0	2,564	24

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	50.1	28.9	14.3	5.5	1.2	2,581	7
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.55	3.3	4.0	7.0	16.1	69.6	2,577	11
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.62	15.0	12.4	26.1	12.8	33.7	2,555	33
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.59	27.1	28.5	28.4	8.7	7.3	2,578	10
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.88	35.4	32.4	22.1	5.6	4.5	2,572	16

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.16	46.9	29.8	17.5	3.8	2.0	2,493	95

Q1-Q18の当区分平均値	3.92
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上	履修者数	4,287
		回答者数	3,060

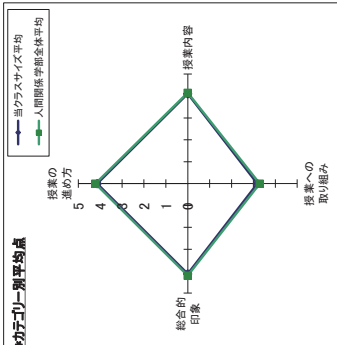
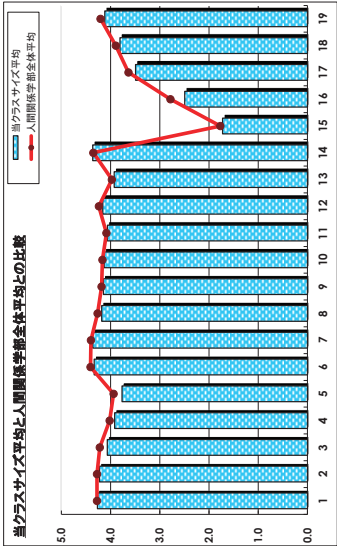
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.27	49.5	34.1	11.6	3.3	1.5	3,057	3
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.23	47.2	35.0	12.3	4.2	1.3	3,056	4
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.07	44.6	30.3	16.1	5.5	3.6	3,058	2
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.92	33.8	34.9	22.9	6.2	2.3	3,054	6
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.77	32.2	29.5	25.6	8.5	4.2	3,055	5
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.33	53.6	29.7	14.0	1.6	1.0	3,055	5
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.36	54.4	30.9	12.3	1.7	0.8	3,044	16

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.18	45.1	33.9	16.5	3.1	1.5	3,056	4
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.15	43.9	34.1	16.3	4.3	1.5	3,053	7
10	授業の内容は興味深いものであった	4.13	44.2	33.0	16.4	4.2	2.2	3,050	10
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.06	40.0	34.7	18.7	4.8	1.8	3,048	12
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.16	44.9	33.4	16.1	3.7	1.7	3,048	12
13	「授業内容(バラハシ)は科目の選択や学習の参考になった	3.93	34.9	32.0	26.1	4.7	2.2	3,025	35

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.36	59.8	23.0	12.1	3.9	1.2	3,042	18
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.73	5.3	4.0	9.0	21.5	60.2	3,041	19
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.50	12.3	12.3	25.0	13.6	36.9	3,006	54
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.49	25.2	26.9	28.7	10.7	8.6	3,036	24
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.81	33.5	31.2	23.4	6.7	5.2	3,025	35

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.12	45.4	30.0	18.0	4.0	2.5	2,948	112

Q1-Q18の当区分平均値	3.87
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義	履修者数	7,273
		回答者数	4,955

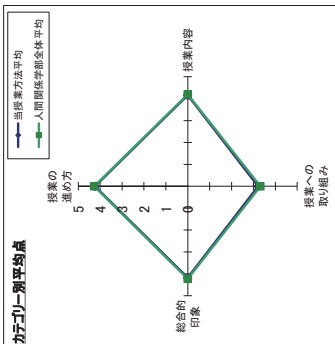
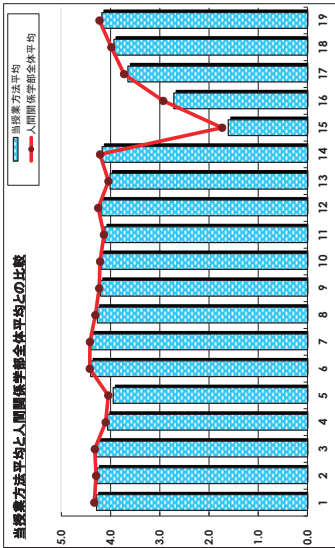
Ⅰ. 先生、この授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.29	51.6	32.0	11.1	4.1	1.2	4,947	8
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.27	49.9	33.2	12.5	3.4	1.1	4,949	6
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.29	51.9	29.9	14.1	3.1	1.0	4,947	8
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	39.5	34.5	20.0	4.5	1.5	4,946	9
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.95	37.6	31.2	22.3	6.2	2.7	4,942	13
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.40	57.1	28.6	12.6	1.3	0.5	4,944	11
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	55.7	30.7	11.9	1.3	0.4	4,930	25

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.27	48.6	33.7	14.6	2.1	1.0	4,939	16
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.20	47.0	32.9	14.9	3.9	1.3	4,943	12
10	授業の内容は興味深いと思った	4.19	46.9	32.5	14.9	4.1	1.6	4,938	17
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12	42.5	34.5	17.0	4.4	1.7	4,935	20
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.19	47.2	32.0	15.5	3.7	1.6	4,928	27
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.01	38.5	32.1	23.3	3.9	2.1	4,911	44

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	47.9	29.9	15.2	5.7	1.4	4,935	20
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.61	3.8	3.8	8.6	17.2	66.6	4,933	22
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.72	14.8	15.4	26.3	13.5	30.0	4,889	66
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.65	27.8	30.4	27.1	8.2	6.5	4,930	25
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.93	36.7	33.0	21.1	5.1	4.0	4,923	32

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	47.6	29.9	16.8	3.8	1.8	4,761	194

Q1-Q18の当区分平均値	3.94
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義	履修者数	7,947
		回答者数	5,887

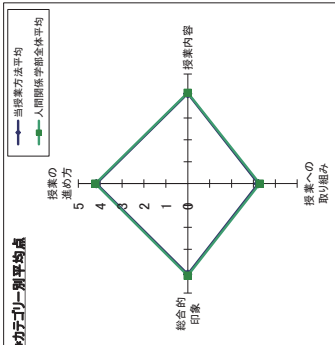
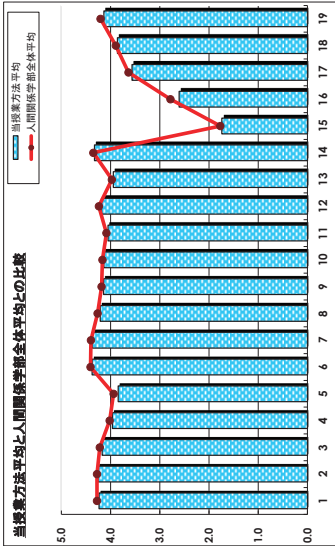
Ⅰ. 先生、この授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.23	50.0	31.9	11.6	4.4	2.0	5,881	6
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.26	48.8	34.2	12.0	3.8	1.2	5,878	9
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.17	48.0	30.2	15.0	4.5	2.3	5,879	8
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.96	36.2	34.0	21.5	6.2	2.0	5,871	16
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.84	35.1	29.8	23.4	7.9	3.8	5,870	17
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.38	56.1	28.5	12.9	1.7	0.7	5,874	13
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.38	54.8	30.8	12.0	1.7	0.6	5,855	32

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.21	46.7	33.5	15.2	3.5	1.2	5,873	14
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.14	44.1	33.9	15.9	4.6	1.6	5,870	17
10	授業の内容は興味深いと思った	4.14	44.8	32.9	15.8	4.3	2.2	5,865	22
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.05	40.2	34.2	18.1	5.6	1.9	5,864	23
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	46.6	32.4	15.4	4.0	1.7	5,861	26
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.95	36.0	31.7	25.4	4.8	2.1	5,822	65

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	57.8	23.9	12.7	4.4	1.2	5,849	38
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.74	4.9	4.3	9.6	22.3	58.9	5,845	42
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.61	13.6	13.6	26.1	13.5	33.2	5,780	107
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.57	26.9	28.0	27.6	9.9	7.7	5,844	43
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.86	34.8	31.8	22.7	5.9	4.7	5,821	66

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.13	46.6	29.4	17.3	4.2	2.5	5,666	221

Q1-Q18の当区分平均値	3.90
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

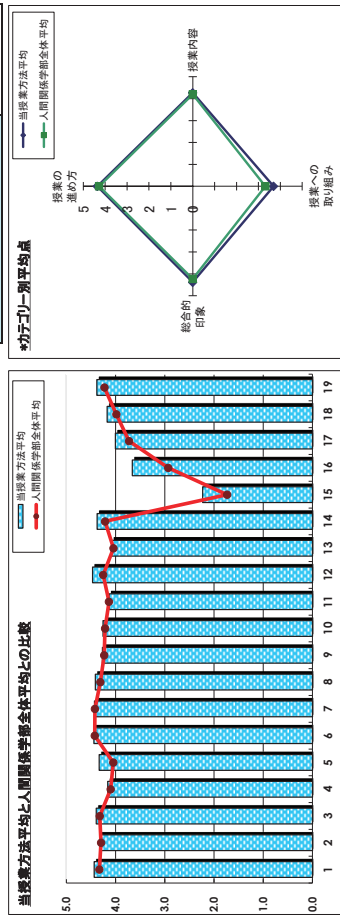
授業方法	演習	履修者数	1,294
		回答者数	1,025

I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.36	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.44	58.7	30.0	8.3	1.9	1.1	1,025	0	0.81			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	51.0	33.8	12.2	2.2	0.8	1,025	0	0.83			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	58.2	27.0	11.6	2.3	1.0	1,020	5	0.85			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	49.1	29.6	12.0	6.7	2.5	1,023	2	1.04			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.33	57.2	25.4	12.0	4.1	1.3	1,024	1	0.93			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.44	62.7	23.9	9.7	2.2	1.5	1,025	0	0.87			
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.43	57.5	30.7	9.4	1.9	0.5	1,022	3	0.78			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.27	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.41	56.8	30.8	9.9	1.9	0.7	1,023	2	0.80			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.27	51.2	30.2	14.3	2.9	1.5	1,024	1	0.91			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.25	50.4	30.9	13.9	3.6	1.3	1,024	1	0.92			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	46.5	30.5	14.9	6.2	2.0	1,023	3	1.01			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.47	61.9	26.5	8.7	2.4	0.5	1,023	2	0.79			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.08	43.2	30.4	20.5	2.9	3.0	1,013	12	1.01			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.69	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	58.6	26.3	10.2	3.8	1.1	1,020	5	0.89			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	2.23	8.4	10.3	19.3	19.8	42.1	1,019	6	1.32			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.66	31.0	29.2	23.4	7.7	8.8	1,005	20	1.23			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.00	38.8	32.6	21.5	4.7	2.5	1,019	6	1.01			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.17	45.8	31.7	18.1	2.7	1.8	1,018	7	0.94			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.38	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.38	57.1	28.5	11.4	1.2	1.7	974	51	0.86			



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

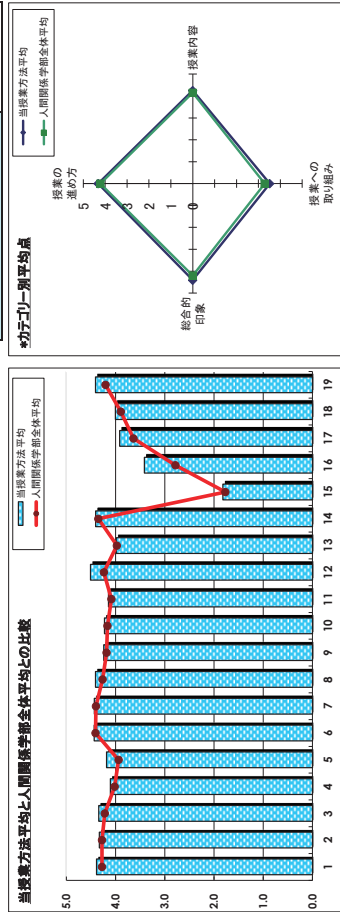
授業方法	演習	履修者数	1,237
		回答者数	1,081

I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.32	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.39	56.9	29.4	9.9	2.8	0.9	1,080	1	0.84			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	52.6	31.5	13.0	2.1	0.8	1,081	0	0.84			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.34	58.6	23.6	12.7	3.5	1.6	1,080	1	0.94			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	48.0	26.5	16.2	6.8	2.5	1,081	0	1.06			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	52.0	24.3	14.5	4.5	2.7	1,079	2	1.04			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.44	61.5	25.2	10.0	2.1	1.2	1,077	4	0.85			
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.43	58.3	29.1	10.9	1.2	0.6	1,078	3	0.78			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.25	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.41	56.3	31.0	10.5	1.7	0.6	1,078	3	0.79			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.24	48.9	32.4	13.9	3.3	1.4	1,077	4	0.91			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.23	47.1	33.2	15.9	2.7	1.1	1,078	3	0.89			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	44.3	33.0	17.4	3.4	1.9	1,079	2	0.95			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.51	64.1	24.6	9.9	0.8	0.6	1,078	3	0.75			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.99	40.8	27.1	25.7	3.2	3.4	1,072	9	1.05			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.51	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.40	59.9	26.0	9.9	3.1	1.1	1,076	5	0.87			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.82	4.1	5.0	12.3	26.0	52.6	1,075	6	1.09			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.42	26.3	22.8	27.8	12.2	10.8	1,060	21	1.29			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.92	35.1	32.6	24.4	5.2	2.8	1,075	6	1.02			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.00	40.0	31.1	21.2	4.6	3.1	1,074	7	1.04			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.41	
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.41	59.0	26.8	11.5	1.3	1.3	1,044	37	0.84			



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・演習	履修者数	333
		回答者数	266

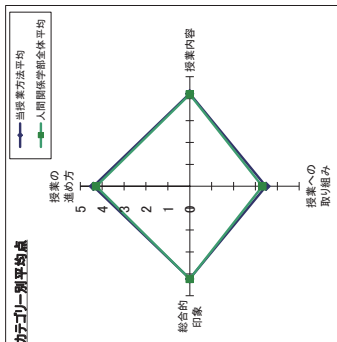
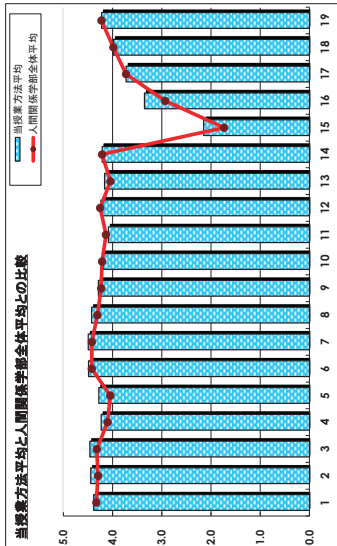
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			無効回答	集計回答数
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	割合					
			5	4	3	2	1							
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	58.9	24.9	12.5	3.4	0.4	265	1	0.86				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.44	57.5	32.0	8.6	1.1	0.8	266	0	0.76				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.46	61.3	27.4	8.3	2.3	0.8	266	0	0.80				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.23	53.4	24.8	15.4	4.5	1.9	266	0	0.99				
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.28	51.9	30.1	13.2	3.8	1.1	266	0	0.91				
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.49	62.8	25.2	10.5	1.1	0.4	266	0	0.76				
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.50	62.0	27.1	9.8	0.8	0.4	266	0	0.73				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテリ平均点				4.23	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	有効 回答 率	無効 回答 数	無効 回答 率				
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.42	53.8	36.1	9.4	0.4	0.4	266	0	0	0.71				
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.29	52.3	30.5	12.8	3.0	1.5	266	0	0	0.91				
10	授業の内容は興味深いものだった	4.19	45.5	34.2	15.0	4.1	1.1	266	0	0	0.92				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.09	42.1	36.5	12.4	6.0	3.0	266	0	0	1.03				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	45.9	37.6	12.8	1.9	1.9	266	0	0	0.88				
13	授業内容(シラバス)とその選択や学習の参考になった	4.16	46.6	29.5	18.9	3.4	1.5	264	2	0.95					
Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について												3.48			
										当カテリ平均点					

設問文										回答率 (%)					有効回答数	有効回答割合
No.	設問文	平均値	5	4	3	2	1									
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	50.8	27.3	15.2	6.1	0.8	264	2	0.96						
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	2.15	5.3	7.1	19.9	32.7	35.0	266	0	1.14						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.35	23.5	25.8	25.8	12.5	12.5	264	2	1.31						
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.73	28.9	32.0	26.3	8.3	4.5	266	0	1.10						
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.98	35.5	37.0	20.8	3.8	3.0	265	1	0.99						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		有効回答数	集計割合
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答数					
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	49.0	32.7	12.4	3.6	2.4	251	15	0.96			

Q1-Q19の当区分平均値	4.10
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・演習	履修者数	485
		回答者数	445

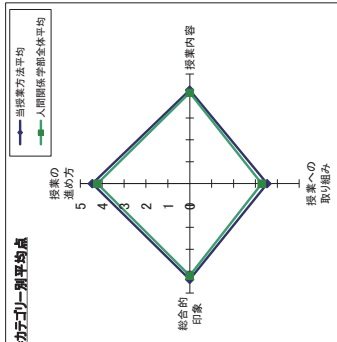
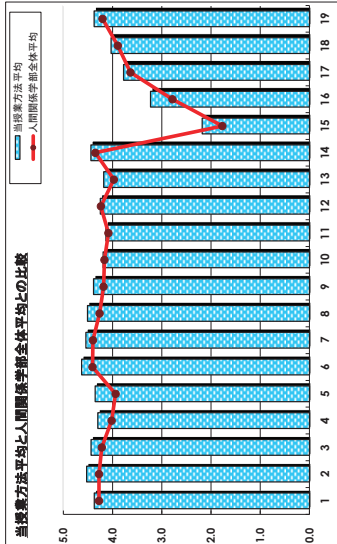
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		有効回答数	有効回答率
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答					
			5	4	3	2	1						
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.37	57.5	27.4	10.6	3.8	0.7	445	0	0.87			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.53	62.9	29.0	6.3	1.6	0.2	445	0	0.71			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.44	60.5	26.2	10.4	2.5	0.5	443	2	0.81			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.30	53.8	29.7	9.7	6.1	0.7	444	1	0.92			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.36	56.8	26.9	12.4	2.7	1.1	442	3	0.88			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.63	70.0	24.1	5.0	0.5	0.5	444	1	0.64			
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.54	63.3	29.2	5.9	1.6	0.0	442	3	0.68			

Ⅱ. この授業の内容について													当カテゴリー平均点		有効回答数	総集計回答数
No.	設問文	平均点	回答率 (%)								有効回答	割合				
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.51	60.8	30.9	7.0	1.1	0.2	444	1			1	0.70			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.39	57.3	27.8	11.5	2.9	0.5	443	2			2	0.84			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.19	48.9	30.4	13.3	5.9	1.6	444	1			1	0.98			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	45.5	32.4	14.0	6.3	1.8	444	1			1	1.00			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	50.1	31.6	12.6	4.5	1.1	443	2			2	0.92			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.18	44.1	34.0	18.5	2.7	0.7	438	7			7	0.88			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		有効回答	無効回答	集計値	3.53
No.	設問文	平均点	回答率 (%)												
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	61.0	26.8	8.1	3.4	0.7	444	1						
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	2.18	6.8	4.8	19.1	38.2	31.1	440	5						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.23	23.1	21.2	27.9	11.4	16.4	438	7						
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.78	34.1	29.3	22.6	8.1	5.9	443	2						
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.03	41.8	30.7	19.4	5.2	2.9	443	2						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		有効回答	無効回答	総集計
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答						
			5	4	3	2	1							
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.38	58.7	24.6	13.0	3.0	0.7	431	14		0.87			

Q1-Q19の当区分平均値	4.15
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	実技	履修者数	314
		回答者数	180

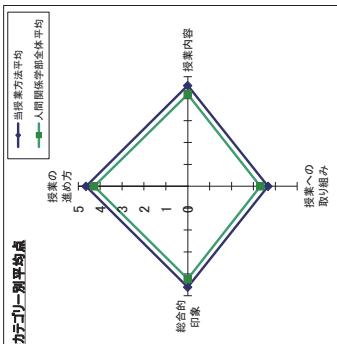
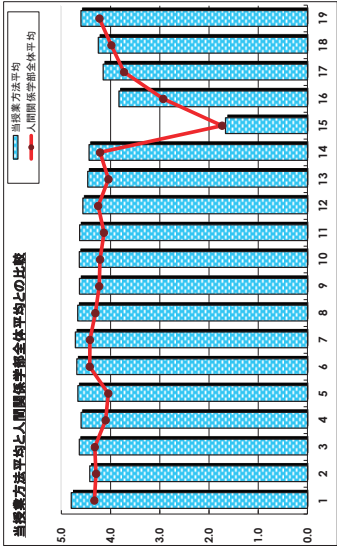
I. 先生、この授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.65
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.80	83.2	13.4	3.4	0.0	0.0	179	1	0.48	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.42	61.1	21.7	16.1	0.6	0.6	180	0	0.82	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.64	73.2	17.9	8.4	0.6	0.0	179	1	0.66	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.60	71.7	16.7	11.7	0.0	0.0	180	0	0.69	
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.66	74.3	18.4	6.7	0.6	0.0	179	1	0.63	
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.69	76.0	17.9	5.6	0.0	0.6	179	1	0.63	
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.72	76.5	18.4	5.0	0.0	0.0	179	1	0.55	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.40
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.67	74.2	19.1	6.2	0.6	0.0	178	2	0.62	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.63	70.4	22.3	7.3	0.0	0.0	179	1	0.62	
10	授業の内容は興味深いと思った	4.64	72.6	19.0	7.8	0.6	0.0	179	1	0.65	
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.63	72.5	18.0	9.6	0.0	0.0	178	2	0.65	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.56	67.2	23.2	8.5	1.1	0.0	177	3	0.70	
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.47	62.6	24.1	10.9	1.7	0.6	174	6	0.80	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.67
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	64.8	18.2	13.6	2.8	0.6	176	4	0.87	
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.67	7.3	4.0	6.8	11.9	70.1	177	3	1.22	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.83	40.0	18.0	25.0	7.0	7.0	172	8	1.25	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.15	48.9	23.0	23.6	3.4	1.1	178	2	0.97	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.25	50.8	26.6	20.3	1.1	1.1	177	3	0.90	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.60
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.60	69.6	21.6	8.2	0.6	0.0	171	9	0.66	

Q1-Q18の当区分平均値	4.37
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	実技	履修者数	300
		回答者数	223

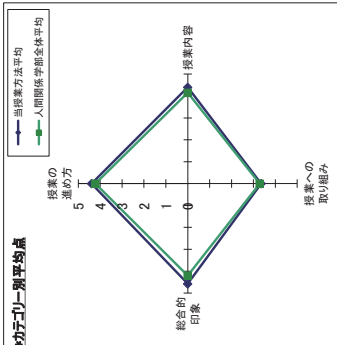
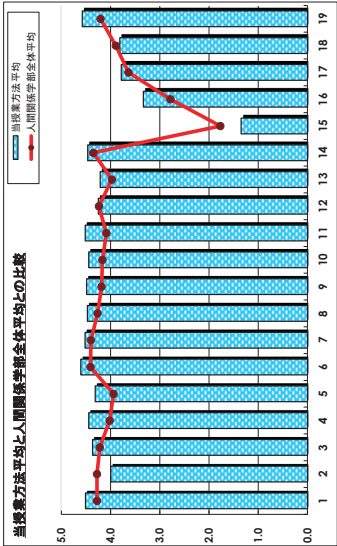
I. 先生、この授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.39
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.51	66.8	21.1	9.9	0.9	1.3	223	0	0.82	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.00	43.7	18.9	33.3	1.4	2.7	222	1	1.04	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.37	56.5	26.5	15.2	0.9	0.9	223	0	0.84	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.44	60.1	27.4	10.3	1.3	0.9	223	0	0.80	
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.31	57.0	23.1	15.8	2.3	1.8	221	2	0.94	
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.61	70.9	19.3	9.4	0.4	0.0	223	0	0.68	
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.52	67.1	20.3	10.8	0.9	0.9	222	1	0.79	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.40
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.47	64.1	22.4	10.8	1.8	0.9	223	0	0.83	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.49	63.5	24.8	9.5	1.4	0.9	222	1	0.79	
10	授業の内容は興味深いと思った	4.44	59.3	28.5	10.4	0.9	0.9	221	2	0.79	
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.52	63.3	25.8	10.4	0.0	0.5	221	2	0.72	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	48.6	30.9	18.2	1.4	0.9	220	3	0.86	
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.21	49.3	27.9	19.2	1.8	1.8	219	4	0.94	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.35
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.47	67.7	16.6	11.2	3.6	0.9	223	0	0.89	
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.35	5.0	1.8	1.8	5.9	85.5	221	2	0.99	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.33	33.3	17.4	20.1	7.8	21.5	219	4	1.53	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.78	36.5	23.4	27.9	6.3	5.9	222	1	1.18	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.81	38.0	22.2	28.5	5.9	5.4	221	2	1.17	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.57
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.57	70.3	18.7	9.6	1.0	0.5	209	14	0.74	

Q1-Q18の当区分平均値	4.13
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・実習
履修者数	30
回答者数	30

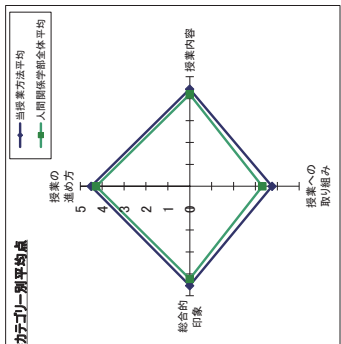
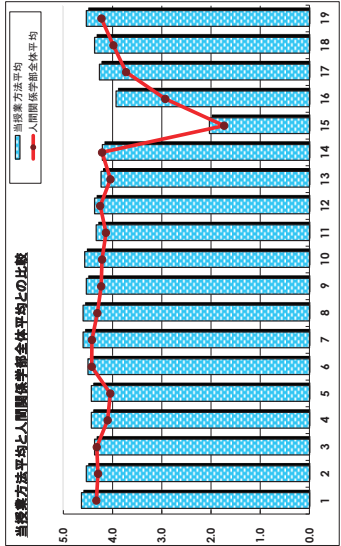
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総得点
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.63	63.3	36.7	0.0	0.0	0.0	30	0.49
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.53	56.7	40.0	3.3	0.0	0.0	30	0.57
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かであることで注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.37	56.7	30.0	6.7	6.7	0.0	30	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.43	53.3	36.7	10.0	0.0	0.0	30	0.68
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.43	56.7	30.0	13.3	0.0	0.0	30	0.73
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.50	63.3	26.7	6.7	3.3	0.0	30	0.78
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.60	63.3	33.3	3.3	0.0	0.0	30	0.56

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総得点
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.60	66.7	26.7	6.7	0.0	0.0	30	0.62
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.53	63.3	26.7	10.0	0.0	0.0	30	0.68
10	授業の内容は興味深いものであった	4.57	63.3	30.0	6.7	0.0	0.0	30	0.63
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.33	50.0	36.7	10.0	3.3	0.0	30	0.80
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.37	56.7	30.0	6.7	6.7	0.0	30	0.89
13	1「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.23	46.7	33.3	16.7	3.3	0.0	30	0.86

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総得点
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	55.2	20.7	17.2	3.4	3.4	29	1.08
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.03	10.0	6.7	16.7	10.0	56.7	30	1.40
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.93	41.4	31.0	13.8	6.9	6.9	29	1.22
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.27	46.7	40.0	10.0	0.0	3.3	30	0.91
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.37	46.7	43.3	10.0	0.0	0.0	30	0.67

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総得点
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.53	60.0	33.3	6.7	0.0	0.0	30	0.63

Q1-Q19の当区分平均値	4.29
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・実習
履修者数	26
回答者数	24

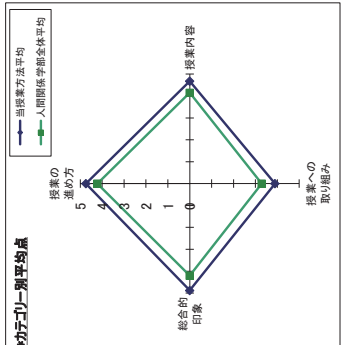
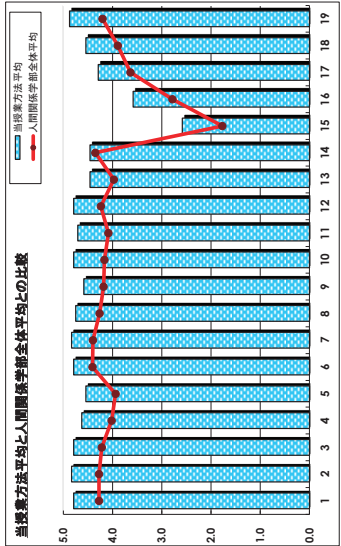
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総得点
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.79	79.2	20.8	0.0	0.0	0.0	24	0.41
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.83	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	24	0.38
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かであることで注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.79	79.2	20.8	0.0	0.0	0.0	24	0.41
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.63	70.8	25.0	0.0	4.2	0.0	24	0.71
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.54	66.7	25.0	4.2	4.2	0.0	24	0.78
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.79	83.3	12.5	4.2	0.0	0.0	24	0.51
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.83	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	24	0.38

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総得点
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.75	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	24	0.44
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.58	62.5	33.3	4.2	0.0	0.0	24	0.58
10	授業の内容は興味深いものであった	4.79	79.2	20.8	0.0	0.0	0.0	24	0.41
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.71	79.2	12.5	8.3	0.0	0.0	24	0.62
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.79	83.3	12.5	4.2	0.0	0.0	24	0.51
13	1「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.46	66.7	16.7	12.5	4.2	0.0	24	0.88

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総得点
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.46	62.5	20.8	16.7	0.0	0.0	24	0.78
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.58	16.7	8.3	16.7	33.3	25.0	24	1.41
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.58	33.3	20.8	29.2	4.2	12.5	24	1.35
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.29	50.0	29.2	20.8	0.0	0.0	24	0.81
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.54	58.3	37.5	4.2	0.0	0.0	24	0.59

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総得点
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.88	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	24	0.34

Q1-Q19の当区分平均値	4.51
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別) 大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任	履修者数	5,819
		回答者数	3,975

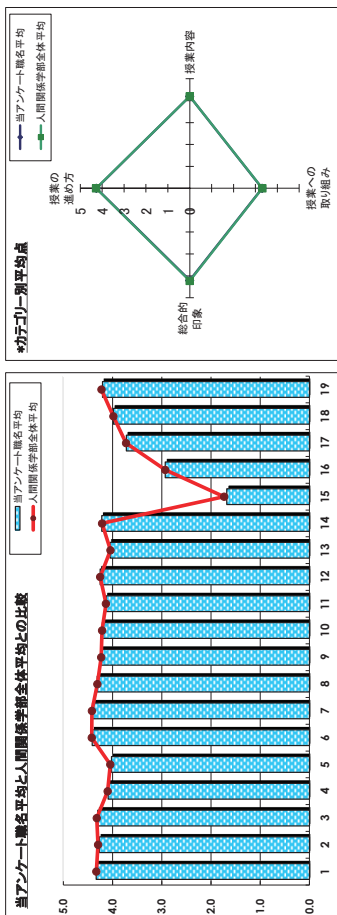
I. 先生、この授業の進め方について										当カテゴリー平均点				4.26	
No.	設問文	平均値	回答率 (%)					有効回答	無効回答	有効割合	無効割合				
			5	4	3	2	1								
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	54.7	29.7	10.9	3.7	1.0	3,968	7	0.89					
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	4.27	49.5	33.0	13.1	3.3	1.0	3,969	6	0.88					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.30	53.6	28.6	13.2	3.4	1.2	3,964	11	0.90					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	42.6	32.2	18.3	5.2	1.7	3,965	10	0.98					
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	41.4	29.9	20.4	6.0	2.2	3,965	10	1.03					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.41	58.8	27.0	11.8	1.7	0.8	3,966	9	0.82					
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.41	56.6	30.1	11.5	1.4	0.5	3,957	18	0.78					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリ平均点			4.20	
No.	設問文	平均値	回答率 (%)					有効回答	無効回答	割合	割合			
			5	4	3	2	1							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	50.9	32.9	13.5	2.0	0.7	3,960	15	0.83				
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.23	48.4	32.0	14.8	3.6	1.2	3,964	11	0.91				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.21	47.8	32.1	14.7	4.0	1.4	3,963	12	0.93				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	44.1	33.1	16.2	4.8	1.7	3,956	19	0.97				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	49.9	31.4	14.0	3.4	1.3	3,950	25	0.91				
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.05	40.8	31.4	22.2	3.5	2.1	3,928	47	0.98				
Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリ平均点			3.31	

No.	質問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数	割合 (%)
			5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	50.2	29.0	14.4	5.2	1.1	3,954	21	0.95
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	1.68	4.7	4.6	9.4	16.8	64.5	3,953	22	1.12
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.93	19.2	17.5	26.0	11.6	25.6	3,912	63	1.44
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.72	29.8	30.6	26.7	7.8	5.1	3,949	26	1.12
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.98	37.9	33.3	21.2	4.5	3.1	3,942	33	1.03

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		有効 回答数	割合 %
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				有効 回答数	割合 %					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	48.3	30.8	15.9	3.3	1.7	3,812	163	0.94			

Q1-Q18の当区分平均値	3.99
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別) 大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任	履修者数	5,119
		回答者数	3,919

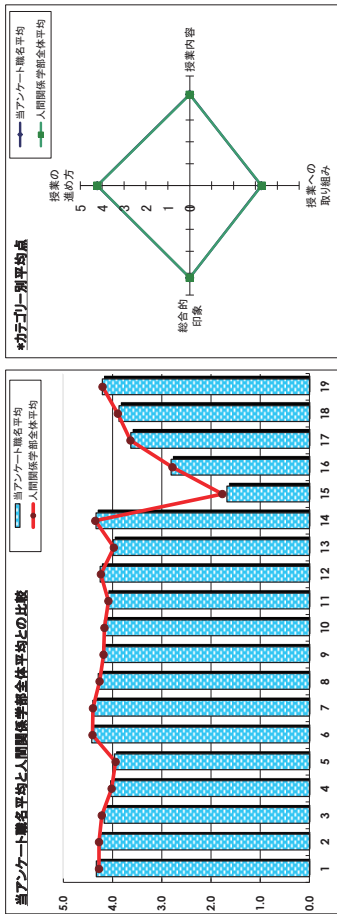
I. 先生、この授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効回答数	有効回答割合
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数						
			5	4	3	2	1							
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	54.6	29.9	10.9	3.4	1.3	3,917	2	0.89				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.26	49.3	32.7	13.6	3.3	1.1	3,916	3	0.89				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.17	49.0	28.8	15.2	4.5	2.6	3,915	4	1.01				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.04	40.4	32.8	19.2	5.6	1.9	3,913	6	1.00				
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.96	40.3	28.5	21.2	7.0	3.0	3,912	7	1.08				
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.42	59.3	27.0	11.4	1.6	0.7	3,912	7	0.81				
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.40	56.7	29.6	11.6	1.5	0.6	3,908	11	0.80				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				有効回答数	割合 (%)
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	割合 (%)						
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.29	50.1	33.5	13.0	2.6	0.9	3,912	7	0.85					
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.20	46.6	33.0	15.2	3.8	1.3	3,909	10	0.92					
10	授業の内容は興味深いものであった	4.17	45.0	33.4	16.3	3.7	1.6	3,908	11	0.94					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12	42.6	34.0	17.6	4.4	1.5	3,908	11	0.94					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	48.6	33.3	14.1	2.9	1.2	3,903	16	0.89					
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.99	38.1	31.5	23.8	4.5	2.1	3,871	48	0.99					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			割合 有効回答	割合 無効回答	3.27
No.	質問文	平均点	回答率 (%)					割合 有効回答	割合 無効回答						
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.34	57.6	24.7	12.5	4.1	1.1	3,895	24	0.92					
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	1.68	3.8	3.7	9.0	23.5	60.0	3,892	27	1.04					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.81	16.9	16.4	26.3	12.1	28.3	3,845	74	1.43					
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.63	28.0	29.0	27.6	8.8	6.5	3,892	27	1.17					
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.87	34.8	31.9	23.1	5.9	4.3	3,877	42	1.09					

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.21	
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	割合	無効回答	割合		
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	49.1	29.7	15.9	3.6	1.7	3,751	168	0.95			

Q1-Q18の当区分平均値	3.96
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	専任	履修者数	3,425
		回答者数	2,481

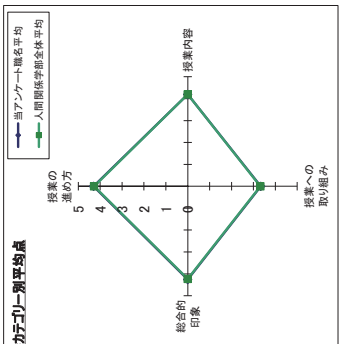
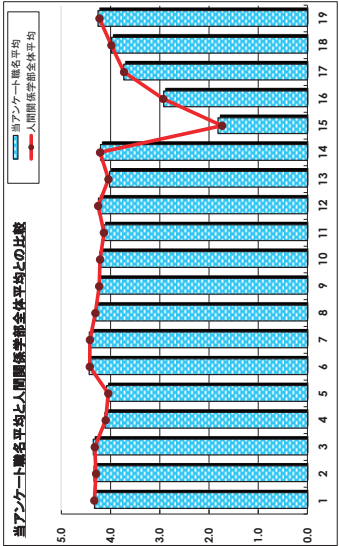
I. 先生はこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	52.9	32.8	9.6	3.4	1.3	2,478	3
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	52.6	32.8	11.2	2.5	0.9	2,481	0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.35	54.4	29.6	13.3	2.1	0.6	2,478	3
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	42.5	33.8	18.1	4.1	1.6	2,480	1
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.08	44.1	29.8	18.8	4.8	2.5	2,476	5
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.44	58.7	28.0	11.8	1.0	0.4	2,478	3
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.43	57.3	30.4	10.7	1.2	0.3	2,470	11

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.30	50.9	32.9	13.0	1.9	1.3	2,476	5
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.24	48.9	32.2	14.0	3.4	1.5	2,478	3
10	授業の内容は興味深いものであった	4.22	48.7	31.6	14.2	3.8	1.7	2,474	7
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	43.7	34.1	16.4	4.2	1.7	2,475	6
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	50.4	30.6	14.1	3.3	1.7	2,474	7
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.02	39.5	31.7	22.6	3.9	2.3	2,464	17

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.20	50.1	28.6	14.3	5.5	1.5	2,470	11
15	この授業のために毎週予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.82	4.7	5.7	13.0	20.1	56.5	2,472	9
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.92	17.7	19.2	25.2	13.4	24.4	2,447	34
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.73	31.1	30.8	24.8	7.0	6.3	2,474	7
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.98	39.5	32.2	19.5	4.6	4.2	2,471	10

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	52.4	27.7	14.8	3.3	1.8	2,375	106

Q1-Q19の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	専任	履修者数	4,876
		回答者数	3,741

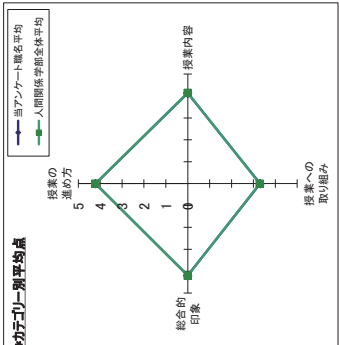
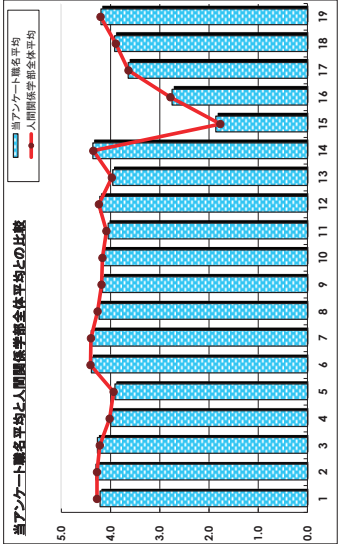
I. 先生はこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.22	49.4	32.0	11.6	4.7	2.2	3,736	5
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	51.0	33.3	11.1	3.4	1.2	3,734	7
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.27	52.3	28.9	13.6	3.7	1.5	3,734	7
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.99	39.0	32.1	20.2	6.7	2.0	3,730	11
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.91	38.6	28.8	21.8	7.0	3.9	3,724	17
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.39	57.1	27.9	12.5	1.6	0.8	3,730	11
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	55.8	30.7	11.2	1.6	0.6	3,713	28

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.23	48.8	31.7	14.7	3.5	1.2	3,730	11
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.17	45.6	33.1	15.0	4.7	1.6	3,727	14
10	授業の内容は興味深いものであった	4.16	46.7	31.8	14.6	4.5	2.4	3,724	17
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.05	41.1	33.2	17.5	5.9	2.3	3,724	17
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	50.4	28.8	14.9	4.0	1.8	3,723	18
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.96	37.1	30.4	25.9	4.3	2.3	3,704	37

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.36	59.6	23.4	11.6	4.1	1.2	3,721	20
15	この授業のために毎週予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.86	6.1	5.1	11.8	23.1	53.9	3,713	28
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.75	16.3	14.5	26.3	13.9	29.0	3,676	65
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.64	29.7	28.1	26.0	9.1	7.1	3,716	25
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.92	37.5	30.9	21.8	5.5	4.3	3,706	35

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	50.7	27.0	16.0	3.7	2.6	3,623	118

Q1-Q19の当区分平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	35歳以下
履修者数	931
回答者数	619

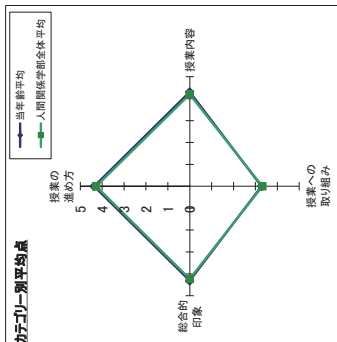
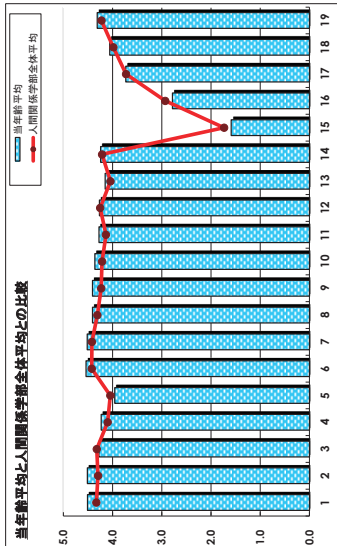
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効回答数	無効回答数	4.36
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数						
			5	4	3	2	1								
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.51	61.8	28.8	7.9	1.5	0.0	618	1	0.70					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.51	61.2	30.9	6.1	1.6	0.2	619	0	0.70					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.28	52.5	29.6	12.3	4.5	1.1	619	0	0.92					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.23	47.2	33.8	14.7	3.7	0.6	619	0	0.88					
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.96	37.3	31.8	22.3	6.5	2.1	619	0	1.02					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.54	64.9	24.6	10.0	0.5	0.0	619	0	0.69					
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.51	61.0	30.4	7.8	0.6	0.2	618	1	0.68					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			4.31
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数				
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.41	54.9	32.1	11.8	1.0	0.2	617	2	0.75			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.41	55.9	32.1	9.1	2.8	0.2	617	2	0.78			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.36	55.0	29.9	11.5	3.2	0.3	618	1	0.83			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.28	48.5	34.8	12.8	3.7	0.2	617	2	0.84			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	48.0	35.7	12.2	3.6	0.6	617	2	0.86			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	45.5	32.8	15.5	3.8	2.4	613	6	0.98			
Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			3.28

設問文										平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数
No.				5	4	3	2	1									
14	この授業にどの程度出席しましたか		4.24	49.8	30.8	14.4	4.1	1.0	617	2						0.91	
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか		1.59	3.6	3.4	7.9	18.8	66.3	618	1						1.02	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した		2.78	17.8	17.5	21.7	11.3	31.7	612	7						1.49	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った		3.73	30.0	31.3	25.0	9.4	4.4	617	2						1.12	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった		4.06	40.4	34.3	18.5	4.4	2.4	616	3						0.99	

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均値		有効 回答 割合	標準 偏差
No.	設問文	平均値	回答率(%)					有効 回答					
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	53.8	29.1	12.8	3.4	1.0	595	24	0.89			

Q1-Q19の当区分平均値	4.06
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	35歳以下
履修者数	742
回答者数	532

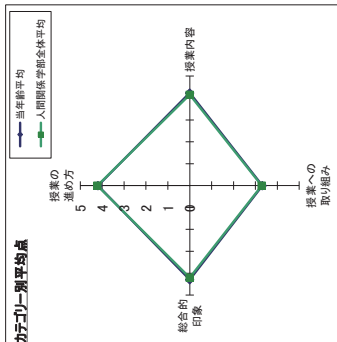
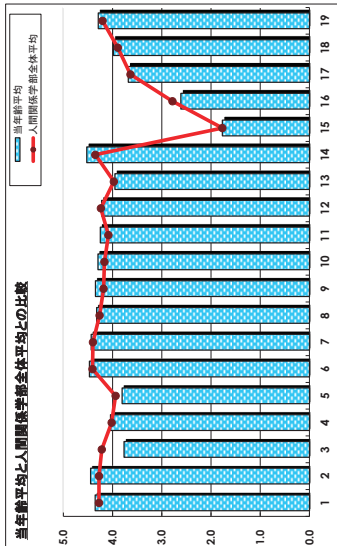
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答 数	4.19
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数							
			5	4	3	2	1								
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.36	55.8	29.3	10.5	3.2	1.1	532	0	0.88					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.45	58.1	31.8	7.5	2.1	0.6	532	0	0.77					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	3.77	42.2	21.7	16.9	9.2	10.0	531	1	1.34					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.04	37.2	36.5	20.3	5.5	0.6	532	0	0.92					
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.81	33.3	31.5	22.4	8.3	4.5	531	1	1.12					
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.47	60.3	27.8	10.5	1.1	0.2	532	0	0.74					
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.44	57.3	30.5	10.7	1.5	0.0	532	0	0.74					

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答 数	無効 回答 数	4.23
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.32	51.1	33.8	11.7	3.2	0.2						530	2	0.82
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.35	52.0	33.1	12.9	1.9	0.2	529	3	0.79					
10	授業の内容は興味深いものであった	4.30	50.9	31.8	14.4	2.3	0.8	529	3	0.85					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.25	46.1	36.7	13.6	3.2	0.4	529	3	0.84					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	45.7	35.3	15.7	2.5	0.9	530	2	0.86					
13	授業内容（バラバラ）は科目の選択や学習の参考になった	3.95	35.9	32.9	24.3	4.2	2.7	523	9	1.01					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効回答数	標準偏差	3.31
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答						
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.52	67.1	21.5	8.6	2.5	0.4	526	6		0.78				
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.77	4.7	4.2	10.2	25.0	55.8	527	5		1.10				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.61	12.2	14.9	28.1	11.6	33.2	524	8		1.39				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.68	26.9	32.2	28.4	7.2	5.3	528	4		1.10				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.98	36.2	34.9	22.6	3.4	2.8	527	5		0.99				

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.29	52.2	30.0	13.4	3.6	0.8	506	26	0.89		

Q1-Q19の当区分平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	36～40歳
履修者数	953
回答者数	677

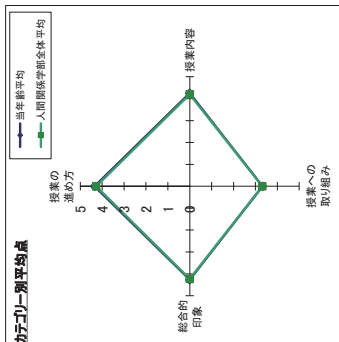
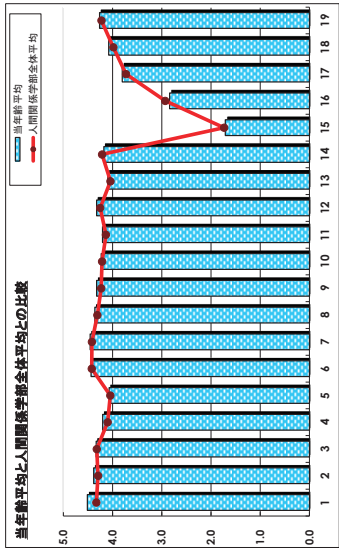
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当該カテゴリー平均点				標準 偏差	有効 回答 数	無効 回答 数	4.34
No.	設問文	平均点	回 答 率 (%)					有効 回答 数									
			5	4	3	2	1										
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.51	63.0	27.7	7.4	1.5	0.4	675	2	0.74							
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	56.4	29.3	11.0	2.8	0.4	675	2	0.82							
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.33	54.1	29.6	12.6	3.1	0.6	675	2	0.86							
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	45.8	33.1	17.4	2.8	0.9	674	3	0.89							
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.07	41.5	30.9	22.6	3.3	1.8	674	3	0.96							
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.44	59.6	27.1	11.6	1.2	0.6	675	2	0.79							
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.46	59.4	28.4	10.8	1.0	0.3	673	4	0.75							

Ⅱ. この授業の内容について										当該カテゴリ平均点			標準 偏差	有効 回答 割合	4.26
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答							
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.36	53.1	31.6	13.8	1.0	0.4	674	3	0.79					
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.32	53.9	28.8	14.1	2.5	0.7	674	3	0.86					
10	授業の内容は興味深いものだった	4.23	49.0	31.8	13.7	4.3	1.2	673	4	0.92					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	45.8	34.3	15.5	3.6	0.9	671	6	0.89					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	53.3	30.0	13.6	2.2	0.9	670	7	0.86					
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.10	42.1	31.4	22.3	2.4	1.8	665	12	0.95					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について											当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答					
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	46.7	30.7	17.7	3.6	1.3	672	5	0.94				
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.71	4.2	4.8	10.4	19.3	61.4	673	4	1.10				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.84	18.5	16.7	23.5	13.0	28.3	671	6	1.46				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.80	30.4	33.7	26.0	5.6	4.3	674	3	1.07				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.08	42.5	32.4	18.7	3.3	3.1	669	8	1.01				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.26	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答数	無効 回答数				
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	51.5	29.1	14.9	3.1	1.4	652	25	0.92			

Q1-Q19の当区分平均値	4.04
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	36～40歳
履修者数	603
回答者数	504

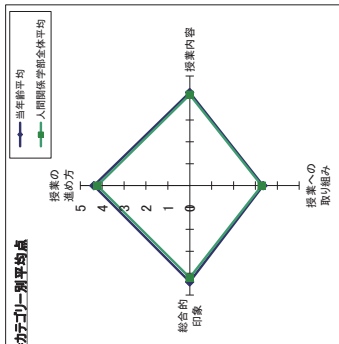
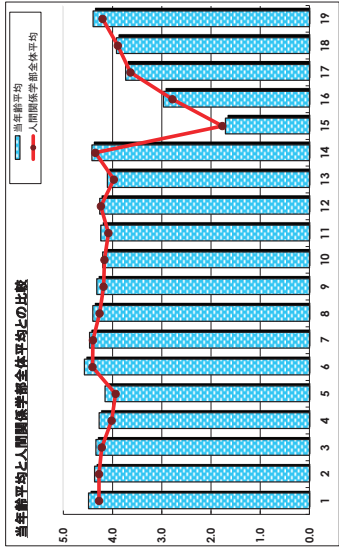
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.38
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答							
			5	4	3	2	1									
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.49	61.8	28.2	7.8	1.4	0.8	503	1							0.76
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	56.0	28.6	12.7	1.6	1.2	504	0							0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.34	53.5	30.2	13.7	2.0	0.6	503	1							0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.27	48.9	34.0	13.5	2.8	0.8	503	1							0.86
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	48.0	28.1	17.3	4.4	2.2	502	2							1.00
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.57	66.5	24.4	8.9	0.2	0.0	504	0							0.66
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	59.4	29.6	9.7	0.8	0.4	503	1							0.74

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	4.26
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答							
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.40	55.9	31.4	10.5	1.6	0.6	503	1						
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.32	51.0	33.9	12.4	2.0	0.8	502	2						
10	授業の内容は興味深いものだった	4.20	46.3	33.9	15.0	3.2	1.6	501	3						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.24	47.2	34.1	15.3	2.4	1.0	502	2						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	49.4	32.7	13.5	3.6	0.8	502	2						
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.11	42.4	30.9	23.1	2.2	1.4	498	6						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		有効回答数	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答				
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.42	61.3	23.8	11.4	3.0	0.6	501	3		0.85		
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.71	4.2	3.8	9.0	24.4	58.5	499	5		1.06		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.97	21.3	15.8	25.9	12.6	24.5	494	10		1.45		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.73	32.3	28.5	25.5	7.4	6.2	501	3		1.17		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.92	38.7	28.1	23.6	5.8	3.8	499	5		1.09		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.40	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.40	57.2	29.1	10.6	2.3	0.8	481	23	0.83			

Q1-Q19の当区分平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	41～45歳
履修者数	1,238
回答者数	924

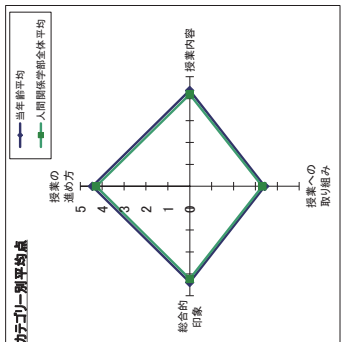
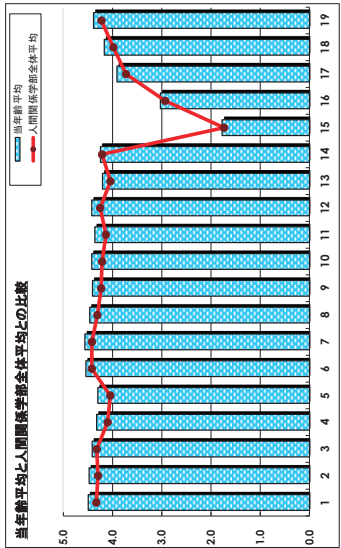
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.50	63.7	26.5	6.3	2.9	0.7	922	2 0.79
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.48	61.3	28.2	8.1	1.6	0.8	923	1 0.78
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.42	58.9	28.3	9.4	2.2	1.2	922	2 0.84
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.32	53.8	30.9	10.8	2.7	1.7	923	1 0.90
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.30	53.6	29.3	12.1	3.5	1.5	921	3 0.92
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.54	66.2	24.5	7.4	1.4	0.5	923	1 0.74
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.56	66.6	24.8	7.3	1.0	0.3	919	5 0.70

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.46	59.0	30.8	8.4	1.3	0.5	921	3 0.75
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.41	57.4	30.0	9.3	2.4	0.9	922	2 0.82
10	授業の内容は興味深いと思った	4.42	58.8	29.1	8.7	2.3	1.1	921	3 0.83
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.36	55.5	31.3	8.5	3.0	1.6	920	4 0.88
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.42	58.6	29.2	9.2	2.0	1.1	918	6 0.82
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	4.20	48.6	30.5	15.7	3.3	2.0	918	6 0.95

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席したか	4.25	52.2	27.4	13.6	6.4	0.4	921	3 0.95
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.78	4.7	5.0	13.0	18.0	59.4	918	6 1.14
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.03	20.3	19.2	25.8	12.6	22.2	907	17 1.42
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.91	34.5	30.7	23.6	5.9	3.3	918	6 1.06
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.17	46.1	31.6	17.4	2.9	2.0	918	6 0.95

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	58.6	26.2	11.9	2.2	1.2	883	41 0.87

Q1-Q19の当区分平均値	4.15
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	41～45歳
履修者数	1,087
回答者数	888

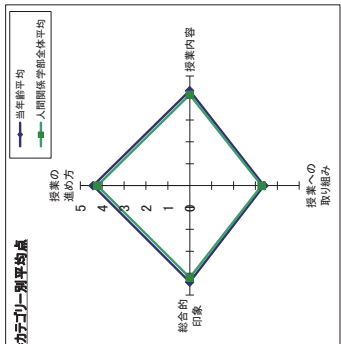
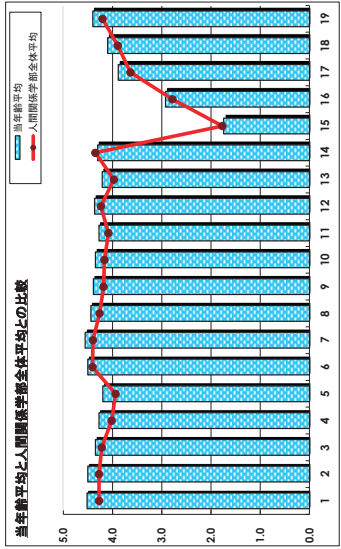
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.52	66.1	24.2	6.0	3.0	0.7	888	0 0.80
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.50	63.4	26.6	7.7	1.7	0.7	887	1 0.77
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.35	55.2	29.9	10.3	3.7	0.9	886	2 0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.28	51.2	31.6	12.1	3.8	1.2	885	3 0.91
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.20	50.0	27.5	16.6	4.2	1.7	886	2 0.97
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.51	65.4	23.7	8.1	1.7	1.1	887	1 0.81
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.56	67.0	23.6	7.7	1.5	0.2	882	6 0.72

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.44	58.7	30.1	8.4	2.1	0.7	886	2 0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.39	57.1	29.7	9.4	2.9	0.9	886	2 0.84
10	授業の内容は興味深いと思った	4.35	57.1	29.7	11.3	3.6	1.2	886	2 0.91
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.28	52.0	30.3	12.0	4.6	1.0	888	0 0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.37	55.8	29.0	12.1	2.1	0.9	885	3 0.84
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	48.5	29.4	18.0	3.1	1.1	879	9 0.92

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席したか	4.30	56.7	24.7	12.3	5.0	1.4	887	1 0.96
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.74	4.3	3.1	10.5	26.9	55.2	884	4 1.05
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.92	18.6	17.1	27.7	11.4	25.3	871	17 1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.88	37.7	28.6	22.7	6.3	4.6	885	3 1.12
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.10	45.2	29.6	18.0	4.3	2.8	878	10 1.03

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	総集計
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.40	58.9	26.6	11.4	2.1	1.1	853	35 0.85

Q1-Q19の当区分平均値	4.12
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	46～50歳
履修者数	1,312
回答者数	918

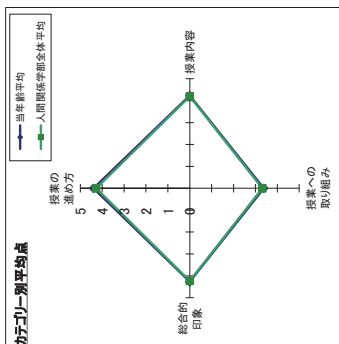
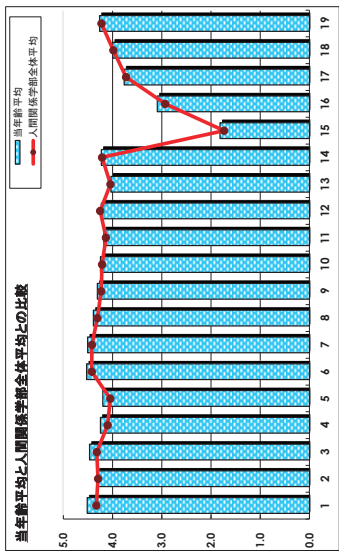
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.52	62.6	28.5	7.1	1.6	0.2	916	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	52.1	31.6	12.0	3.3	1.0	917	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.47	61.1	26.0	11.6	1.1	0.2	915	3
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.25	47.5	34.1	14.8	2.8	0.8	915	3
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.20	48.8	29.3	16.6	3.4	1.9	914	4
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.53	64.5	25.7	8.3	1.1	0.4	916	2
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	60.7	29.6	9.3	0.4	0.0	916	2

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.39	55.6	30.0	12.4	1.5	0.4	913	5
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.31	51.1	32.1	13.8	2.4	0.5	915	3
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	50.1	29.9	15.5	3.5	1.0	915	3
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.18	45.6	32.6	17.0	3.6	1.2	914	4
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	49.6	30.1	15.2	3.6	1.4	913	5
13	「授業内容(バラバラ)」は科目の選択や学習の参考になった	4.03	40.9	30.2	22.8	3.9	2.3	905	13

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	51.0	28.7	13.3	5.8	1.1	909	9
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.82	5.3	6.9	11.5	17.0	59.3	912	6
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.09	21.7	19.4	26.7	10.9	21.4	903	15
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.77	32.0	31.2	24.2	6.7	5.9	913	5
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.00	39.5	32.6	19.9	4.3	3.7	910	8

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	52.5	27.6	15.6	2.6	1.7	880	38

Q1-Q19の当区分平均値	4.07
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	46～50歳
履修者数	1,500
回答者数	1,128

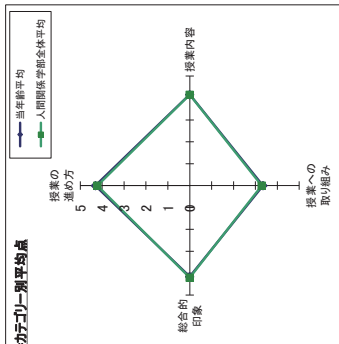
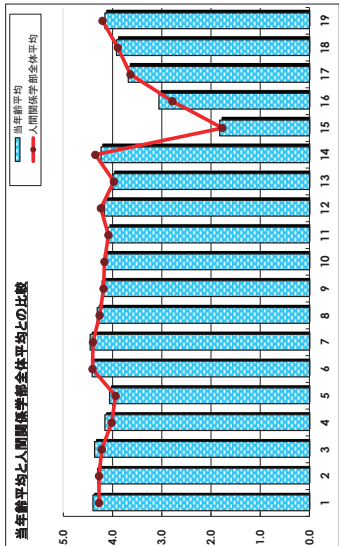
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.40	56.8	29.9	10.7	1.6	1.0	1,126	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	51.0	32.8	12.4	2.9	0.8	1,125	3
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.37	56.3	28.1	12.4	2.2	1.0	1,126	2
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	46.5	30.0	17.8	4.1	1.6	1,125	3
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.06	45.0	26.7	20.1	5.9	2.3	1,127	1
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.41	58.5	27.6	11.6	1.3	1.0	1,125	3
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	58.6	29.9	10.1	1.0	0.4	1,122	6

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	51.3	32.8	12.6	2.5	0.8	1,125	3
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.21	47.9	32.4	14.2	4.3	1.2	1,124	4
10	授業の内容は興味深いものだった	4.17	45.5	33.7	15.0	3.8	2.0	1,125	3
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.10	41.5	34.8	17.7	3.9	2.1	1,124	4
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.17	46.6	30.5	17.8	3.3	1.8	1,120	8
13	「授業内容(バラバラ)」は科目の選択や学習の参考になった	4.00	40.1	29.8	22.8	4.0	3.2	1,114	14

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	52.7	26.3	14.3	5.2	1.5	1,121	7
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.83	4.6	5.2	11.4	25.6	53.1	1,120	8
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.06	21.8	18.7	26.0	10.8	22.8	1,102	26
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.68	30.1	28.6	27.3	7.4	6.6	1,117	11
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.92	37.5	30.6	22.9	4.6	4.5	1,115	13

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.16	48.0	29.2	16.2	4.0	2.7	1,086	42

Q1-Q19の当区分平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	51～55歳
履修者数	1,336
回答者数	962

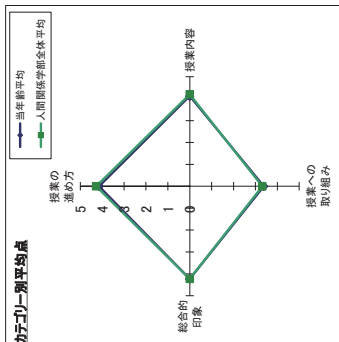
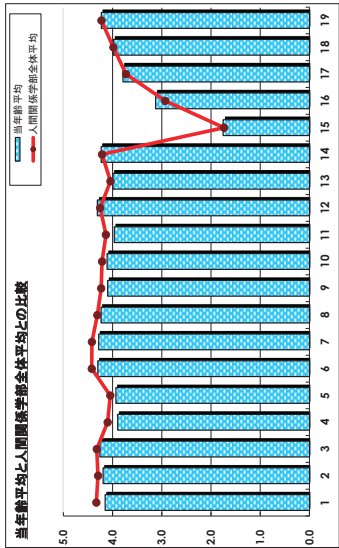
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.15	46.0	33.8	12.1	5.3	2.8	962	0
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.19	43.7	37.8	13.8	3.5	1.1	961	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.26	51.0	29.5	14.8	3.4	1.1	958	4
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.90	37.5	30.6	19.4	9.3	3.3	961	1
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93	41.4	26.1	20.5	8.1	3.9	961	1
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.30	52.5	30.1	13.7	2.2	1.5	962	0
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.28	49.0	34.4	13.3	2.5	0.8	958	4

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	48.2	33.5	13.8	2.5	2.0	960	2
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.10	44.6	31.0	16.9	4.7	2.8	961	1
10	授業の内容は興味深いものであった	4.11	44.9	31.7	15.5	5.3	2.5	959	3
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.97	39.1	31.9	18.3	8.0	2.7	960	2
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.31	54.1	29.7	10.7	4.2	1.4	960	2
13	「授業内容(バラハバ)」は科目の選択や学習の参考になった	3.99	34.8	29.6	23.4	4.4	2.8	958	4

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	51.1	28.4	14.4	4.6	1.5	958	4
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.76	4.5	5.5	11.4	18.4	60.2	958	4
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.13	22.4	21.2	24.5	10.7	21.3	944	18
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.79	33.0	31.3	22.8	7.5	5.4	959	3
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.98	39.0	31.2	21.8	4.5	3.4	958	4

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	50.7	28.7	15.3	3.4	2.0	921	41

Q1-Q19の当区分平均値	3.94
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	51～55歳
履修者数	2,348
回答者数	1,770

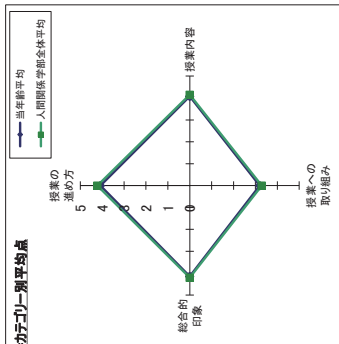
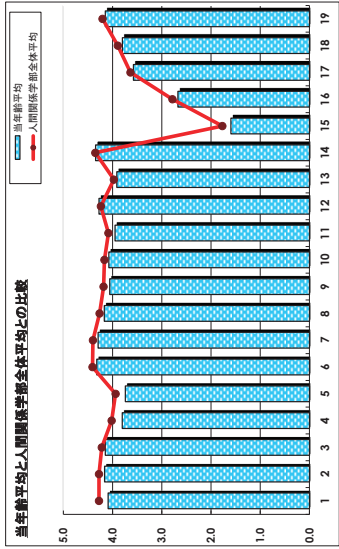
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.09	43.7	34.2	12.7	6.1	3.2	1,768	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.16	42.8	37.6	13.9	4.5	1.2	1,770	0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.15	47.5	28.7	17.1	4.4	2.2	1,767	3
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.81	32.1	31.8	23.4	10.0	2.8	1,768	2
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.74	32.2	29.2	24.5	8.7	5.3	1,762	8
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.32	52.8	30.5	13.7	2.0	1.0	1,763	7
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.29	49.3	34.6	13.4	1.8	1.0	1,760	10

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.17	43.9	34.9	16.3	3.7	1.1	1,766	4
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.06	39.6	35.5	18.1	4.9	1.9	1,763	7
10	授業の内容は興味深いものであった	4.08	40.4	36.0	16.8	4.5	2.3	1,765	5
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.95	36.0	34.7	20.1	6.5	2.6	1,765	1
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	51.2	31.2	12.9	3.4	1.3	1,760	10
13	「授業内容(バラハバ)」は科目の選択や学習の参考になった	3.92	33.8	32.8	26.5	4.9	2.0	1,754	16

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.34	58.8	23.7	12.0	4.1	1.4	1,762	8
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.60	2.8	2.8	7.7	24.6	62.0	1,761	9
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.67	15.0	14.4	25.1	14.2	31.3	1,741	29
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.58	25.7	30.7	26.7	9.7	7.3	1,757	13
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.80	31.5	33.4	23.8	6.3	5.0	1,755	15

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.15	47.4	28.5	18.0	3.7	2.4	1,717	53

Q1-Q19の当区分平均値	3.85
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	61～65歳
----	--------

履修者数	745
回答者数	561

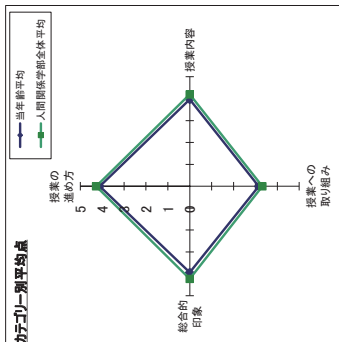
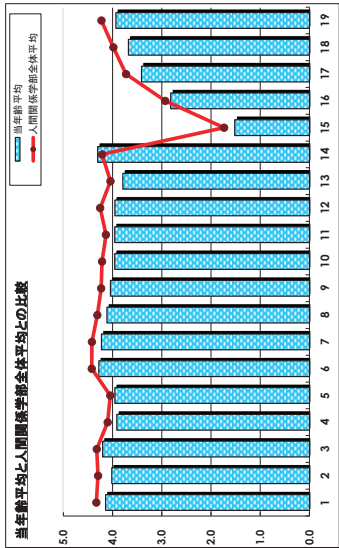
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総数
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.14	46.9	29.0	17.5	4.8	1.8	559	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.02	40.5	29.8	22.9	4.3	2.5	560	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.20	49.0	29.2	16.5	3.8	1.6	559	2
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.91	36.4	29.1	26.1	6.3	2.1	560	1
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.95	40.1	27.9	22.9	5.5	3.6	559	2
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.28	53.5	24.7	19.3	1.3	1.3	559	2
7	授業は先生の十分な準備と意意をもって行われた	4.23	49.1	29.1	18.6	1.8	1.4	554	7

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総数
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.11	43.6	31.8	19.0	3.4	2.1	559	2
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.04	41.0	32.4	19.0	5.4	2.3	559	2
10	授業の内容は興味深いものだった	3.96	37.6	31.7	22.7	5.0	3.0	559	2
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.96	38.2	31.2	22.0	5.4	3.2	558	3
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.95	36.7	33.1	22.5	4.3	3.4	556	5
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	3.79	31.0	28.9	31.9	4.5	3.6	554	7

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総数
14	この授業にどの程度出席したか	4.30	55.2	27.4	11.3	4.7	1.4	558	3
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.52	3.1	4.1	7.4	12.6	72.8	555	6
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.82	17.5	15.2	28.0	10.1	29.1	553	8
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.41	23.0	26.2	30.5	9.7	10.6	557	4
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.68	26.8	35.3	24.8	5.4	7.7	556	5

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総数
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.93	36.4	33.6	21.0	4.5	4.5	538	23

Q1-Q19の当区分平均値	3.80
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	61～65歳
----	--------

履修者数	934
回答者数	738

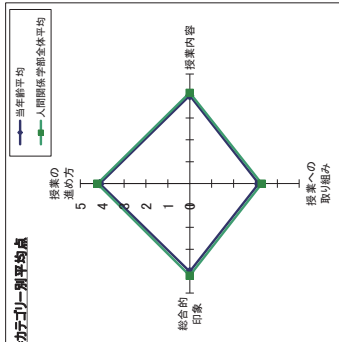
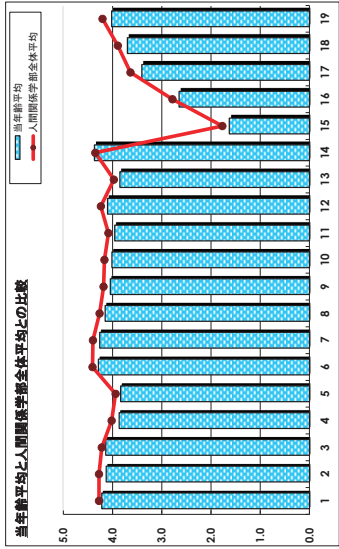
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総数
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.22	48.9	32.7	12.5	3.4	2.6	738	0
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.13	43.1	35.8	14.3	4.6	2.2	735	3
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.14	44.7	33.1	15.4	5.0	1.8	738	0
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.87	32.7	35.6	20.8	7.5	3.4	736	2
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.84	34.0	31.0	23.4	8.3	3.4	736	2
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.29	52.8	28.7	14.4	2.6	1.5	735	3
7	授業は先生の十分な準備と意意をもって行われた	4.26	50.3	32.1	12.7	3.1	1.8	735	3

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総数
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.15	44.8	32.6	17.4	3.5	1.8	737	1
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.05	41.2	33.4	17.3	5.3	2.9	736	2
10	授業の内容は興味深いものだった	4.01	39.2	34.6	17.6	5.3	3.3	734	4
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.96	38.1	32.4	20.0	6.1	3.4	735	3
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.10	42.9	33.8	16.6	3.9	2.7	736	2
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	3.85	32.4	30.4	29.3	5.9	2.1	728	10

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総数
14	この授業にどの程度出席したか	4.37	59.9	22.8	12.8	3.4	1.1	734	4
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.63	3.7	3.4	9.6	18.8	64.5	729	9
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.65	15.0	12.8	27.0	12.4	32.8	726	12
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.41	22.6	24.5	32.7	11.2	9.0	734	4
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.70	30.4	30.2	24.9	8.0	6.5	724	14

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総数
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.02	42.3	30.3	18.6	4.6	4.2	714	24

Q1-Q19の当区分平均値	3.82
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	66歳以上
履修者数	1,332
回答者数	894

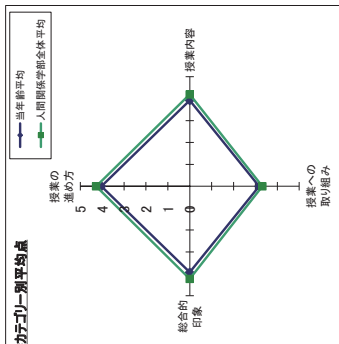
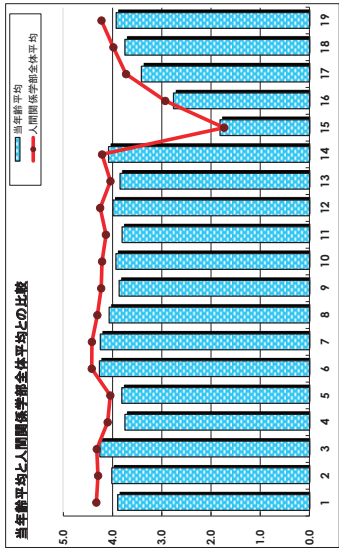
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	標準偏差
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.90	32.7	38.0	18.4	8.4	2.6	893	1.03
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.02	35.1	40.2	17.6	5.7	1.5	894	0.94
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.26	49.6	31.4	15.3	2.8	0.9	893	1.088
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.75	26.6	35.0	28.0	7.7	2.7	892	2.102
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.81	33.0	30.8	24.0	8.9	3.4	892	2.109
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.27	48.4	33.0	15.9	2.2	0.4	892	2.084
7	授業は先生の十分な準備と意意をもって行われた	4.25	46.0	35.7	15.7	2.4	0.2	891	3.082

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	標準偏差
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.07	37.4	38.2	19.9	3.0	1.5	893	1.091
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	3.87	30.6	37.0	23.0	6.8	2.5	894	1.101
10	授業の内容は興味深いものであった	3.93	33.7	37.0	20.7	6.2	2.5	893	1.100
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.81	28.5	36.7	24.9	6.6	3.2	894	0.103
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.99	37.4	34.4	20.3	5.5	2.4	892	2.101
13	「授業内容(バラバラ)」は科目の選択や学習の参考になった	3.85	29.1	35.6	28.4	4.8	2.0	887	7.096

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	標準偏差
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.08	43.9	30.8	16.6	6.6	2.0	892	2.102
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.82	6.3	4.9	12.8	16.4	59.6	892	2.121
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.76	11.7	17.7	31.1	14.4	25.2	882	12.132
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.42	19.7	28.7	33.0	10.6	8.0	888	6.115
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.75	28.5	33.9	26.2	7.1	4.4	889	5.108

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	標準偏差
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.93	34.0	35.1	22.8	6.0	2.2	857	37.100

Q1-Q19の当区分平均値	3.76
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	66歳以上
履修者数	1,175
回答者数	910

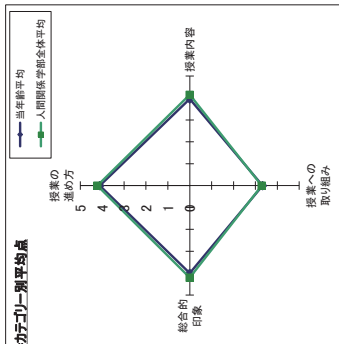
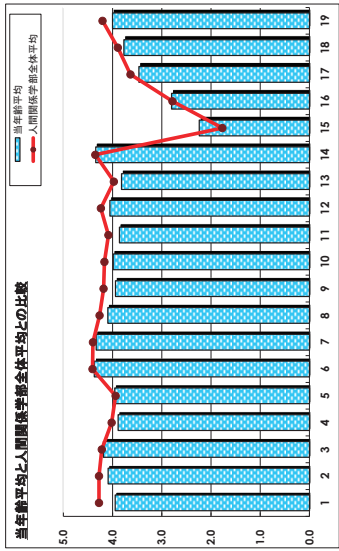
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	標準偏差
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.95	37.2	34.5	16.9	8.6	2.8	909	1.106
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.09	40.7	36.4	15.8	5.3	1.8	909	1.096
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.19	49.2	29.3	15.1	4.1	2.4	909	1.099
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.89	33.1	33.6	24.1	7.2	2.0	907	3.101
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.96	40.4	29.0	19.7	7.7	3.2	908	2.109
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.37	55.3	29.4	12.8	2.2	0.3	908	2.081
7	授業は先生の十分な準備と意意をもって行われた	4.33	52.3	31.1	14.6	1.7	0.3	904	6.081

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	標準偏差
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.10	42.6	33.5	16.7	5.3	1.9	908	2.098
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	3.94	36.2	34.0	19.7	7.7	2.3	908	2.104
10	授業の内容は興味深いものであった	3.99	38.7	33.1	19.2	5.8	3.1	906	4.105
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.86	31.2	36.7	21.6	8.0	2.4	907	3.102
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.06	41.9	32.3	17.4	6.1	2.3	909	1.102
13	「授業内容(バラバラ)」は科目の選択や学習の参考になった	3.82	30.6	32.1	28.8	5.7	2.9	900	1.102

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	標準偏差
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.34	58.5	24.3	11.4	4.3	1.4	902	8.094
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	2.24	13.2	9.0	14.0	16.1	47.6	897	3.145
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.80	15.3	17.6	26.1	14.0	27.0	893	17.140
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.47	24.3	27.8	26.5	12.9	8.4	905	5.122
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.77	31.5	33.2	21.9	7.8	5.6	903	7.114

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	標準偏差
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.00	40.8	30.3	20.1	5.5	3.2	874	36.106

Q1-Q19の当区分平均値	3.85
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	1年
----	----

履修者数	—
回答者数	2,533

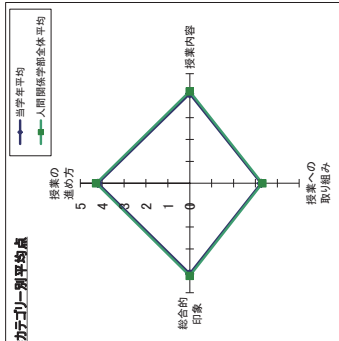
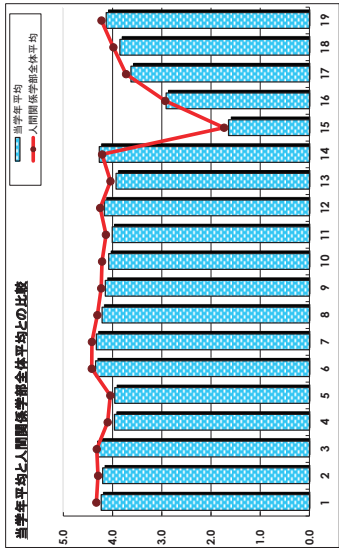
I. 先生のこの授業の進め方について										平均点	当カテゴリー平均点	総集計
No.	質問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	集計			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.23	49.8	31.1	13.1	4.6	1.5	2,530	3	0.94		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.20	47.3	32.2	15.4	3.6	1.5	2,532	1	0.93		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.30	53.0	28.9	14.3	2.9	0.9	2,528	5	0.88		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.96	37.8	31.5	21.9	6.5	2.3	2,529	4	1.03		
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.96	38.6	30.7	21.2	6.7	2.8	2,526	7	1.06		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.35	54.9	28.0	14.8	1.4	0.9	2,527	6	0.84		
7	授業は先生の十分な準備と意図をもって行われた	4.33	52.5	30.9	14.4	1.6	0.6	2,518	15	0.82		

II. この授業の内容について										平均点	当カテゴリー平均点	総集計
No.	質問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	集計			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.21	46.7	33.2	16.2	2.6	1.3	2,527	6	0.90		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.15	45.6	31.6	17.7	4.3	1.9	2,531	2	0.97		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.08	42.7	32.1	17.7	5.3	2.2	2,528	5	1.00		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.01	40.1	31.7	19.5	6.2	2.5	2,523	10	1.03		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.17	47.2	30.5	16.2	4.0	2.1	2,518	15	0.98		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.93	36.0	30.9	26.0	4.4	2.7	2,509	24	1.02		

III. この授業への取り組みとその成果について										平均点	当カテゴリー平均点	総集計
No.	質問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	集計			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.1	27.4	14.2	4.2	1.2	2,521	12	0.93		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.64	3.6	4.2	10.2	16.7	45.2	2,520	13	1.06		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.91	17.5	17.3	28.6	12.4	24.3	2,497	36	1.40		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.63	27.2	29.7	27.9	6.3	6.3	2,521	12	1.15		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.85	33.5	33.0	23.3	5.6	4.6	2,517	16	1.09		

IV. 総合的な印象										平均点	当カテゴリー平均点	総集計
No.	質問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	集計			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.13	46.4	29.2	17.8	4.3	2.3	2,428	105	1.00		

Q1-Q19の当区分平均値	3.91
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	1年
----	----

履修者数	—
回答者数	2,871

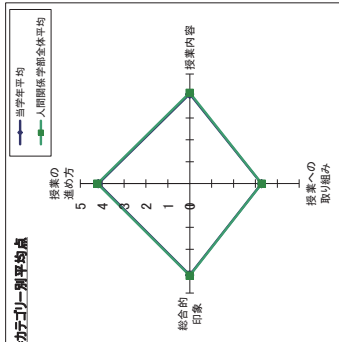
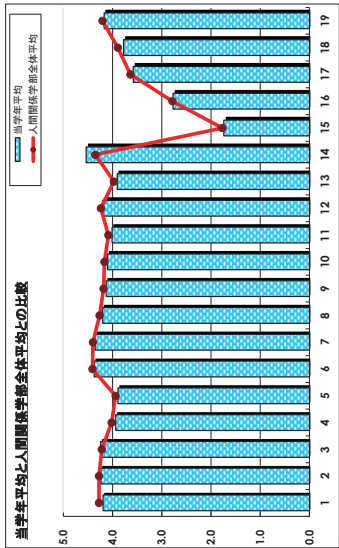
I. 先生のこの授業の進め方について										平均点	当カテゴリー平均点	総集計
No.	質問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	集計			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.19	50.0	29.6	12.5	5.4	2.5	2,871	0	1.01		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.24	49.2	32.3	13.4	3.7	1.4	2,867	4	0.92		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.24	52.3	27.7	14.0	4.0	2.0	2,870	1	0.97		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.94	37.5	30.9	21.7	7.8	2.2	2,867	4	1.05		
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.89	38.4	27.4	22.7	7.6	3.8	2,860	11	1.12		
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.37	57.5	26.0	13.6	2.2	0.8	2,867	4	0.85		
7	授業は先生の十分な準備と意図をもって行われた	4.36	54.5	29.8	13.2	1.8	0.7	2,864	7	0.83		

II. この授業の内容について										平均点	当カテゴリー平均点	総集計
No.	質問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	集計			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.20	47.6	31.6	15.6	4.0	1.2	2,866	5	0.93		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.13	44.4	32.8	16.2	4.9	1.8	2,863	8	0.97		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.10	43.8	32.5	16.3	4.9	2.4	2,859	12	1.00		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.01	39.4	33.1	19.0	6.1	2.3	2,861	10	1.02		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	48.8	30.2	15.4	3.8	1.8	2,861	10	0.96		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.91	34.1	30.7	28.6	4.6	1.9	2,842	29	0.99		

III. この授業への取り組みとその成果について										平均点	当カテゴリー平均点	総集計
No.	質問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	集計			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.54	48.5	20.5	7.8	2.7	0.5	2,857	14	0.79		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.74	5.1	3.9	9.9	22.3	58.8	2,861	10	1.11		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.77	16.4	14.3	27.5	13.6	28.2	2,836	35	1.42		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.58	27.5	26.9	28.3	10.4	6.9	2,863	8	1.19		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.78	32.4	30.2	25.5	6.7	5.2	2,852	19	1.13		

IV. 総合的な印象										平均点	当カテゴリー平均点	総集計
No.	質問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	集計			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.17	49.4	27.9	15.9	4.0	2.7	2,773	98	1.02		

Q1-Q19の当区分平均値	3.91
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	2年	—
履修者数		2,057
回答者数		2,057

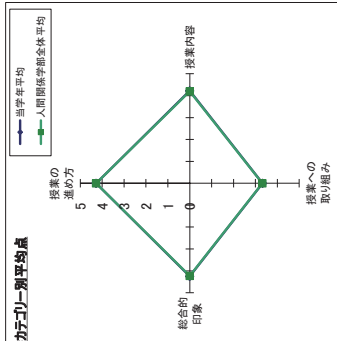
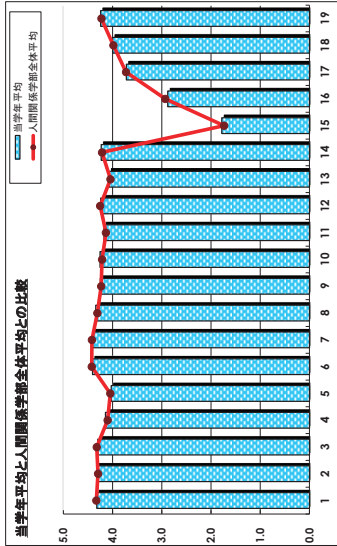
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.32	52.2	33.2	10.1	3.5	1.0	2,053	4
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	50.1	35.5	11.2	2.4	0.8	2,054	3
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.30	51.6	31.6	13.1	2.6	1.1	2,052	5
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	43.0	34.7	17.4	3.6	1.3	2,053	4
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.03	40.4	31.0	21.7	4.8	2.1	2,052	5
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.41	56.6	30.2	11.2	1.5	0.5	2,054	3
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.41	54.9	32.5	11.0	1.4	0.2	2,051	6

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.34	50.9	35.1	12.0	1.5	0.5	2,050	7
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.25	47.7	34.4	14.0	3.1	0.9	2,052	5
10	授業の内容は興味深いものであった	4.26	48.5	33.4	14.1	3.1	0.9	2,050	7
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	43.9	35.7	15.7	3.3	1.3	2,051	6
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	47.6	34.0	14.2	3.2	0.9	2,050	7
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.07	39.6	33.9	21.8	3.4	1.3	2,039	18

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	50.6	30.0	12.8	5.2	1.4	2,047	10
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.78	4.7	6.4	11.1	18.0	59.8	2,048	9
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.88	18.0	18.3	24.5	12.0	27.2	2,026	31
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.72	30.2	31.3	25.5	6.5	6.5	2,048	9
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.00	38.4	33.8	20.5	3.9	3.4	2,044	13

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	49.1	31.3	15.6	2.7	1.3	1,986	71

Q1-Q19の当区分平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	2年	—
履修者数		2,471
回答者数		2,471

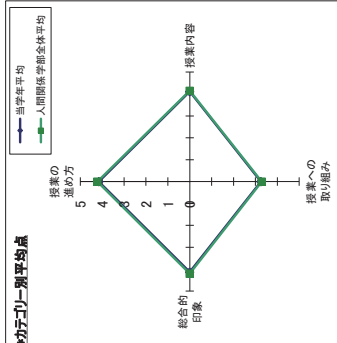
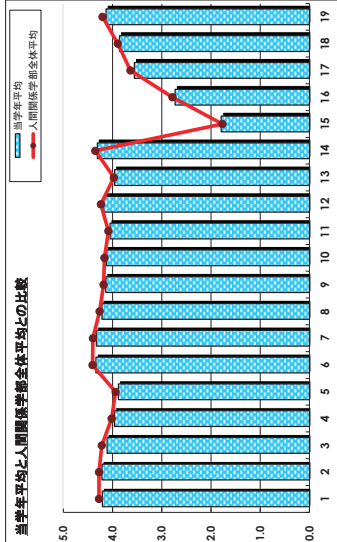
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.21	46.7	34.8	13.0	3.6	1.9	2,466	5
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.22	45.8	36.3	12.9	3.9	1.2	2,466	5
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.11	44.2	32.1	16.9	4.5	2.3	2,466	5
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.96	35.7	35.6	20.7	5.6	2.5	2,462	9
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.88	35.1	31.9	22.5	6.9	3.6	2,464	7
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.34	53.0	31.5	13.0	1.4	1.1	2,465	6
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.33	51.4	33.8	12.1	1.8	0.9	2,454	17

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.22	45.6	35.4	15.3	2.4	1.3	2,464	7
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.14	42.7	35.5	16.3	4.0	1.5	2,461	10
10	授業の内容は興味深いものであった	4.12	42.4	35.2	16.8	3.6	2.0	2,465	6
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.05	39.3	35.4	18.6	4.7	2.0	2,462	9
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	45.6	33.6	16.0	3.4	1.5	2,460	11
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.96	35.8	33.0	24.7	4.7	1.9	2,446	25

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.31	57.1	23.8	13.7	3.8	1.6	2,459	12
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.79	5.6	5.3	10.0	20.9	58.2	2,451	20
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.73	14.9	16.3	25.6	13.5	29.7	2,415	56
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.56	25.9	29.1	27.6	9.6	7.8	2,445	26
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.86	34.5	32.1	22.8	6.0	4.5	2,440	31

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.13	45.7	29.7	18.8	3.9	2.0	2,383	88

Q1-Q19の当区分平均値	3.90
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	3年	—
履修者数		1,507
回答者数		

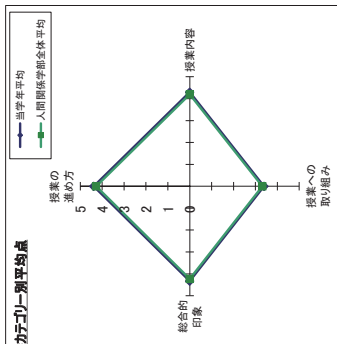
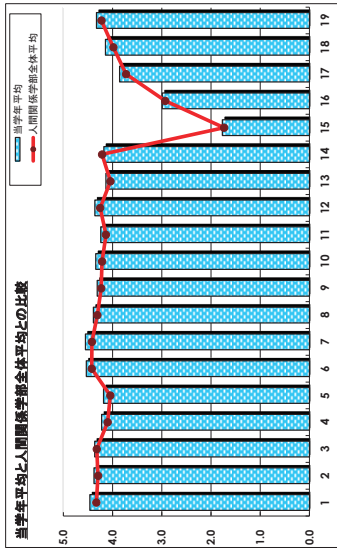
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答 数	無効 回答 数	4.39
No.	設問文	平均点	回 答 率 (%)					有 効 回 答	無 効 回 答							
			5	4	3	2	1									
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.46	61.0	28.4	7.2	2.7	0.7	1,596	1	0.80						
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.38	54.9	31.8	9.7	3.1	0.4	1,596	1	0.81						
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.36	57.2	26.5	12.4	3.3	0.6	1,594	3	0.87						
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.22	47.5	33.2	14.5	3.8	1.1	1,595	2	0.90						
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	49.5	27.8	15.9	5.1	1.7	1,595	2	0.99						
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.53	66.1	23.5	8.5	1.5	0.4	1,595	2	0.75						
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.55	64.8	27.1	6.9	0.9	0.3	1,594	3	0.69						

II. この授業の内容について										当該カテゴリ平均点				標準 偏差	有効 回答 数	4.30
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数								
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.39	55.6	30.8	11.1	1.8	0.7	1,593	4	0.81						
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.31	52.6	31.1	12.2	3.1	0.9	1,593	4	0.87						
10	授業の内容は興味深いものであった	4.34	54.3	30.6	11.1	2.9	1.1	1,594	3	0.87						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.24	47.7	34.7	12.8	3.8	1.1	1,592	5	0.89						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.36	55.8	29.2	11.4	2.6	1.0	1,593	4	0.86						
13	「授業内容(バラバラ)」は科目の選択や学習の参考になった	4.14	46.0	30.2	18.0	3.2	2.7	1,585	12	1.00						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について											当カテゴリ平均点			標準偏差	有効回答数	無効回答数	3.39
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答								
			5	4	3	2	1										
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	47.8	29.9	15.5	5.9	0.9	1,593	4	0.96							
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	1.77	6.2	4.0	10.3	19.8	59.7	1,592	5	1.17							
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.99	20.6	19.2	23.1	12.9	24.2	1,575	22	1.45							
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.86	34.6	30.4	24.7	6.7	3.5	1,591	6	1.08							
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.15	45.4	31.5	17.2	3.7	2.1	1,589	8	0.97							

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.33
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.33	55.0	28.1	12.8	2.7	1.4	1,528	69	0.90			

Q1-Q18の当区分平均値	4.09
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	3年	—
履修者数		1,825
回答者数		

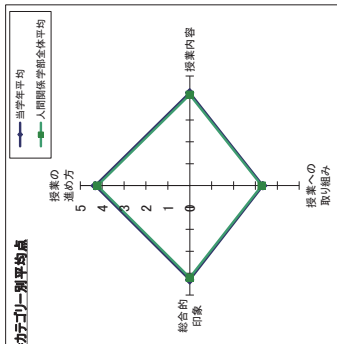
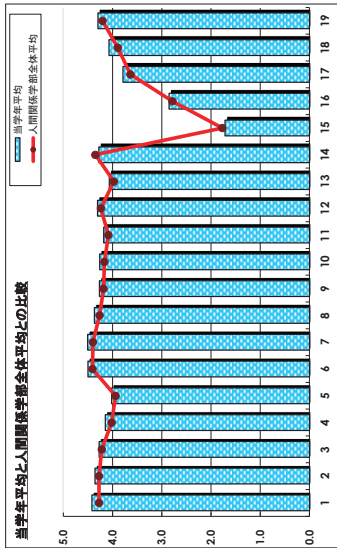
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.32	
No.	設問文	平均点	回 答 率 (%)					有効 回答									
			5	4	3	2	1										
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.42	59.2	28.7	8.2	3.0	1.0	1,824	1								
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	54.5	30.8	11.2	2.6	0.8	1,825	0								
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.27	53.9	27.4	12.9	3.8	1.9	1,823	2								
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	45.6	31.2	16.9	5.0	1.3	1,822	3								
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	43.8	26.9	19.5	6.9	2.9	1,822	3								
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.50	63.4	25.7	9.1	1.3	0.5	1,822	3								
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.51	62.5	27.2	9.0	1.2	0.2	1,816	9								

II. この授業の内容について										当該カテゴリ平均点				標準 偏差	有効 回答 数	4.24
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数								
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.37	54.4	32.0	10.2	2.7	0.6	1,821	4	0.82						
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほしかった	4.27	50.5	31.6	13.0	3.9	1.0	1,822	3	0.90						
10	授業の内容は興味深いものであった	4.26	51.1	30.5	13.2	3.8	1.4	1,819	6	0.92						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	45.8	33.7	14.7	4.5	1.4	1,820	5	0.93						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.31	52.8	30.7	12.0	3.2	1.2	1,818	7	0.89						
13	「授業内容(バラバラ)」は科目の選択や学習の参考になった	4.07	43.3	30.0	19.9	3.9	2.9	1,807	18	1.02						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準偏差	有効回答数	無効回答数	3.34
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答							
			5	4	3	2	1									
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	53.2	28.1	13.0	4.6	1.0	1,815	10	0.93						
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.72	3.3	3.7	10.6	26.1	56.3	1,807	18	1.02						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.85	19.4	16.1	24.2	11.2	29.2	1,793	32	1.48						
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.79	34.0	29.4	24.1	6.6	5.9	1,815	10	1.15						
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.07	43.1	31.4	18.3	4.1	3.2	1,808	17	1.03						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.30	53.9	28.4	13.2	2.9	1.7	1,747	78	0.92		

Q1-Q18の当区分平均値	4.04
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	4年	
履修者数	—	
回答者数	184	

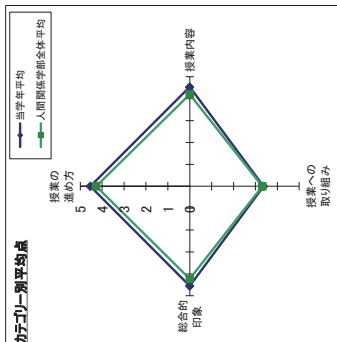
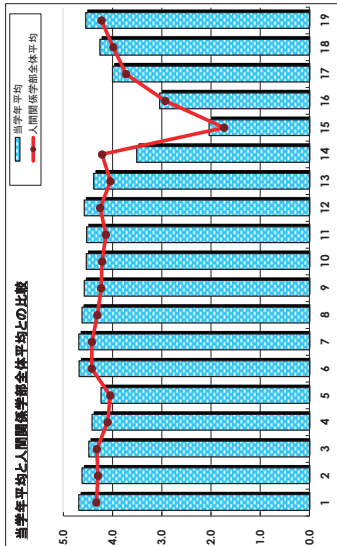
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.54	
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.68	72.3	24.5	2.7	0.5	0.0	184	0	0.55			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.62	69.6	24.5	4.3	1.6	0.0	184	0	0.65			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かであることで注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.48	66.3	20.7	8.7	3.8	0.5	184	0	0.85			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.42	59.2	28.3	8.2	3.8	0.5	184	0	0.84			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.23	53.8	26.1	12.5	4.9	2.7	184	0	1.03			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.68	73.4	21.7	4.3	0.5	0.0	184	0	0.58			
7	授業は先生の十分な準備と意意をもって行われた	4.68	72.8	22.8	4.3	0.0	0.0	184	0	0.55			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.54	
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.62	68.7	24.7	6.6	0.0	0.0	182	2	0.61			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.58	68.1	23.1	7.1	1.6	0.0	182	2	0.70			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.53	64.8	27.5	4.9	1.6	1.1	182	2	0.76			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.53	63.2	28.0	7.1	1.6	0.0	182	2	0.70			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.58	68.7	23.6	4.9	2.2	0.5	182	2	0.74			
13	「授業内容(バラバラ)」は科目の選択や学習の参考になった	4.38	57.8	24.4	16.1	1.7	0.0	180	4	0.81			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.37	
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.51	25.8	26.9	24.7	17.6	4.9	182	2	1.19			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.04	5.5	5.5	20.9	23.6	44.5	182	2	1.17			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.04	20.6	20.6	24.4	11.7	22.8	180	4	1.44			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.00	35.2	40.7	15.9	5.5	2.7	182	2	0.99			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.26	49.5	33.0	12.6	3.8	1.1	182	2	0.90			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.55	
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.55	63.5	28.8	6.5	1.2	0.0	170	14	0.67			

Q1-Q18の当区分平均値	4.23
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	4年	
履修者数	—	
回答者数	390	

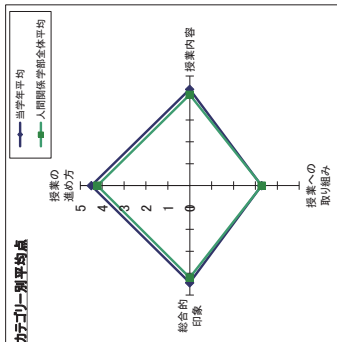
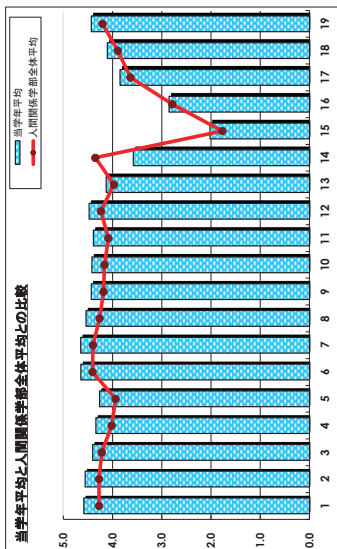
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.49	
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.58	67.7	25.4	4.6	2.3	0.0	390	0	0.69			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.56	65.1	27.2	6.4	1.0	0.3	390	0	0.68			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かであることで注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.41	62.3	22.6	9.7	4.1	1.3	390	0	0.92			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.34	54.6	28.5	13.3	3.3	0.3	390	0	0.85			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.26	55.9	22.3	15.6	4.6	1.5	390	0	0.99			
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.64	71.8	21.3	6.4	0.5	0.0	390	0	0.62			
7	授業は先生の十分な準備と意意をもって行われた	4.65	71.5	22.1	6.2	0.3	0.0	389	1	0.61			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.40	
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.54	65.4	25.9	6.7	1.5	0.5	390	0	0.73			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.43	60.8	26.4	9.0	3.1	0.8	390	0	0.84			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.42	59.5	27.2	10.3	2.1	1.0	390	0	0.83			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.39	57.9	26.9	11.8	2.8	0.5	390	0	0.84			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.48	63.5	23.9	10.0	1.8	0.8	389	1	0.81			
13	「授業内容(バラバラ)」は科目の選択や学習の参考になった	4.13	48.2	25.8	20.1	2.9	3.1	384	6	1.03			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.28	
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.58	23.1	32.1	27.7	14.0	3.1	396	4	1.08			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.02	6.7	4.6	14.6	32.3	41.8	390	0	1.16			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.85	16.3	16.0	29.7	12.9	25.2	381	9	1.39			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.85	33.1	33.6	22.6	6.7	4.1	390	0	1.08			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.11	41.3	36.2	16.5	3.6	2.3	387	3	0.96			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.43	
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.43	61.1	25.1	10.6	2.1	1.1	378	12	0.84			

Q1-Q18の当区分平均値	4.14
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部(共通科目)	履修者数	779
		回答者数	546

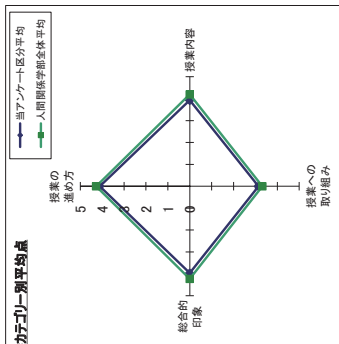
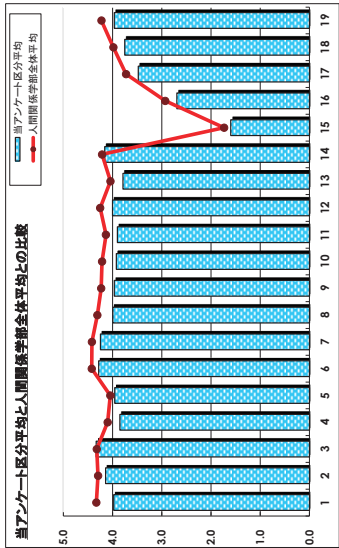
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.98	42.4	29.7	15.4	8.3	4.2	545	1
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.14	45.8	30.4	17.8	4.4	1.6	546	0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.33	55.6	25.9	15.6	2.0	0.9	545	1
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.85	35.9	28.0	25.3	7.0	3.8	546	0
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.96	43.7	26.6	16.3	8.4	5.0	545	1
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.28	52.6	26.2	18.7	2.0	0.5	546	0
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.25	49.8	28.8	18.1	2.8	0.6	542	4

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.00	40.1	31.5	20.3	4.0	4.0	546	0
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	3.97	40.8	28.6	20.3	6.8	3.5	546	0
10	授業の内容は興味深いと思った	3.92	38.7	30.6	19.3	7.0	4.4	545	1
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.90	38.1	28.3	23.0	7.2	3.5	544	2
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.00	42.4	28.4	19.8	5.5	3.9	545	1
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	3.79	33.1	28.7	27.2	6.3	4.8	544	2

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.16	49.5	27.0	15.0	6.8	1.7	545	1
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.60	3.3	3.7	11.8	12.2	69.1	543	3
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.69	12.9	15.9	26.9	16.2	28.0	542	4
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.48	24.6	28.6	27.0	9.7	10.1	545	1
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.75	33.8	29.8	22.4	5.9	8.1	544	2

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.97	42.0	27.9	19.1	6.9	4.2	524	22

Q1-Q19の当区分平均値	3.79
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部(共通科目)	履修者数	905
		回答者数	745

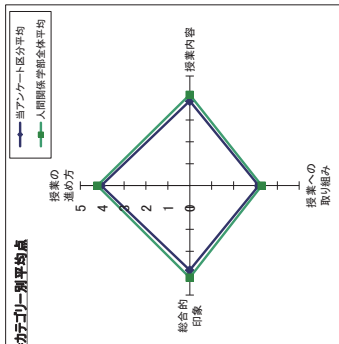
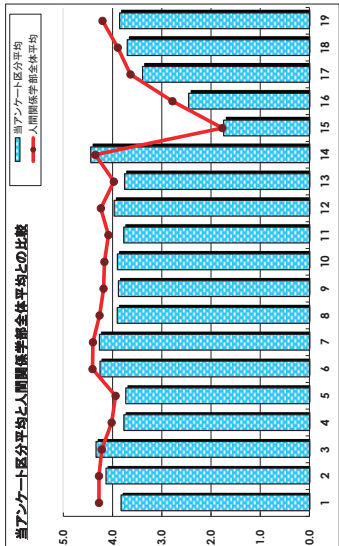
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.83	38.1	29.8	14.6	11.7	5.8	745	0
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.13	43.0	35.6	14.4	6.0	1.1	745	0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.34	55.2	28.3	12.3	3.2	0.9	745	0
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.77	29.3	32.1	27.2	9.1	2.3	744	1
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.73	35.1	27.2	20.7	9.8	7.1	743	2
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.26	51.7	26.6	18.3	2.3	1.1	744	1
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.27	49.6	30.4	17.6	1.9	0.5	744	1

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.91	35.6	31.8	22.6	7.8	2.3	745	0
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	3.88	33.5	34.3	21.5	8.5	2.3	744	1
10	授業の内容は興味深いと思った	3.90	37.4	32.3	17.9	8.3	4.2	744	1
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.77	30.5	33.1	22.7	10.9	2.8	741	4
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.97	39.4	30.4	20.4	7.3	2.6	744	1
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	3.76	28.3	29.6	33.6	6.3	2.2	743	2

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	43.8	22.2	9.2	4.2	0.7	743	2
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.74	3.0	4.7	12.4	23.6	56.4	743	2
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.46	10.4	10.7	28.3	15.0	35.5	738	7
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.39	23.3	26.6	27.3	11.8	11.0	744	1
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.70	29.6	31.4	25.2	7.2	6.6	741	4

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.86	38.5	26.7	22.3	7.1	5.4	722	23

Q1-Q19の当区分平均値	3.74
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	52人間関係学部 (学科共通科目)	履修者数	924
		回答者数	686

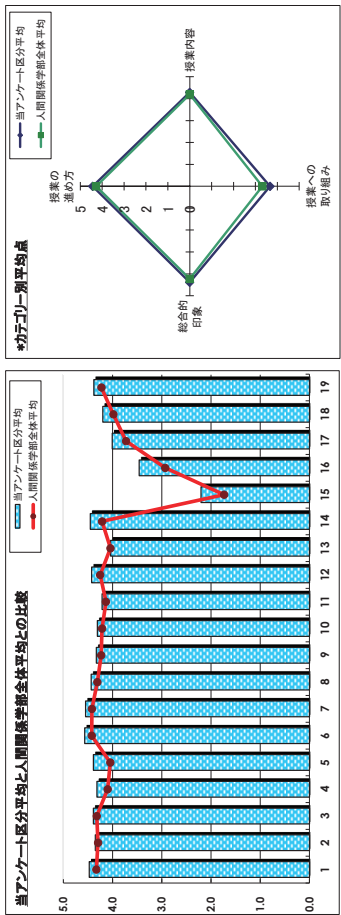
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリ平均点	4.43
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	4.43
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.48	62.2	26.5	8.2	2.6	0.4	686	0	0.79	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	55.0	29.3	12.2	2.9	0.6	686	0	0.85	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.39	57.7	27.9	10.9	2.9	0.6	685	1	0.84	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.32	53.2	29.8	13.6	2.3	1.0	684	2	0.87	
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.39	58.7	25.7	12.1	2.8	0.7	686	0	0.86	
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.57	67.6	23.2	7.9	0.9	0.4	686	0	0.71	
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.55	66.5	23.8	8.3	0.7	0.6	684	2	0.73	

II. この授業の内容について										当カテゴリ平均点	4.29
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	4.29
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.43	58.7	28.6	10.5	1.8	0.4	685	1	0.78	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.33	53.4	30.8	12.2	2.8	0.9	686	0	0.86	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.31	53.9	28.3	13.7	3.1	1.0	686	0	0.89	
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.21	49.6	29.7	14.6	4.7	1.5	686	0	0.96	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	60.0	27.0	10.0	1.9	1.2	682	4	0.84	
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	42.6	28.4	22.5	3.2	3.2	680	6	1.04	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリ平均点	3.66
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	3.66
14	この授業にどの程度出席したか	4.45	64.5	22.3	8.2	3.8	1.2	685	1	0.88	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.20	10.0	10.1	16.9	16.4	46.6	682	4	1.38	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.46	30.5	23.4	22.5	8.7	14.9	679	7	1.39	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.01	40.1	32.7	18.6	5.3	3.4	684	2	1.05	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.20	49.4	29.0	16.0	3.4	2.2	680	6	0.97	

IV. 総合的な印象										当カテゴリ平均点	4.38
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	4.38
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.38	59.7	24.3	12.1	2.4	1.5	662	24	0.90	

Q1-Q19の当区分平均値	4.18
Q1-Q19の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	52人間関係学部 (学科共通科目)	履修者数	795
		回答者数	660

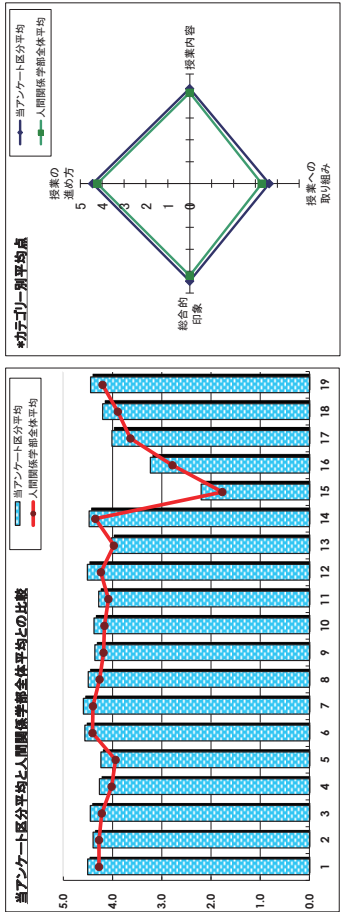
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリ平均点	4.43
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	4.43
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.51	62.4	27.9	8.3	0.8	0.6	660	0	0.73	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	56.3	29.9	11.8	1.2	0.8	659	1	0.80	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.45	62.8	21.9	13.4	1.8	0.2	659	1	0.80	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.27	51.7	28.2	15.9	3.2	0.9	659	1	0.90	
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.24	53.5	24.2	14.5	4.1	1.7	660	0	0.98	
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.56	67.8	22.6	7.9	1.5	0.2	659	1	0.72	
7	授業は先生の十分な準備と意気をもって行われた	4.59	67.8	24.1	7.8	0.3	0.0	655	5	0.64	

II. この授業の内容について										当カテゴリ平均点	4.34
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	4.34
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.50	63.2	25.7	9.3	1.2	0.6	657	3	0.76	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.36	54.9	30.4	11.6	2.4	0.8	658	2	0.84	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.38	56.9	27.5	12.8	2.0	0.8	657	3	0.84	
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.28	50.8	30.9	14.7	3.0	0.6	658	2	0.87	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.51	65.0	24.0	8.7	1.8	0.5	657	3	0.77	
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	4.02	44.2	25.3	22.3	4.3	3.8	651	9	1.09	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリ平均点	3.62
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	3.62
14	この授業にどの程度出席したか	4.48	66.7	19.6	9.0	3.7	0.9	652	8	0.87	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.20	9.8	8.3	15.5	25.1	41.3	653	7	1.32	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.23	22.9	21.0	28.0	12.7	15.5	647	13	1.35	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.01	40.2	30.5	21.8	5.3	2.1	656	4	1.01	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.20	47.5	31.1	16.7	3.5	1.2	657	3	0.92	

IV. 総合的な印象										当カテゴリ平均点	4.45
No.	質問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	4.45
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.45	61.5	24.6	11.5	1.9	0.5	641	19	0.80	

Q1-Q19の当区分平均値	4.19
Q1-Q19の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学科社会専攻(専門科目)	履修者数	1,458
		回答者数	1,036

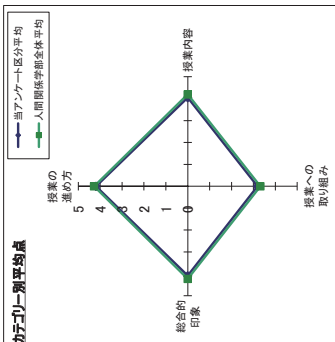
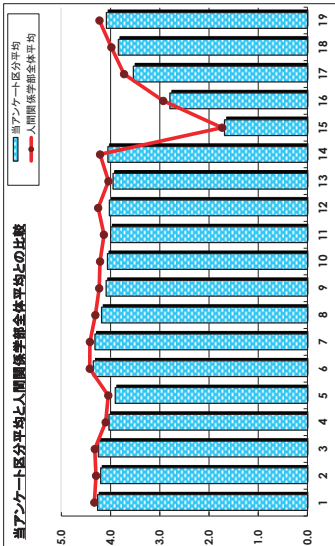
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点				有効回答		集計結果	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	割合	1	2	3	4	5			
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.26	49.8	32.6	12.9	3.8	1.0	1,032	4	0.89							
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.20	43.0	39.6	13.3	2.8	1.3	1,034	2	0.87							
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.25	48.8	31.5	16.4	2.5	0.8	1,032	4	0.87							
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.03	38.0	36.2	18.9	5.1	1.8	1,034	2	0.97							
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.91	36.7	30.2	23.3	6.7	3.1	1,033	3	1.07							
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.35	53.3	30.8	14.1	1.3	0.5	1,033	3	0.80							
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.32	48.6	36.8	13.1	1.1	0.5	1,031	5	0.78							

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				集計結果	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	集計結果						
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.18	42.4	37.3	17.3	2.2	0.8	1,030	6	0.85					
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.09	41.7	33.0	19.6	4.4	1.4	1,030	6	0.95					
10	授業の内容は興味深いものだった	4.06	39.2	36.3	18.0	4.5	1.9	1,032	4	0.96					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.00	36.2	37.0	19.0	6.3	1.6	1,029	7	0.97					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.03	37.4	36.2	20.0	4.5	1.9	1,030	6	0.96					
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.95	35.1	35.4	22.2	4.5	2.9	1,024	12	1.01					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点				3.18	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答	割合	割合				
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.06	39.8	34.1	19.2	5.7	1.2	1,028	8	0.96					
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.69	3.5	4.8	11.8	16.9	63.0	1,030	6	1.08					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.80	16.5	18.5	23.0	12.1	29.9	1,020	16	1.46					
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.54	22.3	31.2	31.6	7.8	7.1	1,028	8	1.13					
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.84	30.7	36.7	23.2	4.8	4.6	1,028	8	1.06					

Ⅳ. 総合的な印象													当カテゴリー平均点		4.09	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	割合	1	2	3	4	5	集計割合	
			5	4	3	2	1									
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.09	40.4	35.4	18.9	3.1	2.2	983	53						0.95	

Q1-Q18の当区分平均値	3.86
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学科社会専攻(専門科目)	履修者数	1,689
		回答者数	1,184

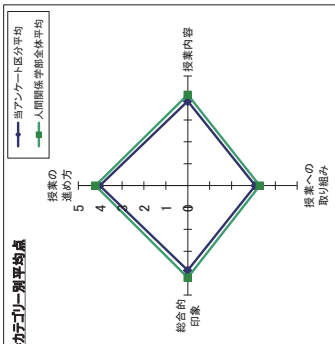
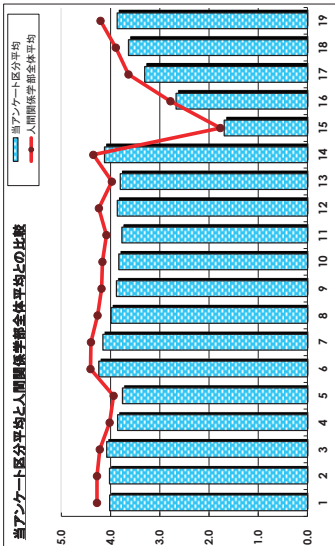
I. 先生のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効回答数	4.02
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	無効回答数	割合				
			5	4	3	2	1							
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.02	38.7	35.2	17.6	6.4	2.1	1,181	3	1.00				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.02	36.1	38.5	18.3	5.6	1.5	1,182	2	0.95				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.08	42.9	31.4	18.7	4.9	2.1	1,179	5	1.00				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.86	31.6	34.8	24.0	7.0	2.5	1,181	3	1.02				
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.76	30.9	31.1	24.8	9.5	3.7	1,181	3	1.10				
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.24	47.0	33.9	15.9	2.3	0.9	1,176	8	0.86				
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.16	41.4	37.7	17.0	2.9	0.9	1,174	10	0.87				

Ⅱ. この授業の内容について														当カテゴリー平均点		有効回答数	無効回答数
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	割合	1	2	3	4	5			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.99	34.2	38.6	20.4	5.3	1.4	1,180	4	0.94							
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	3.88	31.8	36.6	22.1	6.8	2.6	1,179	5	1.02							
10	授業の内容は興味深いものだった	3.83	29.7	36.9	24.0	5.9	3.5	1,177	7	1.03							
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.77	28.7	34.5	26.1	6.7	4.0	1,178	6	1.06							
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.86	29.6	37.8	24.7	5.3	2.6	1,176	8	0.99							
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.80	28.3	34.0	29.9	5.4	2.4	1,164	20	0.99							

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効回答数	集計値
No.	設問文	平均点	回答率 (%)							有効回答数	集計値			
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.12	45.2	30.7	17.3	5.1	1.8	1,171	13	0.99				
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.69	3.1	3.3	12.8	21.4	59.4	1,170	14	1.02				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.67	12.7	16.9	27.1	11.4	31.9	1,153	13	1.40				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.31	17.4	26.1	36.0	10.9	9.6	1,171	13	1.16				
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.64	24.8	34.3	27.2	7.1	6.5	1,164	20	1.12				

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			3.87
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	割合	集計			
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.87	33.2	33.9	23.1	6.0	3.8	1,134	50	1.06			

Q1-Q18の当区分平均値	3.72
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	54人間関係学科社会・臨床心理学専攻(専門科目)	履修者数	1,076
		回答者数	793

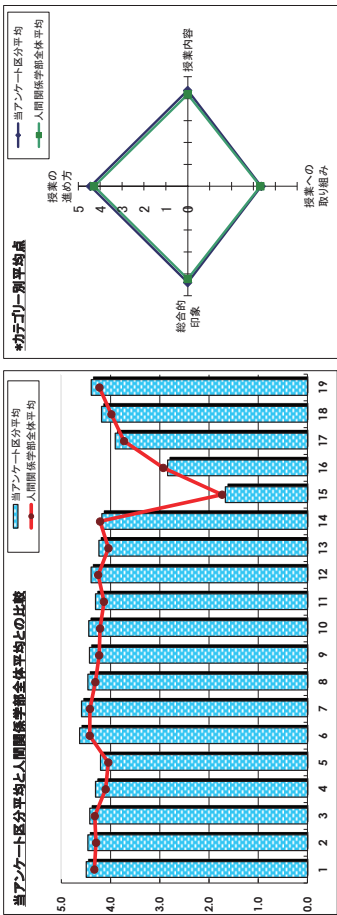
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計値
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.49	63.0	27.4	6.4	2.4	0.8	791	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.46	62.2	25.9	8.2	3.0	0.6	792	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	58.8	28.5	9.3	2.5	0.8	792	1
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	52.0	32.0	11.8	2.9	1.3	790	3
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.20	47.3	32.5	14.9	4.0	1.3	791	2
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.63	70.5	23.0	5.8	0.5	0.3	792	1
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.59	67.8	24.7	6.4	1.0	0.1	791	2

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計値
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.46	59.0	30.8	8.2	1.4	0.6	790	3
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.43	58.6	29.7	8.7	1.8	1.1	790	3
10	授業の内容は興味深いものだった	4.44	61.0	26.7	8.7	2.8	0.8	789	4
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.31	52.6	32.6	9.5	3.4	1.9	789	4
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.40	57.0	30.2	9.4	2.3	1.1	789	4
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	4.24	49.1	31.1	15.3	3.4	1.0	784	9

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計値
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	45.7	33.8	13.5	6.4	0.6	787	6
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	1.67	2.9	2.9	11.7	23.2	59.3	789	4
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.84	14.9	20.4	24.4	14.3	26.0	778	15
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.91	36.0	32.7	21.1	6.7	3.6	787	6
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.18	46.0	33.8	14.9	3.3	2.0	785	8

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計値
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	59.6	25.7	10.7	2.4	1.6	748	45

Q1-Q18の当区分平均値	4.13
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	54人間関係学科社会・臨床心理学専攻(専門科目)	履修者数	964
		回答者数	823

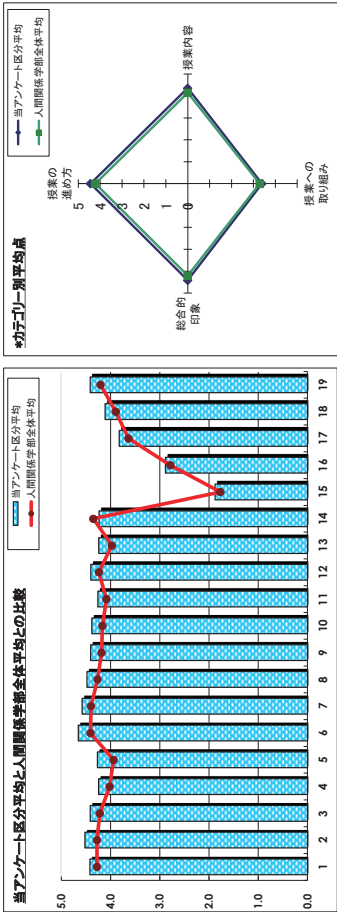
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計値
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.42	60.6	26.6	7.9	3.9	1.0	823	0
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.52	63.4	27.8	6.6	1.9	0.2	823	0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.41	58.2	29.0	9.3	2.9	0.6	821	2
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.24	50.4	31.7	10.6	6.6	0.7	821	2
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.27	52.2	29.5	12.6	4.4	1.3	820	3
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.66	72.3	22.0	5.0	0.5	0.2	822	1
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.58	66.3	26.9	5.4	1.2	0.2	819	4

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計値
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.48	58.5	33.3	6.0	2.1	0.1	820	3
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.41	58.0	28.4	10.2	3.0	0.4	821	2
10	授業の内容は興味深いものだった	4.38	56.0	31.1	8.8	3.4	0.7	821	2
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.26	49.0	34.7	10.6	4.8	1.0	821	2
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.40	56.5	31.1	9.0	3.0	0.4	820	3
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	4.24	47.5	34.2	13.9	3.7	0.7	814	9

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計値
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	50.5	29.5	14.1	4.8	1.1	820	3
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	1.88	4.8	4.4	11.8	31.9	47.1	815	8
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.89	19.1	15.8	25.6	13.9	25.7	806	17
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.83	34.3	30.7	22.8	7.6	4.6	821	2
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.11	42.9	34.9	15.4	4.4	2.4	819	4

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計値
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.42	58.6	28.4	9.6	2.8	0.6	785	38

Q1-Q18の当区分平均値	4.14
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	55人間福祉学科人間福祉学専攻（専門科目）	履修者数	794
		回答者数	596

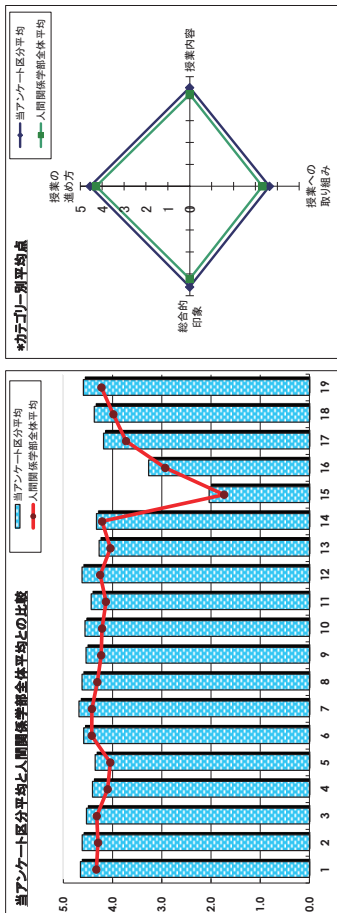
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.65	70.3	25.8	2.9	1.0	0.0	596	0
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.62	67.6	27.3	4.4	0.5	0.2	596	0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.53	64.1	27.2	6.5	2.2	0.0	596	0
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.41	54.9	33.1	10.2	1.7	0.2	596	0
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.36	55.5	28.4	12.8	2.9	0.5	596	0
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.59	67.6	25.5	5.2	1.5	0.2	596	0
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.68	72.3	23.9	3.7	0.2	0.0	595	1

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.62	67.1	28.0	4.7	0.2	0.0	596	0
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.54	63.1	29.0	7.0	0.5	0.3	596	0
10	授業の内容は興味深いものだった	4.56	64.7	28.6	5.4	0.8	0.5	595	1
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.44	54.9	35.9	7.6	1.3	0.3	596	0
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.62	69.2	24.9	4.7	1.0	0.2	595	1
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	4.27	52.9	26.4	17.7	1.3	1.7	594	2

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	60.8	20.2	12.0	5.1	2.0	594	2
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	2.04	7.4	6.9	12.5	28.6	44.6	594	2
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.27	26.7	20.6	23.0	12.4	17.3	588	8
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.18	47.4	31.6	15.0	4.0	2.0	595	1
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.37	56.1	28.5	12.6	2.4	0.5	594	2

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.59	68.5	23.3	7.2	1.0	0.0	572	24

Q1-Q18の当区分平均値	4.30
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	55人間福祉学科人間福祉学専攻（専門科目）	履修者数	1,095
		回答者数	886

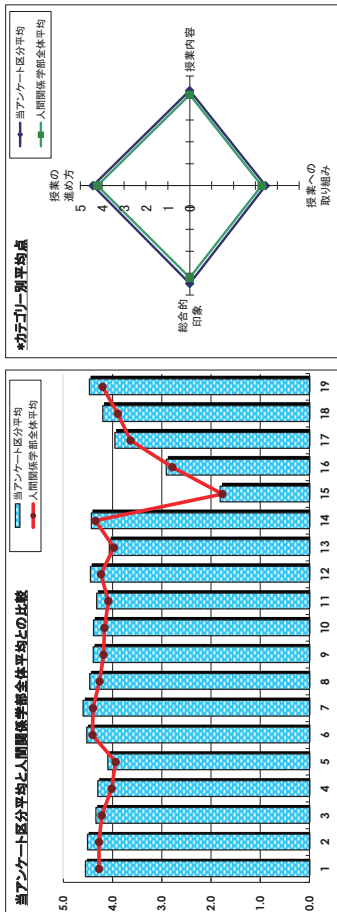
Ⅰ. 先生のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.55	65.9	26.2	5.6	1.6	0.7	885	1
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.51	62.4	29.3	5.9	1.5	0.9	884	2
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.34	54.0	30.6	11.5	3.1	0.8	885	1
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.30	49.7	34.6	12.5	2.4	0.8	881	5
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.10	43.8	29.8	20.2	4.8	1.5	882	4
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.52	64.0	26.8	7.6	1.1	0.6	885	1
7	授業は先生の十分な準備と敬意をもって行われた	4.60	67.8	25.5	5.7	0.8	0.2	881	5

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.46	60.5	28.8	8.2	1.7	0.8	885	1
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.39	55.5	32.6	8.5	2.5	0.9	884	2
10	授業の内容は興味深いものだった	4.39	56.1	31.0	9.2	2.8	0.9	884	2
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.32	53.2	31.3	11.0	3.7	0.8	883	3
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	61.1	27.2	8.2	2.5	1.0	882	4
13	授業内容(バラバラ)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	44.7	26.7	22.3	3.1	3.2	877	9

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.43	65.5	19.3	9.8	3.9	1.6	882	4
15	この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	1.82	4.9	5.0	10.0	27.0	53.1	880	6
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.91	19.0	17.1	25.6	12.4	25.9	872	14
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.95	40.6	30.2	17.7	7.0	4.6	877	9
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.20	50.2	27.4	17.0	3.0	2.4	875	11

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.47	63.1	24.1	10.3	1.6	0.8	852	34

Q1-Q18の当区分平均値	4.15
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2015年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	56人間福祉学科介護福祉学専攻 (専門科目)	履修者数	309
		回答者数	246

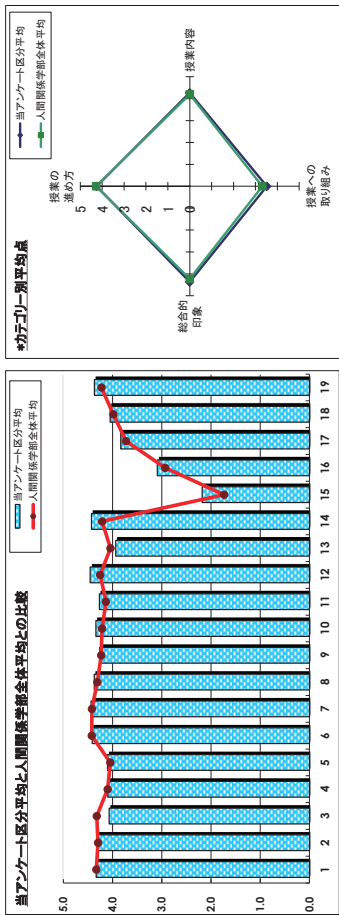
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	52.2	35.5	7.8	2.4	2.0	245	1
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	51.4	33.9	10.2	3.3	1.2	245	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.07	41.0	34.0	18.0	4.9	2.0	244	2
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	39.2	38.8	16.3	4.1	1.6	245	1
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.10	41.8	34.0	18.9	3.3	2.0	244	2
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.41	58.2	29.5	9.0	2.0	1.2	244	2
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	58.2	30.7	8.2	2.5	0.4	244	2

II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.37	52.0	36.5	9.4	0.8	1.2	244	2
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.26	48.8	35.2	11.1	3.3	1.6	244	2
10	授業の内容は興味深いものであった	4.34	50.8	36.4	9.1	3.3	0.4	242	4
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.27	47.1	38.4	10.3	2.5	1.7	242	4
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	59.9	29.3	7.9	2.1	0.8	242	4
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.94	35.4	32.5	26.2	2.1	3.8	237	9

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.43	62.6	23.5	9.5	3.3	1.2	243	3
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	2.18	10.7	8.6	13.2	23.0	44.4	243	3
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.09	18.3	20.8	30.8	11.7	18.3	240	6
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.84	33.3	30.5	25.9	7.0	3.3	243	3
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.05	41.3	31.4	21.1	3.3	2.9	242	4

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.37	56.7	29.2	10.7	1.3	2.1	233	13

Q1-Q18の当区分平均値	4.07
Q1-Q18の学部全体平均値	4.00
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.28



2015年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	56人間福祉学科介護福祉学専攻 (専門科目)	履修者数	659
		回答者数	510

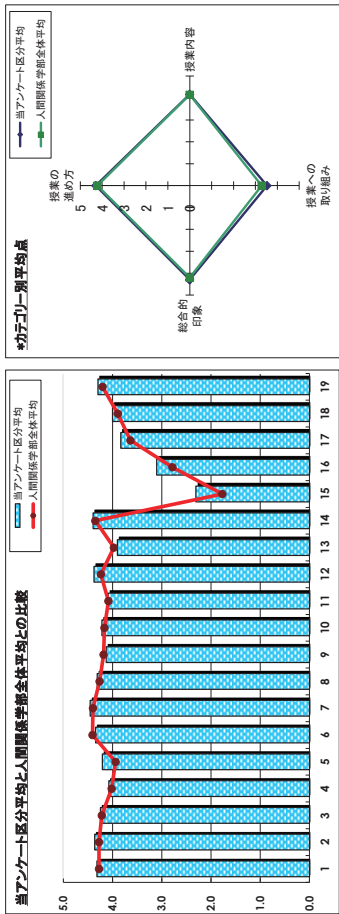
I. 先生のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
1	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.32	51.6	34.4	10.0	2.2	1.8	508	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	53.6	34.0	8.6	2.6	1.2	509	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.25	48.4	34.7	11.6	3.7	1.6	510	0
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.08	40.6	36.3	15.4	5.5	2.2	507	3
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.21	47.2	31.7	16.9	3.0	1.2	508	2
6	先生の学生に対する接し方は公平だった	4.35	56.3	28.3	11.2	2.0	2.2	508	2
7	授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	59.6	29.8	8.1	1.8	0.8	507	3

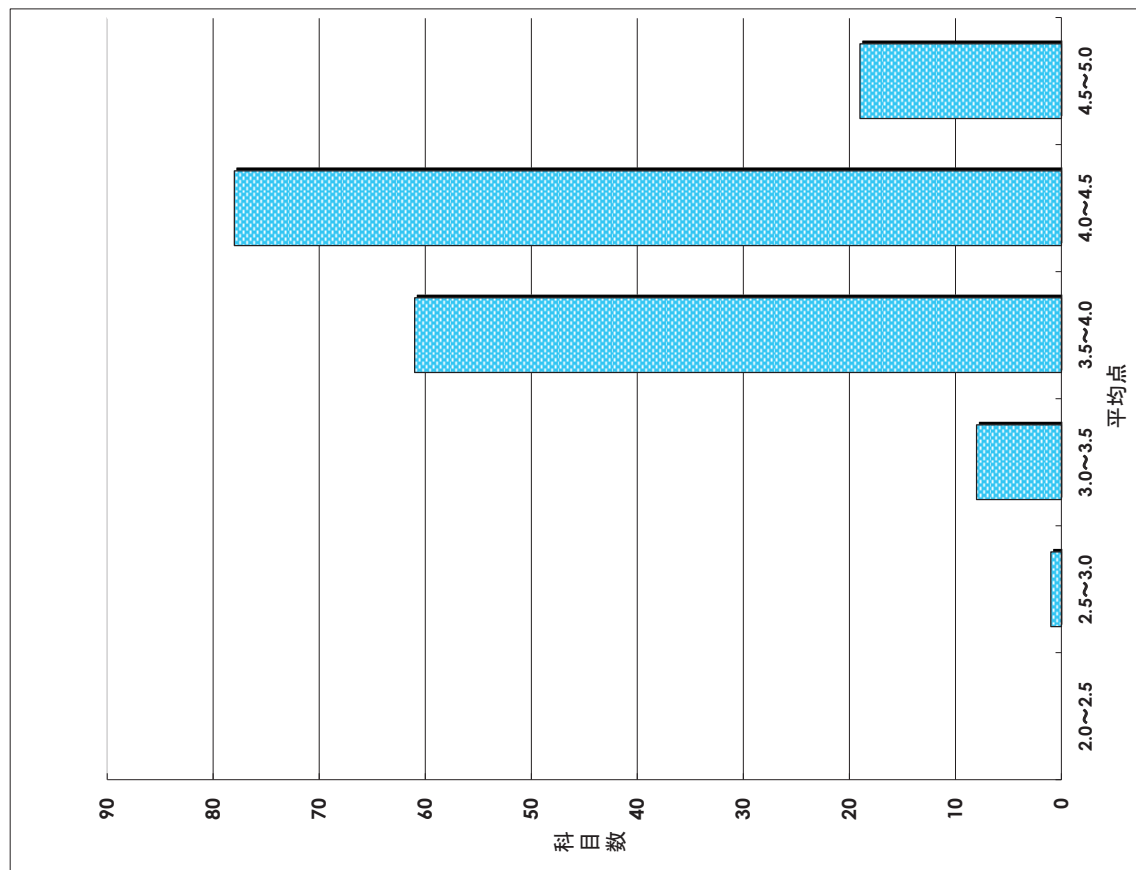
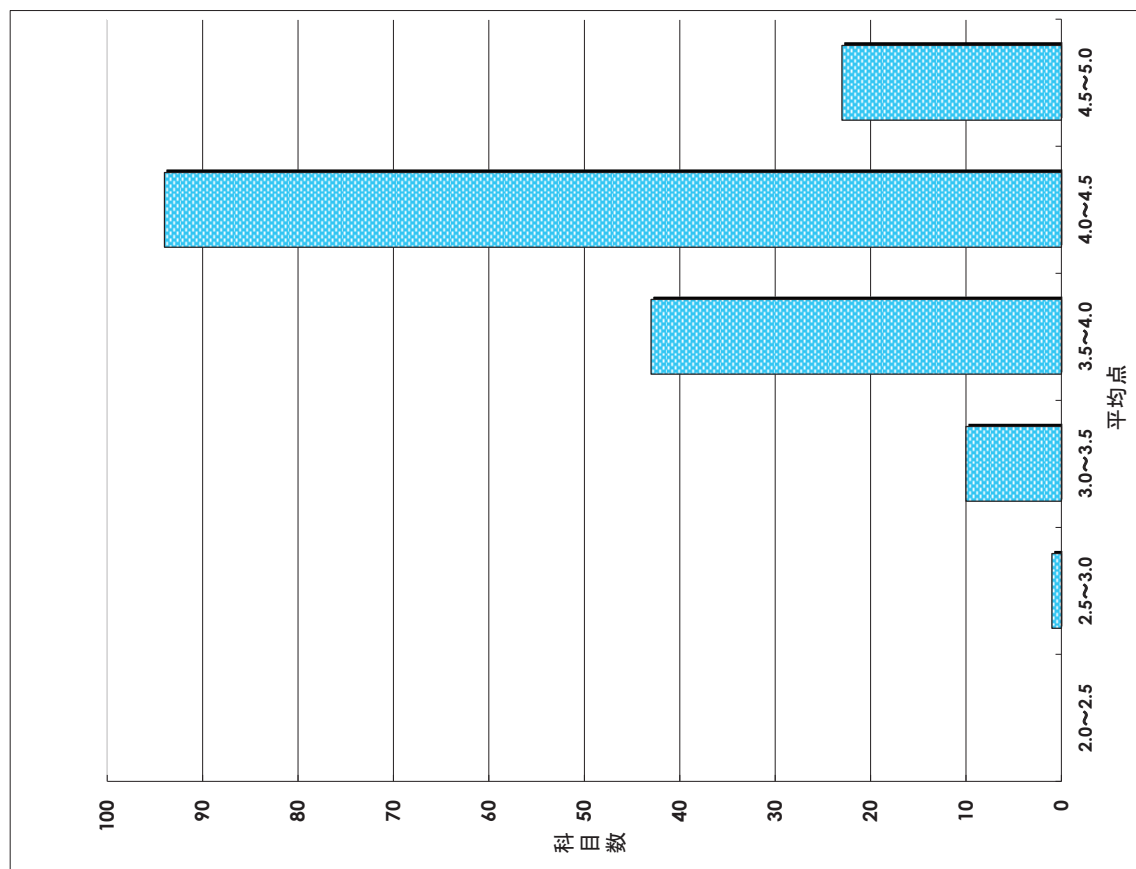
II. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	52.3	32.0	12.0	2.4	1.4	507	3
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.13	44.1	33.4	16.2	4.2	2.2	506	4
10	授業の内容は興味深いものであった	4.22	47.5	32.3	15.8	3.0	1.4	507	3
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.09	41.8	35.1	15.0	6.3	1.8	507	3
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	55.3	31.5	10.0	2.0	1.2	508	2
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.90	34.1	31.5	27.9	3.8	2.8	505	5

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.40	45.0	18.6	9.3	5.1	2.0	506	4
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	2.31	13.3	7.3	15.2	25.3	38.8	505	5
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.11	20.4	18.0	31.8	11.1	18.6	494	16
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.83	33.7	30.5	24.6	7.8	3.4	501	9
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.00	41.3	27.6	23.6	5.0	2.6	504	6

IV. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	総数
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.30	55.6	25.9	13.3	3.2	2.0	495	15

Q1-Q18の当区分平均値	4.05
Q1-Q18の学部全体平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23





Ⅱ－２－１ 前期授業アンケートへの教員の主な回答

（１）授業の改善点

① 予習復習をさせる難しさ

多くの教員が、相変わらず学生に予習復習をさせることの難しさを嘆いている。

- ・ 今回の集計結果も、学部全体平均よりすべて高い評価であったが、「授業の予習・復習」や「授業への積極参加」に関しては、学部平均より高いものの数値は低く、学生個々の発展的な取り組みと自主的に進むことを後押しするまでにまでは至っていないと考える（福祉非常勤）。

もちろん教員の側も、手をこまねいて放置しているわけではない。学生の自主性を喚起するための様々な改善を試みてはいる。

- ・ 講義中に、学生さんに投げかける質問を増やしてみます（対話型の授業になるように）。（社会専任）
- ・ 自宅課題を与えたり、もっと積極的に取り組めるような授業展開をめざし、授業中に意見を求めるなどの工夫をしていきたいと考えます（社会非常勤）。
- ・ 基礎統計学、日常生活論については、多人数の講義（一部実習）科目ということで、課題提示や参加の多発等は容易ではないが、各個の授業でワークショップを取り入れる等の工夫を試みたい。

しかし、予習復習をさせるために課題を増やせば、学生の負担感が増すことになる。

- ・ 予習・復習などの自習と、授業中の積極的な参加の平均値が例年低いため、今年はホームワークや予習ワークなどを設けてみましたが、かえって課題量が増えて受講者の負担になったように思います。今後は量や頻度に注意しながら自習の助けになるような課題にしていきたいと思います（社会非常勤）。

学生の自学自習を促すことに成功している教員ももちろんいる。

- ・ 多人数の授業ではあるが、宿題課題を出して自ら学ぶ姿勢を強調したことと、宿題について、次週に周囲の人と話し合い確認させたこと、授業内でたくさんの問題を投げかけ、学生達に考えさせたことは好意的に評価された。アンケートの数値上でも、学部全体に比べて自習を必ず行うことや、授業への積極的参加意識が高まった事は明瞭である。学生を積極的に学ばせる授業の工夫を継続していきたい（心理専任）。

② 教材の活用と学生の理解度

manaba の導入は授業改善に資するものがあるようである。

- ・参考資料は manaba にアップロードしておき、学生はそれらを読んで課題レポートとして manaba に提出するようにしている。昨年より課題提出の数を減らした。パワーポイント資料を配付することで、学生が授業内容に集中して聞けるように工夫している。(社会専任)。

学生の理解に合わせた教材づくりの難しさを指摘する声もあった。

- ・「レジュメの見方がわかりにくい。どこが大切なのかもよくわからなかった」という意見がみられた。授業内容と配布資料の精選を図りたい(心理非常勤)。
- ・また、テキストを使用しなかったこともわかりづらさにつながったのかもしれない。学生の予習復習への動機付けや授業の全体像を把握できるようにするためにも、今後はテキストの活用も考慮したい(心理非常勤)。

本学部の場合、学生間の学力格差も大きいので個々の学生の理解度に合わせることも重要になってくる。

- ・「授業は理解できた」という意見が多い一方で「進め方が早い」「スライドの切り替えが早い」という記述もいただいたので、全体に目を配り、理解度に配慮していきたいと思います。(心理専任)

いまの学生の関心を惹くためには視覚に訴える必要性も高い。

- ・アニメーションや映像教材を使えるところは多用して、視覚的にインパクトを与えるように作成したつもりでした。もっと図表やフローチャートを用い、羅列にならない程度にキーワードを列記するなど、パワポ自体にも改善を加え、あとは口頭での解説を集中して聞いていただけるように工夫をして臨みます。(心理非常勤)

(2) 施設教室の設備や受講者数、教育条件等についての改善点の要望

① 縦長教室の使いづらさ

縦長の教室で後方に陣取る学生の私語が気になると答えた教員が複数みられた。

- ・教室の設備等は問題ないのですが、やはり人数が多いので、縦長の教室のうしろの方で、固まっていたグループの私語が目立ってうるさく何度も注意しました(社会非常勤)。
- ・日常生活論については、縦長の講義室ということで私語が後部座席でみられたため、異なった環境だとどうなるか、検証してみたい。(社会専任)

- ・縦長の教室は後方座席の学生とのコミュニケーションがとり難いため受講する学生数の調整、もしくは横長の教室にして頂けないだろうか。(心理非常勤)

② クラスサイズと教室の可動性

本学部の専門教育科目においては、受講者が 100 名を超えない配慮がなされているが、本来は 50 名程度が理想だという意見もあった。

- ・100 名弱の受講生に対して割り当てられた 100 名の教室は窮屈である。教室は広すぎず、狭すぎずのゆとりが欲しい。概論だから仕方ないかもしれないが、学生が積極的に授業に参加できるためには、50 人規模の授業が望まれる。(心理非常勤)

ロールプレイ等のアクティブラーニングを、講義形式の授業で実施するためには、机と椅子が可動式のものであることが望ましいという意見が今回も寄せられた。

- ・傾聴の演習が中心になりますが、受講生が 60 名程度いるために比較的大きな教室を使用しています。しかし可動式の机ではないので、ロールプレイがやりにくく困っています。そもそも 60 名を一人の教員が担当してロールプレイを学生にさせること自体に無理があります。開講コマ数を増やすか、受講者調整をするなど抜本的な対策が必要と感じています(心理専任)。

③ 暑さの夏に

日本の夏が毎年過酷なものになっていることに鑑みて、酷暑対策を講じる必要は高まってきている。

- ・体育館は、夏場大変熱気が籠り、熱中症の注意も必要な場合がありますが、今年はスポーツ教育研究室で大型扇風機を 2 台設置していただきましたので、助かりました。(スポーツ非常勤)

(3) 学生に望むもの

① 私語は悩みの種

以前に比べればずいぶん改善された印象もあるが、やはり学生たちの私語への不満は多く聞かれた。心無い学生の私語が他の学生の学習意欲を削いでいることへの憂慮を複数の教員が表明していた。

- ・(私語の注意をしていると) 授業がその時点でストップし、まじめに授業を受けている他の学生にも不快感を与えますし、できるだけ生徒の自主性、モチベーションにまかせたいと思って授業を行っていても、やはり注意せざるをえず、何度も重ねることで遺憾に思いました。

やはり、授業に積極的、主体的に参加する、人の邪魔はしない、という自覚をもってほしいです。（社会非常勤）

- ・集中している学生とそうでない学生の差が大きかった。私語をしている学生に注意を促すことで授業自体の進行を中断することになり、集中している学生に犠牲を強いることになった。私としても学生の興味を喚起するような授業を行うことを今後の課題とするが、学生にも自覚をもって授業に臨んでほしいと考える。（心理非常勤）
- ・私語を注意する際にマイクを使うとまじめに聞いている学生が怒られるているような感じがするという指摘が複数あったので、今後気をつけたいと思った。（社会常勤）

② 熱心な学生たち

他方でこうした意見を聞くことは心強い思いがする。

- ・1 時限目であることや、電車の遅刻等は特別の場合を除いて配慮していないことなど、厳しい授業であるにもかかわらず、熱心に受講している人が多くて、やりがいを感じている（福祉常勤）

Ⅱ－２－２ 後期授業改善策についての回答

（１）授業の改善点

① アクティブラーニングの方へ

アクティブラーニングの要素を取り入れることで、前年度から大幅に授業評価が向上したという回答があった。

- ・昨年度の課題を受けて今年度は自宅での学習課題を折々に提示すること、学習課題の提示理由を明確にしつつ学習動機を高められるように工夫したつもりである。またアクティブラーニングの授業については概ね好評であったが、その意図も明確にしつつ、振り返りの時間を多くとることを念頭におきながら授業を展開していったが、学生自身の自己省察の内容についてさらにフィードバックすることを次年度の課題としたい。

学生の理解度をみながら授業を進めることはもちろん必要なことだが、そのためには学生の側が積極的な意思表示をしなければならない。すなわち学生の側がアクティブにならないことには本当の意味での授業改善は望めない。

- ・（自由記述解答欄にあった）「テキストの文が難しくて理解しづらかったため、そういう箇所も説明してほしい」（というコメントについて）。——テキストの文が難しくて理解しづらいところがあった場合、授業終了後に「ここがよくわからなかったのですが」と声をかけてください。分かりやすく説明します。慣れないと勇気があるでしょうが、早めに解決しておいた方がすっきりします（福祉非常勤）。

単位の実質化をはかり、課題を多く出せばそれは学生たちの負担増にもつながる。負担の限界をどう見極めるかが難しい。

- ・3000字のレポートと期末試験の組み合わせは受講生の負担が大きいと指摘された。今後、課題の分量を減らし内容などを事前に説明して準備ができる時間を十分に与えるとともに、評価の基準も改善したい（福祉非常勤）。
- ・前期のアンケートにも書きましたが、おそらく（評価が低かった）原因は2つあり、ひとつは一部の学生にとって宿題が重すぎたこと、いまひとつは、履修者数が多かったこともあり、わたし自身の指導が行き届かなかったこと、にあるとおもいます。（社会非常勤）

② 不平の多い学生たち

授業の中身ではなく、遅刻者や私語への対応ばかり気にして、そのことに不平を述べる学生が増えているという印象は多くの教員が感じているとことではないだろうか。

- ・遅刻者に対する評価が甘いとの意見があり、出席点評価を見なおすことにする。(福祉非常勤)。
- ・昨年度の授業評価では学部平均より高く満足な評価と受け取っていた。しかし、今年度は「私語の学生には何度も注意してほしい」「私語には教室から出ていくように言ってほしい」「配布物は受講生の協力を得るのではなく教員が配るべきである」などの指摘があった。授業内容に関する評価が含まれていないのが残念である。(福祉専任)

(2) 施設教室の設備や受講者数、教育条件等についての改善点の要望

① 教室内の音響の問題

避難訓練中止のアナウンスやチャイムが聞こえない教室があるのだとすれば、早急に改善されなければならない。

- ・今回、避難訓練日があったのですが、教室内にアナウンスが全く聞こえず、中止になったこともわからない状況でした。普段からチャイムもほとんど聞こえていないと思われますので改善をお願いします。(心理非常勤)。

② ソフトを含むPC環境

学内のPC環境は、ハードソフトの両面でまだまだ十分とは言えないもののようである。

- ・エクセルを使用した授業ですが、必修授業のため時間の制約もあり、人間棟の情報処理室を確保できません。棟全体のPC環境の改善を希望します。(心理専任)
- ・今期はPCによるプレゼンのできる教室が使用できており、グループ成果の発表の際に活用している。セミナー系の教室にも同様な設備が必要だと思う(社会専任)。
- ・量的調査データのためのSPSSと同様に、質的調査データを扱うソフトも学部共通予算で学内で使用できるようにして頂きたい(社会専任)。

(3) 学生に望むもの

① 研究の作法に関わる問題

インターネットに頼り切りで自分で文献を探そうとしない。レポートで文献を引用参照してもその出典を明記しない。そうした研究の態度や作法に関する問題点が指摘された。

- ・注意したにも関わらず、多くは引用部分を明確に示せず、Webでの内容に移したものが多かった。今後は、自分の意見ではない他人の意見であれば、それを明確に区分し、引用部分、出所などをちゃんと示すようにしてレポートを作成してほしい(社会非常勤)
- ・報告書で参照する文献を図書館で探さずに、インターネットで調べるということに偏っている。web上の文献資料だけでなく、実際に図書館や新聞を手にとって活用して欲しい。(社

会専任)

② 出席管理で先生の手を煩わさせるな

今回の授業アンケートで目立って多かったのは出席管理システムをめぐる教員と学生とのトラブルの問題である。

- ・ 学生から「電車遅延を認めない、云々」の回答がありました。200名近い学生がそれぞれ証明書を持ってきてでも対応できません。要するに、そのような場合は「面倒なので出席は考慮しない」ということです。誤解があるので念のため記します。また、「学生証を忘れた」と言って紙切れに学籍番号と氏名を書いて提出する学生も少なくありません。当初は一人ひとり認めておりました。しかし残念ながら、遅刻をして講義後に紙切れを提出する学生も見受けられたので、これも以後認めておりません。(社会非常勤)
- ・ 出席管理システムで出欠を管理しているが、授業開始前「カードを落とした」、「カードを忘れた」と申し出て教員に手で出欠を修正することを約束させ実際に授業にはでないという学生が見られた。受講人数が少ないのですぐにわかるし、念のため授業終了時その学生を点呼したがその場にいなかった。学生にとっては何かなんでも必要な単位数かと思うが人を欺いて単位を取得する行為は「学ぶ」以前の問題と言える。人間を育てる視点に立つならば憂うべきことだとも言える。非常勤講師という立場でいえば、こうした学生とのイタチごっこのような時間ほど無駄なものはない。極少人数でもこうしたことに気を配らなくても良い受講生を望む。(福祉非常勤)
- ・ 学生証の携帯を徹底していただきたい。出席管理システムを使っているが、毎回、学生証を忘れた学生の対応に追われることになり、かえって不便である。非常勤の教員が授業中に指摘してもよいことがらだが、学生生活全体にかかわることであれば、貴学で日頃からご指導いただきたい。(社会非常勤)

③ 空気を読みあう消極的な若者たち

学生たちは空気を読みあって自分の意見を率先して述べようとはしない。勇気を出して、失敗を恐れず、どんどん自分を主張していった欲しい。それが多くの教員の願いのようである。

- ・ 社会学基礎セミナー、現代社会論セミナーは、前期と後期でメンバーをシャッフルすることも選択肢に入れてよいのではないかと思います。社会学専攻の今の学生は、周囲の関係性に左右される側面が強いように思われるので、雰囲気の良いクラスになれば年間楽しくできますが、雰囲気の悪いクラスだと、学ぶ意欲があっても、発言すると浮くので発言できない…というクラスで一年間を過ごさねばなりません。もちろん、教員が努力すべき点ではありますが、仕組みのレベルで対応できる点もあるように思います。(社会専任)
- ・ コミュニケーション技術はすぐに効果が表れるものではなく、人とかかわりを通じて、徐々に培われていくものである。学生に求めるのはこの授業を受けたからといってすぐにコミュニケーション能力の向上が実感できるほど即応的ではないという理解である。様々な人々と

関わり、自分自身が持っている常識や価値観の違いを認め合うという体験を通じてコミュニケーションの幅がひろがってゆくものである。普段話さない学生とのコミュニケーションは時として緊張感をともなうものである。そういった時にも勇気をもってグループ内で発言してほしい（福祉非常勤）。

- ・大教室とはいえ、受講生の皆さんの表情からも、理解度を把握しながら進めているので、教員の“つつこみ”を恐れずに、なるべく前列から着席してください（心理非常勤）
- ・学ぶ場では、皆さんが思う「失敗」は「成功」でしかありません。講義科目であっても一方的な受け身ではなく、声を出して欲しいです。いわゆる“おしゃべり”をしている暇はないらいに 90 分もあつという間になるはずです。（福祉専任）

Ⅲ 学科・専攻における平成27年度FD活動への取り組み

1. 人間関係学科

(1) 社会学専攻におけるFD活動に関する取り組み

1) 専攻全体としての取り組み

i 社会学専攻としては大体隔週のペースで専攻会議を開いている。会議の内容で大きな比重を占めているのは問題を抱えた学生たちへの対応であろう。そうした学生たちについての対処の方法を検討している。

ii 重度の視覚障害をもつ学生が本年度は3年生になった。彼女が支障なく学生生活を送ることができるように、障害学生支援室や障害学生支援委員会と連携をとりながら、様々な問題を解決していった。ルーティン的な部分は確立しているものの、配属されたゼミの指導教員が病気で休職するという不測の事態が生じた。4年生になり就活就職卒論執筆と多くの試練に学生は直面することになるが、十分なケアを行えるよう、教員一同で努力する所存である。

iii 上に述べたように専任教員が休職するという事態が生じ、学生たち、とりわけ当該教員のゼミに所属する者に不利益が生じないよう、重ねて説明を行い、また代講する非常勤講師の手配等に当たった。

iv 5月末の非常勤講師懇談会においては非常勤の先生方のご意見をいただき、専攻としての取り組むべき改善作業の参考に資した。毎年参加してくださる非常勤の先生も多く、有意義な会となっている。

v 社会学専攻では、基礎セミナーの平準化が他専攻に比して遅れているとの認識を抱き、平成25年度から「基礎セミナーⅠ」に限って平準化を行うことにした。共通のテキストを指定して、レジュメの作り方、図書館の利用法、テキストの輪読、グループワークの実施等、期末レポートの作成をすべての教員が行うことを決めたのである。

また、これまで採点基準と評価の分布については教員の裁量に委ねてきたが、平成26年度からは、「基礎セミナーⅠ」・「基礎セミナーⅡ」とも、Sは全体の1割以内、AとSの合計は5割を超えないという評価の分布の基準を設けるとともに、授業での報告を中心とした平常点と期末レポートの比重をそれぞれ50パーセントとし、その合算によって成績評価を決めるということが確認された。この方針は平成28年度においても継続される。

平成27年度は上記のような形で「基礎セミナーⅠ」・「基礎セミナーⅡ」の標準化を行いさらに問題点をフィードバックすることによって改善を目指していきたいと考えている。付記するならば2年間用いた「基礎セミナーⅠ」のテキストを平成27年度より別のものに変更した。文章の量が少なく、チャートによって巧みにまとめられているテキストであり、学生たちには概ね好評であった。

vi 多摩キャンパス再開発に伴う学部改組に向けて、新たに社会学専攻は「社会学科」となる案も浮上してきており、それに向けてのカリキュラム改定の作業に着手している。この取り組みは、28年度において本格化する見込みである。

2) 教員個々の取り組み

i 荒井 芳廣

現在、担当している授業で国際支援に対する学生の貢献について話していますが、学生にできるだけ実践活動（ボランティアやファシリテーター、インターンシップなど）に参加するよう促すため、自ら支援活動（「ハイチの会セスラ」（ハイチの教育支援）、「日本イコモス」（文化財保護の国際組織）、Biblitheque du Soleil（ハイチにある子供の文化活動支援団体）に参加し、また「開発教育協会」や「横浜 NGO 連絡会」の研修会を受講するよう心掛けている。

ii 大出 春江

2015 年度の FD 活動報告として、FD 研修会に提出した内容を再掲し、研修会時に頂いたコメントを反映させた内容を記載することにする。

本学が manaba の導入を実施して以来、manaba をほぼすべての授業で活用している。講義科目および演習科目の両方で使っているが、特に演習科目の場合、授業の時間以外に学生が課題に取り組み、web 上で提出するといえることができるメリットを活かしている。もちろん学期末レポートなどは紙媒体と web 上の両方に提出することを指導している。このようにすることで、受け取りに関する事故を防ぐことができる。以下、箇条書きにする。

- 1) 学生に事前に読んでほしい資料は pdf 化しコンテンツとしてアップロードしておく。学生は各自でダウンロードしてそれらを読み、講義内容とその資料とを組み合わせることで所定の日までに課題を提出することになる。配布資料の web 保管は、教員にとっても学生にとっても場所と時間に拘束されない点が有効である。
- 2) 社会学基礎セミナー I・II や社会調査及び演習 I・II といった演習科目において、manaba を特に活用している。演習科目の場合、グループワークで多用している。学生にはメールでも連絡できるのだが、コースニュースで連絡を流すと閲覧の履歴がわかる。一括管理という点では、学生にとっては不本意な印象もあるかもしれないが、そのほかに掲示板、レポート提出、そしてプロジェクトも活用している。レポートの場合は、オンラインレポートとファイルを別途作成して提出する 2 種類を使い分けている。

プロジェクトはグループワークに活用できる。授業中の作業結果と授業外に進めた作業結果を一定期間に提出するように設定することで、グループとして取り組む意識を高めることができる。また、授業外にどのグループが活発に作業を進めたり停滞しているかを、そのアクセス数から一定程度把握することができるので、それらを参考に授業時に指導をおこなっている。

- 3) 卒論指導では、後期はセミナーといっても実質は個人面談になる。その際、事前に manaba にアップロードを指示しておく。manaba 上の提出期限が表示されるために締め切りが以前よりも守られるようになった。また面談前に内容に不備があるなど気づいたことは web 上で再提出を指示することもできる。前述したように、卒論のように長期にわたり一人の学生が原稿を複数回提出する場合などは特に、教員にとってはもちろん、学生にとっても論文ファイル管理が一元化され無用な事故も避けられる。

以上、これまでの授業上の学生指導において manaba は活用すべき点が多い。ただし、授業

時に、閲覧状況が停滞気味の学生には個別に指導をすることが必要である。一般的にいて、閲覧する学生と閲覧の停滞する学生とに分かれる傾向があり、この点はその都度、注意が必要である。

iii 伊藤 美登里

基礎セミナー 1・2 で、(アメリカの大学に留学した者を対象にしたアカデミックライティングの) 英語のテキストを用いて、そのテキストの文章は日本語に翻訳した上で、アイデアの出し方とまとめ方、段落の書き方、エッセイの書き方などについて指導し、実際に書いてもらったものを添削をするなどの指導をした。

社会学セミナー 1・2 では、同じテキストを用いてアイデアのまとめ方、論文の構成の仕方などについて指導し、実際に論文の章立てをしてもらい、添削した。

ここ 3, 4 年、毎年改良を加えながら上のようなことを行っている。とくに、社会学セミナー 1・2 では、「卒論を書く上での自信がついた」と学生から喜ばれている。

iv 久保田 滋

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会への出席。人間関係学部主催の FD 研修会や大学主催の FD 講習会。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

今年度新しく作成した教材・テキストは無し

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

Manaba を利用したインタラクティブな指導を、昨年より充実させた。

v 小谷 敏

法政大学鈴木小林ゼミ、日本大学左幸ゼミナールとの社会学合同ゼミに、2006 年以来参加している 3 年生が参加して、6 月のゼミ訪問、7 月の 3, 4 年合同合宿、10 月の中間報告会、12 月の大学セミナーハウスにおける本報告会と行事は目白押しである。例年、他大の学生の報告のレベルの高さと、先生方の指導の力量に圧倒されている。非常に私自身の勉強にもなっている。ただ合同ゼミにおいても、それぞれの大学の個別のゼミの時間においても、学生たちの自発的な討議が盛り上がりえないことへの悩みは、どの先生も共通に抱えているものと感じられた。

vi 齊藤 豊

今年度は 360 名が受講する授業があったため、大講義室を使い、舞台の上からの講義を行った。360 名では大講義室の半分程度しか使用しないため、前方の席は空くことが多かった。昼休み後の 3 限の授業のため、昼休みから着席してしまう学生が多く、座席指定を行って、座り直させると時間がかかってしまうため、座席は自由席とした。最後列の学生でも講義内容が届くように教科書を大きなスクリーンに映し、板書が必要なときは、書画装置を用いて手書き文字をスクリーンに大写しにした。

また、授業の終了時に必ず質問を取るようにし、質問のある学生が前方のポディウムの前に

列をなしたが一人ひとりに対応した。さらに manaba を用いて授業のフォローを行い、オフィスアワーを使って追加指導も行った。

その結果、100 名前後の教室で実施した授業と同等の授業評価を学生から得ることができ、学生の成績にかんしても期初の目標を満足することができた。

vii 干川 剛史

- ・講義形式の授業では、私語がなく静かに授業を行うことができるように、同じクラスの学籍番号の近い学生が隣合わないようになどの工夫をして座席表を作成し、指定された席に学生が座るようにしている。また、リアクションペーパーを毎回配付し、出欠を確認するだけでなく、記述内容から学生一人一人の授業の理解度を判定し、それを成績評価に反映させている。
- ・社会学基礎セミナーにおいては、グループワークを取り入れ、司会者の学生を中心にグループの学生たちの意見を集約しながら、議論ができるように工夫している。
- ・オフィスアワーについては、指定してある曜日・時間帯以外に学生が来ても、随時、対応している。

viii 牧野 智和

双方向的コメントカードの活用

100 名を超す授業では、教員と学生との相互のコミュニケーションをとることは単純には困難であるため、A4 裏表を 15 セクションに区切った出席票兼コメントカードを利用して、学生との双方向的コミュニケーションならびに興味関心のピックアップを図った。学生は各回の授業開始時に、学年・五十音順に並べられたカードを取ってから座り、授業の感想・意見・質問などを書き込んで授業終了時に提出する。教員はそれを読み、次回冒頭に主だったものを紹介し、質問に答える。興味深い感想・意見や質問については紹介するだけでなく、コメントカードに教員が手書きでコメントを返している。双方向的コミュニケーションのみならず、学生のモチベーション維持への一定の貢献、ならびに教員が学生の反応を一定程度知ることができる点で利点があると考えられる。

（２）社会・臨床心理学専攻におけるFD活動への取り組み

各教員のFD活動の取り組み

教員個々の特筆すべきFD上の取り組みを“Ⅰ．「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会”、“Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト”、“Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み”に分けて記述し、その成果を報告する。

香月菜々子

Ⅰ．「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

● 5月 教育相談員研修会：

主に臨床心理士が教育相談員として勤務する台東区立教育支援館にて、描画を用いた心理アセスメントについて研修を行った。現場の心理士との意見交換を行い、現場で求められている心理士としての技能を、大学および大学院等の教育機関にて培うにはどのような工夫が必要なのか、改めて見直す機会となった。

● 9月・12月・3月 ロールシャッハ・テスト研究会：

ロールシャッハテストを用いた面接事例の検討を行う研究会に参加し、心理アセスメントの実際をめぐる教育の在り方について、有益な知見を得ている。

● 9月・3月 絵とことば研究会：

2013年より現役臨床心理士を中心に発足した研究会を主体として、心理臨床家を主たる対象とした講演会の共同企画を継続しているが、これまでの活動を見直し、臨床現場における描画の活用とそのための教育の在り方をめぐり活発な議論が交わされ、今後の心理臨床教育の方向性を見出す貴重な機会となった。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

大学生のメンタルヘルスのテキスト作成について、現在出版社と検討中。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、臨床心理士のキャリア研究を行うことで、学部・大学院での学びの効果とその後の職業選択の在り方について、インタビュー研究を継続して担当した（研究代表：古田雅明准教授）。

加藤美智子

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

学部のFD講演会・研修会に参加。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

教育心理学、コミュニケーション、カウンセリングの知識を総合してカウンセリングを指導するために、プリントではあるが教材を試作し、授業で使用した。臨床の知識と演習をつなげながらの授業テキストはさらに検討しなければならない。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

学生の心理表現を見立てるために、描画と学生の相談について研究会を、一日研修を三回（10

月、11月、2月）主宰した。

田中 優

- I. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会
 - ・学部 FD 研修会
- II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト
 - ・授業内で使用する資料
- III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み
 - ・manaba による毎回の授業アンケート

西河正行

- I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会
 - * 7月10日（金）から18日（土）（7泊9日）、CROSS CULTURAL COMMUNICATION INTERNATIONAL PERSON-CENTRED WORKSHOP（13-19th of July, 2015 Pécs, Hungary）に出席し、海外のエンカウンター・グループの実際について知見を得た。
 - * 7月22日（水）から30日（木）（7泊9日）、下記のホノルルで一般市民対象に実施されている mindfulness のグループ、3か所を訪問して、グループ運営について知見を得た。
 - 1; A Mindful Weekend on the Ridge Lead by Xuan and Thanh Huynh
25-26July(Saturday and Sunday) 10:00 AM- 3:00 PM
Place:Hawaii Loa Ridge Park, end of Puu'Ikena Drive,East Honolulu
 - 2; Bodhi Tree Meditation Center Mindfulness meditation
27,July(Monday) 6:30pm with Joe Bright
22,July(Wednesday) 6:30pm with Pat Masters. Free to the public.
Address: 654 Judd Street in Liliha
 - 3; Mindfulness Meditation in Honolulu
23,July(Thursdays) from 6 to 7:30 PM.)
 - * 9月18日、神戸国際会議場で行われた日本心理臨床学会第34回秋季大会において、口頭発表シンポジウムBの司会を務めた。内容は心理検査に関する発表であり、近年の動向を知る上で非常に参考になった。
また、同日、同大会で行われた広報委員会企画シンポジウムにおいて、指定討論者を務めた。内容は心理臨床家の成長に関するものであり、臨床指導を考える上で貴重な機会となった。
 - * 11月8日、大正大学で行われた日本ロールシャッハ学会第19回大会において、事例発表のシンポジウム座長を務めた。内容は視線恐怖等のロールシャッハ検査に関する発表で、非常に参考になった。
- <主な成果> 学会、研修会では、心理臨床の新しい動向について知ることができた。大学院「臨床心理学特論」、「臨床心理査定演習A」、「コミュニティ・アプローチ特論演習」、学部「グループワークB」の参考となった。

『キャリア心理学セミナー』に関する授業研究に基づき、これまでの成果を大妻女子大学人間生活文化研究にまとめることができた。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

特になし。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

『キャリア心理学セミナー』に関する授業研究に基づき、これまでの成果を大妻女子大学人間生活文化研究にまとめることができた。また、実際に授業実践を通して、学生が自らの成長を実感し、これからのキャリアを考えさせる場を提供できた。

<論文>

1) 西河正行・八城薫・向井敦子・古田雅明・香月菜々子 (2015). 心理学教育を通じた社会人基礎力の育成 大妻女子大学人間生活文化研究 25, 1-14.

福島哲夫

I．企画あるいは参加した教育関連の研修会

1) 全学FD研修会に参加

開催日：2015年6月26日 テーマ：主体的な学習を促すために

2) 学部FD研修会

開催日：2015年12月11日 テーマ：「授業をより良くするためのTips」

その他、学部・大学主催の研修会にはほぼ毎回出席した。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) 学部ゼミおよび専門科目「社会・臨床心理学研究法」、さらに卒論において役立つ『臨床現場で役立つ質的研究法』（新曜社；印刷中）を、編著者として企画・執筆・編集した。

2) 学部ゼミおよび卒論指導に役立つカウンセリング実技ビデオを収録・編集した。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 3年次ゼミにおいて、学生の意欲を促進するために、春休みの課題として、文献紹介とその購読を課したり、4月から連続試験をして、その優秀者を表彰したりした。

2) 専門科目「社会・臨床心理学研究法」において、学生たちの興味と勉学を促進するために、英語の最新論文を紹介したり、解説して、実際の研究にもつなげた。

古田雅明

I．企画あるいは参加した教育関連の研修会

4月～年6回 大学院修了生や臨床心理士の研修会である多摩精神分析セミナーの講師を務め、フロイトの技法論について講義を行った。

7月 大学院生および臨床心理士向けの多摩精神分析セミナー特別研修会「学会発表・論文投稿 はじめの一步」の司会を務めた。

11月 平成27年度信州大学農学部メンタルヘルス講演会 就活に役立つ!!コミュニケーション基礎講座で講師を務め「意外と見える相手の気持ち・なかなか見えない自分の気持ち」と題して学部生と院生向けの講演をした。

12月 多摩心理臨床研究室3周年学術集会において、臨床心理士による事例研究発表のコメンテーターを務めた。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

乾吉佑監修／横川滋章、橋爪龍太郎編著 『生い立ちと業績から学ぶ精神分析入門～22人のフロイトの後継者たち』創元社において、フェアバーンとタスティンの章を執筆した。大学院の臨床心理基礎実習などで活用された。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、「心理学教育を通じた社会人基礎力の育成」について研究を行った（研究代表：西河正行教授）。

人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、「心理臨床および栄養教育における臨床的介入への実地指導に関する研究」について研究を行った（研究代表：福島哲夫教授）。

人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、「臨床心理士のキャリア形成に関する基礎研究」について研究を行った（研究代表：古田雅明）。

人間生活文化研究所の戦略的個人研究の研究助成を受け、「医療領域における臨床心理実習のルーブリック評価に関する研究」について研究を行った（研究代表：古田雅明）。

堀 洋元

I. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

FD委員会の一員として学部FD研修会「授業をより良くするためのTips」を企画した。ご発表いただいた先生方から貴重なアイデアを伺う機会となり、多大な刺激を受けた。自分が担当する授業を組み立てる際の参考になった。

日本社会心理学会第56回大会（10月31日・11月1日：東京女子大学）ワークショップ「社会心理学と社会調査法の接点、その相互貢献について考える」に参加した。社会調査士資格に関して、専攻カリキュラムの将来構想を検討する上で有用であった。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

独自にスライド、あるいは配布資料を作成して、授業時に活用した。とくに統計解析の資料は4年次の卒業論文の執筆まで必要不可欠な参考書となるため、再利用しやすさを念頭に置いて作成した。講義用の配布資料は、各回で同一フォーマット（A3用紙1枚）に収まるよう心がけて作成した。

事前学習用に紙媒体の資料をスライド化してナレーションを入れたものを作成し、授業欠席者や再学習しやすいよう配慮することを試みた。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

授業研究を行っている研究者とディスカッションを行い、アクティブ・ラーニングの工夫や学生が主体的に授業に取り組むためのアイデアを情報交換したことを実践できた。いかに授業内容を欲張り過ぎずに、消化可能な知識を学生に与えていくかについて、改善しつつ取り組んでいきたい。

向井敦子

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

2015 年 12 月 11 日 FD 研修会 「授業をより良くするための Tips」

話題提供：「単位の実質化にむけた授業時間外の学習時間を確保する工夫」

その他、学部・大学主催の FD 研修会にはほぼ毎回出席した。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 学部共通科目「心理学概論 I」および、教職科目「教育心理学」において、毎回パワーポイントで作成した資料を提示し、その一部を穴埋め形式で学生に配布した。
- 2) 「社会心理学基礎セミナー II」において、錯視実験のマニュアル、レポートの書き方、レポートの採点ポイントの資料を配付した。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 講義科目においても、毎回、宿題を課題として呈示した。その日のポイントをまとめる復習と、次のテーマに関する用語調べの予習を行わせた。それをレポート提出時に提出させてチェックし、コメントして返却した。学習時間の確保をねらう試みである。
- 2) 毎回の授業でコメントシートに記入させた。その内容を授業参加度としてチェックした。次の授業で教員がコメントして、復習とした。
- 3) 半期の授業で 2～3 回レポートを提出させ、コメントをつけて次週に返却してフィードバックした。授業への取り組みを評価に含めると同時に、学習内容を定着させるためである。同時に 14 週目に試験を行い、15 週目に返却して解題を行った。レポートも試験も授業の一環であることを明確にして、より積極的に授業に取り組ませるためである。
- 4) 授業への積極的な参加を促すために、適宜、問題を提示して、回答を小グループで討議させて、その内容を発表させた。教員が机間をまわり、討議のポイントをサポートした。

八城 薫

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- 1) 全学 FD 研修会「主体的な学修を促すために」

日時：2105 年 6 月 26 日

場所：多摩校 人間関係学部棟 1 階 7114 教室

- 2) 全学 FD 研修会「大学における障害のある学生に対する差別禁止と合理的配慮」

～障害者差別解消法の施行で大学に何が求められるのか～

日時：2105 年 12 月 4 日（金）16:30～18:00

場所：人間関係学部棟 1 階 7114 教室

- 3) 学部 FD 研修会「授業をより良くするための Tips」

日時：2015 年 12 月 11 日（金）

場所：人間関係学部棟 3 階 7348 教室

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) サイエンス社「質問紙調査と心理測定尺度」（第 10 章「卒業論文・レポートの書き方」）増版見直し

- 2) PC ソフトを活用した質的臨床研究法（計量テキスト分析の章を担当）
- 3) 社会心理学調査研究法一連の資料の改訂
- 4) キャリア心理学セミナー OG インタビュー調査実施要項および資料の作成
- 5) 基礎統計学（推測統計）エクセル版練習問題ファイルを作成

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 新入生アンケートの作成と実施
- 2) 「基礎統計学Ⅰ」プレースメントアンケートの作成と実施

「基礎統計学Ⅰ・Ⅱ」「社会心理学調査研究法」「キャリア心理学セミナー」はチームティーチングのため、授業前後に授業会議を実施して進行状況や内容を確認しながら行われました。

- 3) 授業評価アンケートの実施

2. 人間福祉学科

人間福祉学科では、社会福祉士、精神保健福祉士国家試験受験資格取得及び介護福祉士資格取得を柱とした体系的なカリキュラム編成を組んでいる。社会福祉士国家試験受験資格取得課程は、人間福祉学専攻、介護福祉学専攻の両専攻の学生が履修可能で、例年 70～90 名の学生が履修している。精神保健福祉士課程は人間福祉学専攻の学生が履修可能で例年 10～20 名が履修している。介護福祉士課程は介護福祉学専攻の学生 30 名程度が学んでいる。社会福祉士、介護福祉士養成カリキュラムは平成 21 年度から、精神保健福祉士養成カリキュラムは平成 24 年度から改正され、改正に合わせた科目編成を実施している。

学生の卒業後の進路はさまざまだが、どのような進路を歩む学生にも、本学科での学びを通して確かな倫理、知識、技術に根差した実践力を涵養し、福祉現場や就職先の企業等で活かせるよう教育体制を組んでいる。また、国家資格取得を希望する、しないかにかかわらず、個々の学生の力を活かせる専門性の涵養を目標に置いている。そのため、講義科目はもちろん、演習科目や実習の進め方においても工夫をこらしているほか、養成カリキュラム以外では 1 年次からゼミ形式の授業を取り入れ、大学での学びや卒業研究に向けた素地づくりに力を入れている。

1) 科目担当者打ち合わせ会議

本項では、少人数クラスで複数教員が各クラスを担当する演習系科目について報告する。厚生労働省の示す社会福祉士養成カリキュラムでは、応用力と実践力を高め、個別指導をより充実するため、実習・演習系科目は 1 クラス 20 人以下で授業を行うよう指導されている。

①の相談援助実習指導（Ⅰ・Ⅱ）は 2 年前期及び後期、相談援助実習事前指導・事後指導は、3 年次の夏期休暇か春期休暇に実施する相談援助実習の事前準備と事後学習の時間であり、実習に出る時期によって開講時期は異なる。実習先は障害児・者施設、児童施設、高齢者施設、行政機関や民間の相談援助機関など多種多様である。いずれの施設・機関においても利用者の個別ニーズに専門職として対応する資質を身につけることが前提であり、実習に向けた少人数制の事前・事後指導を通した学生への個別指導がもつ意味は大きい。

このことは、資格取得課程とは別に開講している社会福祉学基礎セミナーⅠ・Ⅱ（1 年次前期・後期）、介護福祉学専攻における介護技術系科目、さらに介護実習や精神保健福祉実習の指導科目にも言える。

少人数制の授業は多くのメリットを生むが、同一授業を複数教員で担当するため、担当教員が共通認識をもって各クラスで授業に当たる必要があり、授業担当者間での打ち合わせが欠かせない。各教員の個性を生かして個々の学生との交流にもとづいた授業展開が期待できる反面、各回の進行、成績評価等の点でバラつきが生じる可能性もあるため、授業期間開始前や終了後だけでなく、期間中であってもこまめな情報交換や打ち合わせを実施している。

①相談援助実習指導及び事前・事後指導【嶋貫 真人】

本学科の両専攻ともに、社会福祉士受験資格取得課程の単位を取得することは卒業要件とは

されておらず、1 年後期に開催される同課程の履修説明会を聞いたうえで、履修希望票を提出した者だけが 2 年次以降の同課程に進むことになっている。そして、同課程として開講されている多くの科目の中でも特に重要な位置を占めるのが、3 年次に履修する「相談援助現場実習」である。

学生にとって、児童福祉施設・高齢者福祉施設等の各福祉現場の業務について具体的なイメージを描くことは難しいため、2 年前期の「相談援助実習指導Ⅰ」の授業では、障害者福祉・児童福祉・高齢者福祉等の各福祉現場で相談援助業務にあたっておられる職員の方をゲストスピーカーとしてお招きして、“悩み”や“戸惑い”といった本音も交えながら、現場実践者の生の声を聞いてもらう時間をもうけている。また、2 年生の夏休みを利用して福祉現場でのボランティア活動体験を受講者全員に課しており、サービス利用者とコミュニケーションをとることから得られる確かな“手応え”というものを、この機会に知ってもらうことを目指している。そして、このようなプロセスを経て、それまで漠然としたイメージとして描いているだけだった「福祉援助」というものが、徐々に現実的で具体的な目標として見えてくるようになり、同時に卒業後の進路と結びつけて考え始めるようになるのである。

2 年後期の「相談援助実習指導Ⅱ」では、1 クラス 20 以下の小人数で編成された授業の中で、現場実習において要求される実践的な能力(職場のモラルに従うこと、ケース記録の書き方等)を学ぶことになる。この科目は複数のクラスが同時に進行する形式をとるため、各クラスでの教授内容や学生に対する要求水準、成績評価の方法等にバラつきが生じないよう、担当教員同士が常に綿密な協議を重ねながら授業を進めていくように工夫している。

3 年次の「相談援助現場実習」に向けた「事前・事後指導」の履修課程は、夏休みに実習を行なう学生と春休みに行なう学生とで、カリキュラムの進行のタイミングが異なってくるが、いずれのグループにおいても 20 名以内の少人数制クラスで実習前の「事前指導」、および実習終了後の「事後指導」を行なうことになる。「事前・事後指導」のいくつかのクラスを非常勤講師に依頼しているため、授業担当者間で指導内容のコンセンサスを維持していくことが難しくなりつつあるが、そのようなマイナス面は実習担当助教による非常勤講師との緊密な連携や、毎月開催される「実習委員会」の場で補うようにしている。なお、実習中の巡回指導をお願いしている 2 名の非常勤講師との間でも、授業担当者懇談会や日常のメールでのやり取りを通じて十分な意思疎通ができており、非常勤講師を含む教員全員が学生指導に関する情報を共有することができるようになっている。

②相談援助演習【井上 修一】

実践能力の高い社会福祉士になるためには、テキストを介した知識の習得を基礎にして、実習や演習科目のなかで、テキストで学んだことを社会福祉の実践に応用していく経験が不可欠となる。

相談援助実習では、以下の 3 つを学びのねらいとしている。

- 1) 相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得すること
- 2) 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に

対応できる能力を習得すること

3) 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解すること

本学においても、社養協のガイドラインや厚生労働省のシラバスに沿った内容を踏まえ、よりきめ細かい対応ができるように努めている。そのため、相談援助演習をⅠ～Ⅴに分け、それぞれ段階的に、また共通シラバスをもとに授業展開している。ちなみに相談援助演習Ⅰ・Ⅱはミクロ、Ⅲはメゾ、Ⅳはマクロ、Ⅴは統合的な位置づけとなっている。

また、実習と演習の連動性を意識し、演習での体験が実習で活きるようにと意識され、経験の厚みを増すことにつながっている。各演習を取りまとめるのは常勤の教員であり、非常勤講師との情報共有が丁寧になされるだけでなく、それぞれ工夫された教材を持ち寄り、学生にとってわかりやすい授業展開を試みている。

③社会福祉学基礎セミナーⅠ【尾久 裕紀】

本セミナーは人間福祉学科1年生を対象とし、前期に行われる初年度教育の第一歩として位置づけられる。大学に入学したばかりであるため、社会福祉とは何かについて学ぶとともに、大学生としての意識をもち、学ぶことの基礎を身につけることを目標としている。15人前後の小グループで、教員が1名担当する。

初回にオリエンテーションを行った後、学生達がキャンパス内を歩き、皆に紹介したい場所を記録し、発表するというキャンパスツアーを行う。これによって学生にも早く学内を知ってもらうことができる。

授業は3つのテーマに分かれていて、「テーマ1:福祉の扉を開こう」では大学で福祉を学ぶ意義、その心構えを各教員から聞く。「テーマ2:利用者、援助者両方の立場で考察してみよう」では、2、3人一組になり、図書館ツアー、視覚障害体験、高齢者体験、車椅子体験を行う。「テーマ3:福祉の現場を、自分の目で見て学んで来よう」では、東京都児童相談センター、愛光女子学園、日本点字図書館、国立ハンセン病資料館などの施設を見学に行くものである。いずれも「体験」を中心に福祉の実像をさまざまな角度から捉え、福祉のイメージを広げるために、毎回「仮説」「検証（事実）」「結果」「考察」という構成でレポートを作成する。またテーマごとにグループ内で一人ずつ発表し、テーマ3では最終日に1年生全員が集まり、その中でグループごとに施設見学の発表を行う。

社会福祉学基礎セミナーⅠで目的意識をもって講義を聞き、体験し、見学し、それを毎回文章化し、考えるというプロセスを通した学びが、後期の社会福祉学基礎セミナーⅡに繋がる。したがって社会福祉学基礎セミナーⅠとⅡの連携が重要であることを今後も意識していきたい。



キャンパスツアーで記録したテラス



施設見学の発表会

④社会福祉学基礎セミナーⅡ【藏野 ともみ】

本セミナーは人間福祉学科 1 年生を対象とし、「社会福祉学基礎セミナーⅠで身に付けた大学で自ら学ぶための基礎力を踏まえ、各自が福祉に関する研究課題を持ちそれに取り組む方法を学ぶ」ことを目的としている。全てのゼミが「読む・聴く・書く・話す・考えるの基礎訓練」を共通テーマとして、最終的には、グループで一つの研究課題を見出し、プレゼンテーションを行うこととしている。昨年度までは、その最終的な成果を各ゼミ代表グループがパワーポイントを使ったプレゼンテーションを行うという方法を取ってきたが、今年度はそれに加え、全てのグループのポスター発表を行い、学生同士で質疑応答する機会を設けた。社会問題でもある「子どもの貧困」「高齢者と犯罪」「ブラックバイト」、さらに「盲導犬」「国際問題」「健康づくり」「安楽死・尊厳死」「恋愛と化粧」等、多様なテーマでの発表が行われ、質疑応答も活発に行われた。

本セミナーは 5 名の専任教員と 2 名の非常勤講師が担当し、授業目標及び評価基準、授業の進め方、取り扱う教材、学生への自宅学習課題等について情報交換を行い、共通に取り組む点とオリジナルで取り組む点について分けて実施している。

今年度の新たな取り組みは、教員も他のゼミでどのようなテーマが取り上げられているのか、どのような指導がなされているかを知ることができる機会となった。

今後も学生のフィードバックを参考にしながら、教員間での意見交換を行っていききたい。



研究発表の様子



ポスター発表の様子

⑤介護実習及び介護総合演習【金 美辰】

平成 21 年度より、新しい介護福祉士養成教育カリキュラムに移行した。これに合わせ、介護実習は、「実習施設・事業等（Ⅰ）」と「実習施設・事業等（Ⅱ）」に分類された。前者は、多様な施設で利用者の暮らしを理解することが目的である。後者は、全実習時間である 450 時間の 3 割を占め、介護過程を展開することを目的としている。介護福祉学専攻では、「介護実習Ⅰ」から「介護実習Ⅳ」までの 4 段階に分けて実施している。「介護実習Ⅰ」は、2 年次に介護老人保健施設で 12 日間実施する。「介護実習Ⅱ」は、3 年次に障害児・者施設で 12 日間、「介護実習Ⅲ」は、3 年次に介護老人福祉施設で 28 日間実施する。「介護実習Ⅳ」は、4 年次に居宅介護サービス事業所で 5 日間を実施する。介護実習は、2 年次から 4 年次までの間に、計 57 日間、456 時間実施される。本専攻では、介護福祉士養成カリキュラム変更後、実習の仕組みは変わらず、「介護実習Ⅰ」「介護実習Ⅱ」「介護実習Ⅳ」を「実習施設・事業所（Ⅰ）」とし、「介護実習Ⅲ」を「介護施設・事業等（Ⅱ）」に位置づけた。これに伴い、従来以上に実習の目標を明確化したため、各段階の実習目標を達成できるように、実習関連科目の連携を重視した組み立てで授業を展開し、6 年が経過した。実習の事前及び事後指導科目として、「介護総合演習Ⅰ～Ⅳ」を 2 年次前期から 3 年次後期に配当している。「介護総合演習」では、グループ演習を通して、実習施設の法的根拠や目的、人員配置、利用者像、サービス内容などの理解を目指すほか、実習後のフィードバックを行う。介護過程の展開を目的とする「介護実習Ⅲ」の終了後に開講する「介護総合演習Ⅲ」では、実習で展開した介護過程をもとに、ケーススタディを行い、受け持ち利用者の状況や状態に応じた、学問的・科学的根拠に基づく介護のあり方の視点を養う。また、この成果を「介護総合演習Ⅲ」の授業で発表し、ケーススタディ報告書としてまとめることで、情報の共有や介護のあり方についての学びを深める。

⑥介護技術科目【壬生 尚美】

生活支援技術（介護・家政）は、介護福祉士養成カリキュラムの中でも実践力をつけるための中核となる科目である。「尊厳の保持」「自立・自律の支援」の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援技術を用いて、利用者が安全・安楽・安心できる技術・知識を習得することをねらいとしている。1 年次から 3 年次までの配当年次に、介護実習時期（2 年次夏季・春季、3 年次夏季）との関連性や他教科との関連も含め、何をどのように教授していくかが重要となる。1 年次後期に、家政学（栄養調理・被服）に関する科目のほか、利用者の「起き上がる」「座る」「立ち上がる」「歩く」といった日常生活の基本動作や介護動作の基本を中心に学ぶ。2 年次は、移動・更衣・食事・排泄・清潔等に関する生活支援技術を学び、3 年次は、心身の状態や生活環境に応じたケアやターミナルケアを中心に学んでいる。授業担当教員間でズレのないように教授内容や方法について事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業の質の向上に努めている。授業では、講義で習った理論に基づく根拠を踏まえ、学生が利用者、介護者、観察者の立場から技術を実施・評価し、実践力を高めている。

2) 福祉実習の実習発表会、福祉実習教育懇談会【実習委員長 嶋貫 真人】

平成 27 年度の福祉実習発表会・教育懇談会（人間関係学会福祉分科会）が、平成 28 年 1 月 28 日に開催された。

今年度も昨年とまったく同じ形式で、前半の部が実習を行なった学生による体験発表、後半の部が卒業生講話（ただし、教員のみ教育懇談会に出席）という構成であった。

実習発表会では、社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の各課程で実習を行なった学生の中から選出された 9 名が、スライドを使って実習中の学びについて報告を行なった。例年のことではあるが、事前準備の段階で綿密に発表の構成を企画し、原稿の文章を練り上げ、見やすいスライドを作成するという一連の作業をこなしていくことになるが、このような発表準備のプロセスそのものが自らの学びの意味を問い直す作業であると実感する。したがって、発表を行なった学生自身はもとより、聞いている下級生にとっても、現場で利用者と触れ合うことの重みについて、あらためて理解を深める機会となっているのではないかと思う。

当日は学生たちが実習を行なった施設・機関から多くの指導者の方においでいただき、報告の内容に熱心に耳を傾けてくださった。この発表会に参加される施設指導者名簿の中に、本学の卒業生のお名前が年々増えきていると感ずるが、こんなとき「大妻の福祉」の伝統が福祉現場の中に少しずつ、確かな足場を形成してきていることを実感する。

後半の部では、障害児の相談機関、老人保健施設、精神科病院等、さまざまな分野で活躍している 5 名の卒業生を招いて、それぞれの職場の様子、学生時代の思い出、そして社会福祉士試験に向けた勉強法等に関するお話をしていただいた。これも毎年の恒例行事となっているが、今年度からは一般企業に就職した先輩もゲストに加えて、現在の職場を選んだ経緯などについてお話を聞くことができた。終了後の感想を記した学生アンケートでは、「学生時代の勉強が社会人になってからもおおいに役立っているという先輩の言葉を聞いて、非常に勇気が湧いた」という言葉が見られた。このような機会をもうけていくことが、在学生の学習への取り組みにおいて重要な動機づけとなっていくのではないかと思われた。

一方、福祉教育懇談会では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の各分科会に分かれて、実際に実習指導にあたられた施設・機関の指導者の方と活発な意見交換を行なった。このような話し合いの場を利用して施設指導者と教員とが「顔の見える関係」を築き上げていくことが、充実した現場実習を実現していくうえで極めて重要な意味をもつのではないかと思われた。

3) 国家試験対応及び受験対策講座【国家試験対応委員 藏野 ともみ】

本学科では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の養成を行っており、3 つの国家試験に向けて、年間を通して 1 年生から 4 年生までを対象に段階的な受験対策及び受験事務手続きを行っている。

受験対策として実施している内容は大きく①模擬試験、②対策講座、③国家試験対策科目の設置、④個別学習指導及びグループ指導、の 4 つがある。

また、受験事務手続きは、4 年生に対し受験手続きの説明会や書類の作成だけでなく、受験までの学習の進め方や前日や当日の心構え等について話しをする機会としても重視している。

今年度の受験対策の実施内容について以下の通り報告する。

① 模擬試験の実施

社会福祉士模擬試験については、1年生から対象としており、特に1年生は前期が終わる7月に「力試し」として、学び始めている科目の問題を教員が選りすぐり実施している。しかし、1年生の11月の模擬からは、2～4年生と変わらない問題を同じように受験していく取り組みを行っている。そのため模擬試験後の学習としては、各学年に応じた勉強方法と課題を提示し、提出された課題については学生個別の学習進捗状況に応じたコメントを付けて返却している。2～4年生には年間4回(4月・7月・10月・11月)の模擬試験を実施している。

精神保健福祉士模擬試験については、主として精神保健福祉士コースの学生3～4年生を対象として、年間4回の模擬試験を実施している。社会福祉士同様に学年別及び学生個別の学習進捗状況に応じた課題を提示し、指導を行っている。

介護福祉士については、現2年生の卒業時より国家試験化が予定されており、本学科では現3年生までの卒業時共通試験(必須)も視野に、年間3回の模擬試験を実施している。

② 対策講座の実施

社会福祉士については、4年生を対象に本学科専任教員による社会福祉士主要科目の「受験対策講座」を授業外に実施している。前期に「基礎編」として、学生の模擬試験の正答率の低い科目、後期に「応用編」として、学生の点数が伸びる問題数の多い科目や直前に押さえておきたい科目を、それぞれ6～7科目に絞り実施している。本対策講座は学生の自主的な申し込みによるものであり、今年度も4年生の全受験者のうち85%が受講した。

③ 国家試験対策科目の設置

学科の正規授業の中に、前期・後期ともに2科目ずつ国家試験対策科目を設置している。

④ 個別学習指導及びグループ学習支援

ゼミを主母体として各教員による個別指導とグループ学習支援を実施している。

また、精神保健福祉士コースや介護福祉学専攻では、それぞれのコースや専攻単位で受験対策を行っている。

さらに、学期中はもちろん、夏季、冬季、春季の長期休暇中にも自習室を確保し、学生が各自の勉強スケジュールに合わせて学習できる環境を整えている。

4) 地域連携プロジェクト

①「誰もが子どもを見守り隊プロジェクト～皆で子育て支援をする地域づくりを目指して、できることから始めよう～」

【藏野ともみ】

本プロジェクトは、厚生労働省からの呼びかけに応じ、平成25年度から「児童虐待防止啓発」というだけでなく、「積極的な子育て支援を呼びかける活動」を行うことを目的とした取り組みとして継続している。本年度は、これまで主な対象としてきた「次代の親となり得る世代の大学生」だけでなく、高校生や中学生、地域住民にも対象を広げ、オリジナルキャラクターの缶バッジを作成し、オリジナルリーフレット、手作りのオレンジリボンとともに配布する機会を設けた。さらに、障害児や病児等の配慮が必要な子どもに対する保育や教育の実情を学ぶ

機会を設け、子育ての抱える課題について多様な視点から考えることで、自分たちに「今」できること、「これから」できることを話し合った。

活動は学内外に渡り、まず始めに、これまでの活動を先輩から後輩に引き継ぎをしながら行った。オープンキャンパスや大学祭等では、高校生や中学生、その保護者や地域住民に対して、活動の主旨と児童虐待の現状、さらに見守り隊は児童虐待の予防を目指していることをお話しする機会を繰り返し設けた。また、妊娠中の女性やその家族とお話しをさせて頂く機会や、障害児を抱える家族の思いを聴く機会を持つことができ、それぞれの立場で抱える「子育てのしづらさ」「子育てへの不安」「子育ての孤独」を知ることができた。

障害や病気によっては、子どもの成長や言動が同年齢児と同じではなく、そのために様々な制限が加えられたり、特性に合わせた対応が必要になったりすることがある。それらを知らない人から見ると、児童虐待と誤解をされることもある。周囲の無理解が、場合によっては本当の児童虐待に繋がることもあり、追い詰められていく家族の孤独を知るだけでなく、そのようにならない、一歩先を行く取り組みが必要だと実感している。

虐待は「特別な誰か」が起こしてしまうのではなく身近なことであること、さらに「子ども」だけ、「親」だけでなく、「子育て」そのものをどの様に見守るかを検討していくことが、私たちの取り組みの次の課題である。病気や障害を含めて、子どもに個性がある分だけ、子育ても個別性があり、多様な子育てがあることをさらに理解し、広めていきたい。



(1) 人間福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」された教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた。

①町田 章一

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 第24回 ダンスセラピー研修講座(協会会長として参画)

日時: 2015(平成27)年6月20日(土)~21日(日)

場所: 大妻女子大学千代田校(東京都千代田区)

主催: 日本ダンス・セラピー協会

(2) 第25回 健康運動指導士会 埼玉県支部研修(理事として参加)

日時: 2015(平成27)年7月18日(土)

場所: 埼玉共済会館(埼玉県さいたま市)

主催: 健康運動指導士会 埼玉県支部

(3) 芸術療法研修セミナー2015(理事、研修委員会委員長として参加)

日時: 2015(平成27)年8月1日(土)~2日(日)2日間

場所: 大妻女子大学千代田校(東京都千代田区)

主催: 日本芸術療法学会

(4) ADTA's 50 Annual Conference(パネリストとして参加)

日時: 2015(平成27)年10月22日~22日

場所: Hyatt Regency La Jolla, San Diego, CA, U.S.A.

主催: American Dance Therapy Association

(5) 第24回 日本ダンス・セラピー協会 学術研究大会(協会会長として参画)

日時: 2015(平成27)年10月31日(土)~11月1日(日)

場所: 大妻女子大学千代田校(東京都千代田区)

主催: 日本ダンス・セラピー協会

(6) 第47回 日本芸術療法学会大会(理事、研修委員会委員長として参加)

日時: 2015(平成27)年11月28日(土)~29日(日)

場所: 目白大学(東京都豊島区)

主催: 日本芸術療法学会

(7) 第25回 ダンスセラピー研修講座(協会会長として参画)

日時: 2016(平成28)年3月12日(土)~3月13日(日)

場所: 大妻女子大学(東京都千代田区)

主催: 日本ダンス・セラピー協会

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

授業で用いるための教材、配布資料を改定した。また、「人間関係総論Ⅲ」の授業においては、学生から毎回寄せられる感想や質問に対し、それらを紹介したり回答した資料を毎回作成し、次の授業で用いた。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

他者が行なう講義や講演に可能な限り出席し、「良い講義とはどのようなものか」について、学生の立場から検討する努力をしている。

世代による文化や常識の相違を認識するために、学生世代の生活、思想、行動などについての情報獲得に努力している。

②小川 浩

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- (1) 人間関係学部 FD 研修会に参加した。
- (2) 全学 FD 講習会の障害者差別禁止法と障害学生対応については、企画、講師依頼、内容の連絡調整などを行った。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- (1) 障害者支援と障害者自立支援制度Ⅰ・Ⅱでは、例年通り、授業で使用する PPT をリニューアルした。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- (1) manaba でプリントを配布し、予習・復習をしやすくした。
- (2) 海外（マレーシア）から来日した共同研究者に障害者支援と障害者自立支援制度Ⅱ、社会福祉学セミナーⅡ、Ⅳ等で特別講義を行ってもらったところ、想像以上に学生が興味関心を示し好評であった。今後も、国際化に関する小さな取り組みを行いたい。

③嶋貫 真人

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

- (1) 6月26日（金）全学 FD 研修会 「主体的な学修を促すために」に参加
- (2) 12月11日（金）学部 FD 研修会「授業をより良くするための Tips」に参加

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- (1) 「社会福祉学セミナーⅠ～Ⅳ」では、昨年度に引き続き、社会保障の各領域から題材をとった初学者向け教材の増補・改訂作業を行ないました。このプリントは、当該テーマに関する問題の所在を提示するための資料であると同時に、末尾にいくつかの設問を置いてゼミでの活発な議論を促す効果もねらっています。福祉系学部生のために、法学初学者にわかりやすく、なおかつ学生の興味を引きそうなテーマを用いた教材となるよう心がけているものです。

(2) 社会福祉士国家試験を受験する学生のための模擬問題とその解説（社会保障、低所得、福祉行財政、更生保護）について、最新の出題傾向をふまえた改訂を行ないました。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 講義形式の授業においてはほぼ毎回レジュメを配布し、授業の理解を助けるとともに、学生の復習の便宜となるように配慮しました。

(2) manaba を利用して学生からの質問を受け付け、双方向の授業となるよう工夫しました。

④丹野 真紀子

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 全学 FD 研修会に参加

開催日：2015 年 6 月 26 日（金）

テーマ：主体的な学習を促すために

(2) 学部 FD 研修会に参加

開催日：2015 年 12 月 11 日（金）

テーマ：授業をよりよくするための Tips

(3) 第 63 回日本医療社会福祉協会全国大会への参加

開催日：2015 年 5 月 29 日（土）30 日（日）

場 所：京都市勧業館みやこめっせ

テーマ：時代を貫く医療ソーシャルワークの実践

内 容：医療ソーシャルワークの根底にある価値、「一人ひとりが尊ばれる」「排除のない社会をめざす」を再確認し、医療ソーシャルワークの実践について学生の養成指導に関する示唆を得た。

(4) 日本ケアマネジメント学会への参加

開催日：2015 年 6 月 13 日（土）14 日（日）

場 所：横浜みなとみらい日本社会事業大学

テーマ：地域包括ケアにおけるケアマネジメントの価値と役割の再構築

内 容：日本老年医学会、日本老年社会学会、日本基礎医学会、日本老年精神医学会、日本老年看護学会、日本ケアマネジメント学会の老年 7 学会合同で開催された。地域包括ケアを進めていくに当たり、「ケアマネジメント」「在宅介護」と「在宅医療」「終末期ケア」などキーワードに 10 本の合同シンポジウムが開催された。21 本の合同ポスターセッションがあった。

口頭発表をし、介護支援専門員のスーパービジョンに関する質の高い方法について考えることが出来た。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

(1) 授業で用いるための教材、配布資料を改定した。当該科目は、「社会福祉援助技術論Ⅱ－A」「社会福祉援助技術論Ⅱ－B」「社会福祉援助技術論Ⅲ－A」「保健医療サービス」の 4 科

目である。社会福祉援助技術論の科目では、なるべく最近の現状に合った事例を提供するため、新しい事例を加えたり、既存の事例を制度改正に合わせて修正・加筆することを行った。また、「保健医療サービス」では、統計データや法令の改定及び廃止等への対応も行った。

レジメの使用は、教科書だけでは理解できない対人援助の実際をよりリアルに理解できるようにするために効果的であると考えている。

(2) すべての授業で、毎回フィードバックを書かせている。その用紙に書かれていた質問について次の授業で取り上げ、その質問に対する資料を別に作成し配布している。これを行うことで、前回の授業の復習にもなり、学生自身、自分の苦手分野に気付くようである。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 学生に課した個別課題に関しては、manaba の活用を試みた。学生自身が提出に慣れておらず、時間設定に間に合わないこともあったが、多くの学生が時間通りに提出できていた。また、課題については全員にコメントをつけて返却した。それにより、学生自身、できない項目の理由がわかり、再提出の際、かなりの改善が見られた。

(2) 社会福祉援助技術論と相談援助演習の関係は深い。担当していない相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴの授業進行状況を把握し、学生が演習と理論とを関連して学べるよう意識した。それぞれの担当者から、演習の進み具合や、演習で学生が困っている点などを伺った。そのうえで、講義の中で理論的に説明し、この理論と演習の意味を伝えることで、ソーシャルワークを机上の理論として理解するのではなく、身近に活用する技術として理解することができたと思う。

(3) 相談援助演習Ⅲでは、共通シラバスを作成し、教育内容の共通化、授業展開の共有化を試み、学生がどの教員が担当することになっても一定レベルの教育の質を確保できるよう調整した。

(4) 相談援助実習事前指導、事後指導においては、学生の個別作業も多く、学生間の格差が見られた。そのため、授業外でも学生が自由に相談できる場を提供し、学生の個別作業がしやすく、また、学生自身の力で乗り越えられるようサポートした。これにより、学生は自分で考えることの重要性、時間はかかってもできるという自信をつけ相談援助実習に臨むことができたと言っていたので教育的効果は高かったと思われる。

(5) ソーシャルワークの理論を理解するためには事例による全参加の学習を目指した。事例の見方、問題点の整理の仕方を学生自身が考え、多くの学生に板書してもらうことを通して、全員参加の事例研究となった。これは、社会福祉現場などの実践で活用することも意識している。

⑤蔵野 ともみ

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 平成 27 年度社会福祉士実習演習教員講習会「相談援助演習方法論Ⅱ」講師として参加
日時：平成 27 年 8 月 26 日（水）

場所：日本社会福祉士養成校協会事務局（東京都品川）

内容：本事業は、社会福祉士及び介護福祉士法に則り、日本社会福祉士養成校協会が厚生労

働省から委託を受けている「社会福祉士養成に関わる相談援助演習担当教員及び相談援助実習担当教員の講習会」である。今年度も「相談援助演習方法論Ⅱ」の講師を担当した。事例を用いた6回(90分×6回)の授業シラバスを提案し、演習の展開方法や学生指導の工夫点とポイントについて提示した。

(2) 平成27年度認定社会福祉士特別研修(集合研修)に講師として参加

日時: ①平成27年11月7日(土)～8日(日)、②平成28年1月10日(日)

場所: ①仙都会館(宮城県仙台市)、②TKP 仙台勾当台公園会議室(宮城県仙台市)

内容: 本事業は、2007年の社会福祉士及び介護福祉士法改正の際に付帯決議で示された専門社会福祉士に関わる研修であり、日本社会福祉士会に併設された認定社会福祉士認証・認定機構が主催するものである。今年度は「社会福祉実践における価値一知識と実践の融合」の講義を行い、演習「ピアスーパービジョンの手法を用いた事例検討」のファシリテーターとして参加し、受講者への助言・指導を行った。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

(1) 授業のレジメを単元毎あるいは全部を初回の授業で配布している。科目は、「精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉援助演習Ⅰ」「精神保健福祉援助実習指導」「社会福祉学セミナーⅠ・Ⅱ」「社会福祉学基礎セミナーⅡ」である。それらに加え、新しい制度や学生からの質問の対応については必要に応じて別途追加プリントを配布した。事前に配布することで全体像と予習・復習及びレポート作成の進め方を指示することをねらいとしている。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 相談援助技術に関わる演習科目の研究会の実施

相談援助の演習科目について他大学の教員と教授方法や教材についての研究会を実施した。今年度は、教材研究に立ち戻り、一つの教材をミクロからマクロレベルに展開する方法について検討した。参加者は8名で、平成27年9月3日(木)に大妻女子大学で行った。

(2) 精神保健福祉援助実習に関わる実習指導者との連携

今年度も当該科目の配属実習前に、全実習指導者(スーパーバイザー)に対して、実習生の大学での指導状況や学生の課題について、書類及び対面での個別打ち合わせを行った。

また、実習先主催の打合会に参加し(6月13日:社会福祉法人 豊芯会事務所)、他大学の教員及び学生、施設職員及び当事者の4者での打ち合わせ・見学を行った。

⑥上野 優子

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 課程認定校研究連絡会議「平成27年度全国研究集会・総会」

日時: 平成27年6月6日(土)・7日(日)

場所: 東京都日本レクリエーション協会

内容: 福祉レクリエーション・ワーカー課程認定校としての研修会

カリキュラムの一部変更に関する内容、ならびに学内審査に関する事項についての確認

(2) 第13回 東京都レクリエーション研究大会参加

日時：平成27年12月6日（日）

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

内容：レクリエーション活動と東京オリンピック・パラリンピック2020について関口尚志によるシンポジストの講演に参加した。また、5ブロックに分かれての具体的なレクリエーション活動の技法の講習を受講した。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

(1) レクリエーション実技の授業は、新しくポールウォーキングを導入し特に中高年層に対する歩行をするためのアドバイスについて検討した。

(2) 福祉レクリエーション・ワーカーの学内審査について、筆記試験ならびに実技テストについて、予想問題集を作成し受験希望者に解説を実施した。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 今年度はCDP担当ということもあり、事業とは別に企業（DeNA）に出向き特に2020年の東京オリンピックに向けた事業内容について研修を受けた。

(2) 今年度の体育祭は狭山台キャンパスが閉校したことに伴い、これまで実施された内容とは大きく変更となり、多摩キャンパス独自でのスポーツフェスティバル実施に伴い、半年間スポーツフェスティバルの実行委員の学生と共に企画・運営に大きく関わった。

(3) 多様な学生がいるので、昨年度に引き続き、集団での授業がなじめないなどの学生については、再度の個別授業を実施した。

⑦井上 修一

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 2015年度 足立区竹の塚地域学習センター主宰「アートセラピー」

足立区竹の塚地域学習センター主宰「アートセラピー」に参加

i 日時：平成27年12月6日（日）13：30～16：30

ii 場所：足立区西保木間2-5-10「昭和の家」

iii 内容：『アートセラピー&こころのコンサート』

シンガーソングライター橋本昌彦氏の講演とコンサート。教材として、橋本氏が葉祥明氏とともに執筆した『おたんじょうおめでとう』を挙げながら、それぞれの共著者の言葉を読みながら理解を深めた。子育て、母親、父親のあり方、子育てについての講演、音楽、交流会があった。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

i. テキスト：『介護福祉士国家試験解説集』中央法規、2015年

執筆担当：「人間と社会」「社会の理解」を分担執筆した。

授業名：本学科では当該科目なし。

内 容：担当した章では、国家試験の科目である「人間と社会」「社会の理解」を担当した。「社会の理解」では、日本国憲法をはじめとするわが国の法制度の歴史、憲法の中でも生存権の理解、福祉六法の成立過程、障害者自立支援法の成立年、社会福祉法のポイントなどを解説した。

また、「人間と社会」では、軽度認知症のある方の事例問題解説、社会福祉士及び介護福祉士法の第4章に定める義務と日本介護福祉士会の倫理綱領に基づいた解説を行った。作成した教材は授業等で知識を確認するために活用した。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

i. 「成年後見制度」の授業において、多摩市消費者生活センターの相談員を招き、多摩市における消費者被害の実態と対応策について講義してもらった。この取り組みは、今年で年目に入り、消費生活センターも今後継続して連携することを検討している。学生にとっては、多摩市の消費者被害の実態を知るだけでなく、社会資源を知るうえで意義があった。

ii. 相談援助実習・非常勤巡回指導講師との打ち合わせ

相談援助実習事前・事後指導場面において、2人の非常勤巡回指導講師と連携しながら学生指導を行った。担当学生が所属するクラスへの参加、事前面接、巡回指導、実習発表会への参加など、一貫して関わる機会を持ったことが充実した指導につながった。

⑧小林 哲也

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 12月11日(金)学部FD研修会「授業をより良くするための Tips」に参加

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

(1) 中央法規出版「2016 介護福祉士国家試験過去問題集」(介護福祉士国家試験受験対策研究編集)のうち、「社会の理解」を担当した。

(2) みらい「新・社会福祉士養成課程対応 就労支援サービス」のうち、「障害者雇用に関する法規」を担当した。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 相談援助実習指導Ⅰの取り組み

川廷教授のご指導の下、学生主体の授業運営をおこなった。例年、福祉機関への見学、ゲストスピーカーの講演などを実施しているが、今年度は学生自身が主体的に取り組めるよう準備段階から学生が関わり、授業運営も学生が主体的におこなうことで、授業への関心を高めるようにした。

(2) 介護福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」された教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた。

①佐藤 富士子

Ⅰ 企画あるいは参加した教育関連の研修会

全学FD研修および学部FD研修会に参加

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

昨年度使用したレジュメの内容について、不足部分を補う等の改訂作業をおこなった。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

学生の中には指定したテキストの購入をしないで授業を受けている者もいる。すべてレジュメで補うことはできないが、どの学生も最低限に身に着けることの必要な知識・技術は等の重要なものはプリントを配布している。

②尾久 裕紀

Ⅰ 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 日本産業カウンセリング学会で自主シンポジウムの企画

日時：平成27年9月4日（金）

場所：日本体育大学

内容：スーパービジョンとはどのようなものか、どのような役に立つのかについて理解し、さらにスーパービジョンを受ける際の準備、受けるまでの手順について知ることを目的として企画した。

(2) 日本産業カウンセリング学会でラウンドテーブルの企画

日時：平成27年9月6日（日）

場所：日本体育大学

内容：スーパービジョンの実際を知ってもらい、その必要性を理解してもらうため、公開スーパービジョンを企画した。

(3) 日本ダンスセラピー協会学術大会

日時：平成27年10月31日（土）～11月1日（日）

場所：大妻女子大学千代田キャンパス

内容：第24回大会の大会長として、11題のワークショップと4題のポスター発表、1題のシンポジウムを企画した。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- (1) 毎回オリジナルプリントを作成し、配布した。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- (1) manaba を活用し、オリジナルのドリルを作成し、実施した。
- (2) 授業の初めに前回範囲の確認テストを実施した。
- (3) 授業の積極的学びを推進するための工夫を試みた。(参考図書、文献の紹介など)

③壬生 尚美

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

開催日、場所、テーマ、内容

- (1) 第9回高齢者福祉研究大会アクティブ福祉 in 町田 '15

開催日：平成27年11月11日

場 所：町田市文化交流センター

テーマ：施設や事業所での介護現場、学校での研究や個人・グループによる研究など、小さな発見から大きな実践まで様々な取り組みを発表する場。

内 容：介護福祉専攻4年生2名が、3年次実施した介護過程のケーススタディからの学びを発表した。発表に際し、発表要旨・パワーポイントの作成、発表内容に関する助言・指導を行った。

- (2) 第57回日本老年社会科学

開催日：平成27年6月12日13日

場 所：パシフィコ横浜

テーマ：開かれた老年期の社会へ

内 容：「高齢者に関する定義の再検討」「超高齢社会の街づくり」「健康長寿とライフスタイル」「認知症予防の新展開」などの講演・シンポジウムが開催された。

- (3) 第23回日本介護福祉学会

開催日：平成27年9月26日27日

場 所：金沢市文化ホール

テーマ：地方から拓く介護福祉の未来～介護福祉・健康寿命と健康科学～

内 容：できるだけ自分らしく主体的に生きるために、介護が必要になった時の安心と予防の双方向の議論を講演・シンポジウムにより実施された。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

授業ではレジュメ・資料を単元毎に配布している。生活支援技術では、毎回チェックリストを活用し、各自の支援内容を振り返るようにした。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

担当科目の目的や対象者に合せて、講義形態や教授内容を踏まえた教授育方法について昨年

度の経験を踏まえて見直しを行った。講義内容を、各学生の関心・学びの状況に合わせて、内容を柔軟に変更するなど対応した。演習ではグループワークを多く取り入れ、授業内容の組み立て方や発表方法など変更することによって、より内容を深めることができた。

④金 美辰

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 第 57 回「日本老年社会科学会」

開催日：2015 年 6 月 13 日（土）・6 月 14 日（日）

場 所：パシフィコ横浜（横浜市西区みなとみらい 1-1）

(2) 第 23 回「日本介護福祉学会」

開催日：2015 年 9 月 26 日（土）・9 月 27 日（日）

場 所：金沢市文化ホール

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

授業では、レジュメを作成・配布している。授業と関連のある新しい制度の社会の動向等については、別途プリントを配布している。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

授業でフィードバックペーパーを活用し、個々の学生の理解度や知識、意識レベルを確認しながら授業を行っている。生活支援技術の授業では、学生が利用者・介護者・観察者の立場で、講義で習った介護の理論に基づいて、根拠を考えながら取り組めるようにしている。また、教員間で教える内容にズレがないように、事前に打ち合わせを行い、授業後にも教員間で振り返ることで、連携しながら授業の質向上に努めている。社会福祉学基礎セミナーⅡでは、授業が始まる前に、担当教員間で打ち合わせを行い、授業の調整を行っている。社会福祉学セミナーでは、在日外国人の集住地域で住民と交流するし、多文化共生のあり方について理解を深めています。また、学生と一緒に、一日デイサービスを企画、実施した。地域の高齢者と交流し、高齢者の現状を把握するほか、企画力・実践力を身につけられるように努めている。

⑤村田 真弓

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

開催日：2015 年 5 月 29 日・30 日

場 所：京都市勧業館みやこめっせ

テーマ：第 63 回日本医療社会福祉協会全国大会

大会テーマ：時代を貫く医療ソーシャルワークの実践

内 容：医療ソーシャルワークの根底にある価値、「一人ひとりが尊ばれる」「排除のない社会をめざす」を再確認し、時代をつらぬく医療ソーシャルワークの実践について共有し、学生の養成指導に関する示唆を得た。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

なし

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 相談援助実習（高齢分野）における教員と実習助教の連携

事前学習及び実習中の巡回訪問指導において、各場面において担当教員と助教（実習担当）の指導内容に齟齬が生じないよう各担当教員と意思疎通を図りながら学生指導にあたった。結果として、今年度は高齢分野の実習予定学生全員が予定通り実習を修了するに至った。

⑥武山 美子

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 社会福祉士実習担当教員講習会への参加

開催日：平成 27 年 8 月 2 日（日）・9 月 1 日（火）～4 日（金）

場 所：東京都漁連会館

内 容：厚生労働省令に定められた社会福祉士の養成課程における実習担当教員の要件を満たすための認定講習会に参加した。

(2) 平成 27 年度 全国教職員研修会（全国大会）

開催日：平成 27 年 11 月 18 日（水）・19 日（木）

場 所：ホテルイースト 21 東京

テーマ：時代の求める介護福祉士像を問い直す～介護福祉士教育の未来～

内 容：介護福祉士の今後の展開を明らかにするために、養成教育と養成校の社会的役割、介護福祉教育の可能性を明らかにするための研修である。2 日目には「外国人介護福祉士養成教育の現状と課題」のテーマの分科会に参加し、グループ討議を行った。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

なし

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 「相談援助実習事前指導」相談援助実習（児童・地域分野）の連携の取り組み

事前指導において、担当教員のご指導のもと実習先への提出書類の確認、学生指導を行った。

(2) 介護実技演習指導、実習指導

介護福祉学専攻の教員のご指導、助言のもと、実技演習のサポートを行った。また、実習における指導、実習報告書作成の指導を行った。

⑦櫻井 恵美

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

(1) 社会福祉士演習担当教員講習会への参加

開催日：平成 27 年 9 月 8 日（火）～11 日（金）

場 所：東京都漁連会館

内 容：厚生労働省令に定められた社会福祉士の養成課程における演習担当教員の要件を満たすための認定講習会に参加した。

(2) 平成 27 年度 日本介護福祉士養成施設協会関東信越教員研修会

開催日：平成 27 年 10 月 1 日（木）

場 所：パシフィコ横浜

基調講演：「これからの認知症ケア・介護と医療の役割分担」

分科会：「教員への教育」に参加。コマシラバス作成の意義と効果を踏まえ、介護総合演習において授業展開実践報告を聞いた後、グループ討議を行った。

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

なし

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

(1) 生活支援技術における演習補助

介護福祉学専攻の教員のご指導、助言のもと、実技演習のための物品準備、演習補助を行った。また、実習室物品等の整理・点検・補修を行った。

(2) 介護実習巡回指導

実習目標立案の助言、実習巡回指導、実習施設との連絡調整、実習報告書作成の指導を行った。

(3) 実習報告会に向けた指導

平成 28 年 1 月 28 日に開催された実習報告会に向けて、発表パワーポイントのまとめ、発表内容の助言・指導を行った。

IV 保護者懇談会

平成 27 年度も、保護者懇談会が前期は千代田キャンパスで開催される千鳥会で、後期は多摩キャンパスで開催される大妻多摩祭の 1 日目に行われた。

I. 千鳥会での保護者懇談会

平成 27 年 6 月 6 日（土）午後、保護者と教職員で組織する大妻女子大学千鳥会の「総会」、「パイプオルガンコンサート」と「保護者懇談会」が千代田キャンパスで開催された。

コンサートに引き続き、全学科専攻単位による「保護者懇談会」が大学校舎内の 20 の会場に場所を移し、開催された。

1. 千鳥会保護者懇談会 人間関係学部学科別保護者出席者数

人間関係学科：33

人間福祉学科：28

学部合計：61 名

2. 千鳥会保護者懇談会 人間関係学部学科別教職員出席者数

人間関係学科：12

人間福祉学科：8

学部合計：20

3. 人間関係学部保護者アンケート結果

○参加保護者の内訳

父親 3

母親 24

父と母 5

その他 2

○場所について

良い 32

悪い 0

その他 1

○時間について

適当 19

長い 0

短い 1

未記入 6

○内容

適当 14

不適当 0

未記入 12

4. 保護者の意見

- ・わかりやすかった。
- ・とても参考になった。
- ・先生方の話がたくさん聞くことができよかった。
- ・毎年楽しみにしている。
- ・担任、ゼミの先生とお話しができよかった。
- ・進学について具体的にお話しいただきよかった。
- ・もっとたくさんのお話しや情報を聞けるようにしてほしい。
- ・他の学年の保護者の方とお話しできてよかった。
- ・他の保護者の方と不安について話せることがよい機会だった。
- ・有意義な会だった。
- ・寄付金の振込み用紙をこのような機会にいただきたい。
- ・大学で年 2 回の保護者懇談会は珍しいと友人からいわれたが、保護者としては大変ありがたい。

II. 多摩キャンパスでの保護者懇談会

大妻多摩祭の 1 日目に以下のようなプログラムで行われた。

プログラム

平成 27 年 10 月 17 日（土）大妻女子大学 多摩キャンパス

①保護者のための就職講演会 13：00～14：30

テーマ：昨今の就職環境と家庭における支援のヒント

講 師：森川 茂樹 氏（リクルートキャリアリクナビ副編集長）

②保護者懇談会 15：00～（受付 14:30～）

会 場：人間関係学部棟

14：30～ 受付 1 階ラウンジ

15：00～ 全体懇談会（学部長挨拶、学科長挨拶）1 階 7127 教室

15：30～ 専攻別懇談会（以下の教室に分かれ開催した）

■社会学 2 階 7247 教室

■社会・臨床心理学 2 階 7214 教室

- 人間福祉学 1 年 3 階 7338 教室
- 人間福祉学 2,3,4 年 3 階 7318 教室
- 介護福祉学 3 階 7315 教室

1. 人間関係学部学科別保護者出席者数

保護者懇談会

社会：33

心理：40

福祉：56

介護：12

学部合計：141

2. 人間関係学部学科別教職員出席者数

社会：7

心理：7

福祉：7

介護：3

共同研究室等教職員：12

学部合計：36

3. 参加者アンケートから

(1) 全体懇談会

- ・学部長の「共生社会」の話がよかった。生きていくうえでずっと大切にしていきたい。
- ・改めて学校、学部、学科の志とするとところをうかがうことができてよかった。
- ・学部の使命についてわかり易かった。時間が短かった。もっと聞いてみたい。
- ・時間が短すぎた。
- ・多摩キャンパスの将来が理解できた。
- ・先生方の顔を拝見できよかった。
- ・共生、自立が今の学生の身に付いているということに興味深くうかがった。
- ・大学の現状と子どもの説明力のお話をお聞きできてよかった。
- ・多摩キャンパスの縮小による衰退が気になっていたが、新たな学部創設で安心した。
- ・学校の方針等の説明がありよかった。安心しておまかせ出来ると思った。
- ・全体的な生徒気質がわかった。家庭での接し方の参考になる。

(2) 専攻別懇談会

- ・娘から詳しく聞けない部分（就職、成績について）がわかった。
- ・先生のお話と保護者の方とも話せてよかった。
- ・就活の具体的な話が沢山聞けて、とても参考になった。

- ・担任の先生、ゼミの様子、保護者の方々の話がひとつひとつ参考になった。
- ・ゼミの先生との直接のお話ができありがたかった。
- ・先生が、子どもの事をよくご存知だったので、とても安心した。
- ・学校の様子がよくわかりよかった。他の学生のことなど聞けたのでよかった。
- ・先生の学生に対する思いがとても伝わってきた。
- ・授業のやり方、内容、組立てがわかり助かった。
- ・実習の内容、各学年になって何をしたらよいか、どのような結果を出せば、次のステップに行けるか分かった。
- ・今回お聞きしたお話をもとに、娘とゆっくり話をしたい。
- ・学生達がどの様なことを考え、社会に出ようとしているのか、またそれらを先生方が後押しして下さっているのか、親が何をすれば良いのかがよくわかった。
- ・子どもたちも、それぞれ悩みをかかえながら、学生生活を送っていることに気がついた。
- ・子ども、親の不安、ニーズを的確に捉え、丁寧に説明頂き、大変よく理解ができた。
- ・今後も定期的に開催して頂きたい、ぜひ参加致したい。

(3) その他

- ・学年別の説明会が1つの部屋でやったので騒がしくてよく聞こえなかった。

Ⅲ. 総評

保護者懇談会は毎年2回ある、保護者と教員との情報共有の場である。大学、学びの内容、学生生活、就職などの状況は絶えず変化する。大学側からその都度新しい情報を伝え、保護者に理解してもらい、保護者からも意見をもらう。このようなコミュニケーションの場である。

アンケート結果からは教員からの情報を受け安心した、子どもの様子がわかった、大学の方針が聞けてよかった等の声が寄せられた。

保護者と教員のコミュニケーションのあり方としては懇談会のみならず、普段から必要に応じて個別にもとっていると思われるが、年2回一堂に会して話し合う機会は大変貴重である。

今後の課題としては、さらに多くの保護者に参加していただき、より活発な会になるよう工夫することである。とくに新入生の保護者、これまで参加されていない保護者に多く参加いただけるよう努力していきたい。

V オフィスアワー

はじめに

オフィスアワーは、教員が学生の大学生活全般にわたる質問や相談を受けられるように研究室にいる時間である。学生は教員が設定している時間帯であれば、所属学科の教員だけではなく、どの学部、学科、専攻の教員の研究室を一人でもあるいはグループでも訪問してもよく、平成 16 年度から FD 活動の一環として導入している。

平成 27 年度の実施要綱に表 1 の通りである。

表 1 平成 27 年度オフィスアワー実施要綱

活動目的	オフィスアワーは、学生の大学生活全般にわたる相談を通じて、学生がより良いキャンパスライフを送れるように支援する組織的な活動である。
相談内容	学生生活全般に関わる事柄であり、特別な制約は設けない。
対 象 者	本学の学生個人又はグループとする（学部・学科・専攻は問わない）
担 当 者	学生は、クラス指導主任やゼミ担当教員に限らず、人間関係学部の全専任教員（助手は除く）と相談することができる。
相談時間	①月曜日から金曜日までの 1 時限～5 時限、土曜日 1 時限～2 時限のうち、原則として 1 コマを相談時間に当てる。 ②指定時間外は事前予約により相談する。
相談場所	原則として各専任教員の研究室とする。
実施方法	①教員はオフィスアワーとして設定した時間内は研究室に在室している。 ②教員は、学生が安心して相談できるように事前説明を行ない、特別なことがない限り他に漏らさないことを説明する。
周知方法	①教員は、毎年講義開始時にオフィスアワーの利用を学生に伝える。 ②新年度毎に「人間関係学部オフィスアワー・スケジュール一覧表」を作成し、学生への配布および学部掲示板、各共同研究室掲示板に掲示する。 ③学部ホームページに実施要綱とスケジュール一覧表を掲載する。
FD 報告	担当教員は、オフィスアワーに関する意見・感想等を当該年度の FD 報告書に掲載するため、報告書（年度末に別途配布）を提出する。

1. オフィスアワーの結果

各教員がオフィスアワーとしている時間帯をみると、昼休みが最も多く、その他の時間帯にはバラつきがあった。さらに、曜日別にみると表 2 の通りで、通年を通して火・水・木曜日が多く、月曜日は最も少なかった。授業が入っていないことも要因の一つと考えられる。

表 2 オフィスアワーを設定している曜日と教員数 n=32

	月	火	水	木	金
前期	5 名	9 名	8 名	9 名	6 名
後期	3 名	8 名	8 名	10 名	7 名

個別ごとの結果は次の通りである。

(干川 剛史)

火・木の昼休みとそれ以外の時間帯でも、学生が研究室を訪ねてくれば、随時、対応している。

(久保田 滋)

今年度は昼休みに設定していたが、学生の利用はほとんどなかった。むしろ、授業の前後に質問等がおこなわれることの方が多かった。

(向井 敦子)

担任としての業務・相談、院生の書類についての点検と押印、4 年生の卒論の相談などが主な内容であった。未だにオフィスアワーについて調べないで来室する学生も居るので、オフィスアワーについてさらなる周知徹底が必要である。

(西河 正行)

今年度は前期サバティカルであったこともあり、オフィスアワーで学生を指導することはほとんどなかった。

(加藤 美智子)

決まった学生が 3 名、ほぼ定期的（月 1～2 回）に相談や報告に訪れた。30 分ほどの話をしていくことが常だった。

(福島 哲夫)

例年と同様の部分としては担任としての業務・相談、院生の書類についての点検と押印、4 年生の卒論の相談などであった。しかし、今年度は、他専攻の特定の学生のサポートを他の教員から依頼され、積極的にオフィスアワーやその他を活用して、サポートした。本来なら学生相談室に行くべき問題を抱えていた学生であったが、一度行ったきり「二度と行きたくない」とのことで、やむを得ず、他の教員や専攻の同意と依頼を得て、心理的サポートをした。

今後は、このような学生も増えてくると思われ、オフィスアワーの利用の仕方の質も変わってくるかもしれない。他教員や学生相談室とも連携しながら、より効果的で安全な方法を模索していきたい。

(八城 薫)

今年度は、ゼミ生（卒論生）や修論生の利用が多かったように思います

(古田 雅明)

今年もゼミ生および担任学生（1年Aクラス）、大学院生を中心に多くの人がオフィスアワーの時間に来室しました。教務委員をしていることもあり、1年生からの相談内容は履修手続きも含め学業関係がメインでした。2年生より上の学年では、ゼミ選択や進路に関する相談が殆どであり、進路の相談は主に編入試験や大学院試験など進学関連でした。また、レポートと卒論に関する相談も多くありました。オフィスアワーを通年昼休みに設定しており、さらに2限にゼミ、3限に授業を入れているのでゼミや授業の延長として来室する人が多いです。

(香月 菜々子)

オフィスアワー制度が学内で定着し、十分に機能していると実感する。本専攻の学生（学部生・院生）に限らず、全学共通科目を担当しているつながりで、他学部他専攻の学生の訪問もあり、授業内容について質問を受けたほか、大学院進学についての相談を受けることもあった。運営上、現時点では週1回という頻度が程よいと感じている。

(堀 洋元)

昨年度と同様に通年木・金曜日の昼休みにオフィスアワーを実施した。学生の訪問目的は、授業の課題作成に関する質問や欠席回の配布資料の受け取り、卒論・に関する質問、顧問サークルの活動報告、学生生活に関する相談などであった。担当科目の受講学生や専攻の学生の多くが利用しやすい時間帯に設定したため、利用されやすかったように感じた。授業時間にオフィスアワーについて十分周知しているが、利用頻度の低い1年生にも浸透できるよう努めていきたい。

(小川 浩)

例年通り、オフィスアワーに関わらず学生は質問や相談に訪れるが、こちらとしても、特にオフィスアワーに限定せずに対応している。

(嶋貫 真人)

オフィスアワーを意識してやって来る学生は、例年同様、ごく少数であったと思われます。

(丹野 眞紀子)

木曜日 4限にオフィスアワーを設定しているが、多くの学生はオフィスアワーに関わらず様々な要件で研究室を訪問してくる。今年度は自らの将来にかかわる内容が多く、その場で対応するのではなく、別時間を設定し個別対応することが多かった。今後も、オフィスアワーに限定することなく、学生の個別性に合わせた対応をしていきたいと考えている。

(藏野 ともみ)

他学科の学生 1 名が年 3 回、本学科の日頃関わりの少ない 1 年生や 2 年生の利用が計 8 回あった。1 人で過ごす学生は教員に雑談を、その他具体的な相談としては進路や資格取得、家庭のこと等があった。具体的に問題解決を図りたいというよりは、話し相手として教員の研究室のドアが開いていたからというものがほとんどで、意識してオフィスアワーの時間にはドアを開けておく効果が多少はあったように思う。

これら以外は、日頃から出入りする学生が国家試験勉強の合間等に、不安や友人関係等をおしゃべりに来ることが多く、教員に積極的な相談がなくても話しをするために来室しても良い雰囲気は作っていく必要性を感じている。

(上野 優子)

金曜日の 3 時限目をオフィスアワーとし、学生の対応にあたった。通常は体育館棟にあるスポーツ教育研究室にすることがほとんどで、人間関係学部 of 学生のみならず、社会情報学部・比較文化学部の学生や特にクラブ活動を中心とした学生の相談等の対応にあたった。また、クラス指導についてもオフィスアワーと同様に相談等の対応にあたった。

(井上 修一)

通年水曜日に設定しており、その時間をわかっていて来室する学生もいる一方、十分伝わっていない学生もいた。直接アポイントを取れない学生が、来室する場合の目安として活用されていると感じる。

(尾久 裕紀)

授業に関する質問等はオフィスアワー以外でも受けていた。

(壬生 尚美)

面談を希望する学生はオフィスアワーに限らず、空き時間を利用して学生指導に当てていた。今年度は、前後期は水曜日 4 時間目に設定した。学生の授業時間との関係からどの時間帯にオフィスアワーを設定したら良いのかも検討する必要がある。

(金 美辰)

オフィスアワーの時間だけではなく、学生がいつでも研究室を訪問し、相談しやすいように工夫しました。オフィスアワーの時間に相談内容を聞き、面談の時間を新たに設けて、学生が落ち着いてゆっくり相談できるようにした。

(佐藤 富士子)

他学科からの相談者はなく、介護福祉学専攻の 1.2 年生の学生は授業のなか、特に介護技術の演習時間内で話すことが多く、あらためてオフィスアワーの時間に来る学生は、ほとんどいない。3.4 年生になると専攻に関係なく、授業の合間を縫って（自分たちが暇）ゼミ生が友人

を連れて訪室し、他愛のない話をして帰っている。

2. 今後の課題

学生は教員が設定している時間帯であれば、所属学科の教員だけではなく、どの学部、学科、専攻の教員の研究室を一人でもあるいはグループでも訪問してもよいのがオフィスアワーである。活用したことのある一部の学生サイドからの声を聞くことはできないが、全教員からは学生が活用している状況が伺える。具体的な内容の報告は専攻により特徴的なものであったり、共通したキーワード（学業の不良、授業への質問）であったりしている。さらに、他学科、他専攻での教員間の連携の必要なケースがあったりし、学生の抱えている問題の複雑化が示唆され、より専門的な相談内容も含まれていた。

今後さらなる活性化を図るための一つの方法として、学生の認知度等の実態把握や時間帯の検討、学生が入りやすいようにドアを開放等環境の整備、さらに複雑になってきた学生の抱える問題には、学部教員間の連携だけではなく、心理相談室、学生相談室等他職種との連携の必要性が求められる。

平成27（2015）年度 人間関係学部 オフィスアワー [H27.7.7現在(修正版)]

- ◆◆◆ 予約無しで教員の研究室を訪問して相談できる時間帯です ◆◆◆
- ◆◆◆ 時間を確かめて気軽に活用してください ◆◆◆

- ・修正箇所は斜体字です。

月		火	水	木	金	土
1	9:00				通年 香月 菜々子	
	10:30					
2	10:40	通年 鄭 映恵	通年 金 美辰		後期 伊藤 美登里	
			通年 佐々木 宰		通年 牧野 智和	
			通年 小川 浩			
	12:10					
昼 休 み		前期 伊藤 美登里	前期 荒井 芳廣	通年 井上 修一	通年 川延 宗之	通年 上野 優子
		通年 嶋貫 真人	通年 尾久 裕紀	通年 福島 哲夫	通年 久保田 滋	通年 齊藤 豊
			通年 福島 哲夫	通年 齊藤 豊	通年 堀 洋元	
			通年 古田 雅明	通年 田中 優	前期 松山 博光	
			通年 千川 剛史	通年 千川 剛史	後期 向井 敦子	
			後期 八城 薫	通年 堀 洋元		
3	13:00		通年 佐藤 富士子	後期 加藤 美智子		
		前期 荒井 芳廣		後期 向井 敦子		
		後期 荒井 芳廣				
		前期 加藤 美智子				
		前期 向井 敦子				
	14:30					
4	14:40	通年 小谷 敏	通年 王生 尚美	通年 丹野 眞紀子		
		前期 松山 博光	通年 藏野 ともみ	前期 八城 薫		
	16:10					
	16:20			通年 大出 春江		
5	17:50					
		月	火	水	木	金

- ◆ 指定時間外の相談は、直接、教員へ予約してください。
- ◆ 相談場所は、原則、人間関係学部棟4階の各個人研究室です。
- ◆ 変更が生じた際は、「学部ホームページ」と「人間関係学部棟1Fと4Fに掲示」で知らせます。

<http://www.hum.otsuma.ac.jp/>

【本件に関する問い合わせ先】

2015（平成27）年度人間関係学部FD委員会 ningenfd@ml.otsuma.ac.jp
小川 浩（学部長）、福島 哲夫（学科学長）、佐藤 富士子（学科学長）
鄭 映恵、堀 洋元（委員長）、丹野 眞紀子、尾久 裕紀

< 配付、掲載等 >

- H27.4.1 配付（2,3,4年生ガイダンス）
- H27.4.2 配付（1年生ガイダンス）
- 随時（学部HPへの掲載、人間関係学部棟1Fと4Fへ掲示）

ヨミ	教員名	時期	曜日	時限等	時間帯	個人研究室番
アライ ヨシロ	荒井 芳廣	前期	火	昼休み	12:10-13:00	74151
アライ ヨシロ	荒井 芳廣	前期	火	3	13:00-14:30	74151
アライ ヨシロ	荒井 芳廣	後期	火	3	13:00-14:30	74151
イトウ ミドリ	伊藤 美登里	前期	月	昼休み	12:10-13:00	74132
イトウ ミドリ	伊藤 美登里	後期	金	2	10:40-12:10	74132
イノウエ シュウイチ	井上 修一	通年	水	昼休み	12:10-13:00	74811
ウエノ コウコ	上野 優子	通年	金	昼休み	12:10-13:00	74872
オオテ ナルエ	大出 春江	通年	木	5	16:20-17:50	74152
オカワ ヒロシ	小川 浩	通年	水	2	12:10-13:00	74842
オギノウ ヒロキ	尾久 裕紀	通年	火	昼休み	12:10-13:00	74812
オガキ ナナコ	香月 菜々子	通年	金	1	9:00-10:30	74581
カノウ ミチコ	加藤 美智子	前期	火	3	13:00-14:30	74482
カノウ ミチコ	加藤 美智子	後期	木	3	13:30-14:30	74482
カノテイ モトユキ	川延 宗之	通年	木	昼休み	12:10-13:00	74821
キム ミジン	金 美辰	通年	水	2	10:40-12:10	74841
クボタ シゲル	久保田 滋	通年	木	昼休み	12:10-13:00	74181
クラノ トモミ	藏野 ともみ	通年	水	4	13:00-14:30	74851
コダニ サトシ	小谷 敏	通年	月	4	14:40-16:10	74142
サイトウ ユウタ	齊藤 豊	通年	木、金	昼休み	12:10-12:55	74161
ササキ ユウサ	佐々木 宰	通年	水	2	10:40-12:10	74861
サノウ フジコ	佐藤 富士子	通年	水	3	13:00-14:30	74871
シラサキ マサト	嶋貫 真人	通年	月	昼休み	12:10-13:00	74822
タナカ マサシ	田中 優	通年	木	昼休み	12:10-13:00	74282
タノ マキコ	丹野 眞紀子	通年	木	4	14:40-16:10	74852
チョン ヨンヘ	鄭 映恵	通年	火	2	10:40-12:10	74141
ニシカワ マサユキ	西河 正行	4/1～9/14はサバティカル期間のためオフィスアワーはありません。				
ニシカワ マサユキ	西河 正行	後期	火	5	16:20-17:50	74382
フクシマ テツオ	福島 哲夫	通年	火、水	昼休み	12:10-13:00	74381
フルタ マサアキ	古田 雅明	通年	火	昼休み	12:10-13:00	74881
ホシカワ ユウシ	干川 剛史	通年	火、木	昼休み	12:10-13:00	74131
ホリ ヒロト	堀 洋元	通年	木、金	昼休み	12:10-13:00	74281
マキノ トモスズ	牧野 智和	通年	金	2	10:40-12:10	71182
マサダ シュウイチ	町田 章一	通年	月	1	9:00-10:30	74832
マツヤマ ヒロシツ	松山 博光	前期	月	4	14:40-16:10	74831
マツヤマ ヒロシツ	松山 博光	前期	金	昼休み	12:10-13:00	74831
マツヤマ ヒロシツ	松山 博光	9/15～2/29はサバティカル期間のためオフィスアワーはありません。				
ミヅノ サチミ	王生 尚美	通年	水	4	14:40-16:10	74862
ムカイ アツコ	向井 敦子	前期	火	3	12:10-13:00	74481
ムカイ アツコ	向井 敦子	後期	木	3	13:00-14:30	74481
ムカイ アツコ	向井 敦子	後期	金	昼休み	12:10-13:00	74481
ヤシロ カオル	八城 薫	前期	木	4	14:40-16:10	74882
ヤシロ カオル	八城 薫	後期	火	2	10:40-12:10	74882

VI 平成27年度クラス指導について

本学教育体制の特徴の一つとして、クラス指導主任制度がある。入学時から学生をクラスに分け、いわゆる“クラス担任”が「学習」「学生生活」全般にわたってきめ細かく指導、助言、相談を行う学生支援の仕組みである。

本制度は、全国各地から入学してくる学生が新しい環境に適応し安心して修学できるよう、きめ細かな指導をする必要性を説いた学祖の意思を継いで設けられている。実際に、新入生は高校から大学へと学習環境が変わるだけではなく、全国各地から親元を離れて入学してくる者も多い。

本報告書の元になっている各教員のアンケート結果は、Web上で教員同士が即時に閲覧できるようにメール配信されており、教員相互の研鑽の元にもなっている。

本稿では各教員の声をまとめ、学生指導の様子を浮き彫りにしたい。

以下、平成27年度クラス指導について、「クラス指導の状況」「クラス指導を行う際に工夫している点」「クラス指導に関する意見・感想」の順にまとめた。

1. クラス指導の現状と教員からの意見

(1) 平成27年度のクラス指導の状況

1) 人間関係学科 社会学専攻

*GPAが1.5未満の学生の指導はほとんどできているが、1名連絡をしても返事がない学生がいる。

*今年度は、後期のみ、代理としてクラス指導主任に就いたが、4年生であったため、指導の機会はすくなかった。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

*今年は、1年生を担当しましたので、前期は大学適応に学習面や情緒面、あるいは対人関係面で困難を感じている学生への対応がありました。当該学生だけでなく、時に保護者も交えて、関わる機会がありました。前期は1年生対象の必修科目を担当しているため、学生の様子を把握しやすいのですが、後期は担当していないため、1年生の必修を担当している専任教員から専攻会議で情報を得ました。

*ほとんどは、住所変更などの書類に押印する程度の関わりしか持てなかった。しかし、一人の学生については、退学を希望した折、事務からクラス指導に行くようにアドバイスされ話に来了。この学生とはよく話をし、ゼミの先生との連携もと、なんとか卒業までこぎつけられたので、少しはクラス指導の役割はあったのかと感じている。ゼミの先生が一人で背負うには荷が重い場合、クラス指導と連携する意味はあったと感じている。

*2年次のクラス指導を担当した。新年度のクラス別ガイダンス、個別の履修指導、提出書類についての承認、大学生活に関する相談を行った。

*4年生を担当しましたが、今年度はかなり個別的に特殊な事情を抱える学生が多かった気がします。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- * 1年生の担当であったが、今年度は1年生の授業を担当しておらず、従来より気を配ることが多かった。後期の成績配布時には個別面接を取り入れながら、学生の学習状況のみならず、生活状況等を知る機会を持つようにした。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- * 他の先生がサバティカル期間の半期を代替えて人間福祉学専攻の3Aを担当した。前期成績の受け渡しの機会しかできなかった。3年生でよかったことは、クラス指導主任だけではなく、ゼミ担当の教員への指導も可能になることであった。
- * 介護福祉学1年のクラス指導教員として、学生生活等の相談を随時実施した。
- * 個別面談やクラス全体に向けて、大学1年生としての学習方法や生活について指導した。

(2) クラス指導を行う際に工夫している点

1) 人間関係学科 社会学専攻

- * 事情をよく聞き、まず相手を理解する。注意するだけではなく、よいところはほめる。
- * 成績配布時のコメントと、クラス懇親会の実施、問題を抱えている学生への対応。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- * 教員側から連絡を取ってもなかなか連絡がつかない学生が居た。問題への早期対策のためにもより素早い連絡方法の徹底が望まれる。
- * せめて、書類に押印する際に、少し話をするようにはしている。
- * 学生個々の情報を1年次から積み上げて整理しており（施錠管理）、これまでの経緯などを総合しながら指導・相談にのるようにしています。
- * 1年生のクラス指導が2回目になります。慣れてきた面と、一方で4年前とは学生の雰囲気異なる点の両面に注意しながら、手を出し過ぎず見守りつつ、時にタイミングよく指導を行うことを心掛けました。自分が臨床心理学を専門としているので、学生相談を受ける際に臨床心理士的な対応をしないように、あくまで教員の立場で対応するように工夫しています。
- * 休みがちな学生や相談に来る学生について、できる限り専攻内の教職員や障害学生支援室など、関連部署と情報を共有しながら対応している。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- * (担当が) 1年生であり、必要に応じて個別面接を行った。自分の進路に不安を抱えている学生や、悩みを抱えている学生については、別時間を設定し、じっくりと話を聞くよう心掛けた。学生によっては、カウンセラーにつなげることもあった。
- * 今年度からはゼミ担当教員との役割分担や連絡ができるようになり、学内での情報共有を大切にした。科目担当者から学生の受講の様子や、教務委員より成績のことについて多くの情報を提供頂き、担任が把握できていないことを知ることができ、学生本人に連絡を取るきっかけを作れるなど、多くの支援を頂けている。

また、学科会議で学生の報告をする機会を設けて頂けることもあり、担任ひとりで抱えなくて良い環境にある。

- * 昨年同様、継続的な指導を要すると思われる案件については、次回以降の面談内容に発展させられるよう、その都度面談内容のメモをとるようにしました。就職活動に関する相談に対応する際は、求職者と同種の業界に就職している OG とのパイプをフルに活用するよう心がけました。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- * GPA が低い学生の中には、単位は着実に取れているが成績が振るわない学生と履修科目はとるが途中で授業が理解できず、結果的に単位数も取れず GPA が低い学生とがいる。後者の場合、必修科目が取れないと同じ科目を数回履修していることになる。このような学生には細やかな指導が必要である。
- * 履修指導や大学生活に指導が必要な学生に関しては、学生と小まめに連絡を取りながら、家族とも情報を共有し連携することで、少しでも大学生活が充実できるように工夫した。
- * 傾聴すること。個人情報に留意すること。

(3) クラス指導に関する意見・感想

1) 人間関係学科 社会学専攻

- * (学生が) 年を追うごとに受身になっていて、その傾向を教員の側が助長しているのではないかという懸念をもちます。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- * 出席が不足したり、課題を提出しない学生が増えている。クラス指導担任だけでは対処できない問題であることも多い。本専攻では教員間で情報を共有しているが、それ以上のきめ細かい対応が必要になるだろう。
- * 実質、クラスによる活動はほぼないので、書類の押印のみのクラス指導はどのようにすれば良いのかが不明である。学生の認識も「押印をもらいに行く先生」としてあるようである。クラス指導教員の役割をもう少し教育的に検討される必要があるように感じる。高校までのクラス指導とは違う大学でのクラス指導とは何なのか良くわからないまま、押印係を行ったという印象が強い。
- * 年々学生の顔と名前が一致しないようになってきて、こちらからの積極的な声かけはできないでいる。もう少し学生数が少なければ、本当にきめ細かな指導ができるのにといいながら、取り組んでいる。
- * 家庭の事情や心身の問題など、やむを得ない事情で留年をする学生が多く、じっくり見守っていくことを覚悟した一年でした。
- * クラス指導は1学年に A クラスと B クラスがありますので、大学教員として経験の深い先生と若手の教員もしくは新任の教員がペアになると良いと感じています。その点で、毎年 B クラス担当の先生から OJT を受けることができ感謝しています。

＊クラス指導主任単独では対応が難しいケースも見受けられ、専攻内の教職員や担当部署との連携を取りながら進める機会が多くなるように思う。日々さまざまな学生対応を行っている事務部課員とのコミュニケーションを取ることも有効だと思うので、接点を増やしていきたい。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- ＊学生の悩みは多様であり、メンタルに不安を抱える学生も増えてきている。親元を離れて一人暮らしをしている学生もあり、1年生なので必要に応じての声かけが大事だと感じた。
- ＊積極的に関わりを持つ必要がある学生が10名以上いるため、どうしてもそこに時間と意識を費やすことになる。学生は大学3年生であり、それぞれ自立し必要であれば担任だけでなく、ゼミの教員や事務に自ら話すことができる者が多く、問題がある訳ではない。しかし、学生や保護者、あるいは学内でも担任は全てを把握していると思われることもあり、成人し自立した学生の自己責任の範囲と教員の介入のバランスに戸惑うこともある。
- ＊4年生になると、クラス担任とのコミュニケーションを保ち続ける学生と、ゼミ教員とのつながりに比重を置く学生とが明確に分かれるようになるため、まったく接点を持てていない学生がクラスの半数以上であったと感じています。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- ＊今回、半期を代替え教員として担当したことで、4年間同じ学年を持つことのメリットをより感じる事ができた。
- ＊引き続き適切に行いたい。

2. まとめと課題

以上の内容から、以下の1～4の項目が今後への課題としてまとめられる。1. 役割分担と連携、2. 他の教員や学科内での報告、3. 継続性、4. ベテラン教員がつかんだノウハウを教員間でどのように伝達するか。

以下、これらについて少し整理して、まとめと今後の課題としたい。

(1) 役割分担と連携

これは、ゼミ教員や教務委員、さらには事務部や関係各部署との役割分担と連携を指す。従来、必要に応じてその都度行われてきた観が強いが、今年度、たとえば人間福祉学科での以下のような取り組みが注目に値する。「今年度からはゼミ担当教員との役割分担や連絡ができるようになり、学内での情報共有を大切にしたい。科目担当者から学生の受講の様子や、教務委員より成績のことについて多くの情報を提供頂き、担任が把握できていないことを知ることができ、学生本人に連絡を取るきっかけを作れるなど、多くの支援を頂けている。」

また3,4年次生の場合は、ゼミ担当教員とクラス指導主任のどちらが主体になるかは、学科・専攻や、当該学生や問題の性質によっても変わってくるところではある。しかし、いずれにしても「役割分担と連携の必要性和意義」について意識することで、円滑化が図られると考えら

れる。

また社会・臨床心理学専攻においては、事務部や障害学生支援室との連携、人間福祉学専攻においては、OG とのパイプのフル活用の有効性なども語られていた。

（２）他の教員や学科内での報告

これについても、すでに適宜行われているものであるが、人間福祉学科の以下のような記述が注目に値する。「学科会議で学生の報告をする機会を設けて頂けることもあり、担任ひとりで抱えなくて良い環境にある。」

この点についても、とくに学科長・専攻主任が意識して、その場を設け続ける必要があると考えられる。

（３）継続性

これは、教員個人の複数年度にわたる継続性と、複数教員にまたがって担保されるべき継続性の 2 種類がある。前者に関しては、社会・臨床心理学専攻の以下のような記述がみられた。「学生個々の情報を 1 年次から積み上げて整理しており（施錠管理）、これまでの経緯などを総合しながら指導・相談にのるようにしています。」また、人間福祉学専攻においても以下の取り組みが報告されている。「昨年同様、継続的な指導を要すると思われる案件については、次回以降の面談内容に発展させられるよう、その都度面談内容のメモをとるようにしました。就職活動に関する相談に対応する際は、求職者と同種の業界に就職している OG とのパイプをフルに活用するよう心がけました。」

これら以外にも、適宜工夫されていることと思われるが、やはりこの継続性を意識する必要があるだろう。

後者の複数教員にまたがる継続性は、介護福祉学専攻に以下のような記述がみられた。「今回、半期を代替え教員として担当したことで、4 年間同じ学年を持つことのメリットをより感じることができた。」

今後サバティカルが常態化していくことが予想されるため、やはり、この点についても意識的に取り組む必要があるだろう。

（４）ベテラン教員がつかんだノウハウを教員間でどのように伝達するか。

この点に関しては、社会・臨床心理学専攻の以下のような提案がなされている。

「クラス指導は 1 学年に A クラスと B クラスがありますので、大学教員として経験の深い先生と若手の教員もしくは新任の教員がペアになると良いと感じています。その点で、毎年 B クラス担当の先生から OJT を受けることができ感謝しています。」

これは、盲点となっていた点であり、改善のコストはほぼゼロでもあるので、大いに取り入れたい点である。

3. おわりに

以上、現状と課題について触れてきたが、個々の教員の記述にも散見されるように、クラス

指導主任という限られた人的資源の中で、いかに効果的に、さらに「学生の主体性を削ぐ」ことのないように実施するかは、永遠の課題である。

今後ともたゆまぬ工夫と努力が求められる点である。

VII 平成27年度 FD研修会報告

平成27年12月11日（金）の教授会終了後、平成27年度人間関係学部FD研修会を実施した。

平成24・25年度は『学生たちは今』、平成26年度は『多摩キャンパスで学ぶことの意義と課題』をテーマとして設定し、教職員混合で3つのグループを作り、それぞれ大まかなテーマに分かれて自由討議を行うという新たな形式で実施した。それまでの数年間は、学部共通科目の学科・専攻ごとの教授法、専攻ごとの特色を生かした基礎セミナー（初年次教育、導入教育）効果的な展開方法の紹介などを行ってきたが、授業以外に学生が抱える課題について自由に意見を出し合い、共有する機会がほしいという声に応える形で、座談会形式で自由な意見交換を行っていた。

今年度は、あえてここ数年行ってきた分科会形式を改め、参加者が一堂に会する形式で発表と討議を行うこととした。内容は、教員が日々実践している「授業を行う上でのさまざまな工夫」をテーマとして設定し、教員からのアイデアをもとにディスカッションを行った。以下、その概要を報告する。

1. 研修会テーマとその趣旨

今年度は「授業をより良くするための Tips」をテーマに研修会を行った。昨年度の研修会テーマ「多摩キャンパスで学ぶことの意義と課題」は、実施後のアンケートで継続希望も多く、参加する教員、助手、事務職員にも共通する話題であった。しかし、共通の話題であるがゆえ、話題が広がりがちでFDの域を超えているものも散見された。そこで、昨年度FD活動報告書にまとめられた様々なアイデアを形にする責務があるものの、あえてシンプルにFDそのものに立ち返って、個々の授業改善に活かすことのできる取り組みを取り上げることにした。

授業運営上のさまざまな工夫について、さまざまな側面から Tips を募り、実演などを交えて教員個々のスキル向上の一助としたい。これが今回の研修会の目的である。授業での取り組み方、授業方法は時代とともに、学生のニーズとともに変化しているが、自分流のやり方を教員個々で改善していくのは難しい。そこで、教員がそれぞれ実践している授業の Tips（授業運営上の工夫）を集めて今後の授業改善に活かすこともFDであると考えた。また、助手、事務職員の方々にとってもこれらのアイデアを学内で授業以外の場（学生相手に説明会を行う場面など）で生かす応用可能性もあるといえる。

2. 日時・場所

- （1）実施日時 | 平成27年12月11日（金）17:00～18:30
- （2）会場 | 7248 教室
- （3）参加者数 | 総計 50 名

3. 内容

(1) 開会の挨拶、研修会の進め方に続いて、以下の Tips が紹介された。Part1～3 の終了後、学長、副学長、参加者の方々よりコメントをいただき、閉会した。

Part1 授業環境に関する Tips

- ・「講義」をしない授業 学生とともに『知』を創造していく授業－受講学生を静かにさせる、眠らせないためのスマートなアイデア－（川廷宗之先生）
- ・ベースグループを活用した授業－学生たちによる知の発見と伝承－（川廷宗之先生）
- ・manaba の活用：ファイル管理（大出春江先生）

Part2 リアクションペーパーに関する Tips

- ・リアクションペーパーを活用した双方向的学习の試み他（井上修一先生）
- ・前の週に書かせたリアクションペーパーを授業で読み上げる（小谷敏先生）
- ・リアクションペーパーを活用した授業活性化の Tips『学生コメントカード』の活用（小谷敏先生）
- ・『毎回の授業通信』の Tips（川廷宗之先生）

Part3 単位の実質化に関する Tips

- ・manaba の活用：授業時間外の学習、授業中・授業外でのグループ作業（大出春江先生）
- ・『俳句・短歌で見る学生の心境』の Tips（川廷宗之先生）
- ・単位の実質化にむけた授業時間外の学習時間を確保する工夫（向井敦子先生）
- ・補足説明：授業に必要な著作権の知識（尾久裕紀委員）

(2) Tips の紹介とディスカッションの流れ

1 つの Tips につき 3 分程度、Part ごとに 20～25 分程度で実施した。進行担当委員が Tips のタイトルを紹介し、発表者の教員が Tips の解説や実演を行った。発表後、進行担当委員が必要に応じて補足説明した上でフロアからの質疑、コメントを受け、ディスカッションを行った。

(3) 役割分担（FD委員会）

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 小谷委員 | Tips Part1（授業環境）の進行 |
| 丹野委員 | Tips Part2（リアクションペーパー）の進行 |
| 尾久委員 | Tips Part3（単位の実質化）の進行 |
| 堀委員長 | 全体の司会、PowerPoint 操作、タイムキーパー、閉会の挨拶 |
| 小川学部長 | 開会の挨拶、コメンテーター |
| 福島学科長 | コメンテーター |
| 佐藤学科長 | コメンテーター |

その他、資料準備、受付、記録（撮影など）を人間関係学部学部長室および各学科専攻の共同研究室助手の方々にご担当いただいた。

4. 研修会終了後に行ったアンケートに対する回答

研修会終了後、以下の 3 項目についてアンケートをとった。今回の研修会への評価はおおむ

ね好評であった。授業をより良くするための工夫を垣間見ることで、今後の授業に対する取り組み方を考える契機になったようだ。また、今回のテーマを継続あるいはさらに深めたいという意見も多かった。アンケート結果のうち、おもなものを紹介する。

（１）学部FD研修会のテーマ「授業をより良くするためのTips」について、懇談会での意見交換を踏まえて、ご意見、ご感想等をお聞かせください。

- 大御所の先生方が丹念にものすごいエネルギーを注いで学生教育をしている姿勢に感銘を受けました。先達の情熱で学部教育が形作られて来たことを認識しました。そして、自分があまりに授業に工夫をしていないと反省。次年度からの工夫を考える良い機会となりました。
- リアクションペーパーの取り扱い方や manaba の活用の事例報告については、どれも、非常に熱心な取り組みで、その効果と必要性を実感した。しかし、私自身は、大学の授業は、教員の研究成果が学生に還元される形が基本であると考えているので、学生の学修を促進するために学生のリアクションペーパーに個別に教員が回答を書いて返却することによる効果はよく解るが、それに費やす時間が、研究や教材研究に要する時間を削らざるを得ない結果となってしまうため、自分自身としては、そこまでやることは必要であるとは思わない。
- 学修を促進するための学生へのアフターケアに費やす時間と研究や教材研究に費やす時間のバランスが必要ではないか。
- とても有意義な研究会だったと思います。実際にはもっともっと工夫されている先生方がたくさんいらっしゃるの、それらのお話を伺えたら良いと思います。
- 先生方がお授業を工夫されている様子がよくわかりました。来年度からでも取り入れそうなものもありましたので、シラバスにできるだけ反映させたいと思います。
- 与えられた時間の割に報告が盛りだくさんで、スケジュール的にややタイトだった印象です。報告の本数を少し絞った方が良かったかもしれません（もっとも、個々の報告の内容自体はどれも充実していたので、取捨選択には困りますが…）。
- 複数の先生方の教育実践を伺い、自分の授業を振り返り学ぶ機会となりました。諸先生方も様々なアイデアで授業を展開されていることが分かり、自分もどうしたら良いのかと思う日々をちょっとでも他の先生方に相談する機会を持ちたいと思っています。同じようにはできないので、工夫する余地はあるのかと思っています。
- どの先生からも取り組みの大変さが伝わってきました。特に、川廷先生の授業への取り組みに大変に驚きました。システムティックになっているので、ここまで作り上げるのは大変なご努力がいったらと思うしました。少しずつ取り入れていくしかないと思いました。
- とてもよかったと思います。それぞれの先生方の工夫が分かり、早速取り入れていきたいと思うものもありました。向井先生と川廷先生の熱い思いが伝わってきました。
- 今年度より着任しましたが、FD 研修に参加させていただき「さまざまな授業への工夫」を先生方からお聞きすることができたことに感謝いたします。普段は知ることができない事前の授業への工夫は、学生の特徴を理解していなければできないことだと考えさせられました。
- 新しい発想の企画で、大変興味深く、またとても勉強になりました。講義というのは学生さんとの何重ものやりとりを積み重ねる場であり、その体験を通じて、学生さんだけでなく、

教員自身も学びの場になっていくというプロセスを、垣間見たように思いました。生産的なコミュニケーションのために工夫を凝らすのは実に楽しいものだと感じます。なにより、先生方が楽しみながら取り組んでおられる姿が、学生の学びにとって最も重要な要素なのではないかと改めて感じました。ありがとうございました。

○諸先生方の様々な工夫と努力に大変触発され、自分はまだまだ足りないと感じました。たくさんのお知恵をいただきましたので、今後の授業に大いに生かしていきたいと思いました。特に人間関係学部の教育を支えてこられた向井先生、川廷先生のチップスを余すところなく見せていただけたことは本当に有難かったと思います。お二人の先生の教育に対する熱意をしっかりと引き継いでいきたいと思いました。

○FD でやるべき最も重要なテーマだったと思います。

○ひとつのテーマにかける時間が短いという意見もありますが、ときにはこのくらいの時間で多くの Tips を出すこともよかったのではないかと考えています。

○Tips を提供していただいた先生と FD 委員の打ち合わせが、もう少し綿密に行われるとよかったと思います。(前ふりなどなしで内容のみ簡潔に紹介するなど)

○先生方の丁寧なご指導を拝聴し、非常に勉強になりました。このような機会をつくっていただいた堀先生をはじめとする FD 委員に感謝申し上げます。

○尾久先生がご提示された著作権の知識も参考になりました。

○自宅での学習を促進するために manaba に参考資料等をアップすることも注意しなければならないと思いました。

○リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業で活用することは自分も行なっていますが、向井先生のようなエネルギーにはできません。30 名以下の授業の場合は、発展させる事が可能なのですが、人間関係総論Ⅳでは受講者数が 200 人と多く、その場合のリアクションペーパーは次の授業までに、こちらで授業のねらいに沿っていた学生を、各専攻から 1~2 名程度選び、本人に直接読んでもらう方法を取っています。その後、教室内をマイクを持って歩き回り、さらに意見を聞くと言う方法は行なっています。この時、他の学生はおしゃべりもせず聞き入っています。

○寝ている授業は、資料がパワーポイント通りであったときです。たぶん、「資料があるからいいや」と思うのでしょう。意図的に抜けたパワーポイントでメモをさせようとする、アンケートに学生は「提示しているパワーポイントと同じ資料が欲しい」と書いてきます。履修者の多い場合の眠らせない授業の難しさを感じます。

○FD 研修の構成がとても分かりやすく・リズムカルなテンポで良かったです。

○堀先生の卓抜な企画と進行で意義深い研修会となったと思います。「単位の実質化」を目指す途方もない時間を割かなければならないという現実も浮き彫りにされました。

○とても斬新な企画と堀先生の綿密な計画もあって、素晴らしい内容だったと思います。ただ、「授業研究」をご自身の研究テーマとされている先生ならこれをそのまま推進すればよいけれども、副学長もご指摘なさったように、教員と加重負担も気になります。今後は「重点科目」形式や「半期 2 コマ科目開講」などの工夫で、単位の実質化を図る工夫が必要かと思いました。

- 各先生の授業に対する考え方、姿勢、テクニックを一度に知ることができ、大変参考になった。
- 模擬授業に代替するものとして、個々の教員が行っている授業運営上の工夫を知る機会となり、良かったと思います。懇談会でもお互いのアイデアを話すこともあり、有意義なテーマでした。
- 大変、具体的で明日からの仕事に役立つ内容でした。ノウハウだけでなく、学生に学ばせることの姿勢や熱意についても刺激を頂きました。カテゴリーごとに司会が変わったことも、雰囲気にもメリハリを持たせる意味で良かったと思います。FD 委員長の企画力、調整力、FD 委員の皆様の協力に感謝しています。
- 時間を正確に区切り、短い時間で要点を述べるという点が素晴らしい発想だと思いました。良いところが凝縮されており、しかも多くの先生の考えを聞くことができる。大変、有意義な方法だと思います。また、先生方の授業に対する工夫が興味深く、普段、目にすることができない授業風景を想像することができました。今後の参考にさせていただきたいと思います。

（２）今年度の学部FD研修会の実施方法（時期・形式等）についてご意見をお聞かせ下さい。

- すでに高度に構造化されており、年中行事として定着しているので、これで良いと思います。もう少し教員同士が少人数で話す時間があってもそれはそれで面白いと思います。そのためにはあと 30 分は時間がないと難しいですね。
- 実施時期は、今回と同じでよいが、参加者の自由闊達な意見交換と議論ができるように、従来のように、分科会と全体会を組み合わせる形式の方がよい。
- 現状でよいと思います。
- 報告を聞いた後、少人数の分科会に分かれるなどして、参加者が自由に感想や意見を述べ合える機会があれば、さらに良かったと思います。
- お一人の先生のアイディアをかなりコンパクトな時間で伺うことになったので、時間的には短く感じましたが、どの様に展開するべきだったのかは FD 委員の先生方が実践された方法がベストだったと思います。開催時期としては、一年の中でもこの時期が一番落ち着いてるのですが、前の週の全学 FD 研修会と続けてとなる分、消化していく意味ではもったいない気がします。
- Tips をご紹介いただくのは講義形成にならざるを得ないかもしれません。ただ、このような会を経験すると、例年の意見交換は内容もさることながら、教職員間の親睦を深める意味で重要だったと思います。
- 時期に関しては毎年同じなので、これで良いかと思いました。グループディスカッションはあった方が良いと感じました。半分を講義、それを受けて、グループ討議が可能であれば望ましいと感じました。
- 初めての参加でしたが、part 1 ～ 4 に分かれ、またそれぞれの担当の先生方が司会をしていただき興味を持てる進行でした。
- 従来のように、グループで分かれての検討スタイルも興味深いが今回のように全体で場面を共有しアイディアをシェアするようなスタイルもまた勉強になるなと思いました。時期につ

いては、12月 は全体的に忙しい月なので 11 月頃の開催ですと、若干ゆとりが持てるかもしれません。

○たくさんの先生のお話が聞けて、あっという間に時間が過ぎました。それだけ充実していたのだと思います。司会も話者もどんどん変わり、リズム感と活気のある進行でとても良かったですと思います。その分、準備が大変だったことと思います。お忙しい中、工夫した研修会をご準備くださり、ありがとうございました。

○いつも決まった時期の方がよろしいかと思います。

○この時期、形式でよいと思います。

○誰もが何かは感じたはずなのですが、思いのほかディスカッションにならなかったのは、職員数が多かったからでしょうか。従来の各分科会に分かれた方が出たのでしょうか。

○時期はこれまでと同じで良いです。

○このままの時期で継続するのがよいと思いました。

○来年は分科会形式も復活した方が容易と思いました。時期は諸事情を考えますと本当は 12 月第一金曜日の方がいいとは思いますが。

○時期も形式も、ちょうど良いと思う。

○実施時期は例年通りの 12 月上旬が妥当だと思います。今年度のように一堂に会して行う場合は、ディスカッションの時間を多くする工夫を取り入れられればと思いました。

○今回の内容については、簡潔なプレゼンと質疑でテンポよく進めることが適当であったと思います。時期については、例年通りで良いと思います。

○毎回、FD をご担当されている先生方が工夫されていることがわかり、学部全体で授業の効果を高めようとされていることが分かります。先生方の意欲に負けないよう、今後に活かしていきたいと思います。今回の Tips のような形式はとても良いと思います。

（３）今後、学部FD研修会で取り上げたいテーマ、今後の学部FD活動の課題についてご意見をお聞かせ下さい。

○チームティーチング。卒論指導の工夫と困難。体験学習。

○（テーマ）

- ・授業での新聞記事の活用方法について
- ・学生の興味を深めるパワーポイントとインターネットの活用方法について
- ・授業で使用する教科書について

（課題）

- ・前年度の課題が次年度のFD研修会に引き継がれ、さらにFD研修会の成果が進展するようにしてほしい。

○（１）と同じですが、具体的テーマを決めて、参加者全員が意見を述べ合う会が持てたら良いと思います。例えば、manaba だけを取り上げて、そのメリットデメリット、使い方を検討する会、リアクションペーパーだけの会、パワポの工夫、積極的参加（発言）を促す工夫など・・・

○時期をえたテーマを提案してくださっているので、来年もその方式でと思います。

- 千代田の新校舎が完成し、そこに足を運んだ多摩の学生から「多摩・千代田間格差」を訴える声がチラホラと聞かれるようになってきました。曰く「同じ学費を払っているのに、どうしてこんなにも環境が違うのか…」etc. このような声に対してどのように向き合っていくのかを、一度話し合っておいた方が良いかと思います。
- 今回の Tips をなんらかの系統別に分けていくことができると分科会等ができるのでしょうか。
- 例年のテーマもよろしいかと思います。
- 今回の内容を来年度深めていければと感じました。
- 初めての参加でしたが、他の先生方の工夫もお教えいただければと思いました。
- 今回の企画の第二弾（“Tips2”）を、楽しみにしています。ありがとうございました。
- 反転授業やアクティブラーニングの実践例や、アクティブラーニングを実施しやすい教室づくりについて、実現的な活動をしていくのはどうでしょうか。
- Tips の第二弾はよいと思います。いずれにしても授業の工夫をテーマにすることは FD の要と考えます。
- 選択科目と必修科目では授業展開が異なるのではないかと思います。人間福祉学科は国家試験受験科目に関する必修科目が多くあり、そのような科目の履修者は基本真面目だし、授業評価も学部平均よりも高い値を示します。しかし、人間関係総論は毎年何かしらの工夫をしているつもりであるが、授業評価は学部全体平均並みです。特に昨年度の授業評価は項目「あなたのこの授業へのとりくみ」の 15 番「予習・復習への問」は (1.38)・16 番「授業中の意見・考えを述べるへの問」は (2.62) でした。すべての科目で、予習・復習を学生に求めると学生がパンクしてしまいます。学生は一人の教員が出す課題に押し潰されそうになっている姿もあり、それを知っているために自分の科目では課題を遠慮することもあります。予習・復習を有効にする方法についての検討はいかがでしょうか。
- ユニバーサルデザイン教育が小中学校で取り入れられ授業研究をしているようなので講師を招き参考にしたい。
- 同様のテーマを最低 2 年間は続けるべきだと思います。
- これを 2 年間は続けた方がいいと思います。
- manaba のより具体的な使い方などを知りたい。
- 学生のメンタル面でのサポートについて（例えば、オフィスアワーで、研究室に来た学生への対応の仕方など）
- 引き続き、教職員同士が交流しやすい、共有可能なテーマを取り上げて欲しいと思います。
- 今回のような具体的な授業改善に関わるテーマも継続的に行う必要があると思います。また別の視点では、多摩キャンパスの在り方について、少し絞り込んで、国際化や地域連携・貢献などについて、ディスカッションを取り入れて行うこともいかがでしょうか。
- FD 研修で本当に多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

5. 研修会を終えて

今回の FD 研修会を分科会による座談会形式ではなく、一堂に会する形で実施したには理由

がある。それは人間関係学部の教職員全体で、かつ同時進行でひとつのテーマを共有したいとの思いからであった。その反面、個々に発言する機会が少なくなったことは運営上の今後の課題としたい。

今年度末をもって、長きにわたり人間関係学部で教鞭を執っておられた川廷先生、向井先生が揃って定年を迎えられた。お二人の先生方の授業への綿密かつ熱心な取り組み、情熱あふれる学生への対応は常々聞き及んでいたが、**Tips** を余すことなくご紹介していただけたのは個人的に大きな収穫であり、今後目指すべき道標となったように思う。綿密さや熱心さは人によって異なれど、授業をする者として備えるべき要素であることを心得た研修会であった。

授業での取り組み方や授業方法は、その時代や学生からの要請に応じて時々刻々と変わるものである。しかし、自分自身の授業スタイルを柔軟に変えていくのは難しい。そこで、今回の企画は“人のふり見て我がふり直す”場になっていれば光栄である。

最後に、年末のお忙しい中ご出席くださった学長・副学長先生はじめ事務職員の方々、人間関係学部教員及び運営に携わっていただいた助手、助教（実習担当）の皆さまに深く御礼申し上げます。

VIII 非常勤講師との教育懇談会

本学では、非常勤講師との教育懇談会を年1回開催し、教育に関する連携強化を図っている。本学部においては、教育懇談会を学部、学科、専攻の3段階で行っている。今年度より学部長が小川浩先生となり、本学の教育理念を非常勤講師の先生方にお伝えするとともに、大妻女子大学の置かれている現状を説明し、それを踏まえた懇談会となることを意識して、実施した。

平成27年5月23日14時40分から、学部全大会、学科・専攻での懇談会を実施し、その後多摩校舎全体での懇談会を行った。

1. 学部全体会

小川学部長から、以下の4点についての話があった。

(1) 大妻女子大学の教育理念について

大妻女子大学の教育理念、校訓「恥を知れ」、人間関係学部の教育上の目的について説明された。校訓である「恥を知れ」は他人に対して言う言葉ではなく、自ら省みて自らを律するためのものであり、人格形成の基本となる言葉として伝えられた。また、人間関係学部の教育上の目的としての「共生社会の現実」も説明された。

(2) FD活動について

学部のFD活動について、前期後期の授業アンケートの実施と、実施結果を取りまとめたFD報告書について説明がされた。FD報告書は学部ホームページから閲覧することが出来ることも伝えられた。また、FD活動に関することで何かあれば、各専攻のFD委員または、専任教員へ気軽に声をかけて頂きたいことも話された。

(3) 学生対応について

冊子「学生対応の手引き」についての説明がなされた。欠席の多い学生、何度も質問に来る学生など様々な状況に合わせた対応について記述してあること。メンタル等に問題を抱えている学生については、学生相談センターへのつなぎ方も説明していることを伝え、学部の非常勤講師室に常備してあることが紹介された。

(4) Manabaについて

Manabaの使い方について専任教員も含め試行錯誤中であることが伝えられ、本日の懇談会の中で情報交換したいことが伝えられた。また、Manabaのマニュアルについても非常勤講師室に縮刷版を数冊設置するので活用いただきたいことも話された。



学部全大会の様子

2. 学科及び各専攻での懇談会

学部全体を踏まえ、各学科・専攻の現状を報告する機会を設け、意見や感想を伺った。また、実際に、同一科目の複数担当者が一堂に会する機会でもあり、科目の打ち合わせの時間を取る等の充実した時間を過ごすことができた。



社会学専攻の懇談会の様子



社会・臨床心理学専攻の懇談会の様子



人間福祉学科の懇談会の様子

懇談会での話題は、授業内容に関すること、教室設備に関すること、学生の様子等、多岐に渡った。ここでは、非常勤講師からの主な意見、要望を専攻がどのように対応したかについて取り上げる。

（１）授業内容に関すること

- ・学生の数学的な素養がない。（社会学専攻）
⇒（対応等）入学前教育などを行っていますが、今後改善できるように検討します。
- ・授業内で学生同士のグルーピングを拒否する学生がいる。（社会学専攻）
⇒（対応等）事前の座席指定や明確な課題・目標の設定でグルーピングを行ってください。
- ・授業中にグループを作る際の工夫について情報共有したい。（社会・臨床心理学専攻）
⇒（対応等）オリジナルのグループ分けカードを作成し、実際に使用している例なども交え、意見交換をした。
- ・専門科目の授業に興味を示す学生とそうでない学生がいる。以前は、授業中に紹介した参考図書に対する感想などを書いてくる学生がいたが、最近はそういう学生が見られない。学生が授業に対する興味・関心を抱くような授業を展開したい。
⇒（対応等）各教員の以下のような授業の計画、実施、課題などの工夫を説明した。
 - （１）事前課題を与え、予習をさせ、授業内で学生のディスカッションを行う。
 - （２）授業中のディスカッションの仕方を様々な方法で行う。
 - （３）授業の準備中（パソコンの設定など）に、音楽をかける。
 - （４）学生に応じた声掛けをする。
- ・20名くらいの少人数セミナーの授業が、固定機の100名規模の教室をあてがわれることがある。考慮していただけないか。（人間福祉学科）
⇒（対応等）他の授業との関係もあると思いますが、可能な限り配慮します。
- ・大人数の講義科目について（全学共通科目・学部共通科目等）（人間福祉学科）
⇒（対応等）（１）講義科目でも学生のディスカッションの機会を設けたいと思っている。しかし、他学部や他学年が混在している場合、なかなかディスカッションがやりづらいので、マイクを回して意見を求めるなどの工夫を行っている。
 - （２）遅刻や遅延の取り扱いについて、シラバスや授業のさ最初の約束をはっきりとさせておく工夫が必要である。
 - （３）学生の意見を求める方法として、出席カードを利用したり manaba を活用し、工夫している。

（２）授業の欠席に関わること

- ・就職活動で休む学生の欠席の扱いについてどのようにすれば良いか。（人間福祉学科）
⇒（対応等）大学所定の就職活動に伴う欠席届を学生が各自授業担当者に提出することになっています。欠席届には就職活動で赴いた先の企業等の証明をもらうことになっているため、授業担当者への提出は欠席した後になります。

（３）出席管理システム、manaba について

- ・ manaba の提出率が 7 割程度である。（社会・臨床心理学専攻）
- ⇒（対応等）manaba のアンケート等は、提出の時間を授業中だけではなく、数日後にするなど工夫して、学生が提出しやすくしてください。
- ・ 授業中に manaba のアンケートを学生に答えさせたいが、電波状態が悪く、学生が携帯・スマートフォンを使用できない。（社会・臨床心理学専攻）
- ⇒（対応等）設備が整っておらず、申し訳ありません。

（４）施設・設備について

- ・ 黒板（ホワイトボード）とプロジェクタースクリーンが被ってしまう教室が多い。（社会学専攻）
- ⇒（回答）適宜切り替えて使用するか、画書カメラ、PowerPoint などを使ってプロジェクターへ投影により手書きする方法もあります。
- ・ 学生が PC を持ち込むための対策として、Wi-Fi や電源が無い。（社会学専攻）
- ⇒（回答）Wi-Fi に関しては今年度からテストを行う予定です。電源に関しては今後検討します。
- 教室へ無線 LAN の設置については、情報戦略会議で検討しています。（多摩メディア教育開発グループ）
- ・ 情報処理教室で SPSS を使用していると入力不可になることがある。使用ライセンス数の問題ではないか。（社会学専攻）
- ⇒（対応等）入力ができなくなる原因の特定ができません。症状が出たときに多摩メディア教育開発グループまでご連絡ください。（多摩メディア教育開発グループ）
- ・ グループ作業のために大きな机（6～8 人が囲める）が数台設置された教室が欲しい。（社会学専攻）
- ⇒（回答）検討します。
- ・ 小さい教室で PC の接続ができない教室がある。（社会学専攻）
- ⇒（回答）事前の出講希望アンケートで必要な設備をお申し付けください。
- （対応等）毎年事業計画予算で順次整備をしています。（多摩メディア教育開発グループ）
- ・ 7114 教室のパソコンの立ち上げが遅い。前の休憩時間から立ち上げ、授業最初の 5 分くらいをイントロで使わなければ立ち上がらない（人間福祉学科）
- ⇒（対応等）内蔵 HDD の交換により現在は改善しています。（H27.6）（多摩メディア教育開発グループ）

（５）その他・学院へ

- ・ 近年、人間福祉学科でも一般企業に就職する学生が増加しているようだが、これにはどのような背景があるのか。（人間福祉学科）
- ⇒（対応等）一般企業の求人状況が上向いてきていることが大きく影響しているのではないかと思います。

・実習配属先決定までの手続きはどのようになっているのか。(人間福祉学科)

⇒(対応等) 学生との面接を重視して決めています。実習開始後に、どうしても職場や利用者になじめないという事態が発生したとき位は、施設の指導者と交渉してフロアや事業所を変更してもらうこともごく稀にあります。

・障害学生(学習において特別な配慮が必要が学生)への対応について(人間福祉学科)

⇒(対応等) 本人から届け出のある学生については障害学生支援委員会を中心として対応している。それ以外にも難聴等、届をしないで配慮のないまま不自由な思いをしている学生も時々いるので、気になる学生がいたらお知らせください。(人間福祉学科)

3. 今後の課題

年1回の非常勤講師との教育懇談会の機会をより充実していく必要がある。人間関係学部は現在の多摩3学部の中で唯一残る学部である。本学の教育方針の実践において、本学の動向や情報の共有等は学生への教育や指導に大きな影響を与えると思われる。また、最近の少人数化授業の実施等を鑑み、同一科目の複数担当が増加している。非常勤講師と密な連携を取る重要性は増している。

本学の教育は、非常勤講師のご尽力なくしては難しい。卒業後も考える力を持った人材育成を目指すためには、学生個々への目配りや考える参加型の授業が重要になってくる。今後ますます多様化していく学生の状況を共有する機会として、また、多摩キャンパスに残る学部と責任を持って学生教育に邁進していくためにも本学への理解を深めていただく機会として、今後もこの非常勤講師との教育懇談会に積極的に取り組むことは重要である。

本学の教育理念



●教育理念の基本的精神:「関係的自立」

「関係的自立」: 各自が互いに社会に貢献し得る有能さを確保しつつも、他者との関係の中でこそ自立と自己実現を目指す

1

校訓



恥を知れ

他人に対して言うことではなく、自らを省みて、自らを律するためのものであり、人格形成の基本となる言葉として、学生に周知している。



2

人間関係学部教育研究上の目的



「共生社会の実現」を目指して、様々な人々や社会と共存するための知識を学び、人間関係や社会についての洞察力を身につけ、人間の幸福や福祉についての深い理解を習得し、柔軟な想像力・すぐれた問題解決能力・実践力を備えた心豊かな人材を育成する。

3

学科の教育・研究上の目的



●人間関係学科

社会学専攻では、社会学的想像力と社会調査のスキルを備え、幅広い視野と柔軟な発想を持った人材を育成する。

社会・臨床心理学専攻では、人間関係にまつわる問題に、適切に対処できる「人間関係学」を備えた人材を育成する。

●人間福祉学科

生活を送る上で様々な課題を持っている人が、「共生」できる社会を創ることに貢献できる人材を育成する。

4

大学全体の動き



- 比較文化学部と社会情報学部が千代田キャンパスに移転。比較文化学部は平成29(2017)年度、社会情報学部は平成30(2018)年度までに、全学年が千代田キャンパスで学ぶことになる。
- 人間関係学部は、多摩キャンパスで継続する方針。

5

授業アンケートの実施



- 前期は、6月29日(月)～7月18日(土)まで、後期は、12月1日(火)～12月22日(火)まで実施いたしますので、ご協力をよろしくお願い致します。
- 本学部では、学部のホームページにおいて、FD活動報告書をPDFで公開しております。

6

学生対応の手引き



- 教職員の学生対応のために
～気になる学生とのかかわり～
- 学生相談センターが作成した小冊子が講師控室に置いてあります。参考にして頂ければ幸いです。

7

Manabaについて



- 本学では LMS (Learning Management System)に manaba を導入しています。
- 効果的・効率的な授業運営にご活用下さい。
- 再度マニュアルが必要な方は、ningenfd@ml.otsuma.ac.jp 宛にお申し出頂ければ準備致します。講師控室に縮刷版を掲示しますので、ご参照下さい。

8

IX 人間関係学部FD活動の課題

1. 組織レベルでの課題

文部科学省・中央教育審議会によると、FD (Faculty Development) とは「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる」とある。人間関係学部のFD活動は、学生による授業アンケートの実施と集計、学生対応に関するオフィスアワーやクラス指導、保護者や非常勤講師との懇談会、そしてFD研修会とまさに多岐・広範にわたる。さらには個々の教員が学内外で独自にFD活動やFD研究を行い、日々研鑽を積んでいる。これら一連の取り組みをFD活動報告書にまとめ、全教員で共有し、相互の取り組みの向上に役立てている。その足跡を見える形で共有できるものとしてもっとも有効な資料が、この学部FD活動報告書と言えよう。

各教員のFD活動、専攻・学科ごとのFD活動、さらには研修会のように一堂に会するFD活動で得られたさまざまな課題を吸い上げ、教員だけでなく事務職員も交えて組織的に改善・解決・向上させていくことが今後の課題である。また、本学部だけでなく他学部とも課題を共有して改善していく試みも今後は必要になるだろう。FD活動は学部単位で完結するものではなく、むしろ“外野からものを見る”ことも改善のヒントになるのではないだろうか。

2. 個々の教員レベルでの課題

今年度の学部FD研修会では、授業運営上の工夫 (Tips) に関して何名かの教員が代表して、Tipsを紹介し情報共有を行った。この企画は学部開設当初から行っていた「公開授業」が近年実施されていないことを鑑み、“部分的な公開授業”という位置づけであった。一部であれ、他の教員の授業方法や授業での様子を垣間見ることは、改善しようとする教員の視野を広げることになるのではないだろうか。今回の研修会のように、ある教員が授業だけでなく、オフィスアワーで、クラス指導で実践している内容をTipsとしてデータベース化していくと、個々の教員の引き出しも増えるのではないだろうか。データベース化という点ではうまくいった点 (成功) のみを取り上げるのではなく、うまくいかなかった点 (失敗) から学べることも多いので、それらを学部全体で蓄積していく機会を継続していくことも有効であろう。個々の教員がそれらを活かしつつ実践していけば、より良いFD活動ができるのではないかと考える。

3. 全学および学部委員会間との連携の重要性

FD活動は学部単独ではなく、他学部との連携も必要であろうことは冒頭の節で記した。また、本学では全学的な委員会としてファカルティ・ディベロップメント (全学FD) 委員会があり、講演会や研修会を年に数回開催している。上述したように、FD活動を学部だけで完結させることなく、有機的に他学部と共にFD活動を推し進めていけるよう、全学FD委員会との連携を深める必要がある。

学部FD活動の範囲は、学部内の各委員会とも密接に関わっている。授業に関する事柄は教

務委員会、オフィスアワーやクラス指導など、学生に関連する内容は学生委員会や障害学生支援委員会、manabaのような教育支援ツールに関しては情報教育委員会など、単独の委員会活動だけでは十分な検討や実施するのは困難である。学部FD委員会は、さまざまな領域にまたがる課題を取り上げ共有する“横断的な委員会”として今後ますます存在感を発揮していくことを期待したい。

資料編 「授業に関するアンケート」に対する教員の回答

２０１５（Ｈ２７）年度前期 大妻女子大学人間関係学部
「授業に関するアンケート」について対応策、質問

- ① 氏 名
- ② 科目名
- ③ 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されるおつもりですか。
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘下さい。
- ⑤ 受講生への要望があればお書き下さい。

①秋山恵美子

②介護の基本 F

③今回の集計結果も、学部全体平均よりすべて高い評価であったが、「授業の予習・復習」や「授業への積極参加」に関しては、学部平均より高いものの数値は低く、学生個々の発展的な取り組みと自主的に進むことを後押しするまでにまでは至っていないと考える。隔週に実施する小テストにより、復習の時間を確保するに至っており、学生からも到達度の理解につながっているとのコメントもあった。予習に関する改善策として、課題の提示により、自分で調べて考える姿勢へのきかけをつくり、学生に無理のない範囲で課題を出すことも、今後考えていきたいと思う。毎回の授業で、自治や医療・福祉関連のトピックス、自身の体験などを紹介しているが、興味をそそる授業の導入として、今後も実施していきたい。

④PC も使いやすく大変助かっております。

⑤特にございません。

①板倉香子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－B

③受講生の理解度を把握し、それに見合った授業展開を工夫するための仕組みを考えたいと思います。小テストは好評のようでしたので、小テストのほか、リアクションペーパーの有効的な活用を考え、主体的に学べるように工夫したいと思います。また、私語への対応としては、「私語をさせない」授業づくりを、引き続き考え工夫したいと思います。

④施設設備は申し分なく、大変使いやすかったです。受講者数は講義型としては適正かと思いますが、より個別的にきめ細かい対応を目指そうとすると厳しくなると思います。

⑤学ぶ意欲の高い学生とそうでない学生の差がありました。「テストのための勉強」ではなく、「自分のための学習」をするという意識を持ってほしいと思います。

①伊藤美登里

②身体とファッションの社会学

③課題の提出時期などは早めにするよう心がけます。講義中に、学生さんに投げかける質問を増やしてみます（対話型の授業になるように）。

④③と関連してですが、100 名近い受講者の授業で対話型はなかなか難しいです。セミナー（少人数授業）では、一回の授業で最低でも 1 回はどの学生さんも発言するような形態がとれるのですが。

⑤なし

①井上修一

②高齢者に対する支援と介護保険制度 I

③概ね良い評価であった。今後は、授業中に学生に発言を求める機会をさらに増やしたい。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①井上修一

②成年後見制度

③概ね良い評価であった。「さらに発展的に学びたい」「授業を受けて良かった」「新しいものの発見」「理解できる」の得点が高かった。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①浦尾和江

②介護技術

③実技のグループ分けの回数を増やしメンバーの入れ替えを行う。事後指導のレポート課題が学生の負担にならないよう考慮する。

④実技科目のため介護実習室を使用する。マックス 40 名を超えないよう、受講者の人数調整をお願いしたい。

⑤授業は休まず出席し、課題のレポートは期限までに提出のこと。

①大出春江

②社会調査講義 I

③教科書を用いると同時に、参考資料は manaba にアップロードしておき、学生はそれらを読んで課題レポートとして manaba に提出するようにしている。昨年より課題提出の数を減らした。パワーポイント資料を配付することで、学生が授業内容に集中して聞けるように工夫している。その関係で、スライドが早すぎるという例年の不満はなくなったものの、全体の評価が昨年よりも下がっている理由について、学生の理解度に対応する形で、さらに内容を絞る工夫が必要かもしれない。

④特になし。

⑤特になし。

①小川浩

②障害者支援と障害者自立支援制度 I

③全体に良好な評価ではあるが、前回よりも、評価点が若干下がったことが気になる。特定の項目というより、全体的な問題なので、細かい修正を心掛けていきたい。

④特にありません。

⑤特にありません。

①尾久裕紀

②女性と健康

③自主的な学びについて、今年度から課題を設定しましたが、ややハードルが高かったかもしれません。取り組みやすい課題を段階的に設定する予定です。

④なし

⑤なし

①尾久裕紀

②人体の構造と機能及び疾病Ⅰ

③毎回のドリルと小テストを取り入れていく予定です。

④なし

⑤なし

①尾久裕紀

②精神医学Ⅰ

③興味はもっていただいたようですが、知識をもう少し確実に身につけてもらうような方法を考えたいと思います。

④なし

⑤なし

①尾久裕紀

②社会福祉学基礎セミナーⅠ

③今回２年目で教員が少し慣れたこともあり高評価でしたが、来年は持たなくなります。

④なし

⑤なし

①尾久裕紀

②精神保健の課題と支援Ⅰ

③一般的な知識に加え、白書などの統計情報の読み方などを引き続き取り入れていきたいと考えています。

④なし

⑤なし

①加藤浩治

②コンピュータ応用、コンピュータ基礎A

③コンピュータ応用はある程度の評価であったものの、コンピュータ基礎Aは受講生が比較的多く、今回は準備と説明をより入念にしてみました。しかしながらまだ不足のようですので、さらに丁寧な説明を心がけて参りたいと存じます。

④教室の設備と管理が適切に行き届いていますので、要望はありません。

⑤質問や疑問がある受講生は、挙手をお願いします。

①門林道子

②老いと死の社会学

- ③まず、受講者の数より、アンケートの集計者数がかなり少ないのはなぜなのか、授業中に全員に配布し、回収のかたちで行っているのに、不思議です。受講者数は昨年より 20 名ほど増え、約 111 名でしたが、全項目において平均点が下がったことが気になりました。とくに、授業の内容について、また学生の授業への取り組みとその成果について、興味深いものだった、よく理解できるものであった、更に発展的に学びたいと思った、という箇所での下がり、私も今後の課題として留意していきたいものだと考えます。今年度、初めて休講し、補講というかたちをとったため、教室の事情などもあり、その回に内容をすこし変えたということなども影響を与えたのかもしれませんが。次年度のシラバスでは、そのような要因や内容をしっかり検証、吟味して計画していきたいと考えています。授業のための準備や授業中の質問などに対しての点が、(いつもそうですし、一般的にも) 目立って低いので、そのへんについても自宅課題を与えたり、もっと積極的に取り組めるような授業展開をめざし、授業中に意見を求めるなどの工夫をしていきたいと考えます。
- ④教室の設備等は問題ないのですが、やはり人数が多いので、縦長の教室のうしろの方で、固まっていたグループの私語が目立ってうるさく何度も注意しました。そのようなことが重なると、授業がその時点でストップし、まじめに授業を受けている他の学生にも不快感を与えますし、できるだけ生徒の自主性、モチベーションにまかせたいと思って授業を行っていても、やはり注意せざるをえず、何度も重ねることで遺憾に思いました。
- ⑤やはり、授業に積極的、主体的に参加する、人の邪魔はしない、という自覚をもってほしいです。私のほうも、授業に関心をもって参加し、結果、この授業で学ぶことが多かった新しいもののみかたができるようになり、更に発展的に学びたいと思うようになったといってもらえるような授業を今後目指していきたいと思います。

①亀山晶子

②人間の成長と心理

- ③進め方、内容ともに学部全体平均より高いことはよかったと思います。予習・復習などの自習と、授業中の積極的な参加の平均値が例年低いため、今年はホームワークや予習ワークなどを設けてみましたが、かえって課題量が増えて受講者の負担になったように思います。今後は量や頻度に注意しながら自習の助けになるような課題にしていきたいと思います。
- ④特にありません。
- ⑤特にありません。

①亀山晶子

②社会的認知の心理学

- ③少し学術的で難しい部分もあるため教科書を併用し進め方を工夫していたので、学びやすかったという意見が多く、よかったと思います。今後も受講者の意見や要望を取り入れて改善していきたいと思います。

④特にありません。

⑤特にありません。

①河上睦子

②女性史

③manaba や配布資料などの利用については今後も継続していきたい。多人数のために、学生からの質問や意見を聞いたり発表させることなどがなかなか難しかった。小レポート提出で復習を兼ねさせたが、今後はレスポンス用紙の利用も検討したいと思う。私語については、その都度注意したので、多くの学生は満足したようだが、後方の座席では徹底していなかったようなので、座席指定等をこころみたい。

④特になし。

⑤特になし。

①川上裕子

②発達と老化の理解、障害の理解 A

③「レジュメの見方がわかりにくい。どこが大切なのかもよくわからなかった」という意見がみられた。授業内容と配布資料の精選を図りたい。また、テキストを使用しなかったこともわかりづらさにつながったのかもしれない。学生の予習復習への動機付けや授業の全体像を把握できるようにするためにも、今後はテキストの活用も考慮したい。

④ありません

⑤集中している学生とそうでない学生の差が大きかった。私語をしている学生に注意を促すことで、授業自体の進行を中断することになり、集中している学生に犠牲を強いることになった。私としても学生の興味を喚起するような授業を行うことを今後の課題とするが、学生にも自覚をもって授業に臨んでほしいと考える。

①菊住彰

②キャンパスライフとメンタルヘルス

③「教材資料提示は授業の理解に役立った」が高得点だったのは準備の甲斐があったと嬉しく思います。講義はパワーポイントによるスライドを使って進めており、レジュメはその画面を抜粋して印刷したものや、心理テストなどを適宜使ってまいりました。アンケートの自由記述欄に「説明がずらーっと書いてあって分かりにくい」との指摘をいただきましたが、これは上記のパワポについてのご意見かと存じます。教科書を使っていないため、ある程度の解説文が復習時にあったほうがよいと考え、文章の多いものになったと思います。その分、アニメーションや映像教材を使えるところは多用して、視覚的にインパクトを与えるように作成したつもりでした。もっと図表やフローチャートを用い、羅列にならない程度にキーワードを列記するなど、パワポ自体にも改善を加え、あとは口頭での解説を集中して聞いていただけるように工夫をして臨みます。

④DVD やインターネットの動画など、映像資料がふんだんに使える教室を使わせていただけ

たことによって、効果が大変高くなったと考えています。今後もこうした設備が利用できる教室を使えることを切望します。

- ⑤後部座席での私語が前年より少なくなりました。他人事ではない「明日は我が身」のテーマを取り上げていきますので、今後とも自戒を込めて真摯な態度で受講してください。

①久米秀作

②スポーツ A

- ③本授業は体育館でのスポーツ実技を中心に進められました。例年のごとく、参加した学生たちのモチベーションは高く、設問 14 の「この授業にどの程度出席した」の回答の高さにこのことが端的に表れていると思います。

- ④体育館は、夏場大変熱気が籠り、熱中症の注意も必要な場合がありますが、今年はスポーツ教育研究室で大型扇風機を 2 台設置していただきましたので、助かりました。

- ⑤仲間とともに共同で何かを達成させる喜びを、スポーツを通して経験していただけたら幸いです。

①久米秀作

②スポーツ C

- ③本授業は、テニスとゴルフのカリキュラムを中心に展開しました。どちらの種目にも初心者がいましたので、特にそれに該当する学生には技術面の指導が中心になりました。特にゴルフが基本的なスイング指導が中心にならざる得なかったのですが、学生たちはモチベーションを切らすことなく熱心に受講してくれました。

- ④本年は、グラウンド改修のこともあり、特にゴルフカリキュラム実施の際には、少し工夫を必要としましたが、心配する程ではありませんでした。

- ⑤テニスの初心者講習は、毎年好評をいただいています。最後はゲームができるまでを目標にしていますが、今年も全員無事にそのレベルまで達することができました。

①久米秀作

②スポーツと健康

- ③本講義は、例年後期の「レクリエーション論」とセット受講する学生がおり、昨年度アンケート結果では「やや両科目の内容がかぶる」との指摘をいただきましたので、その改善を目指して、少し内容を専門的なレベルに引き上げました。ただ、今回のアンケート結果では、このことが必ずしも学生に受け入れられたか疑問に残る残念なご回答が見られましたので、来年度少し内容の見直しと理解への工夫を進めたいと反省しております。

- ④教室の静寂さを保つためにも、授業内容を中心に更なる改善、工夫が必要だと感じております。

- ⑤特にありません。

①倉田量介

②現代社会論セミナー I

③自習の時間が少なかったようなので、適切な発表担当の割り振りで自学の意識を高めたい。

④ありません。

⑤ありません。

①小谷敏

②人間関係総論 I、子どもの世界

③人間関係総論 I については、内容的に学生の関心を引き付けることが難しい部分があり、来年以降再検討の必要があるように感じた。子どもの世界は、私語を注意する際にマイクを使うとまじめに聞いている学生が怒られるているような感じがするという指摘が複数あったので、今後気をつけたいと思った。

④特になし

⑤特になし

①後藤かおる

②家族心理学

③大人数の講義だったため、リアクションペーパーで意見や質問を受けて、それを共有するようにしていたが、「授業中に質問や発言をしなかった」という意見が多くあったので、授業で発言できる環境づくりに配慮したいと思います。「授業は理解できた」という意見が多い一方で「進め方が早い」「スライドの切り替えが早い」という記述もいただいたので、全体に目を配り、理解度に配慮していきたいと思います。「授業は自分の将来にとって意味があると思う」「新しいものの見方ができるようになった」という意見を多数いただけたことは、特にありがたく思っていますので、一層充実した授業を行うべく努力したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

④特になし

⑤リアクションペーパーの記述は素晴らしいものが多いので、ぜひ授業中にも発言していただけたら嬉しいです。

①佐々木宰

②相談援助演習 V、介護過程Ⅲ、介護の基本 A、社会福祉学基礎セミナー I、社会福祉学概論 I

③今回は、自身は学生の反応も良く高く評価されると思っていた科目が実際には低い評価となったり、その反対の科目もあつたりと、学生の意識との差が例年以上に大きく出た結果となった。全体として評価が高いが、自由記述では私の態度の問題やレジュメ、説明が抽象的でわかりにくい点を例年以上に具体的に指摘する記述も見受けられ、この点からも「集団」と「個」の両側面に眼を向ける必要性を感じた。今後の対策として、1) 今年度からレジュメをシンプルにするようにしており、これを継続する、2) コメントカードで各回の学生の

感想を具体的に聞き、次回の改善へ向け迅速に対応する（コメントカード配布、記入及び回収時間を考慮して、授業の時間管理も今まで以上に厳密に行っていく）、3) 例年より評価の高かった科目の要因を講義・演習ごとに分析し、当該科目だけでなく他科目にも反映させる、の3点に取り組んでいきたい。

④特にありません。

⑤特にありません。

①佐藤史緒

②基礎統計学Ⅰ

③アンケートの結果、特に、毎回の予習・復習合わせた自習の低さを感じた。基礎統計学Ⅰでは、テキストを使用しているが、今後の授業では、テキスト+αの課題を出来るだけ多くし、課題に取り組み「自分で考える」ことによって学べるようにしていきたい。

④特になし

⑤特になし

①佐藤富士子

②認知症の理解

③全体的に高い評価であった。昨年度の低い評価であった15番、16番を改善してみた。グループワークや授業中に発問を取り入れたり、課題の提出を義務付けたり等の改善を行ない、16番の評価は上昇した。15番は平均並みであった。もう少し、改善する必要があると思います。

④特になし

⑤現在マスコミ等でも挙げられているテーマなので、身近に感じている人も多く授業態度は良いと思います。

①佐藤富士子

②医療的ケアⅡ

③オムニバスで講義演習が含まれている授業で、技術の教え方に教員の違いがあったという評価であった。もう少し事前打ち合わせを密にし、統一した指導の方法を改善する必要があると思います。

④特になし

⑤この科目は医療に準ずる授業内容になるので、学生には今までの技術にない緊張感を体験しているからか、授業態度はとても良いと思います。

①嶋貫真人

②社会保障Ⅰ

③全体の平均値を下回ったのは、質問5および質問16であった。したがって、改善策は下記②の科目の中のこれらの項目と同じである。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①嶋貫真人

②低所得者に対する支援と生活保護制度

③全体の平均値を下回ったのは、質問 5（授業の中で質問や意見を促したか）、質問 15（毎回予習・復習をした）および質問 16（授業への積極的参加）の 3 項目であった。質問 5 については、今年度からマナバによる双方向の意思疎通ツールを導入したせいか、昨年度の同項目と比べて評価が向上している。したがって、次年度においても、この手段の周知・徹底を図っていききたい。質問 15・16 については、質問 5 と一体的に取り組むべき課題と考える。

④特になし

⑤私語は慎んでもらいたい。

①嶋貫真人

②社会福祉現場実習事前指導

③学生の出席状況は比較的良好で、主体的・積極的に取り組んでくれたと思う。授業評価もおおむね良好で、特に改善すべき点は見当たらない。

④特になし

⑤本授業の運営自体には、まったく問題はないのだが、そもそも「自分はなぜ、社会福祉士の資格を取得するのか？」という出発点の動機がいまいなまま、実習に臨む学生が依然として多く見られる。この点が長期的な課題であると思う。

①嶋貫真人

②福祉行財政と福祉計画 A

③全体の平均値を下回ったのは、質問 5 および質問 15 であった。したがって、改善策は、上記②の科目の中のこれらの項目と同じである。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①関田誠

②社会福祉学基礎セミナー I

③学生の授業内外の積極的な学びを促すように授業計画を再考したい。

④特になし

⑤特になし

①高橋佳代

②相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅴ

③Ⅲ、Ⅴ共通して、15 予習・復習、17 発展的に学ぶ、加えてⅤでは 16 積極的に参加の得点

が低かったです。これまで以上に授業はじめの学習のねらいの明確化と授業おわりのまとめを強化し、予習・復習をしやすいします。同時にⅢ、Ⅴが実践を見据えた授業であることから、この先の役立ち感を高めるように努め、積極的に授業参加ができる雰囲気や発展的な学習につなげたいと思います。

④特になし

⑤今後とも当事者の立場で考える姿勢で臨んでください。

①田中優

②対人関係

③「教室への到着が遅い」との意見があったので、授業開始時間を早くするように心がけたい。

④特になし

⑤manabaでの授業感想を学生に求めているが、授業評価には含めないと説明しているのに、「評価に影響がでるのか、また未提出だと評価はさがるのか」という質問があった。何度も説明しているので、しっかりと説明を聞き、授業に出てもらいたい。

①田中康雄

②相談援助実習事前指導

③常勤ではなく非常勤講師として、実習指導を担当する際、想定されるような事項（学生が相談したいと感じたときの対応方法等）を事前に深く想定していれば、よりよい授業を提供できていたと感じており、今後は事前に自身のサポート体制について熟考した上で、授業を改善していきたいと考えております。

④特にございませんが、一定数以上の受講者だけでなく、今回のような少数受講者における授業アンケート実施については、少々戸惑いました。

⑤特にございません。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－A

③私語への注意、将来意味のある授業の評価が高く、これらを意識して授業を続けて行きたいと思います。相談援助の基本となる科目なのでしっかり授業をしたいと思います。その他は前回よりも評価点が若干さがっていることが気になります。細かい修正を心がけたいと思います。

④特になし

⑤この授業は、社会福祉援助者としての基本的な視座を学ぶ授業です。今までの思考とは別の考え方も学ぶため、理解に時間がかかる授業でもあります。復習に時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助演習Ⅲ

- ③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。
- ④特になし
- ⑤相談援助演習は、学生が前向きな思いで参加することで、技術が身につく授業となりますので、積極的な参加を望みます。

①丹野真紀子

②相談援助実習事前指導

- ③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。特に「予習復習」の評価も高く、学生が熱心に取り組む様子がわかりました。
- ④特になし
- ⑤この授業は、実習に行く前の準備を行う時間です。ここでの学びは、実習で活きますので、しっかり自分の学びたいことを考えていきましょう。

①丹野真紀子

②保健医療サービス

- ③学生からの評価も高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。医療現場はなかなか見ることができないため、視覚教材を使いましたが、わかりやすかったという評価、声が多かったので、これは今後も続けたいと思います。
- ④特になし
- ⑤特になし

①千田若菜

②就労支援サービス

- ③大教室の授業のためか、その場での質問や意見は出しにくいようですので、メールや出席カードなどの活用を促し、できるだけ質問や意見を引き出していきたいと思います。
- ④やむを得ないことと思われそうですが、受講者数は 50 人程度であれば主体的参加促進や個別フォローがしやすくなるかと思います。
- ⑤盗電や私語などの受講マナーについて、ご協力をお願いいたします。

①寺島拓幸

②現代社会論セミナーⅢ

- ③学生の主体的な授業参加が毎年の課題だが、今年度もおとなしい学生が多かった。昨年度に引き続きコメンテーター制を採用し発言を義務づけたが、学生相互の議論にまでは発展しなかった。反面、個々の授業態度はよく、課題への取り組みも真面目であった。教員の質問やコメントに対しては積極的に応答する学生が多く、こちらも新しい消費文化に関する情報を得ることができ勉強になった。新カリへの移行で担当できなくなるのが非常に残念である。
- ④特になし。
- ⑤例年と異なり「適度な欠席」をする学生が少なく、授業が円滑に進んだ。後期は積極的な発

言を期待したい。

①西川千登世

②レジャーの社会心理学

③全体的には、平均以上の評価をいただき、感謝しております。出席については、平均以下だったものの、実際の出席率はそんなに低いものではありませんでした。選択科目ということもあり、出席に関して厳しくは指導はしていないため、出席に関してそこまで意識して出席していなかったのかもしれませんが。次に平均以下だった自習に関しては、毎回ではないため、どうしても低くなりますが、科目の特性上、これ以上の負荷はかけなくてもよいかと思っています。授業中の質問等（⑩）については、そのことも含めたリアペの実施、FB を毎回行っているのですが、学生の意識として、そのように感じていなかったと考えております。⑤の質問等の得点は高いため、リアペの意義をもう一度踏まえて学生に伝達していきたいと思います。

④教室が少し狭いようにも感じますが、学生から何も意見がないのでそのままよいと思っています。

⑤もう少し積極的でもいいと思いますが、年度によっても違いがありますので特にありません。

①西川千登世

②心理学概論Ⅰ

③今年から担当した科目ですが、平均以上の評価をいただき、感謝しております。受講生の多くが1年生ということもあり、入学して間もない授業であることから、学ぶ楽しさを伝えたいと思いながら授業を実施しました。そのことについては、自由記述の結果にて楽しかったと多くの意見をいただき非常に嬉しく思っております。自習に関してのみ平均以下だったのですが、復習の必要性を伝えていたにも関わらず、実際には行われていなかったことが最終試験の結果からも見るができます。次年度は、そのことを踏まえ、楽しい授業だけでなく、しっかり復習するように指導していきたいと思います。

④特にありません。

⑤特にありません。

①西谷内博美

②環境社会学

③学部全体平均と比較して、授業外学習や授業参加のポイントが高いにもかかわらず、授業内容理解のポイントが低いことがわかりました。受講生のせっかくの取組みの一つ一つを理解にしっかりとつなげるべく、次回からは毎回のクラスの目的・目標、およびコース全体の構成をより明確に提示するようにします。

④特にありません。

⑤特にありません。

①長谷川万希子

②医療社会学

③人間関係学部全体よりも得点が低い項目は、「14. この授業にどの程度出席しましたか。」でした。月曜日 1 時限目の授業への出席は、学生にとっては負担感が大きいと思われますが、少しでも授業に足が向くように、更に工夫を加えていきたいです。

④ディスカッションを行いたいのですが、机が固定されていて難しいです。30 名以下で視聴覚器機が装備されている教室の選択肢はありませんでしょうか。

⑤教科書を購入して、持参してください。

①濱沖敢太郎

②子どもの世界

③私語：私語を注意してほしいという声が多く、反省している。大教室での授業が初めてだったため、対応をどうすべきか判断や指導に迷ったまま学期が終わってしまった。次期は規模や学生に合わせて早い段階で対応を行いたい。理解度や質疑：また、講義内で理解度を問うたり質疑の時間を設けたりしなかったため、それに対する不満があるように見受けられた。講義用のメールアドレスを設けたり、出席票での質問に **manaba** で回答ページを設けたりはしたが、それらのツールを積極的に活用してもらえるよう、周知を心がけたい。講義内容：学問分野やテーマの異なる内容を相当詰め込んでしまい、学生の負担も大きかったのではないかと思っていたが、比較的好意的な評価をしていただいたと受け止めている。それでも、出席票でのコメントを見ていると関心を持ってもらえた回とそうでない回との差が激しいので、来年度に向けて、特に関心を持ってもらえなかった回の修正に励みたい。

④持ち込み PC で講義を行っていたが、可能であれば学内の無線 LAN の整備を行っていただけるとありがたい。

⑤特になし。

①林原玲洋

②現代社会論セミナー III

③ここ数年は、学部平均を上回る項目が多かったのですが、今年は以下の項目が学部平均を下回っていました。設問 4「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」（昨年度 4.80→今年度 3.81）、設問 9「授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた」（昨年度 4.73→今年度 3.80）、設問 10「授業の内容は興味深いものだった」（昨年度 4.60→今年度 3.73）、設問 11「授業の内容はよく理解できるものであった」（昨年度 4.67→今年度 3.80）、総じて「理解度」に関わる評価が下がっているようです。授業の仕組みや扱っている素材は昨年度とほぼ同じなのですが、今年度は宿題の回数を増やしました。例年、設問 15（予習・復習）の評価が低い（学部平均も低い）ので、その対応策のつもりだったのですが、今年度の受講生にとっては、それがかえって裏目に出た（「宿題がうまくできない」という思いが評価を下げた）ようにおもいます。もうひとつの原因としては、受講者数が挙げられます。昨年度は 15 名、今年度は 18 名なのですが、この 3 名の差が思いのほか大きく、個別に

フォローするだけの余裕を、わたし自身維持することができませんでした。なお、来年度は、担当する授業が変わり、二年生の科目になるので、授業の内容や方法を根本的に変える予定です。宿題に関していうと、今年度は授業の仕組み上、一律で同じ課題を課すよりほかないのですが、来年度は宿題を自己決定する仕組みを導入する予定です。これは他大学で運用してある程度うまくいっている方式なので、設問 15 の評価を改善できるのではないかと考えています。

④受講者数は 15 名を上限としたいところです。

⑤自分の力を信じて、前向きに取り組んでください。

①福島哲夫

②社会・臨床心理学研究法

③全項目にわたって学部平均をかなり上回っていた。とくにセミナー科目であるにもかかわらず、教員の進め方についても、内容に関しても、さらに学生の取り組みもともに高い評価を得られたのは幸いであった。

④とくになし

⑤とくになし

①古田雅明

②カウンセリング A（傾聴訓練）

③概ね好評で、これまでの数年間で最も評価が高かったようです。ところが出席率と予習・復習に課題が残りました。1 時間目のため出席率を高くするのは難しい面もありますが、授業の順序に工夫をして前半に学生が関心を寄せるテーマを講義したり演習するなどの工夫を考えたいと思います。予習・復習は他の必修科目の諸課題であくせくしている学生を見ると、つい授業内だけで終わるようにしてしまうのですが、次年度は **manaba** を活用するなどの工夫が必要と考えています。

④傾聴の演習が中心になりますが、受講生が 60 名程度いるために比較的大きな教室を使用しています。しかし可動式の机ではないので、ロールプレイがやりにくく困っています。そもそも 60 名を一人の教員が担当してロールプレイを学生にさせること自体に無理があります。開講コマ数を増やすか、受講者調整をするなど抜本的な対策が必要と感じています。

⑤照れずに積極的にロールプレイに取り組んで下さい。

①古田雅明

②社会・臨床心理学研究法

③非常に高い評価であったので、次年度も同じように実施できればと思っています。しかしながら、本授業は実質ゼミなので、そもそも授業アンケートの対象になるか微妙とも思っています。

④特にありません。

⑤特にありません。

①干川剛史

②社会学概論Ⅰ（火1）・（木1）／社会調査及び演習Ⅰ／現代社会論セミナーⅠ

③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅰ（火1）（91人）／社会学概論Ⅰ（木1）（93人））については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低い、同じ内容でも、社会学専攻必修の社会学概論Ⅰで低いのは、選択の余地なく強制的に受講せざるを得ない不満があるのであろう。また、自由回答を読むと、マイクを通した話し声が聞きづらいなど、改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、出欠を毎回確認しており、学生の扱いが公平である、授業に関連した新聞記事のコピーがほぼ毎回配付され、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。他方で、マイクの使い方を工夫するなど話し方に改善が必要であり、さらに、配付する資料を読みやすくするなど、多くの学生に満足していくような講義にする工夫が必要である。なお、社会調査及び演習Ⅰ（18人）／現代社会論セミナーⅠ（14人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。

④講義形式の授業は、100人未満になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。

⑤講義科目もセミナー科目も、教科書を読んで予習してほしい。また、社会調査及び演習Ⅰと現代社会論セミナーⅠは、発表の準備をしっかりと行って授業に臨んでほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①堀洋元

②心理統計学

③単なる統計解析スキルを習得するための授業ではなく、授業を通して得られる知識やスキルが今後どのように生かせるのか、役に立つのかという視点を各回の授業テーマに含めていきたい。

④とくになし。

⑤とくになし。

①堀洋元

②社会・臨床心理学研究法

③個々人が2年次までに習得した知識やスキルをグループ研究で生かせるよう、さまざまなグループ編成で授業を展開した。おおむね良好な評価が得られたので、次年度以降も継続して取り組みたい。

④とくになし。

⑤とくになし。

①牧野智和

②社会学基礎セミナー、社会調査および演習、基礎統計学、日常生活論

③基礎セミナーに関しては、基礎科目ということもありやや説明（講義）的な内容を取り入れたが、全体としてより学生参加を多発させるような内容で実施した方が（基礎セミナーであっても）よいのではないかと考えられた。調査実習に関しては、学生の主体性にゆだねて調査票を作成したが、逆に決められた先行研究から考えてみた場合、どうなっていくのかを次年度において試し、効果を測りたいと考えた。基礎統計学、日常生活論については、多人数の講義（一部実習）科目ということで、課題提示や参加の多発等は容易ではないが、各個の授業でワークショップを取り入れる等の工夫を試みたい。全体として、着任後初の授業科目であったため、後期あるいは次年度において別の方法を試し、自身に、また受講生にとっても最も手ごたえの得られる方式について逐次考えていきたい。

④日常生活論については、縦長の講義室ということで私語が後部座席でみられたため、異なった環境だとどうなるか、検証してみたい。

⑤特になし

①町田章一

②人間関係総論Ⅲ

③学部全体の評価から見ると、私が担当している科目は -2σ 以下ではないが、平均値を下回っている。まずは、平均値以上を目指して改善する必要があると考えている。今年は大妻コタカ先生を教材にして話す場合が予定以上に多かった。やはり、当初の予定通り、ヘレン・ケラーや塙保己一の割合をもっと増やし、バランスをとってみようと考えている。

④特になし。

⑤1 時限目であることや、電車の遅刻等は特別の場合を除いて配慮していないことなど、厳しい授業であるにもかかわらず、熱心に受講している人が多くて、やりがいを感じている。

①松下武志

②社会問題の社会学

③もう少しはっきりした話し方をする。授業内容をもう少し丁寧に説明する。授業を妨げる行為についてもっと厳しく注意する。

④特になし

⑤特になし

①宮下有希

②社会福祉学基礎セミナーⅠ

③授業の予習、復習の課題の提示をより具体的に設定したい

④何人かの先生で行う授業については、課題のあり方を統一してもらいたい

⑤特になし

①向井敦子

②心理学概論Ⅰ

- ③多人数の授業ではあるが、宿題課題を出して自ら学ぶ姿勢を強調したことと、宿題について、次週に周囲の人と話し合い確認させたこと、授業内でたくさんの問題を投げかけ、学生達に考えさせたことは好意的に評価された。アンケートの数値上でも、学部全体に比べて自習を必ず行うことや、授業への積極的参加意識が高まった事は明瞭である。学生を積極的に学ばせる授業の工夫を継続していきたい。
- ④100 名弱の受講生に対して割り当てられた 100 名の教室は窮屈である。教室は広すぎず、狭すぎずのゆとりが欲しい。概論だから仕方ないかもしれないが、学生が積極的に授業に参加できるためには、50 人規模の授業が望まれる。
- ⑤一部の受講生は、遅刻や私語が多く、リアクションペーパーの記述や宿題も雑である。自ら学ぶ意識を高めて欲しい。

①向井敦子

②社会・臨床心理学研究法

- ③ゼミ生 9 名の授業であったので、どの項目も学部全体に比べて非常に好意的評価である。
このくらいの人数の授業であれば、学生一人一人に目が届き、お互いに有益な授業となる。
- ④グループで文献や資料をその場で調べるときに、教室からインターネットにアクセスできる環境が必須である。
- ⑤特になし

①吉方りえ

②女性と健康

- ③授業で使うスライドの数を減らす。授業前に資料を manaba に掲載する。専門用語は極力わかりやすい言葉で解説する。
- ④縦長の教室は後方座席の学生とのコミュニケーションがとり難いため受講する学生数の調整、もしくは横長の教室にして頂けないだろうか。学年・学部が多様であるため授業内容の構成が困難なことが多いため学年をそろえるなどの配慮をして頂けると有難い。
- ⑤積極的に学習を希望する学生に受講して欲しい。

資料編 「授業に関するアンケート」に対する教員の回答

２０１５（Ｈ２７）年度後期 大妻女子大学人間関係学部
「授業に関するアンケート」について対応策、質問

- ① 氏 名
- ② 科目名
- ③ 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されるおつもりですか。
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘下さい。
- ⑤ 受講生への要望があればお書き下さい。

①足立英彦

②心理学特別セミナーB

③「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」というアンケート項目の平均評定値が 4.45 であり、昨年の 4.41 よりは高まったものの、授業の進め方に関する項目の中で最も低かった。毎回の授業の提出物に「質問・コメント欄」を設け、分かりにくかったところについて記述してもらうようにしたが、それでは不十分なようなので、毎回リアクションペーパーを提出させることを検討したい。

④特になし。

⑤この授業は課題が多く、エネルギーのいる科目となっています。意欲の高い学生の受講をお待ちしています。

①足立英彦

②キャンパスライフとメンタルヘルス

③「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」といった項目の評定値が低かった。200 人前後が受講する講義において、学生の積極的な参加を促すことは非常に困難であるが、リアクションペーパーなどを利用して質問や感想などを集める機会を設けるよう努力していた。また、期間中に学生の理解度を確認するための小テストを行い、フィードバックも行っている。これらの対策と併せて行うことができる新たな対策を検討したい。

④受講生から、「教室が暑すぎる」といった意見が何度か寄せられました。エアコンの機能が講師の手元で細かく調整できるようにしていただければさらに学習環境が改善できると思われます。

⑤少しの私語が他の受講生の迷惑になります。この授業では私語に対しては厳しく対処していくことを予めご了承ください。また、講師が全ての人にとって分かりやすい説明をすべきなのは当然ですが、もしも分からない点があった場合は質問をしにくるようにはしていただきたいと思います。

①荒牧美佐子

②心理学概論Ⅱ

③授業に関する予習・復習への取り組みが足りなかったと反省しております。来年度は、リアクションペーパーを活用して、授業内容への質問に答えたり、翌週の授業までの宿題や課題をこまめに出すなど、学生がもっと積極的に需要に参加できるよう、工夫したいと思います。

④機材も使いやすく、特に問題ありません。

⑤授業態度もよく、まじめに授業に参加してくださいました。

①伊藤美登里

②哲学と思想

③工夫してよりわかりやすい板書を心がけます。

④特になし

⑤特になし

①井上修一

②社会福祉学概論Ⅱ

③概ね良い評価であった。「総合的にみて、この授業を受けてよかったと思う」「授業は自分の将来にとって意味があると思う」の得点が高かった。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①井上修一

②相談援助演習Ⅰ／Ⅱ

③概ね良い評価であった。今後は、さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①江川直子

②社会理論と社会システム

③特に気を付けたい項目について記したい／設問 4「授業は学生の理解度を考慮して進められた」設問 11「授業の内容はよく理解できるものであった」について：内容の理解は非常に大切なので、進行をもう少しゆっくりする、学生の理解を確かめて進める等、工夫して授業を行いたい。自由記述について／「テキストの文が難しくて理解しづらかったため、そういう箇所も説明してほしい」について：テキストの文が難しくて理解しづらいところがあった場合、授業終了後に「ここがよくわからなかったのですが」と声をかけてください。分かりやすく説明します。慣れないと勇気があるでしょうが、早めに解決しておいた方がすっきりします。「救済レポートを出してほしい」について：検討していきたい。

④昨年度までは階段教室（7127）であったので、授業がやりづらかった。今年度は教室の変更があり（7214）、床が平面であったので、授業を行いやすかった。次年度も同じ教室あるいは床が平面の教室を希望しております。

⑤授業中に会話をしている人がいます。そういう人は、だいたい決まっています。授業を真面目に聞きたい多くの人たちの迷惑になるので、友達どうして話をしそうな人は、座席を 1 つあけたり、物理的に離れて座るようにしてください。

①大出春江

②社会学基礎セミナーⅡ

③当該授業科目平均およびカテゴリー別平均はいずれも学部平均を上回る結果となった。社会

学基礎セミナーⅡは 2013 年度から 4 クラスから 6 クラスに増え、1 クラスは 15～16 名規模になった。それによって初年度教育としての効果は飛躍的に上がるようになったことを授業を通して実感するようになった。演習科目は一般的に評価が高くなる傾向があるが、今年度は manaba の活用もあり、授業外でのグループ学習を促進することができたと思う。今後も学生の学びを引き出す工夫をしていきたいと思う。

- ④今期は PC によるプレゼンのできる教室が使用できており、グループ成果の発表の際に活用している。セミナー系の教室にも同様な設備が必要だと思う。
- ⑤今年度の受講生については、それぞれに意欲的で授業もとても楽しかった。テキストに限定せずいろんなメディアを通して問題関心を広げていって欲しいと思う。

①大出春江

②社会調査及び演習Ⅱ

- ③学生の満足度は非常に高いという結果にみえる。見学実習やインタビュー調査等を実施し、最終的に報告書としてまとめるまでに、授業の時間外におこなう作業もかなり多いが、授業の性格上、主体的にやらざるを得ないというのがその理由だと思う。記述面の回答がないのでわからないが、授業担当者としては毎年、反省点ばかりが思い浮かぶ。
- ④量的調査データのための SPSS と同様に、質的調査データを扱うソフトも学部共通予算で学内で使用できるようにして頂きたい。
- ⑤報告書で参照する文献を図書館で探さずに、インターネットで調べるということに偏っている。web 上の文献資料だけでなく、実際に図書館や新聞を手にとって活用して欲しい。

①尾久裕紀

②女性と健康、人体の構造と機能及び疾病Ⅱ、精神医学Ⅱ

- ③「Ⅲ.授業への取り組みとその成果」の平均点が他と比べて低かった。予習・復習の課題を出している科目もあるが、提出する学生としない学生に分かれるため、さらに明確な指示を出すようにしたい。
- ④特になし。
- ⑤manaba からのお知らせは必ず確認するようにしてください。

①呉泰成

②エスニシティ論

- ③ほかの授業に比べて受講生の評価は全体的に低かったが、とりわけ二つの点の改善が必要であると感じる。まず、受講生が積極的に授業に参加できるようにすること。一方的な講義だと眠くなり、また内容が難しいので理解できなかったと指摘があったので、授業で取り上げる関連テーマを減らし、受講生とのコミュニケーションを図りながら、理解しやすい授業にしたい。第二に、3000 字のレポートと期末試験の組み合わせは受講生の負担が大きいと指摘された。今後、課題の分量減らし内容などを事前に説明して準備ができる時間を十分に与えるとともに、評価の基準も改善したい。

④特になし

- ⑤「中間レポートは A4 の 1 枚程度」、「3000 字のレポートは負担が大きい」という受講生からの指摘があり、改善する必要があると感じた。ただし、注意したにも関わらず、多くは引用部分を明確に示せず、Web での内容に移したものが多かった。今後は、自分の意見ではない他人の意見であれば、それを明確に区分し、引用部分、出所などをちゃんと示すようにしてレポートを作成してほしい。

①呉泰成

②現代社会論セミナーⅡ

- ③受講生には事前に次回授業資料を読んでコメントを送るようにしたので、予習には時間をかけて準備してきたと思う。しかし、当日は報告者以外の受講生の積極的な授業参加ができなかった点は改善するが必要であると感じる。報告者以外の受講生に意見を求め指名するよりは、発言しやすい環境を作るように、もっと受講生とのコミュニケーションを図りたい。

- ④二つあります。第一に、セミナー教室にもパソコンが使えるような環境がほしいです。パワーポイントや関連資料、映像などを移せるスクリーンがある教室であればいいと思う。各教室にはテレビと DVD が見られる視聴覚施設があるので、テレビ（モニター）とパソコンをつなげるようにできればと良いと思う。第二に、机の配置です。机の配置がお互い顔が見える形で配置されていれば、より授業に集中でき、意見のやり取りもしやすいのではないかと思います。

⑤受講生への要望

manaba にアップした次回の授業資料を読んでコメントを送るなど、真面目に授業に取り組んでいたが、当日は授業資料を印刷し、持ってきた受講生は少なかった。もし、印刷できる環境が家になれば、学校で印刷できるような施設を利用して授業資料を持ってきてほしい。受講生みんなでコメントと授業資料を照らし合わせながら内容を確認し、読み返すことで、より授業内容の理解が深まることができると思う。

①小野智明

②コミュニケーション技術 A

- ③昨年度の課題を受けて今年度は自宅での学習課題を折々に提示すること、学習課題の提示理由を明確にしつつ学習動機を高められるように工夫したつもりである。

またアクティブラーニングの授業については概ね好評であったが、その意図も明確にしつつ、振り返りの時間を多くとることを念頭におきながら授業を展開していったが、学生自身の自己省察の内容についてさらにフィードバックすることを次年度の課題としたい。

④特になし

- ⑤コミュニケーション技術はすぐに効果が表れるものではなく、人とのかかわりを通じて、徐々に培われていくものである。学生に求めるのはこの授業を受けたからといってすぐにコミュニケーション能力の向上が実感できるほど即応的ではないという理解である。様々な人々と関わり、自分自身が持っている常識や価値観の違いを認め合うという体験を通じてコ

コミュニケーションの幅がひろがってゆくものである。普段話さない学生とのコミュニケーションは時として緊張感をともなうものである。そういった時にも勇気をもってグループ内で発言してほしい。

①小野智明

②コミュニケーション技術 B

③3年生は社会福祉施設等での実習を終了し、援助というものの本質を理解しつつある時期であるともいえる。そのため、授業への取組態度や参加態度についても主体的であった。今年度は昨年度の課題であったコミュニケーションについての基本的知識について理解した後、コミュニケーションワークを通じて対人援助の基本的なスキルを学ぶことを授業全体の流れとした。授業の改善点としては自宅での学習課題を折々に提示すること、学習課題の提示理由を明確にし、学習動機を高めるべく、学習した内容を授業の中フィードバックすることが必要であることを確認した。また、アクティブラーニングの授業については概ね好評であったが、その意図も明確にしつつ、今後はより様々な演習技法を開拓していきたい。

④特になし

⑤コミュニケーション技術はすぐに効果が表れるものではなく、人とのかかわりを通じて、徐々に培われていくものである。学生に求めるのはこの授業を受けたからといってすぐにコミュニケーション能力の向上が実感できるほど即応的ではないという理解である。様々な人々と関わり、自分自身が持っている常識や価値観の違いを認め合うという体験を通じてコミュニケーションの幅がひろがってくるものであると思われる。普段話さない学生とのコミュニケーションは時として緊張感をともなうものである。そういった時にも勇気をもってグループ内で発言してほしい。

①香月菜々子

②キャンパスライフとメンタルヘルス

③講義中で行っている体験ワークについては「登場人物の設定がリアルで様々な状況について考えるのに役立つ」とのリアクションを普段から受けているがアンケートでは「登場人物の口調が少し不快」とのことだったので、調整を図りたいと考えている。

④とくにありません。大人数を対象とした講義だが、従来のような一方通行の講義ではなく、体験ワークやリアクションペーパーのやりとりを通じて学生とのゆるやかな情報交換・情報共有を可能とする双方向の講義を目指していることから、多くても120人程度が限度と考えている。

⑤熱心に受講してくれる方が多いので、こちらも大変勉強になります。要望は現時点では特にありません。

①加藤浩治

②コンピュータ応用、コンピュータ基礎 B

③コンピュータ応用は例年よりも受講者数が多く、また、コンピュータ基礎を履修していない

受講生が多めにいたため、汗をかいて授業を運営しました。その割にはある程度の評価がいただけたものの、課題に仕上がりに関してはリアルタイムに目を配れませんでしたので、この点を改善したいと思います。次に、コンピュータ基礎 B は受講生の数には問題がなかったものの、毎回の作成課題への取り組みに関して熱心なムードが作れないまま終わってしまいましたので、今後はそれぞれの課題の目的や応用できる事例を前もって十分に説明するなど心がけたいと思います。

④教室の設備と管理が適切に行き届いていますので、要望はありません。

⑤受講する前にシラバスに目を通しておいってください。また、質問や疑問がある受講生は、挙手をお願いします。

①金成陽一

②地域と文化

③パワーポイントは思いのほか身につかないと考えていたので、毎回プリントを作成していましたが、今後どうしようか考慮中です。プリントはあくまでも参考資料にすぎないと初回に説明していても、学生によっては講義よりプリントに頼ってしまう傾向があるからです。むしろ何もないほうが、話に集中できるかもしれません。学生から「電車遅延を認めない、云々」の回答がありました。200 名近い学生がそれぞれ証明書を持ってきても対応できません。要するに、そのような場合は「面倒なので出席は考慮しない」ということです。誤解があるので念のため記します。また、「学生証を忘れた」と言って紙切れに学籍番号と氏名を書いて提出する学生も少なくありません。当初は一人ひとり認めておりました。しかし残念ながら、遅刻をして講義後に紙切れを提出する学生も見受けられたので、これも以後認めておりません。本来、学生証はいつも持っているべきものでしょう。

④大教室の後ドアは、講義が始まったら施錠すべきであると考えています。

⑤特にありません。

①亀山晶子

②自己過程の心理学

③進め方や内容については満足度が高いようでよかったと思います。ただ、もっと学生の積極的な参加を促す工夫が必要だと感じました。さらに、毎回授業後に授業内容の理解度を見るワークを提出させていますが、テスト対策のためにもフィードバックがあればよかったという意見をいただきました。復習もかねてきちんとフィードバックをしていくよう改善したいと思います。

④特にありません

⑤小声でも私語が気になるという意見がありますので、周囲の方に配慮をお願いします。

①河上睦子

②女性史

③manaba の利用を積極的に行ったが、その利用法に不慣れな学生がいたので、今後工夫した

い。授業への質問などについてはコメント用紙を利用させたが、それを利用する学生は限られていたようである。復習学習を 2 回の小レポート提出でおこなったことは、よかったように思う。多人数のための私語防止策として、座席指定をおこなったのは、成果が上がったようである。開始時と終了時の 2 回打刻による出欠の取り方は徹底しなかったなので、再検討したい。

④携帯マイクの音量調節を工夫したい。

⑤特になし。

①菊住彰

②人間の成長と心理

③「No.19 総合的な印象」など、評価をいただけたのは嬉しく存じます。試験や感想レポートを見ておきますと、授業に関心と理解を示す学生と、そうでもない学生との格差が生じているように思っていました。説明の内容をわかりやすくし、事例も極力身近なものにして臨んだ今年度でしたが、「No.11 内容が理解できる」などで高い得点だったことは、一応の成果の表れと考えております。次年度は資料の内容や事例をさらに吟味していく所存でおります。

④これまでは教室の設備など、大変利用しやすく整えていただきました。新年度は担当するキャンパスが多摩から千代田に変わります。教室だけでなく、受講者数や資料の印刷依頼など、変わるところが多々あります。開講前にできるだけ慣れておくよう努めます。

⑤<要望 1>シラバスを読んでもください。科目名だけで発達心理学の専門科目であるかのように想像して受講すると、この講義で扱う分野の広さに、戸惑うことになります。<要望 2>プロジェクターの投影画面は、重要なものを抜粋して印刷し、配布いたします。欠席した場合は、必ず次の出席時に資料を受け取って、疑問の点を明らかにしてください。期末試験直前にまとめて資料を求めてくるかたがいますが、資料は人数分しかありませんし、資料を入手することで講義に参加したと錯覚してほしくはありません。<要望 3>大教室とはいえ、受講生の皆さんの表情からも、理解度を把握しながら進めているので、教員の“つつこみ”を恐れずに、なるべく前列から着席してください。<要望 4>出席登録をし忘れた、学生証を忘れた、入力にミスがあって出席扱いになっていない、との訴えが毎回後を絶ちません。自己責任で確認してください。

①木本ゆう

②社会学基礎セミナー

③予習・復習がもっと充実できるように工夫したい。

④特になし

⑤特になし

①木本ゆう、二場美由紀

②女性と自立支援

③予習・復習については学習教材を提示し、自主的に行うことを促す

④特になし

⑤特になし

①葛野章

②ケアマネジメント論

③アンケートの中の改善要望、意見に「授業時間が長い」、「時間内に終わらせて欲しい」との記載があるが規定の時間を超えたのは、15回の講義のうちで1～2回であったと思う。逆に規定の時間より早く講義を終了することの方が多かったのではないかと思う。各回の講義には、伝えるべき専門知識の量を1時間半という制限時間一杯合わせて盛り込んである。その中でも学生に身につけて欲しい一般的な知識や教養を伝えるには、授業が多少横道にそれる場合がある。その結果、授業時間が数分オーバーすることはやむを得ない。貴学の学生の場合も、こうした常識的な教養に欠ける学生がまだまだ多い。一般教養科目でこの辺りを補う大学もあるようだがいかなものか。やはり、授業の脈略の中で教授していくことが講義といえるのではないかと思う。今回の記載自体も学生の意識を反映している。指摘の点について特に改善する予定はないが、強いて言えば学生には、終了のチャイムが鳴ったら授業途中でも退室して構わないと事前にアナウンスしておくことくらいかと思っている。

④出席管理システムで出欠を管理しているが、授業開始前「カードを落とした」、「カードを忘れた」と申し出て教員に手で出欠を修正することを約束させ実際に授業にはでないという学生が見られた。受講人数が少ないのですぐにわかるし、念のため授業終了時その学生を点呼したがその場にいなかった。学生にとっては何がなんでも必要な単位数かと思うが人を欺いて単位を取得する行為は「学ぶ」以前の問題と言える。人間を育てる視点に立つならば憂うべきことだとも言える。非常勤講師という立場でいえば、こうした学生とのイタチごっこのような時間ほど無駄なものはない。極少人数でもこうしたことに気を配らなくても良い受講生を望む。

⑤特になし

①久米秀作

②スポーツC

③今回のスポーツCクラスは、授業に対する参加熱意が高く、その証拠がアンケート設問No4,16に結果が表れている。実技授業は、講義科目と違い、直に教員と学生が会話する機会が多いことが魅力の一つと考えているので、来年度も今年同様の方法を維持したいと考えている。レクリエーション実技：今授業ではグループレクリエーションワーク実習形式で進めているが、設問No5,16の結果を見ると、その効果表れているように見える。今回の履修者は事前のオリエンテーションにおいて、本授業の開講目的や進め方を理解していた上で参加していることもあり、大変モチベーションの高い授業を展開することができた。学生たちの頑張りに拍手を送りたい。（因みに、オリエンテーション説明後授業を未履修にした学生も多かった）レクリエーション論：本講義の内容は福祉レクリエーションとの関連性が高

く、またレクリエーションインストラクター資格とも連動する科目のため、おのずと内容もかなり専門的なところがある。しかし、実際履修する学生は多学科にわたっているので、どこまで一般教養的な内容を盛り込むかが難しいところである。この点で、今回のアンケート結果を見ると履修学生間の理解に差が出た様だ。また、教室と履修学生数の関係で、やや学生には授業に集中できない状況もあり、この授業環境の改善は来年度の最優先課題と考えている。具体的には、今年度は履修者数の制限を行わなかったが、来年度は適正な履修者数に絞って授業を実施できるようにしたいと考えている。

④前述したが、特に。レクリエーション論において、学生が不利な状況で学習することのないように、学習環境を向上させる意味で、履修者数の制限を実施したい。

⑤とくにありません。

①蔵野ともみ

②精神保健福祉援助実習事後指導、精神保健福祉援助演習Ⅰ、精神保健福祉論Ⅰ、社会福祉学基礎セミナーⅡ

③演習、講義、実習という形態の異なる4科目について学生から授業アンケートでフィードバックを頂く機会を貰いました。どの形式でも心がけているのは、紙媒体あるいは教室のラウンドにより声かけをすることで教員とのコミュニケーションを取るというだけでなく、学生同士が確認をしたり話し合ったりする時間を保証するということです。あやふやな理解や質問したいことを他者と確認できることで、授業に参加してもらうことを目的としています。また、既に当該科目を履修している先輩を授業補助ボランティアで参加して貰う機会を持ち、授業外でも教員だけでなく上級生と関わる機会を設定できるようにしています。さらに、授業の開始時に見通しを付けて貰う必要があると考えているので、授業の契約の中でも、レポートや課題提示等は初回のオリエンテーションで行うようにしています。今後もそれらを継続し、提出物の返却についてスピーディーに行うように心がけていきたいと思います。

④特にありません。

⑤学ぶ場では、皆さんが思う「失敗」は「成功」でしかありません。講義科目であっても一方的な受け身ではなく、声を出して欲しいです。いわゆる“おしゃべり”をしている暇はないくらいに90分もあっという間になるはずです。まだ、1年生や2年生の皆さんにはオフィスアワーを活用して研究室に来て頂けると良いと思います。

①小谷敏

②現代メディア論、人間関係総論、現代社会論セミナーⅡ、社会学基礎セミナー

③大教室の講義科目の評定が低く、少人数クラスのそれが高いという傾向はそのままでした。自習時間の評定が低くなっていますので、向井先生川延先生を少しでも見習いたいと思います。

④特にありません。

⑤年を追うごとに受身になっていて、その傾向を教員の側が助長しているのではないかという懸念をもちます。

①佐藤富士子

②人間関係総論Ⅳ

③昨年度の授業評価では学部平均より高く満足な評価と受け取っていた。しかし、今年度は「私語の学生には何度も注意してほしい」「私語には教室から出ていくように言ってほしい」「配布物は受講生の協力を得るのではなく教員が配るべきである」などの指摘があった。授業内容に関する評価が含まれていないのが残念である。

④「配布物は受講生の協力を得るのではなく教員が配るべきである」という学生からのコメントについて昨年度までは SA が入っていた。SA は 4 年ゼミ生に依頼し、毎回 2 名の学生が協力してくれ、レジュメの配布、授業中の学生の状況を最後列に座っていてくれたり、リアクションペーパーの回収等様々なところで協力してもらっていた。SA がいることは受講生にも認知してもらっていた。今年度は 178 名という数であることから SA はつかないので、配布資料は手の数が必要なので受講生に協力してもらったが、コメントの発言があったようだ。以上から、SA は 150 人以上でつけてもらいたいものです。

⑤私語もさまざまであることは承知している。教員の投げかけから発する私語については、比較的許容を持って受け入れるが、全く異なる私語について自制する心をもってほしい。

①嶋貫真人

②社会保障論Ⅱ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「私語等の授業妨害行為への措置（質問項目 No.3）」、「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（同 No.5）」、「予習・復習等の自習の励行（同 No.15）」および「授業への積極的参加（同 No.16）」の 4 つであった。No.3 に関して。今年度は私語が気になった瞬間にはなるべく速やかに注意をしたつもりだが、それが不足していたのかもしれない。この問題の改善策というのは、「注意の在り方」以前の本質的なところにあって、要するに「私語をする気にならない面白い授業」を実現することにつきることと思う。No.5 に関して。今年度からマナバを利用した web による質疑応答システムを導入してみたが、結局受講生からの書き込みは一件もなかった。今後の改善のためには、マナバ使用の普及自体がカギとなるのではないと思われる。No.15、No.16 に関して。来年度以降は、次回の授業内容の予告をより丁寧に行なうことで、学生の予習に向けた意欲を喚起するように改善していきたい。

④特になし

⑤疑問点については、積極的に質問して欲しい。

①嶋貫真人

②更生保護制度

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「私語等の授業妨害行為への措置（質問項目 No.3）」、「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（同 No.5）」、「シラバスの活用（同 No.13）」および「授業への積極的参加（同 No.16）」の 4 つであった。これらのうち、No.3・No.5・No.16 の改善策については、上記「社会保障Ⅱ」の中の、No.3・

No.5・No.16 に関する各取り組みの内容がそのままあてはまる。No.13 に関して。次年度授業のシラバスの内容の見直しを行い、よりわかりやすい表記に改めていきたい。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉援助技術現場実習事後指導

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目はなく、おおむね授業運営は適切に行なわれていたものと思われる。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉学基礎セミナーⅡ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目はなく、おおむね授業運営は適切に行なわれていたものと思われる。

④特になし

⑤特になし

①関田誠

②社会福祉学基礎セミナーⅡ

③学生の自学習を促せるように授業内容を再考したい。

④特になし

⑤特になし

①高橋佳代

②相談援助演習Ⅰ、相談援助演習Ⅱ

③得点が低かった項目は、15 予習・復習、16 積極的参加、17 発展的に学ぶ、の 3 項目でした。演習ですから予習・復習に重きをおいていないのかもしれませんが、社会福祉援助技術論の授業と連動してこの演習があることを再確認したいと思います。そのため復習として演習で学んだことを授業の終わりにまとめる、次回の演習の目的を明確にしてそのところの授業内容に目を通してくることを促したいと思います。相談援助演習Ⅰ・Ⅱは相談面接のキモですので、知的好奇心を押し開き発展的学習につながるように前年以上にビデオ学習や新聞記事・資料の活用などを補助的に使い創意工夫をこらした授業にしたいと思います。

④特になし

⑤ロールプレイで与えられた役柄（ロール）を演じるためには、その役柄やテーマについての知識や情報、そして想像力が必要となります。事前学習を行い臆することなくロールプレイに臨んで下さい。

①田中康雄

②社会福祉学基礎セミナーⅡ、相談援助実習事後指導、社会福祉学概論Ⅱ

③「社会福祉学基礎セミナーⅡ」：1年生の授業ということで、毎回受講生の状況に合わせて授業進行したが、今後は学生の成長力の推測も見誤ることなく、授業回数後半は内容のレベルをもう少し上げて改善につねげていきたい。「相談援助実習事後指導」：事前指導とは学生のモチベーションが異なっていたことに十分な配慮ができず、授業運営を行ったため、今後は集中力が持続できる各回の授業内容を検討し、改善していきたい。

「社会福祉学概論Ⅱ」：一般教養の科目であり、福祉に関心がない学生においても、関心を高められるよう授業運営してきたが、各回の授業内容の精査、進行について再点検し、改善していきたい。

④特になし

⑤「社会福祉学概論Ⅱ」の受講生について：受講をきっかけに少しでも社会福祉に関心を持ち、今後の学生生活において自分なりに取り組んでもらえると幸いです。

①玉置佑介

②現代社会理論

③全体的におおむね良好な結果であったと思われますが、前年に引き続き、設問 No.5 において、「3」と回答した学生の割合が比較的多かった印象を受けました。当方は、毎講義、リアクションペーパーの提出を求めており、その内容を次の講義時に履修者全員に配布しております。このリアクションペーパーに記述された内容の一部を用いながら、講義内容との関連性を提示してきたつもりでしたが、ただし、講義内での紹介にとどまり、講義内容との関連性を再度学生側に問いかける工夫に欠けていたのではないかと思います。次年度ではこのあたりを念頭に置き、対策を講じて参りたいと思います。

④特にありません。

⑤特にありません。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－B

③全体的に学部平均より評価が高く、しっかりした授業を続けて行きたいと思います。

④特になし

⑤この授業は、面接の基礎と、グループワークの学びが中心の授業です。相談援助実習でも使う技術のため復習にも時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助実習指導Ⅱ

③教員が途中から変わることになり、学生は戸惑うこともあったかもしれませんが、学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。

④特になし

⑤相談援助実習指導Ⅱは、学生が前向きな思いで参加することで、技術が身につく授業となりますので、積極的な参加を望みます。

①丹野真紀子

②相談援助実習事後指導

③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。特に「予習復習」の評価がとても高く、学生が熱心に取り組む様子がわかります。

④特になし

⑤この授業は、実習後の振り返りを中心に行う時間です。ここでの学びは、その後の様々な授業に活かすことが出来るので、しっかりと自分の言葉で学びを表現できるようにしましょう。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－A

③学生からの評価も高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。多くの事例を扱い、学生自身が考える授業形態にしたところ、5・16・17 の評価が特に高く、今後も続けたいと思います。

④特になし

⑤特になし

①辻泉

②風景論

③特になし

④特になし

⑤学生証の携帯を徹底していただきたい。出席管理システムを使っているが、毎回、学生証を忘れた学生の対応に追われることになり、かえって不便である。非常勤の教員が授業中に指摘してもよいことがらだが、学生生活全体にかかわることであれば、貴学で日頃からご指導いただきたい。

①西川千登世

②コミュニケーション論

③今年度より担当させていただいた授業ですが、1項目を除き、平均以上の評価をいただき嬉しく思います。平均値に満たなかったのは、⑮の予習・復習に関する項目でした。何か課題を提出するような自習作業を毎回行うのは授業の特性上、難しい部分もあると思っております。しかしながら、リアクションペーパーや授業の感想には普段の生活や行動に変化や気づきがあったという記述も多く多くの学生に見られており、それこそが授業の復習だと考えます。学生自身は自習作業と認識していないかもしれませんが、考える・感じるといった大切な行動をしてくれていると思っております。

反省点としては、アンケート実施日の出席率 が低かったことでもう少し欠席者の少ない日

時に実施した方が良かったかもしれません。次回は状況を見て判断したいと考えます。

- ④講義形式の授業ですが、理解のためのワークなども実施しています。机の配置上、どうしても制限がかかってしまうのが少し残念です。また、今回、避難訓練日があったのですが、教室内にアナウンスが全く聞こえず、中止になったこともわからない状況でした。

普段からチャイムもほとんど聞こえていないと思われますので改善をお願いします。

- ⑤特にありません。

①西河正行

②グループワーク B

- ③今回、学生の評点が低かったのは、予習、復習である。演習主体の授業なので、毎回、manaba に課題を出して振り返りを行わせている。学生にとって、この振り返りが復習に当たるという理解がないように思われた。そこで、来年度以降、なぜ、振り返りを行うかを明確化しようと考えた。

- ④人間関係学部には、体育館のトレーニング・ルームのような自由な空間のある教室がない。授業の時間帯によって、トレーニング・ルームが使えないことに困っている。

- ⑤体験型の授業なので、振り返りを見ると、皆さん、手ごたえを感じているようである。ただ、振り返りを提出する人が全員ではないので、きちんと提出するようにしていただきたい。

①林原玲洋

②現代社会論セミナー IV

- ③前期と同様、「理解度」に関わるものを中心に、残念ながら学部平均を下回る項目が多かったようです。前期のアンケートにも書きましたが、おそらく原因は 2 つあり、ひとつは一部の学生にとって宿題が重すぎたこと、いまひとつは、履修者数が多かったこともあり、わたし自身の指導が行き届かなかったこと、にあるとおもいます。来年度は、担当する授業が変わり、二年生の科目になるので、授業の内容や方法を根本的に変える予定です。

- ④受講者数は 15 名を上限としたいところです。

- ⑤自分の力を信じて、前向きに取り組んでください。

①原田聖子

②相談援助演習 I・II

- ③この演習は、面接技術や他者理解、そしてその前提となる自己開示や自己理解を体感・体得する授業だと思っています。この授業では皆さんになるべくたくさん話をしてもらおうようにしました。皆さんの学びが深まるように、学ぶべきポイントを明確にしたり、フィードバックなども工夫していきたいと思います。特にありません。

- ④自分の話をすることは苦手だと思っていた方もいらしたようですが、面接練習やそのあとの振り返りなどを中心に皆さんは徐々に、そして確実に積極的に授業に参加して下さるようになったと思います。おかげで私自身も楽しく学ぶことができました。授業が始まり前に机の移動をしていただくなどのご協力にも感謝です。自分をオープンにし、他者に関心を持ち、

そして自分も他者も大切にすることを続けていただければ嬉しいです。

⑤特になし

①原田聖子

②福祉サービスの組織と経営

③レジュメが分かりやすいというお声をいただきました。さらにわかりやすい、そして理解の深まる資料や授業展開を心がけていきたいと思います。

また今年度は、試験日にレポート提出も求めましたが、皆さんの学びを深めるためにはいつの時期がよいのか再検討したいと思います。

④特にありません（ただ、私自身が大人数の授業に不慣れなため、至らない点があったと思います）

⑤組織マネジメントを中心とした本授業の内容は、学生であるみなさんにはややとっつきにくいものだったかもしれません。それでも頑張ってお勉強してくださったことに感謝です。

私の説明が分かりづらかった点などを声をあげたり、質問していただけると嬉しいです。よろしくをお願いします。

①干川剛史

②社会学概論Ⅱ（火1）、社会調査及び演習Ⅱ、現代社会論セミナーⅡ、情報社会論

③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅱ（火1）（90人）／情報社会論（木2）（110人））については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低い、自由回答を読むと、マイクを通した話し声が聞きづらいなど、改善すべき点がある。しかし、授業に関連した新聞記事のコピーやパワーポイントの資料が毎回配付され、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。他方で、マイクの使い方を工夫するなど話し方に改善が必要であり、さらに、前回の授業がどこまで進んだかを毎回確認するなど、多くの学生に満足のいくような講義にする工夫が必要である。なお、社会調査及び演習Ⅱ（18人）／現代社会論セミナーⅡ（14人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を通じて理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。

④講義形式の授業は、100人前後になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。

⑤講義科目もセミナー科目も、教科書を読んで予習してほしい。また、社会調査及び演習Ⅱと現代社会論セミナーⅡは、発表の準備をしっかりと行って授業に臨んでほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①堀洋元

②行動計量学

- ③この授業は3年次後期開講科目であり、卒業論文作成を前にして、3年次前期までに習得した心理統計の知識やスキルを活用する授業を展開した。毎回この授業の到達目標を明示し、取り組むべき課題を明確にして取り組むようにした。その結果として、相対的に予習復習の時間を多くとっていたようである。パソコンを使用する実習系授業なので、個々の理解度に合わせてきめ細かく対応するためにSAなどの人的資源を有効に活用したい。
- ④タブレットを使用したがりとの教室に常設しているため、準備と片づけに時間を取られることが多かった。有用な機器なので、利用しやすい環境を整える必要がある。
- ⑤とくにありません。

①堀洋元

②人間の成長と心理

- ③多摩3学部の全学共通科目で、大多数は心理学を学べることに興味を持っていたので、専門用語の使用を最低限に抑え、日常場面や個人の興味や関心と心理学の研究トピックとを結びつけた授業展開を行った。講義だけでなく各自で取り組む課題を多く取り入れているので、受講学生の授業時間内での取り組みは積極的であった。受講者数の多い授業のため、個々の意見を授業中に取り上げる余裕がないが、多様な意見を紹介する機会を設けられるよう工夫したい。
- ④奥行きのある大規模教室なので、正面1ヶ所だけでなく補助ディスプレイを何ヶ所か設置できると後方の学生の授業環境を改善できると思う。
- ⑤この授業はさまざまな学部、学年の学生が受講します。その分、興味や関心の度合いが異なりますが、教室で授業を受けている限り、お互いが快適に授業を受けられるよう協力をお願いします。

①牧野智和

②社会学基礎セミナー、現代社会論セミナー、社会調査及び演習、基礎統計学

- ③着任初年度の後期は、前期の反省を活かし、前期とは違った学生をアプローチを試みました。特に自主的な発言・取り組みを促す仕掛けについて多くのことを試しましたが、そのいくつかうまくいったことが前期より好評価を得た原因ではないかと考えられます。ただ、調査演習における報告書の指導方法が不十分であった点、基礎統計学における課題指示に一部不十分であった点が今後の課題であると思われました。
- ④社会学基礎セミナー、現代社会論セミナーは、前期と後期でメンバーをシャッフルすることも選択肢に入れてよいのではないかと思います。社会学専攻の今の学生は、周囲の関係性に左右される側面が強いように思われるので、雰囲気の良いクラスになれば年間楽しくできますが、雰囲気の悪いクラスだと、学ぶ意欲があっても、発言すると浮くので発言できない…というクラスで一年間を過ごさねばなりません。もちろん、教員が努力すべき点ではありますが、仕組みのレベルで対応できる点もあるように思います。
- ⑤特にありません。

①壬生尚美

②生活支援技術 D

③授業内容は、入浴、清拭、排泄介助など保清を中心としている。根拠に基づく技術を実施・評価できるように、チェックリストを用いて行っている。介護技術の提供は、利用者の状況に応じた対応が望まれるが、その根拠を理解してもらえるように教授するのが難しかった。各自の振り返りを共有する時間を設けて行ったが、活発な意見を出し合い、疑問を解消した上で単元が終われると更に理解度が深まったかもしれない。今後はその点を強化し取り組みたい。

④特になし

⑤特になし

①壬生尚美

②介護総合演習Ⅳ

③介護実習Ⅲの課題をケーススタディとして授業で仕上げ成果報告を行った。プレゼンテーションはパワーポイントで発表を行い、ケーススタディの草稿は 8,000 字程度（A4 6 枚）にまとめている。今回の報告を通して、各自の実施した介護過程を振り返ることができ、これまでの学習の総まとめとなったと考える。各自のプレゼンテーションでは、巡回指導の教員も参加して助言していただいている。質疑応答により、より理解を深めることになるが、時間の配分が難しかった。今後は、発表時間やその後の振り返り時間を十分設けていきたい。

④特になし

⑤特になし

①壬生尚美

②社会福祉学基礎セミナーⅡ

③グループワークを中心に授業を展開した。今年度は、「働く女性と子育て」に焦点をあて、セミナー全体で様々な視点から課題と解決策を検討した。その後は、各自の関心のあるテーマごとに分かれ（6 グループ）、現状と課題について整理した。セミナー内の取り組みと全体発表、まとめを通して、各自が積極的に授業に取り組む姿勢がみられ、学生の持てる力を発見することができた。ゼミ内全体発表後に修正発表を取り入れたことにより、プレゼンテーション力が高まったと考える。今後も同様に取り組みたい。

④特になし

⑤特になし

①宮下有希

②相談援助実習指導Ⅱ

③予習、復習の提示の仕方を更に細かく具体的に指導するようにしたい。

④特になし

⑤特になし

①宮脇文恵

②相談援助実習指導Ⅱ

③より一層、学生の質問や意見を引き出せるようにしたいです。

④特にありません。

⑤課題が多くて大変だとは思いますが、実習のための大事な科目なので、欠席せずに臨んでほしいです。

①向井敦子

②心理学概論Ⅱ

③穴埋め式の配付資料や授業中の発言を促すことやコメントシートの利用は、学生からの授業理解に役立つという評価に繋がった。学生の理解度を引き上げるためのさらなる工夫が必要である。予習・復習を課題とすることは、単位の実質化に向けた有効な方法である。

④これだけの人数の授業であれば、T AやS Aの補助が必要である。

⑤自分から積極的に学ぶ姿勢を持ち続けて欲しい。

①向井敦子

②教育心理学

③学部全体よりは高い得点ではあるが、学生のより一層の積極的参加を促す工夫が必要である。

④学生の積極的参加を促すために、T Aの参加が望まれる。

⑤自分から積極的に発言し、宿題でなくてもミズカラ調べてくる努力をして欲しい。

①森山拓也

②精神科リハビリテーション学Ⅰ・Ⅱ

③学生が授業中に質問や、自身の考えをより積極的に発言できるような授業展開の工夫を検討したい。

④次年度はマイクの使用を考えたい。

⑤特になし

①八城薫

②基礎統計学Ⅱ

③練習問題を多めに配布したり、提出したものに対して添削するなどして学習意欲を高める取り組みをしていましたが、強制はせず学生自身のやる気（自主性）に任せている部分も多くありました。多くの学生が自主的に予習復習するような取り組みを考えたいと思います。

④エクセルを使用した授業ですが、必修授業のため時間の制約もあり、人間棟の情報処理室を確保できません。棟全体のPC環境の改善を希望します。

⑤苦手意識を持ちやすい科目の為、あまりハードルの高い課題は出さないようにしています。しかしそれに甘んずることなく、繰り返しの予習復習を自主的に行って着実な学習をしてほしいと思います。

①吉方りえ

②女性と健康

③授業中の私語に対する注意が不十分との意見が多々あり、厳格な対応を積極的に実施するよう心掛ける。遅刻者に対する評価が甘いとの意見があり、出席点評価を見なおすことにする。

④学生の私語が多いのは受講生数も関係するのではないかと思われる。100名以下にとどめて頂けると有難い。

⑤積極的に授業に参加希望する学生に受講して欲しい。

平成27年度人間関係学部FD委員会

- 委員長 堀 洋元 (人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、専任講師)
- 委員 小川 浩 (人間関係学部長、人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)
- 福島 哲夫 (人間関係学科長、人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、教授)
- 佐藤 富士子 (人間福祉学科長、人間福祉学科、介護福祉学専攻、教授)
- 鄭 暎恵 (人間関係学科、社会学専攻、教授)
- 小谷 敏 (人間関係学科、社会学専攻、教授)
- 丹野 眞紀子 (人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)
- 尾久 裕紀 (人間福祉学科、介護福祉学専攻、教授)

平成27年度 人間関係学部FD活動報告書

平成28年10月発行

非売品

発行 大妻女子大学人間関係学部
ningengakubucho@otsuma.ac.jp
〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1

著作・編集 大妻女子大学人間関係学部FD委員会

印刷・製本 株式会社相模プリント
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17
TEL 042-772-1275
FAX 042-774-1913